

リアホナ

総大会の説教

教会員数が
1,500万人に達する

専任宣教師の人数が
8万人以上に
増加する





教会歴史博物館の厚意により掲載

「ギレアデの乳香」 アニー・ヘンリー画

「『ギレアデに乳香があるではないか。』(エレミヤ8:22) ……愛は……苦しむ人々を癒す乳香となります。
……御子すなわちイエス・キリストは、わたしたちが永遠の命を得られるようにするために御自身の命をささげられました。
御父とわたしたち人間に対する主の愛は、それほどまでに大きなものだったのです。」
(トーマス・S・モンソン「愛の道」『聖徒の道』1988年1月号, 72参照)

土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 総大会——信仰と証を強める
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 9 柔和で心のへりくだった人になる
ウリセス・ソアレズ長老
- 12 教会員には何があるか御存じですか
キャロル・M・ステーブンス
- 15 先を見て信じる
エドワード・デュベ長老
- 17 天の窓
デビッド・A・ベドナー長老
- 21 ともに集いましょう
ディーター・F・ウークトドルフ管長

土曜午後の部会

- 25 教会役員への支持
ヘンリー・B・アイリング管長
- 26 霊的な守りを受けるための鍵
ボイド・K・バッカー会長
- 29 道徳に及ぼす女性の力
D・トッド・クリストファーソン長老
- 33 主の行動計画を速める！
S・ギフォード・ニールセン長老
- 35 小さな、簡単なこと
アルヌルフ・バレンスエラ長老
- 37 なおりたいのか
テイモシー・J・ダイクス長老
- 40 破れた器のように
ジェフリー・R・ホランド長老
- 43 主に信頼を寄せる
M・ラッセル・バラード長老

神権部会

- 46 信仰箇条に含まれている教義と原則
L・トム・ペリー長老
- 49 あなたがたはもはや異国人ではない
ジェラルド・コセービショップ
- 52 御言葉を告げ知らせよう
主に召される
ランディー・D・ファンク長老
- 55 あなたなら、今できます
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 58 人々の傷を癒す
ヘンリー・B・アイリング管長
- 61 まことの羊飼い
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 69 わたしの孫たちへ
ヘンリー・B・アイリング管長
- 72 ほかに何ものを神としてはならない
ダリン・H・オークス長老
- 76 あなたがたは改心しなさい
ボニー・L・オスカソン
- 79 堪え忍ぶための力
リチャード・J・メイズ長老
- 82 イエス・キリストの贖罪から
得られる個人の強さ
リチャード・G・スコット長老
- 85 「わたしはあなたを見放すことも、
見捨てることもしない。」
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

- 88 エレミヤの哀歌——束縛に注意する
クエンティン・L・クック長老
- 92 神権に宿る力
ニール・L・アンダーセン長老
- 96 神の力と権能によって教える
デビッド・M・マッコンキー
- 99 しっかりつかまる
ケビン・S・ハミルトン長老
- 102 見上げなさい
アドリアン・オチョア長老
- 104 神に近づく
テレンス・M・ビンソン長老
- 106 永遠のための決断
ラッセル・M・ネルソン長老
- 110 また逢う日まで
トーマス・S・モンソン大管長

中央扶助協会集会

- 111 聖約を守ることから生じる
力と喜びと愛
リンダ・K・バートン
- 115 わたしたちが喜ぶべきもつともな
理由があります
キャロル・M・ステーブンス
- 118 聖約の祝福を受けましょう
リンダ・S・リーブズ
- 121 決して独りで歩いているのではない
トーマス・S・モンソン大管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会
中央幹部
- 124 中央補助組織会長会
- 125 大会で話された実話や物語の索引
- 126 教会のニュース



第183回 半期総大会の概要

2013年10月5日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ケント・F・リチャーズ長老。閉会の祈り——マシュー・O・リチャードソン。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガン伴奏——アンドリュー・アンズワース、クレア・クリスチャンセン。“How Wondrous and Great” *Hymns*, 267番；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番；「悩めるイスラエル」『賛美歌』6番、ウィルバーク編曲、未刊；「心に光あり」『賛美歌』139番；「いましめを守る人を」『子供の歌集』68、マーフィー編曲、未刊；「来たりてうたえ」『賛美歌』51番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊。

2013年10月5日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ポール・V・ジョンソン長老。閉会の祈り——キャロル・F・マッコンキー。音楽——ユタ州ロイ、ケインズビル、フーパー、ウェストヘイブン地区のステーク合同による家族聖歌隊；指揮——ジェーン・フェルステッド、オルガン伴奏——リンダ・マーゲッツ。“On This Day of Joy and Gladness,” *Hymns*, 64番、フェルステッド/マーゲッツ編曲、未刊；「主はわたしを愛してください」『2010年度 分かち合いの時間、ならびに聖餐会での発表の概要』、ベル/クリマー詞・曲、フェルステッド/マーゲッツ編曲、未刊；“Press Forward, Saints,” *Hymns*, 81番；「家庭の愛」『賛美歌』181番、フェルステッド/マーゲッツ編曲、未刊。

2013年10月5日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ポール・E・コーリカー長老。閉会の祈り——ウォルター・F・ゴンサレス長老。音楽——ユタ州マレー地区のステーク合同によるアロン神権者聖歌隊；指揮——ケリー・デハーン、オルガン伴奏——リチャード・エリオット，“Sing Praise to Him,” *Hymns*, 70番、ケンプトン編曲、未刊；“Like Ten Thousand Legions Marching” *Hymns*, 253番、エリオット編曲、未刊；「正しかれ」『賛美歌』151番；「全能の父なる神よ」『賛美歌』40番、ハフ編曲、未刊。

2013年10月6日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——チェリル・A・エスプリン。閉会の祈り——フランシスコ・J・ビニャス長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガン伴奏——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「わが神、わが王」『賛美歌』87番；「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「主よ、嵐すさび」『賛美歌』59番、ウィルバーク編曲、未刊；「世はよく働く人を求む」『賛美歌』161番；“O Divine Redeemer,” グノー；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ウィルバーク編曲、未刊。

2013年10月6日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——デビッド・L・ベック。閉会の祈り——クラウディオ・R・M・コスタ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガン伴奏——ボニー・グッドリフ。「国を造りたる」『賛美歌』24番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊；「主の来られる時」『子供の歌集』46、マーフィー編曲、未刊；「われらは天の王に」『賛美歌』157番；「主よ、われと共に」『賛美歌』94番、ウィルバーク編曲、未刊。

2013年9月28日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——リンダ・K・バートン。開会の祈り——ラレイン・スウェンソン。閉会の祈り——アナ・デアゴスティーニ。音楽——ユタ州プロボ宣教師訓練センターの扶助協会聖歌隊；指揮——エミリー・ワドリー、オルガン伴奏——ボニー・グッドリフ。「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「信仰もて行け」『賛美歌』168番；「シオンの娘」『賛美歌』195番、サリー・デフォード編曲、未刊；「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番、ウェドリー編曲、未刊；「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番、リオン編曲、ジャックマン刊。

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聴くことができます。インターネットで conference.lds.org にアクセスし、言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙

表紙——写真/コディー・ベル。
裏表紙——写真/コディー・ベル。

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——ウェルデン・C・アンダーセン、コディー・ベル、ランドー・コリアー、ウエストン・コルトン、スコット・デービス、クレグ・ダイヤモンド、ロイド・エルドリッジ、コリン・キング、ジョン・ルーク、レスリー・ニルソン、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、バイロン・ワーナー。パナマ、アラジャン——ジョズエ・ペーニャ。ブラジル、ブラジリア——トメ・シケイラ。フィリピン、カビテ——ダニロ・ソレタ。アメリカ合衆国テキサス州コリービル——マーク・マブリー。ブラジル、フォズ・イグアス——リンコルン・パルメザン・デ・メロ。グアテマラ、グアテマラシティー——ドン・サール。ペルー、リマ——ステファニー・ナバレッテ。イングランド、ロンドン——プレストン・ジュディ。フランス、リヨン——キャロリン・カーター。パナマ、パナマシティー——ジョズエ・ペーニャ。イタリア、ローマ——マッシモ・クリスシオーネ。チリ、サンティアゴ——クリスチャン・F・カストロ・マリン。



末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オックス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレーグ・A・カードン

顧問: マービン・B・アーノルド, シェーン・M・ボーエン, スタンリー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワナー

業務ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャノン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

執筆・編集: スーザン・バレット, ブリタニー・ピーティ, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ミンディ・ライ・フリードマン, ローリー・フラン, キャレット・H・ガーフ, ラリン・ポーター, ガント, ジェニファー・グレース・ジョンズ, マイク・R・モリス, サリー・ジョンソン, オデカーク・ジョシュア・J・パーキー, ジャン・ビンボロー, リチャード・M・ロムニー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・ウィティソン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ポット, トーマス・チャイルド, ネット・ギネス, コリン・ヒンクレ, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロフグレン, スコット・M・ムーイ, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テア, K・ニコール・ウォーケンホースト

著作権および許諾コーディネーター: コレット・ネバカー・オーヌ

制作主幹: シェーン・アン・ピーターズ

制作: ケビン・C・ハンクス, コニー・パウソフ・ブリッジ・ジュリー・パーデット, プライアン・W・ギュキ, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン, ゲイル・テート・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長: 佐藤聖志

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共) 普通号/大会号 80円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅計盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2013 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール: cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: November 2013 Vol. 37 No. 11, LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.



話者リスト (50音順)

アイリング, ヘンリー・B 25, 58, 69
アンダーセン, ニール・L 92
ウークトドルフ, ディーター・F 21, 55
オックス, ダリン・H 72
オズカーソン, ボニー・L 76
オチョア, アドリアン 102
クック, クエンティン・L 88
クリストファーソン, D・トッド 29
コセー, ジェラルド 49
スコット, リチャード・G 82
ステイブンズ, キャロル・M 12, 115
ソアレス, ウリセス 9
ダイクス, ティモシー・J 37
デュベ, エドワード 15
ニールセン, S・ギフォード 33
ネルソン, ラッセル・M 106
バックナー, ボイド・K 26
ハルトマン, ケビン・S 99
バラード, M・ラッセル 43
バレンスエラ, アルヌルフ 35
ビンソン, テレンス・M 104
ファンク, ランディー・D 52
ヘイルズ, ロバート・D 6
ベドナー, デビッド・A 17
ベリー, L・トム 46
ホルランド, ジェフリー・R 40
マッコンキー, デビッド・M 96
メイイズ, リチャード・J 79
モンソン, トーマス・S 4, 61, 85, 110, 121
リーブズ, リンダ・S 118
リンダ, パートン・K 111

テーマ別索引

あ愛 12, 35, 43, 49, 69, 104, 111, 121
証 76, 79, 102
安息日 99
イエス・キリスト 9, 15, 37, 82, 102, 111
イエス・キリストの贖罪 52, 55, 69, 82, 118
イスラエルの家 88
一致 15, 49
祈り 121
戒め 72
癒し 37
うつ病 40
教え 96
思いやり 40
終わりの時 26
か改心 76
家族 29, 69, 72, 88, 106
活発化 12, 21, 35
感謝 85
義 79
儀式 92, 115
犠牲 76
奇跡 43
帰属意識 21
逆境 40, 55, 79, 85, 104, 118, 121
教会指導者 25
教会の集会 15, 99
教会の発展 4
教会の召し 15, 69
悔い改め 26, 52, 55, 82, 118
結婚 69, 72, 106
幸福 69, 85
さ慈愛 58
死すべき肉体 106

自制 9
什分の一 17
祝福 17
純潔 29, 72
女性 29
ジョセフ・スミス 96, 102
信教の自由 88
神権 46, 58, 92, 115
信仰 15, 21, 43, 104
信仰箇条 46
神殿 17, 115, 118
救いの計画 72
聖餐 99, 118
聖典 26
聖文研究 46, 96, 121
聖約 12, 82, 99, 111, 115, 118
聖霊 96
宣教師 33
選択の自由 106
総大会 6, 110
糸縛 88
備え 102
た力 92, 96
伝道活動 4, 33, 35, 43, 52
天の御父 69
な柔和 9
忍耐 40, 79, 85, 99
は母親の務め 29, 72
フェロシッ 21, 49
平和 26
奉仕 12, 58, 61, 82, 96, 111
ホームティーチング 61
まメディア 102
モルモン書 82
や赦し 37
預言者 6
ら靈感 6, 58



トーマス・S・モンソン大管長

大会へようこそ

わたしたちが耳を傾け、学ぶときに、主の御霊に満たされるよう祈ります。

愛する兄弟姉妹の皆さん、再びともに集う機会を大変うれしく思います。主の指示の下で預言者ジョセフ・スミスによって教会が組織されてから183年余りの歳月がたちました。1830年4月6日に開かれた集會に出席したのは6人の教会員でした。¹

2週間前に教会員の数が1,500万人に達したことを発表できるのをうれしく思います。教会は着実に成長し続け、毎年ますます多くの人の生活を変え続けています。真理を探し求めている人を宣教師が探し出す働きにより、教会は世界中に広がっています。

わずか1年余り前、わたしは宣教師として奉仕できる年齢条件を引き下げると発表しました。それ以来、専任宣教師の数が増え、2012年10月には5万8,500人でしたが、本日、8万333人に達しました。何とすばらしい感動的な反響を呼んでいることでしょう。

復活された主がガリラヤで11人の弟子に御姿を現したときにお命じになったことは、聖文の中でもこの上なく意義深い宣言であり、拘束力の強い務めであり、率直な教えです。主はこう言われました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を〔教え〕、父と子と聖霊との名

によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい〕。』² 預言者ジョセフ・スミスはこう宣言しました。「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです。』³ 今日ここにいる皆さんの中には、デビッド・O・マッケイ大管長の言葉をまだ覚えている人もいるでしょう。それはわたしたちがよく耳にする次の言葉です。「すべての会員は宣教師である。』⁴

以上の言葉にわたしの言葉を付け加えます。今こそ、会員と宣教師が一致協力して、主のぶどう園で働き、人々を主のみもとに導く時です。様々な方法で福音を分かち合うための手段を、主はわたしたちのために用意しておられ、もしわたしたちが主の業を成し遂げるために信仰をもって行動するなら、主はわたしたちの働きを助けてくださいます。

増し続ける宣教師の数を維持する助けとして、わたしはこれまで会員の皆さんに、可能ならば、ワード宣教師基金、または教会中央宣教師基金に献金して下さるようお願いしてきました。うれしいことに、皆さんがその呼びかけにこたえ、自分で資金を出せない状況に置かれた何千人もの宣教師を支えてくださっています。皆さんの惜しみない献金にお礼を申します。引き続き援助が必要です。今後もわたし



たちは、奉仕したいという強い望みがありながらも、実行する手段を持ち合わせていない人々を助ける必要があります。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは教えと靈感を受けるためにここに集いました。この2日間で、様々な福音のテーマを扱った多くのメッセージが話されます。話者



は、自分たちの伝えるメッセージについて、天からの助けを求めてきました。

わたしたちが耳を傾け、学ぶときに、主の御霊に満たされるよう祈ります。わたしたちの救い主イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教会が設立された日、数十人の人々がその場にいましたが、設立時の会員として名前が公式に記録されたのは6人でした。
2. マタイ 28:19
3. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』330
4. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1959年4月, 122



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

総大会—— あかし 信仰と証を強める

何とわたしたちは総大会を必要としていることでしょう。総大会を通してわたしたちの信仰が強められ、証が深まるのです。

モ ンソン大管長、キリストのような奉仕についての教えと模範と、わたしたち皆が宣教師になるようにとの呼びかけに感謝しています。わたしたちはあなたのために常に祈っています。

現代の神権時代に、救い主イエス・キリストは聖徒の集いを「わたしの総大会」と言っておられます。¹

この世界のどこにいても、いかなる手段で総大会の放送を受信しようとも、わたしたちは主の大会に集っていると証します。また、主の御言葉を聞くと証します。なぜなら主がこう言っておられるからです。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」²

大会は常にイエス・キリストの真の教会の一部になっています。アダムは子孫を集め、将来起きることについて預言しました。モーセはイスラエルの子らを集め、自分が受けた戒めを教えました。救い主は、聖地とアメリカ大陸の両方で群衆にお教えになりました。ペテロはエルサレムで信者を集めました。末日に開かれた最初の総大会は、教会が組織されてからほんの2か月後に招集され、それ以来総大

会きょうは今日この日まで続けて開かれています。

こうした大会は常に主の指示の下で開かれ、主の御霊により導かれます。³わたしたちは特定の主題を割り当てられはしません。何週、何か月もの間、しばしば眠れぬ夜を過ごしなが、主を待ち望みます。断食と祈り、研究と熟考により、主がわたしたちに語るよう望まれるメッセージを学びます。

こう尋ねる人もいます。「靈感がもっと容易に、そして迅速にやってくるのはなぜだろうか。」主はオリバー・カウドリにお教えになりました。「あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければなりません。」⁴ 大会のメッセージはよく祈って備えた後に、聖霊を通して与えられるのです。

この原則は、ワード大会、ステーキ大会、総大会に参加する備えをするうえで、すべての教会員に当てはまります。必要なもの、天の御父に願ひ求めるものを心の中でよく思い計り、教えられることを理解し応用できるよう祈ります。大会の時が近づくと、ほかの活動を犠牲にして、「この世のものを捨てて、この世に勝る世

のものを求め」⁵ます。それから、ベニヤミン王の民がしたように、主の御言葉を聞くために家族を集めるのです。⁶

子供や青少年は大会に参加するのが大好きです。大会は彼らの知的、霊的な理解度を超越するものと憶測するのは大きな間違いです。教会の若い会員の皆さん、約束します。耳を傾けるなら、御霊が皆さんの心を揺り動かすのを感じるでしょう。主が皆さんに人生においてしてほしいことを告げてくださるでしょう。

大会では自分だけに当てはまる主の御言葉を受けることができます。ある会員はこのように証しています。「あなたの説教を聞いて、驚きました。……あなたの話は主がわたしの家族に直接与えてくださった個人的な啓示です。聖霊が直接わたしに語ってくださったあのときほど、強い御霊の現れを経験したことは、かつて一度もありませんでした。」

別の会員はこう述べています。「ある説教がわたしのために語られたということ、それほど力強く感じたことはこれまでありませんでした。」

このようなことが起こり得るのは、聖霊がわたしたちの理解できる言葉で、主の御言葉をわたしたちの心に伝えてくださるからです。⁷わたしは大会でメモを取るとき、いつも話者の言葉をそのまま書き留めるとは限りません。御霊が与えてくださるわたし個人のための教えを書き留めるのです。

語られている言葉は、わたしたちが聞き、感じるほど重要ではありません。⁸だからこそ、御霊の「静かな細い声」をはっきりと聞き取り、感じ、理解できるような環境で大会を体験しようと努力するのです。

何とわたしたちは総大会を必要としていることでしょう。総大会を通してわたしたちの信仰が強められ、証が深まるのです。そして、自分が改心したとき、この終わりの時に飛び交う火矢のただ中であっても霊的に強くなるよう互いに強め合います。⁹

ここ数十年、教会はおおむね、初期の聖徒たちが経験したようなひどい誤解や迫害を受けずに済んできました。ただし、これからも常にそうだとはいりません。世の人々がかつてないほどますます早く主から離れています。サタンは地上に采配を振っています。わたしたちは前もって警告を受けて守られるために、預言者の言葉をよく見て、聞き、読み、研究し、共有します。例えば、「家族—世界への宣言」は、現在、家族が直面している難題をわたしたちが経験するずっと前に与えられました。「生けるキリスト—使徒たちの証」は、わたしたちにそれが最も必要になるときよりも前に用意されたのです。

預言者や大会の話者が総大会で特定の主題について語る理由をわたしたちはすべて知っているわけではありません。しかし、主は御存じです。ハロルド・B・リー大管長は次のように教えています。「教会の会員としてわたしたちが持っている唯一の安全策は、……主が預言者を通じて下された言葉や戒めに聞き従う〔ことです。〕……信仰と忍耐を必要とするものもあるでしょう。教会幹部からのメッセージを快く思えないこともあるかもしれませんが。あなたの〔個人的な〕見解や社会観と相いれないものもあるでしょう。また、あなたの社会生活を多少なりとも犠牲にしなければならないようなメッセージかもしれません。しかし、忍耐と信仰をもって、主御自身の口から出ているように、これらの教えに耳を傾ける人々に対しては、次のような約束がなされています。『地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない……。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。』（教義と聖約 21:6）」¹⁰

リー大管長はわたしたちが今日直面することになる事柄をどのようにして知ったのでしょうか。それは大管長が預言者、聖見者、啓示者だからです。そして、わた



したちが今、この総大会で語る者を含め預言者たちの声に耳を傾け、それに従うならば、強められ、守られるでしょう。

総大会の最大の祝福は大会が終わった後にやって来ます。聖文にしばしば記されている規範を思い出してください。わたしたちは集まって主の御言葉を聞き、家に帰って主の御言葉に従って生活します。

ベニヤミン王は民を教えた後、「群衆を解散させた。そこで民は、それぞれ家族ごとに各自の家へ帰って行〔きました。〕」¹¹ リムハイ王も当時、同じことをしました。¹² 救い主はバウンティフルの神殿で民を教え導いた後、人々に強くお勧めになりました。「自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。わたしはもう一度あなたがたのところに来るであろう。」¹³

わたしたちは教えられたことを深く考え、理解できるように祈り、その後、主の御心を行うとき、救い主の勧めを受け入れるのです。スペンサー・W・キンボール大管長の言葉を思い出してください。「わたしはこの総大会を終えて帰宅したらやるべきことを決心しました。わたしの生活には、完全にする余地のある事柄が非常に多くあります。わたしは心の中でそ

のリストを作りました。そして今、大会を終えたらすぐにそれを始めたいと思っています。」¹⁴ 先日、モンソン大管長はこう述べました。「各説教をよく読み、そこに含まれるメッセージについて深く考えるようお勧めします。これまでわたし自身の生活でも、これらの靈感に満ちた説教を深く研究するときに、そこからいっそう多くのものを得てきました。」¹⁵

個人と家族の聖文の勉強をするように勧めるほかにも、天の御父はわたしたちに大会で学んだことを定期的に研究し、応用するよう望んでおられます。主を信頼し、信仰をもってこの勧告を心に留める人は、自分自身と何世代にもわたる家族を祝福する大いなる強さを得ると証します。

天の御父は道を備えてくださっています。この大会では、教会員の97パーセントが自らの言語でメッセージを聞くことができます。197か国にいる数百万人の会員が95の言語でこの大会を視聴できるようになります。ほんの2、3日後には、LDS.org上に英語のメッセージが掲載され、1週間以内に52の言語で読めるようになり始めます。現在では総大会後3週間以内に、印刷された教会機関誌を受け取ることができます。郵送で大会号を受け取るのに数か月も待つ必要はもはやありません。コンピューターや携帯電話、そ



他の電子機器を用いて、預言者たちの教えを読み、聞き、見て、共有することができるのです。いつでも、どこでも、知識を広げ、信仰と証を強め、家族を守り安全に家庭へと導くことができるのです。

また、この大会のメッセージは、オンラインの青少年用教科課程に組み入れられます。親の皆さんはLDS.org上で青少年のレッスンに自分でアクセスすることができます。皆さんの子供たちが学んでいることを知り、自分自身の勉強や家族の話し合い、家庭の夕べ、家族会議、子供が個々に何を学ぶべきかについて子供と個人面接をする際のテーマとして採り上げてください。

教会のウェブサイトや携帯機器アプリに掲載されているリソースを活用するよう、すべての会員に勧めます。絶えず改良され、さらに使いやすく、実生活に応用できるものとなっています。LDS.org上には、福音を勉強し、家庭や家族を強め、召しを果たすのに役立つリソースが載っています。また、神殿の儀式を必要としている先祖や、福音を分かち合うなどの救いの業を行うために役立つリソースを見つけることもできます。親は子供がバプテスマや神権、伝道や神殿に備えるうえで先導的な役割を担うとよいでしょう。これらは、神殿の儀式を受けて聖約を交わすための細くて狭い道を歩み、永遠の命とい

う祝福にふさわしくなるための助けとなるのです。

わたしは前回の4月の総大会の神権部会で、自分の父親について話しました。父は、神の武具を身に着けることとそれがもたらす霊的な守りについて教えるために、甲冑かっちゅうを身に着けた騎士の絵を描いてくれたという話です。

その部会が終わった後、ある父親が自分の学んだことを家族に話しました。その話に触発された年若い息子のジェイソンは、自分でそのメッセージを聞くためにLDS.orgで検索しました。数日後、家庭の夕べに姿を見せたジェイソンは、きょうだいにその教えを伝えました。これがジェイソンです。

主から靈感を受けて大会で語られた簡潔なメッセージを、一人の子供が受け取り、その子らしい力強い方法で家族に教



「神の武具」をまとったジェイソン

えたのです。わたしは彼の正義の胸当てと信仰の盾に感謝します。敵対する者の火の矢を妨げるものです。これらは大会の祝福です。

兄弟姉妹の皆さん、主イエス・キリストは生きておられ、この教会の頭として立っておられると特別に証します。これは主の総大会です。わたしは主の御名みことなにより約束します。皆さんがこの大会のメッセージの中に天の御父みことの御声を聞きたいと心から望みながら祈るなら、皆さんを助け、強め、御前みまへに帰るよう導くために、御父が皆さんに語っておられることが分かるでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 124: 88, 強調付加
2. 教義と聖約 1: 38
3. 教義と聖約 46: 2 参照
4. 教義と聖約 9: 8
5. 教義と聖約 25: 10
6. モーサヤ 2: 5 参照
7. 2 ニーフай 33: 1 参照
8. スペンサー・W・キンボール, Conference Report, トンガ地域大会, 1976年, 27 参照
9. ルカ 22: 31 - 32 参照
10. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』 88 - 89 参照
11. モーサヤ 6: 3
12. モーサヤ 8: 4 参照
13. 3 ニーフай 17: 3
14. スペンサー・W・キンボール「兄弟たちの説教」『聖徒の道』1976年2月号, 145 参照
15. トーマス・S・モンソン「神よ、また逢うまで」『リアホナ』2012年11月号, 110



七十人会長会
ウリセス・ソアレス長老

柔和で心のへりくだった人になる

柔和であるとは、弱さを意味するものではありません。むしろ、優しく親切な行いを意味します。

モルモンは次のように教えています。「柔和で心のへりくだった人でなければ、信仰と希望を持つことはできない。」¹ さらに付け加えて、こう述べています。そのような特質がなければ、「信仰と希望はむなしいものである。柔和で心のへりくだった人でなければ、神の御前に受け入れられないからである。」²

柔和は「神を畏れ……義にかなった、謙遜〔で〕、素直な、苦難に耐える」人の特質です。³ この特質を持つ人はイエス・キリストに進んで従います。このような人は落ち着いていて、おとなしく、寛容で従順な気性の持ち主です。

柔和は御霊の実であると使徒パウロは教えています。⁴ したがって、もしわたしたちが「御霊によって生きる」ならば⁵、柔和な人になるのはちっとも難しいことはありません。御霊によって生きるには、生活自体が主の御前にあって義にかなっていなければなりません。

わたしたちがキリストの御名を受けるとき、主の特質を見習い、日々主のようになるために自分の性格を変える努力をするよう期待されます。救い主は弟子たちに勧告して、こう言われました。「それだか

ら、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者とならなさい。」⁶ わたしたちがキリストのもとに来て、神の御心に添わないものをすべて拒み、神を愛するならば、キリストの恵みにより、キリストによって完全になれる日が来るでしょう。⁷

「キリストのような特質は神から授けられる賜物です。〔この特質はわたしたち〕が選択の自由を義にかなって使うときにもたらされるものです。……神に喜ばれようとする望みを心に抱いて、自分の弱点を認め、積極的に改善に努め〔なければなりません〕。』⁸

キリストのようになるためには柔和が非常に重要です。柔和でなければ、ほかの大切な徳を身に付けることはできません。柔和であるとは、弱さを意味するものではありません。むしろ強さや平靜さ、健全な自尊心、自制心を秘めた、優しく親切な行いを意味します。

柔和は救い主の生涯で最も多く示された特質の一つです。主御自身が弟子たちにこう教えられました。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、……わたしに学びなさい。」⁹

わたしたちは祝福されて、心の中に柔

和の種を持って生まれてきます。しかし、一瞬のうちにその種を育て、伸ばすことは不可能であり、時間がかかることを理解する必要があります。キリストは「日々自分の十字架を負う」よう求めておられますが¹⁰、それは絶えず関心に向け、望まなくてはならないという意味です。

現代の神権時代に、5代目の預言者であったロレンゾ・スノー大管長はこう教えています。「完全になるように努め、……日々向上し、先週行ったことを吟味し、今週はさらによく行うこと、すなわち今日は昨日よりもさらによく行うことがわたしたちの務めです。」¹¹ ですから、柔和になる第1歩は日々向上することです。このようにして前進し、昨日よりも向上するよう日々努力する必要があります。

さらにスノー大管長は次のように述べています。

「少々愚かな行動や弱さがあるにしても、できるかぎり早くそれらを克服するよう努めるべきです。そして、子供たちにもそのような気持ちを心に植え付けて……あらゆる状況において主の前にふさわしい行いができるように育てるべきなのです。

夫が妻とけんかをせず、だれに対しても不親切な応対をすることがなく、……神の御霊を悲しませるようなことのないまま1日過ごすことができたとしたら、……その1日は完全でした。次の日もそのように過ごしてみましよう。しかし次の日にできない点があったとしても、3日目はうまくいくかもしれません。」¹²

主はわたしたちの献身的で根気強い努力を認めてくださり、わたしたちが不完全で、人として弱いために達成できないものを与えてくださるでしょう。

柔和になるもう一つの重要な方法は、怒りを抑えるにはどうしたらよいかを学ぶことです。わたしたち一人一人の内には「生まれながらの人」がおり、またストレスの多い世に暮らしているのです。怒りを抑えることは生活の中で最も難しい問題の一つになることがあるでしょう。少し考え



てみてください。自分が相手に何かしてほしいときに、相手がこちらの要望に応じない場合、どのような反応を示すでしょうか。自分の考えが問題の正しい解決策であると確信していても、相手が異議を唱える場合はどうでしょうか。自分の感情を害されたり、努力したことを批判されたり、気分が悪いからという理由で非常に不親切にされたりしたら、どんな反応を示すでしょうか。こうした場合やそのほかの難しい状況では、怒りを抑え、忍耐と優しい説得により自分の気持ちを相手に伝えることを学ばなければなりません。これは家庭や永遠の伴侶との関係の中で最も大切なことです。わたしは妻と31年間結婚生活を送ってきましたが、これまでに心を乱すような人生の問題に直面したときに、妻のおかげで度々このことを思い起こすことができました。

使徒パウロはテモテへの第二の手紙の中で、次のように述べています。

「主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍び、

反対する者を柔和な心で教え導くべきである。おそらく神は、彼らに悔改めの心を与えて、真理を知らせ、

……悪魔……のわなからのがれさせて下さるであろう。」¹³

わたしたちは感情的な行動を抑え、冷静で穏やかになり、争いを避けることにより、柔和の賜物を頂くのにふさわしくなります。ヘンリー・B・アイリング管長はかつてこう述べました。「信仰をもって感情の起伏を抑え、高慢な気持ちをへりくだらせるならば、聖霊が認めてくださり、聖なる約束と聖約が確かに果たされるのです。」¹⁴

柔和を身に付けるもう一つの方法は謙遜になることです。主は預言者ジョセフ・スミスを通してトーマス・B・マーシュに次のように教えました。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」¹⁵

兄弟姉妹の皆さん、謙遜な人だけが自分の祈りに対する主の答えを認め、理解できるとわたしは信じています。謙遜な人は素直であり、自分がいかに神に依存しているかを認め、御心に従うことを望みます。また、柔和であり、自分と同じようになるようほかの人に影響を及ぼす力があります。神は手を引いて謙遜な人を導くと約束しておられます。わたしたちは主

に手を引かれて歩むかぎり、生活の中で回り道や悲しみを避けることができるとわたしは心から信じています。

わたしが知っている、現代における最も美しい柔和の模範の一つは、モーゼス・マーラング兄弟の話です。彼が改宗した発端は、モルモン書を受け取った1964年にさかのぼります。彼はモルモン書を読んで感動しました。しかし、南アフリカのヨハネスバーグで通りを歩いていたときに、ある建物に末日聖徒教会の看板が出ているのを見たのは、70年代初めになってからのことでした。マーラング兄弟は興味をそそられ、教会についてもっと知るために、その建物へ入って行きました。ところが、当時は国の法律で許可されていなかったために、集会に出席することもバプテスマを受けることもできないと丁寧に断られました。

マーラング兄弟はその決定を聞いて、憤ることなく、おとなしく謙虚に受け入れましたが、教会についてもっと多くのことを知りたいと強く願い続けました。そこで教会の指導者に要請しました。日曜日の集会の間、外に座って集会の話を開けるように、集会所の窓の一つを開けたままにしてくださいと頼んだのです。数年間、マー

ラング兄弟とその家族、友人たちは“窓の外で”教会に定期的に出席しました。1980年のある日、彼らは教会に出席し、バプテスマを受けられるようになったと言われました。マーラング兄弟にとって何という素晴らしい日が来たことでしょうか。

後に教会は彼が住んでいたソウェトに支部を設立しました。困難な状況にあっても長年の間忠実であったマーラング兄弟のような人々の決意と勇気、忠実さのおかげで、これが可能になったのです。

わたしがソウェトステークを訪問したときにこの話をしてくれたのは、マーラング兄弟の友人の一人でした。兄弟と同時期に教会に入った人です。会話を終えると、その人はわたしを抱き締めてくれました。兄弟姉妹の皆さん、そのときわたしはあたたかみも救い主の愛の御腕に抱かれているかのような気持ちになりました。この善良な兄弟の目には柔和な光が輝いていました。優しく深い感謝の念で胸を満たして、彼はわたしに頼みました。自分と多くの人たちの生活が真の福音により祝福されていることに対する感謝の気持ちを、トーマス・S・モンソン大管長に伝えてほしいとのことでした。マーラング兄弟とその友人の柔和の模範はほんとうに多くの人々、特にわたしの人生に永続的な影響を与えてくれたのです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは救い主イエス・キリストが柔和を示した最高の模範であられると信じています。地上の生活で最後の時を迎えられたときでさえそうでした。主は不正に告発され刑を宣告され、十字架を背負って苦しみながらゴルゴタの丘へ向かい、敵にあざけられ、のろわれ、主を知り奇跡を目にした多くの人から見捨てられ、十字架にはりつけにされたのです。

この上なく激しい肉体的苦痛を味わった後でさえ、主は御父に向かって、柔和で謙虚に心の底からこう言われたのです。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるので

す。』¹⁶ キリストは肉体的にも霊的にも極限の苦痛に耐え、わたしたちが霊的な特性を変えて、主のように柔和になる機会を与えてくださったのです。

イエス・キリストはわたしたちの救い主であられると証します。主の愛のおかげで、変わることが可能であると証します。生活の中で悪い影響を拒み、怒りを抑え、柔和になり、救い主の特質を身に付けることができるのです。主は道を示してくださっています。完全な模範を示し、主のようになるよう一人一人に命じておられます。主に従い、主の模範に倣い、主のようになるようわたしたちは招かれています。これらが真実であると主の聖なる御名、イエス・キリストの御名により証します。アー

メン。■

注

1. モロナイ 7:43
2. モロナイ 7:44
3. 『聖句ガイド』「柔和」の項、191 参照
4. ガラテヤ 5:22-23 参照
5. ガラテヤ 5:25
6. マタイ 5:48
7. モロナイ 10:32
8. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい —— 伝道活動のガイド』115-116
9. マタイ 11:29
10. ルカ 9:23
11. ロレンツ・スノー, Conference Report, 1898年4月, 13
12. 『歴代大管長の教え—ロレンツ・スノー』90
13. 2テモテ 2:24-26
14. ヘンリー・B・アイリング「聖約の下にある家族」『リアホナ』2012年5月号, 65
15. 教義と聖約 112:10
16. ルカ 23:34





中央扶助協会第一顧問
キャロル・M・スティーブンス

教会員には何があるか 御存じですか

神権の儀式と聖約により、わたしたちは神により約束された満ちあふれる祝福を受けることができます。これは救い主の贖罪のおかげで可能になったのです。

「家族——世界への宣言」で、大管長会と十二使徒定員会は次のように宣言しています。「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。」¹この神聖な行く末に到達するために、神の息子娘には神権の儀式と聖約が必要です。

わたしたちにはバプテスマが必要です。バプテスマの水に沈められるときに、主の御霊が常にとともにあるように主の御名を受け、いつも主を覚え、その戒めを守り、最後まで主に仕えりと約束します。²

わたしたちには聖霊の賜物が必要です。その儀式を通して、わたしたちは絶えず御霊を伴侶とすることができるようになります。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のように教えています。「神の教会に入り、罪の赦しのためにバプテスマを受けたすべての男女は、啓示を受ける権利、神の御霊を受ける権利があります。それは人が自分の務めをなし、子供を教え、子供や、自分が管理するように召されている人々に勧告を与えるうえで助けとなります。聖霊は男性だけに与えられ

るものでもなければ、使徒や預言者だけに与えられるものでもありません。すべての忠実な男性や女性、およびキリストの福音を十分受け入れられる年齢に達しているすべての子供に属するものなのです。」³

わたしたちは神殿のエンダウメントを受ける必要があります。M・ラッセル・バラード長老はこう言っています。「男女が神殿に行くと、彼らには二人とも同じ力が与えられます。それは、『神権の力』と定義される力です。……エンダウメントとは、文字どおり力の賜物なのです。」⁴

わたしたちには結び固めの儀式が必要です。これは永遠の命に導く儀式であり、「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」⁵です。この神権の儀式は、男性と女性が二人で一緒に受けるものです。ラッセル・M・ネルソン長老は「神権の権能が回復されたのは、家族を永遠に結び固めるためです」と教えています。⁶

わたしたちは聖餐を取ることで、自分たちの聖約を毎週新たにする必要があります。末日の預言者や使徒たちは、わたしたちはふさわしい状態で聖餐にあずかることによって、バプテスマの聖約のみならず、「主と交わしたあらゆる聖約」⁷を新たにできるのです、と教えています。

これらの神権の儀式と聖約により、わたしたちは神により約束された満ちあふれる祝福を受けることができます。これは救い主の贖罪のおかげで可能になったのです。これらの神権の儀式と聖約を通して神の息子娘は力、すなわち神の力を帯び⁸、永遠の命が得られるようになります。神の御前に戻り、神とともに神の永遠の家族と一緒に住むようになります。

わたしは最近ホンジュラスで、4人の女性の家を訪問しました。この4人とその家族は、神権の鍵と権能、神権の儀式と聖約、神権の力と祝福を必要としていました。

わたしたちは、かわいい子供が二人いる既婚の姉妹を訪問しました。彼女は教会に活発で、子供たちが正しいことを選ぶように教えています。夫は彼女の教会通いに協力的ですが、会員ではありません。強い家族ですが、さらに強固なものにするためには、さらに神権の祝福が必要です。父親がバプテスマの儀式と聖霊の賜物を受け、神権が授けられなければなりません。この家族には、エンダウメントと結び固めを通して得られる神権の力が必要です。

次に訪問したのは、強い信仰を持つ二人の独身の姉妹が住む家でした。片方の姉妹には、伝道に出る準備をしている息子がいました。もう片方の姉妹は癌の治療を受けていました。意気消沈し、くじけそうになるときは、二人とも救い主の贖いを思い起こすのだそうです。すると、信仰と望みが胸に満ちあふれます。どちらの姉妹も、神殿の儀式を通して得られるさらなる祝福と力を必要としています。家にいる将来の宣教師とともに神殿の儀式を受ける備えをしてくださいと二人に勧めました。

最後に訪問したのは、最近悲惨な事故で夫を亡くした姉妹の家でした。この姉妹は教会に最近改宗したばかりだったため、自身のエンダウメントが受けられるこ



とも、夫との結び固めができることも理解していませんでした。これらの祝福を彼女自身と亡くなった夫のために受けることができるかと教えると、彼女の心は希望で満たされました。神殿の儀式を通して自分の家族が結び固められることを知ったので、彼女にはこれから降りかかる試練に立ち向かう信仰と決意があります。

夫を亡くしたこの女性の息子は、アロン神権を受ける準備をしています。息子が神権の聖任を受けると、彼女にとっても家族にとっても、大きな祝福となるでしょう。家庭に神権者が誕生するのです。

ホンジュラスでこの忠実な4人の姉妹に会ったとき、家族が福音に従って生活できるよう努力している姿を見ることができました。聖約を守るワードの会員が物質面でも霊的な面でも優しく見守り、助けてくれることに感謝していると言っていました。しかしながら、どの姉妹も、必要がすべて十分に満たされているというわけではありませんでした。

訪問した3家族でそれぞれ、賢明な神権指導者が、一人一人の姉妹に神権の祝福を受けたかどうかを尋ねました。答えはいずれの場合も、「受けていません」

だったのです。どの姉妹もその日、神権の祝福を求め、受けました。ふさわしい神権者を通して天の御父から慰めと導き、励ましを受けたことに対して、皆涙を流しながら感謝の気持ちを表していました。

この姉妹たちはわたしを鼓舞してくれました。皆、神と神の力と権能に対して敬意を表していたのです。また、この訪問に同行してくれた神権指導者たちにも感謝しました。彼女たちが交わした聖約を守って成長し、家庭を強固にするためには儀式が必要です。この家族が儀式を受けられるようにするにはどうしたらよいか、それぞれの家を後にする度に、わたしたちは協議しました。

今日、男性と女性が神の息子娘として互いをさらに尊重し合うこと、および、天の御父とその神権、すなわち神の力と権能を敬う気持ちを育むことの必要性が大きくなっています。

神はわたしたちのための計画をお持ちです。そして、わたしたちが信仰を働かせて神の計画を信頼するならば、神を敬う気持ちも、神の力と権能を敬う気持ちも強くなります。

「神権を通して家族と教会を強める」というテーマで行われた世界指導者訓練集会で、わたしたちは次の教えを受けました。家庭に神権者のいない姉妹たちは、……決して孤独を感じる必要はありません。儀式を受け、聖約を守っているならば、それを通して祝福と力が与えられます。助けが必要などときには、助けを求めるのに躊躇するべきではありません。M・ラッセル・バラード長老は次のように教えています。教会のすべての女性は、自分には頼れるビショップや長老定員会会長やホームティーチャーなどのふさわしい神権者がいて、家に来て助け、そして、ローズマリー・M・ウィクソム姉妹が言い添えたように、「祝福を授ける」ことができるということを知っておく必要があります。⁹



バラード長老は次のようにも教えています。「天の御父は、その力を惜しみなく使ってくださいます。すべての男女は、生活の中でこの力から助けを得ることができます。主と聖約を交わし、その聖約を尊ぶ人は皆、個人の啓示と天使の働きの祝福を受け、神と親しく交わることができるのです。」¹⁰

わたしたちはだれでも、互いを必要としています。神の息子には神の娘が必要で、神の娘には神の息子が必要なのです。

持っている賜物や長所は人によって異なります。第一コリント12章では、すべての人が益を得るためには神の息子娘、つまりわたしたち一人一人が、神の計画に従って自分の役割や責任を果たさなければならないということが力説されています。¹¹

神の息子である皆さんは、自分が何者か知っていますか。自分には何かがあるか、分かっていますか。神権を行使し、神権の力と祝福を受けるにふさわしいですか。父親として、祖父として、息子として、兄弟として、おじとして、家庭を強固なものにするという役割と責任を受け入れていますか。女性や女らしさ、母親の役割に敬意を表していますか。

神の娘であるわたしたちは、自分が何者か知っているのでしょうか。自分には何

があるか、分かっているのでしょうか。神権の力と祝福を受けるにふさわしいでしょうか。与えられる賜物を、感謝して深く謙んで受け取っているのでしょうか。母親として、祖母として、娘として、姉妹として、おばとして、家庭を強固なものにするという役割と責任を受け入れているのでしょうか。男性や男らしさ、父親の役割に敬意を表しているのでしょうか。

聖約を交わした息子娘として、わたしたちは天の御父を信じる信仰と、人のために作られた御父の永遠の計画を信じる信仰を持っているのでしょうか。イエス・キリストとその贖罪を信じる信仰がありますか。神の属性と神聖な行く末を自分が受け継いでいることを信じていますか。そして、この行く末に到達して御父が持っておられるすべてを享受できるよう努力する過程で¹²、神権の儀式を受け、主と聖約を交わし、守り、更新することの重要性を理解していますか。

わたしたちは、神から受け継いだ特質を持った天の父母の霊の息子娘です。救い主イエス・キリストは命をささげるほどにわたしたちを愛してくださいました。その贖いによって、わたしたちが聖なる神権の儀式と聖約を通して天の家に戻る道を進んで行くことができるよう道を備えてくださいました。

この神権の儀式と聖約は預言者ジョセ

フ・スミスを通して、地上に回復されました。そして今日、モンソン大管長は、この地上における神権のすべての鍵を持っています。

D・トッド・クリストファーソン長老はつぎのように教えています。「末日聖徒イエス・キリスト教会には、人が聖なる御子の御名により、天の御父との聖約に入れるように、そのための儀式を行う神権の権威が存在します。……神は聖約を尊ぶ人に約束を果たし〔てくださいます〕。』¹³

これらのことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. 「家族—家族への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
2. モロナイ4:3:6:3 参照
3. 『歴代大管長の教え—ウィルフォード・ウッドラフ』(2004年), 49
4. M・ラッセル・バラード, “Let Us Think Straight” (ブリガム・ヤング大学教育週間ディボーションナル, 2013年8月20日)。speeches.byu.edu
5. 教義と聖約14:7。教義と聖約131:1-4も参照
6. ラッセル・M・ネルソン「結婚のきずなをはぐくむ」『リアホナ』2006年5月号, 37。または「わたしの王国の娘—扶助協会の歴史と業」133
7. デルバート・L・ステーブレイ, Conference Report, 1965年10月, 14 —L・トム・ベリーによる引用, 「聖餐にあずかるとき」『リアホナ』2006年5月号, 39-40。Teachings of Gordon B. Hinckley (1997年), 561; The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編(1982年), 220も参照
8. 教義と聖約109:22 参照
9. M・ラッセル・バラードとローズマリー・M・ウィクソム, 「すべての家庭に神権の祝福を」, 『神権を通して家族と家庭を強める』(世界指導者訓練集会, 2013年) lds.org/broadcasts
10. M・ラッセル・バラード, “Let Us Think Straight”, speeches.byu.edu
11. 教義と聖約46:9, 12も参照
12. 教義と聖約84:38 参照
13. D・トッド・クリストファーソン, 「聖約の力」『リアホナ』2009年5月, 22



七十人
エドワード・デュベ長老

先を見て信じる

主の目には、わたしたちが何をしたのか、どこにいたのかよりも、喜んで行こうとしている先がどこであるかが重要なのです。

子供のころ母と畑で働いていたときに、母から人生で最も大切な教訓の一つを教わりました。朝も遅い時間で日は昇り、わたしにはずいぶん長い間二人で畑を耕したように思えました。わたしは手を止めて振り返り、どのくらいできたかを見ると、母に言いました。「見てよ、ずいぶんできたよ。」母の返事はありませんでした。聞こえなかったのだと思い、もう少し大きな声でまた言いました。それでも母の返事はありません。また少し声を上げて、もう一度言いました。ようやく振り向いた母はこう言いました。「エドワード、決して振り返ってはだめよ。これからまだしなければならぬ、先を見ていなさい。」

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちがバプテスマのときに主と交わした、「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、……神の証人になる」という聖約は、終生の約束です（モーサヤ 18:9）。ディーター・F・ワークトドルフ管長は次のように勧告しました。「バプテスマの水に入り、聖霊の賜物を受けた人々は、主の弟子となる道を踏み出し、救い主に倣って着実に、そして忠実に従うように命じられています。」（「人生の四季」『リアホナ』2013年9月号、5）主は僕を通して、わたしたちを様々な召しにおいて奉仕するように召されます。そしてわたしたちは全力で果たす決意をもってそれに応じ

ます。解任されて別な割り当てを与えられれば、喜んでその召しを受けます。先人が知っていたように「主に仕えるに当たって大切なのは、どこで奉仕するかではなく、どのように奉仕するか」であることを知っているからです（J・ルーベン・クラーク・ジュニア、Conference Report, 1951年4月、154）。

ですから、ステーキ会長やビショップが解任される時、彼は喜んで解任を受け入れます。また、僕を通して主から「負わせるのがふさわしい」奉仕に召されるとき（モーサヤ 3:19）、過去の経験のために影が薄くなったり、それまでを振り返って奉仕は十分にしたと思ったりすることはありません。「善を行うことに疲れ果てていないのです。自分のしていることが「大いなる業の基を据え」ることであると知っており、そのための努力が人を永遠にわたり祝福するというはっきりしたビジョンを持っているからです。こうして、「小さなことから大いなることが生じる」のです（教義と聖約 64:33）。

「人は熱心に善いことに携わり、多くのことを〔自らの〕自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならぬ。」（教義と聖約 58:27）

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように勧告しました。「過去はそこから学ぶものであって、生きる場所ではありません。振り返るのは、燃え

尽きて灰となった経験からではなく、まだ熱の残る経験から最高のものを学ぶためです。そうして必要なことを学習し、最高の経験を生かしたら、将来に目を向け、**信仰が常に将来を指し示していることを覚えていてください。**」（「最善はこれからだ」『リアホナ』2010年1月号、18）

「先を見ていなさい」という母の教えは目に見える畑の雑草についてであって、初期の開拓者が経験した試練に比べれば、小さなことです。ジョセフ・B・ワースリン長老は、開拓者の経験を明確に説明しています。「1846年には、ミシシッピ川沿いに築かれたあの繁栄した町から1万人以上の人々が離れました。預言者である指導者たちに信仰をもって、これら初期の教会員は『美しい町』を後にして、アメリカ最果ての地である荒野へと足を向けたのです。聖徒たちはその行き先をはっきりとは知りませんでした。どのくらいの距離に行くのかも、どれほどの期間を旅するのも、将来がどうなるかも知りませんでした。しかし聖徒たちは主と主の僕たちに導かれているということを知っていました。」（「先祖の信仰」『聖徒の道』1996年7月号、39）

彼らは、先を見て信じるのがどんなことかを分かっていました。開拓者の何人かは、その15年前に啓示が与えられたとき、その場にいたのです。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。生きるも死ぬも、わたしの戒めを守る者は幸いである。艱難の中で忠実な者の受ける報いは、天の王国においてもっと大きい。」

あなたがたは、この後に起こることに関するあなたがたの神の計画と、多くの艱難の後に来る栄光を、今は肉体の目で見ることができない。」（教義と聖約 58:2-3）

わたしたちも先を見て信じることができます。御腕を広げてわたしたちを呼ばれる主の招きを受け入れることができるのです。



「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28 - 30)

愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長ならびに大管長会顧問、十二使徒定員会は、救いの業に携わるようわたしたちを招きました。新しい改宗者、青少年、ヤングアダルト、退職した人たち、そして専任宣教師は、救いの業を速めるために等しくくびきで結ばれる必要があります。

十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長は雄牛の荷引き競技を見に行っていたことがあり、その経験をたとえにして次のように話しました。「木製のそりにはセメントのブロックが積まれて、1万ポンド

(4,535キロ)、つまり4.5トンの重さがありました。……雄牛がそりを3フィート(91センチ)動かせるかどうかを競う競技です。……非常に大きい、まだらで青っぽい灰色の、釣り合いの取れたペアに目が留まりました。……前シーズンから出ていた大きな青い雄牛のペアです。」

競技の結果について、彼はこう言いました。「1組、また1組と脱落していきました。……大きな青牛のペアは上位にも入りませんでした。小さくて目立たず、体格も不ぞろいなペアが3回ともそりを動かしました。」

この意外な結果をパッカー会長はこう説明しています。「大きな青牛のペアは、ほかのペアより大きくて強く、体格もそろっていました。しかし、この小さな雄牛のペアはチームワークと協調性に勝っていたのです。ともに、まったく同時に前にぐいっと押し、荷を動かしていました。」(“Equally Yoked Together,” 1975年4月3日に行

われた地区代表セミナーの説教: *Teaching Seminary: Preservice Readings* [2004年], 30より)

先を見て信じるなら、人々をキリストのもとに招き、救いの業を速めるときに、これと同じチームワークが必要です。それぞれ個人の立場で、ディーター・F・ワークトドルフ管長の「肩を寄せ合って立ち、自分の立っている場所で持ち上げ[る]」という助言に従うことが必要です(「自分の立っている場所で持ち上げる」『リアホナ』2008年11月号, 53)。わたしたちの最大の可能性は、十二使徒定員会のL・トム・ベリー長老の次の見解に見いだすことができます。「わたしは世界中の教会を回っていて、多くの建設的な事柄を目にし、驚かされています。それでもなお、わたしたちは一つの民としてまだ十分に可能性を発揮しているとは言えません。必ずしも一致協力しているとは言えないのです。個人的な名誉や成功の方に関心が

行きすぎて、神の王国建設という共通の目標に対する関心が薄すぎるようです。』(「一致して神の王国を建てる」『聖徒の道』1987年7月号、38)

「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」(モーセ1:39)という共通の目的でわたしたちが一致できますように。

始めから終わりまでを理解しておられる救い主イエス・キリストは、御自分が歩むことになるゲツセマネとゴルゴタまでの道をよく御存じでした。主はこう言われました。「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。」(ルカ9:62) 主の目には、わたしたちが何をしたのか、どこにいたのかよりも、喜んで行こうとしている先がどこであるかが重要なのです。

ジョセフ・スミスは教会の指針となる原則を教えました。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』49-50)

救い主イエス・キリストの模範に従うとき、また、腕を直角に挙げて愛するトーマス・S・モンソン大管長を行いにより支持するとき、わたしたちは平安と慰め、喜びを見いだし、「この終わりの時に……地の良いものを食べる」ことを証します(教義と聖約64:34)。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

天の窓

じゅうぶん
什分の一の律法に従った生活には、霊的にも、物質的にも祝福がもたらされます。

わたしは什分の一について学んだ二つの大切な教訓についてお話したいと思います。一つ目の教訓では、この戒めを忠実に守る個人と家族にもたらされる祝福に焦点が当てられています。二つ目の教訓では、末日聖徒イエス・キリスト教会が全世界において成長するうえで什分の一が占める重要性が強調されています。聖霊の力によって、皆さん一人一人が、これから話しする原則の真実性を確認できるように祈ります。

教訓1——重要でありながらもとらえにくい祝福

ベドナー姉妹の母親は、信仰篤い女性であり、靈感あふれる主婦です。結婚当初から、彼女は入念に家計簿をつけてきました。何十年も、ありふれた帳簿を使って、家族の収入と支出をきちんと記録してきました。彼女が長年にわたって集めた情報は、広範囲に及び、大変参考になるものです。

ベドナー姉妹が若い女性の年代だったころ、彼女の母親は家計簿の情報に基づいて、賢明な生活と家庭管理に関する基本的な原則を強調しました。ある日のこと、様々な分野の支出について家族で検討していたとき、興味深いパターンに気づきました。医療費が予想していたよりもはるかに少なかったのです。彼女はこの

発見をイエス・キリストの福音に関連づけ、娘に次のような力強い真理を話して聞かせました。すなわち、什分の一の律法に従った生活を送ると数多くの祝福を受けるが、その祝福は重要でありながらもとらえにくく、必ずしも自分たちの期待どおりのものではないので見逃しやすい、ということです。家族の収入が急に、あるいは目に見えて増えるということはありませんでした。その代わり、愛にあふれる天の御父は単純な祝福を、一見平凡に思える方法で授けてくださっていたのです。ベドナー姉妹は、母親から教わったこの大切な教訓、すなわち、旧約聖書のマラキ書で約束されている、天の窓を通してわたしたちに与えられる助けについての教訓をいつも覚えていました(マラキ3:10 参照)。

什分の一の律法について教え、証するとき、わたしたちは自分たちが受ける即座の、劇的な、またすぐにそれと分かる物質的な祝福を強調することがよくあります。確かに、そのような祝福を受けることもあります。しかし、この戒めに従うときに受ける様々な祝福の中には、重要でありながらもとらえにくい祝福もあるのです。霊的に注意深く観察力を働かせなければ、そのような祝福は識別できません(1コリント2:14 参照)。

マラキが用いている天の「窓」というイメージは、実に教訓的です。窓がなければ



ば、自然の光が建物の中に差し込むことはできません。同様に、わたしたちが什分の一の律法を尊ぶときに、天の窓を通して、霊的な目覚めや永遠の見地がわたしたちの生活にあふれるほど与えられるのです。

例えば、わたしたちが受ける、とらえにくくても重要な祝福として、感謝という霊的な賜物があります。この賜物があれば自分が持っているものを正しく評価し、自分が欲しいものに対する欲求を抑えることができます。感謝しない人は、尽きることのない不満という貧困の中で苦しみます(ルカ12:15 参照)。

わたしたちは、適切な仕事に就くための助けを求めて祈ることがあります。しかし、ほかの多くの人たちが見逃すかもしれない就職の機会を見いだす力を与える、より優れた識別力という霊的な賜物、あるいはほかの人の能力や意欲を上回るほどに熱心かつ根気強く勤め口を探すための、より確固とした決断力という祝福に気づくためには、信仰の目や耳(エテル12:19 参照)が必要です。皆さんは就職先を望んだり、期待したりすることがあるでしょう。しかし、天の窓を通してもたらされる祝福は、ほかのだけか、あるいは何かがきっかけとなって自分の置かれている環境が変わる可能性というよりはむしろ、自ら行動することによって自分の環境を変える能力が増大するという祝福なの

かもしれません。

わたしたちは、給与を引き上げてもらい、生活必需品を十二分に供給できるようになるために、望みを抱き、適切な努力を払うかもしれません。しかし、自分の内面において、より少ないお金でより多くの必要を満たすための霊的、物質的な能力が高まったこと(ルカ2:52 参照)、優先順位を決め、簡素化する能力が研ぎ澄まされたこと、すでに獲得した物質的所有物を適切に管理する能力が増し加わったことに気づくためには、信仰の目や耳が求められます。皆さんはより多くの給与を望んだり、それを期待したりすることがあるでしょう。しかし、天の窓を通してもたらされる祝福は、ほかのだけか、あるいは何かがきっかけとなって自分の置かれている環境が変わる可能性というよりはむしろ、自分の環境を変える能力が増大するという祝福なのかもしれません。

モルモン書に出て来る若い兵士(アルマ53章:56-58章参照)は、神が彼らを強め、敵の手から救ってくださるよう熱心に祈りました。興味深いことに、こうした祈りに対して、武器が補充されるとか、兵士の数が増えるとかいった答えは与えられませんでした。その代わりに、これらの忠実な兵士に与えられたのは、神が彼らをお救いになるという保証、彼らの霊にもたらされる平安、大いなる信仰、また神によって解放されるという望みでした(ア

ルマ58:11 参照)。このようにして、ヒラマンの息子たちは勇気を奮い起こし、敵を打ち破ろうと固く決意し、レーマン人と戦うために全勢力を注いで出て行きました(アルマ58:12-13 参照)。保証、平安、信仰そして希望は、一見、戦う兵士が望む祝福のように思われなくてもいいかもしれません。しかし、まさしくそれらは勇敢な若い兵士が力強く進み、肉体的にも霊的にも勝利を得るために必要な祝福だったのでした。

わたしたちが神に成功を求めると、神はわたしたちに肉体的、精神的な持久力をお与えになるかもしれません。わたしたちが繁栄を求めると、わたしたちの物の見方を広げ、忍耐力を増し加えてくださるかもしれません。あるいはわたしたちが成長を願い求めると、恵みという賜物を祝福してくださるかもしれません。わたしたちが価値ある目標を達成しようと努力すると、確信や自信を授けてくださるかもしれません。肉体的、精神的、また霊的困難からの救いを願い求めると、わたしたちの決断力と何度でも立ち直る力を増し加えてくださるかもしれません。

わたしは、皆さんやわたしが什分の一の律法に従い、それを守るならば、確かに、天の窓が開かれ、霊的にも物質的にも、あふれんばかりの祝福が降り注がれると約束します(マラキ3:10 参照)。また、わたしたちは主の次の宣言を忘れてはなりません。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ55:8-9)

わたしは証します。わたしたちは霊的に注意深く観察力を働かせれば、もっと明確に見る目、もっと一貫して聞く耳、重要でもとらえにくい主の方法、主の思い、そしてわたしたちの生活における主の祝

福をもっと十分に理解する心を授かります。

教訓 2 —— 主の方法の簡潔さ

十二使徒定員会会員として奉仕する召しを受ける前に、わたしは教義と聖約で、神聖な什分の一基金を監督し配分するよう任命されている評議会について何度も読みました。什分の一配分評議会は啓示によって定められ、大管長会、十二使徒定員会、管理ビショップリックで構成されています（教義と聖約 120 章参照）。2004 年 12 月、同評議会の集会に初めて出席するために準備していたとき、わたしはこれまでに経験したことのないような学ぶ機会があることを心から期待しました。

その評議会で経験し、感じたことを今でもよく覚えています。個人、家族、そして主の教会に対する主の財政の律法に、以前にも増して感謝するとともに畏敬の念を抱くようになったのです。末日聖徒イエス・キリスト教会の財政に関する基本的なプログラムは、収入であれ、支出であれ、教義と聖約の 119 章と 120 章で定められています。これらの啓示で述べられている二つの言葉から、教会の財務に関する基本的事項が分かります。

119 章には、次のような簡潔な言葉が記されています。すべての会員は「毎年彼らの得る全利益の什分の一を納めるのである。そして、これは……とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる、と主は言う。」（4 節）

次に、認可を受けた什分の一の配分に関して、主はこう言っておられます。「わたしの教会の大管長会と、ビショップとその評議会、ならびにわたしの高等評議会により構成される評議会によって、また彼らへのわたし自身の声によって、それが配分されるべき時が今や来た、と主は言う。」（教義と聖約 120 : 1）この啓示で言及されている「ビショップとその評議会」および「わたしの高等評議会」は、今日、それぞれ管理ビショップリックおよび十二使徒



定員会という名で呼ばれています。こうした神聖な基金は、急速に成長しつつある教会で、個人や家族を霊的に祝福するために用いられています。主の聖任された僕しもべの指示に基づいて、神殿や礼拝の家の建設および維持、伝道活動の支援、聖文の翻訳や出版、家族歴史探究の奨励、学校や宗教教育に対する資金提供、教会が掲げるほかの多くの目的の達成などを行っているのです。

世界中にある実に多くの組織や政府で用いられている財政上の指針や管理上の手順が複雑なのに比べて、これら二つの啓示が明瞭かつ簡潔なことにわたしは驚嘆するばかりです。回復されたイエス・キリスト教会ほど大きな組織の実務が、こ

れほど簡潔な指示に基づいて全世界で機能できるのは、果たしてどういう理由によるのでしょうか。わたしにとって、その答えは実に簡単です。これが主の業であり、主には御自分の業を行う力がおありになり（2 ニーファイ 27 : 20 参照）、救い主が御自分の僕に靈感と指示をお与えになり、その僕が主の導きを取り入れ、主の大義のために働いているからです。

その最初の評議会でも、わたしが感心したのは、わたしたちの審議と決定を導く原則の簡潔さでした。教会の財務管理では、二つの基本的で一定した原則が守られています。第 1 は、収入の範囲内で活動し、収入以上の支出を避けるということです。第 2 に、年間収入の一部を、不測

の事態や予期せぬ必要のための予備費として蓄えるということです。何十年にもわたって、教会は会員に、起こり得る緊急事態に対処するために、余分な食糧、燃料、金銭を蓄えるという原則を教えてくださいました。教会も、一つの機関として、会員に繰り返し教えている同じ原則に従っているのです。

集會が進むにつれて、わたしはすべての教会員が次のことに気づくよう望むようになりました。それは主の教会の実務を行ううえで、主御自身の方法がどれほど簡潔かつ明瞭であり、整然として、慈愛に満ち、力強いものかということです（教義と聖約 104：16 参照）。それから何年もの間、わたしは什分の一配分評議会に参加しています。年を追うごとに、主の規範に対するわたしの感謝と畏敬の念は増してきました。また、そこで学んだ教訓はますます深みを帯びてきています。

わたしの心は、すべての国民、部族、言語の民、民族の中にあって、この教会に集う忠実で従順な会員に対する愛と称賛の念にあふれています。全世界を旅するうちに、わたしは皆さんの希望や夢、皆さんの異なる生活環境、皆さんの苦悩について知ることができます。わたしは皆さんとともに教会の集會に出席し、皆さんの家庭を何軒か訪問しました。皆さんの信仰

はわたしの信仰を強めてくれます。皆さんの献身を通して、わたしはますます献身的になれる。また、皆さんの善良さと什分の一の律法に対する従順は、わたしをより良い男性、夫、父親、教会指導者となるように駆り立ててくれます。什分の一配分評議会に参加する度に、わたしは皆さんのことを思い出し、考えます。皆さんが善良かつ忠実で、自分の交わした聖約を尊んでいることに感謝しています。

主の回復された教会の指導者は、教会員によって奉獻されたささげ物を適切に管理するという途方もなく大きな責任を感じています。わたしたちはやもめのレプタがどれほど神聖なものかを痛感しています。

「イエスは、さいせん箱にむかってすわり、群衆がその箱に金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持は、たくさんの金を投げ入れていた。

ところが、ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラントに当る。

そこで、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、『よく聞きなさい。あの貧しいやもめは、さいせん箱に投げ入れている人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。

みんなの者はありあまる中から投げ入

れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物、その生活費全部を入れたからである。』（マルコ 12：41 - 44）

自分の個人的な経験から、什分の一配分評議会は、やもめのレプタの管理に関して細心の注意を払っていることを知っています。この神聖な管理の職を遂行するうえで、トーマス・S・モンソン大管長と二人の顧問が優れた指導力を発揮していることに感謝しています。また、御自分の聖任された僕が、御自分に代わって義務を果たすとき、御声（教義と聖約 120：1 参照）と御手をもって主がそれらの働きを支持してくださることに感謝しています。

勧めと証

什分の一を正直に納めるという行為は、義務をはるかに超えたものです。それは個人の聖めという過程における重要な一歩です。什分の一を納める人を、わたしは称賛します。

現在、什分の一の律法に従っていない人については、自分のなすべきことをよく考え、悔い改めるようお勧めします。この主の律法に従うならば、天の窓が開かれることを証します。どうぞ最後まで悔い改めの日を引き延ばすことがないようにしてください。

什分の一の律法に従った生活には、霊的にも、物質的にも祝福がもたらされることを証します。そのような祝福は往々にして、重要でありながらもとらえにくいことを証します。また、主の教会の実務面にはっきりと表れることですが、主の方法は簡潔であり、わたしたちを個人として、また家族として導く規範を提供してくれます。そのことを確信をもって申し上げます。わたしたち一人一人がこれらの大切な教訓から学び、祝福を得られますように、主イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります、アーメン。■





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

ともに集いましょう

どのような環境に置かれているか、どのような人生を送ってきたか、また証が強い^{あかし}か弱い^{あかし}かにかかわらず、教会にはあなたの居場所があります。

ある男性が夢を見ました。彼は世界中の宗教の代表者が集っている大ホールにいました。それぞれの宗教には魅力があり、価値があると思えることがたくさんあることに気づきました。

末日聖徒イエス・キリスト教会を代表する上品な夫婦に出会った彼は、こう尋ねました。「会員になる人にあなたがたはどのようなことを求めているのですか。」

「わたしたちは何も求めています。しかし、主はわたしたちにすべてをささげるよう求めておられます」とその夫婦は答えました。

夫婦はさらに教会の召し、ホームティーチングと家庭訪問、専任伝道、毎週の家庭の夕べ、神殿の業、福祉と人道支援活動、教師を務める割り当てについて説明しました。

「それらの務めを果たす人全員に報酬を支払っているのですか」と男性は尋ねました。

「いいえ。自分の時間を惜しみなくささげているのです。」

「そのうえ、6か月ごとに開かれる総大会に出席するか視聴します。そして、10時間に及ぶ話を聞いて週末を過ごすのです」と夫婦は言いました。

「10時間も話が続くのですか。」男性は信じられないといった様子で言いました。

「毎週の教会の集会はどうですか。何時間ですか。」

「毎週日曜日に3時間開かれます。」

「何てことだ。教会員はあなたのおっしゃったことをほんとうに実行しているのですか」と男性は言いました。

「まだまだあります。言いませんでしたが、ほかに家族歴史、青少年のキャンプ、ディボーショナル、聖文の研究、指導者の訓練、青少年の活動、早朝セミナー、教会の建物の維持管理があります。そして御存じでしょうが、主の健康の律法があり、貧しい人々を助けるために毎月行う断食、それに仕分の^{じゅうぶん}一があります。」

男性は言いました。「少し、くらくらしてきました。一体どうしてそのような教会に好んで入る人がいるのですか。」

夫婦はほほえんで言いました。「そうおっしゃると思っていましたよ。」

一体どうしてそのような教会に入る人がいるのでしょうか。

世界中の多くの教会で信者数が減少している中、末日聖徒イエス・キリスト教会は、ほかの教会よりも小規模でありながらも、世界で最も急速に発展している教会の一つとなっています。2013年9月現在、教会には全世界で1500万人の会員がいます。

これには多くの理由がありますが、その幾つかについて説明したいと思います。

救い主の教会

第1に、この教会はイエス・キリスト御自身によって現代に回復されました。罪の救^{ゆる}しのためのバプテスマを施し、聖霊の賜物^{たまもの}を受け、地上で結ぶことを天においても結ぶことなど、主の御名によって務めを行う権能がこの教会にはあります。¹

この教会に加わる人々は、救い主イエス・キリストを愛し、救い主に従いたいと思っています。彼らは神が再び人類に語られることを知って、喜んでいます。聖なる神権の儀式を受けて、神と聖約を交わすとき、彼らはその生活の中で神の力を感^あじることができ^ます。² 聖なる神殿に入るとき、神の御前^{みまへ}にいることを感じます。聖文を読み^よみ、神の預言者の教えに従うとき、心から愛する救い主に近づいていくのです。

行いの伴う信仰

もう一つの理由は、善を行う機会が教会にあるからです。

神を信じることは立派なことですが、ほとんどの人は感動的な説教や「天の夢」⁴に耳を傾けるだけでなくそれ以上のことを行いたいと思っています。彼らは信仰を行いに表すことを願い、腕まくりをして、この大なる大義に携わ^たることを願っています。

わたしたちとともに集うと、それらが実現するのです。自分の才能や思いやり、時間を善い行いに変える多くの機会を手にします。世界中のどの集会所にも有給の聖職者がいないため、会員たちは奉仕し、教え、導く業を自分たちで行います。彼らは霊感によって召されます。時には自発的に、時には割り当てによって奉仕します。わたしたちにとって割り当ては重荷ではなく、神と神の子供たちに仕えると喜んで交わした聖約を守る機会なのです。

かけがえのない祝福

人々がこの教会に加わる第3の理由は、キリストの弟子として生活することができる



大いなる祝福につながるからです。

わたしたちはバプテスマが弟子として歩む道の出発点に立つことであると考えています。日々キリストとともに歩むことにより、この世において平和と目的を得、来るべき世において大いなる喜びと永遠の救いを得る道へと導かれます。

この道を忠実に歩む人は人生の多くの落とし穴や悲しみ、悔いを避けることができます。

心の貧しい者と心の正しい者は教会で知恵の大いなる宝を見いだします。

苦しみ、悲しむ者は癒しを見つめます。

罪の重荷を負う者は赦しと自由と安息を見いだします。

去って行った人々へ

数百万に上る人々が真理を探究した結果、末日聖徒イエス・キリスト教会に導かれて来ました。しかし、かつては愛した教会を去って行った人々もいます。

「福音がそれほど素晴らしいものであるとしたら、なぜ去って行くのですか」と尋ねるかもしれません。

その理由は、心を傷つけられたこと、怠惰であったことあるいは罪を犯したことであったのかもしれません。実際、それほど単純ではありません。一つの理由だけで様々な状況をくくることはできないのです。

わたしたちの愛する会員の中には教会をやめるべきかどうかを何年もの間悩み続けている人たちがいます。

わたしたちの教会は個人の選択の自由をととても大切にしています。疑問を問いかけて、答えを探し求めた一人の少年によって回復されたこの教会では、真理を心から探し求める人々に敬意を払っています。わたしたちの愛する教会とわたしたちの見いだした真理から旅半ばで去って行く人々を見るとき、わたしたちはひどく落胆しますが、良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する個人の権利を尊重しています。その特権を求めるのはわたしたちも同様です。⁵

答えを見いだせない疑問

過去に受けた言動に対して疑問を持ち、その答えを見いだせずに苦しんでいる人がいます。率直に言って、200年に近い教会の歴史において、靈感を受けた誉れある神聖な出来事が絶え間なく起きてきた一方で、人々に疑問を抱かせるような何かしらの言動があったことは否めません。

すべての情報を手にしていないこと、もう少し忍耐する必要があったことに起因して、疑問が生じる場合があります。最終的に真実がすべて明らかにされるときに、

それまで納得のいかなかったことは満足を得られる形で解決することでしょう。

「事実」がほんとうに意味するところについて意見の相違が生じる場合があります。一部の人に不信を抱かせる疑問であっても、よく調べてみると、それがほかの人々の信仰を築くものとなっていることがあります。

不完全な人の犯す過ち

きわめて率直に申し上げると、教会の会員や指導者も過ちを犯すことがあります。教会の価値観や原則、教義と調和しない言動があったかもしれません。

完全な人が管理するとしたら、教会は必ず完全であると思います。神は完全であられ、神の教えは純粋無垢です。けれども、不完全な子供であり、過ちを犯す不完全な人であるわたしたちを通して神は御業を行われます。

モルモン書のタイトルページにはこのように記されています。「もし誤りがあるとすれば、それは人の犯した間違いである。したがって、キリストの裁きの座で染みがないと認められるために、神にかかわるものを非難しないようにしなさい。」⁶

キリストが自ら地上を統治される完全な日が来るまでこの状態はこれまでと同様今後も続くことでしょう。

残念ながら、人の犯す間違いのために
つまずく人たちがいます。しかし、それ
でも、末日聖徒イエス・キリスト教会の中
にある回復された福音の永遠の真理は、汚
されることも、損なわれることも、滅ぼさ
れることもありません。

わたしは主イエス・キリストの使徒と
して、またこの教会の評議会と働きを直接
見てきた者として、厳粛に証します。この
教会またはその会員に重大な影響を与え
る決定が、永遠の御父に靈感と導き、承
認を熱心に求めることなしに行われるこ
とは決してありません。この教会は、イ
エス・キリストの教会です。神はこの教会
が定められた道を外れることをお許しに
なりませんし、神の目的が達せられないこ
ともありません。

あなたの戻る場所がある

教会から離れている方々に申し上げます。
皆さんはわたしの愛する友です。教会
にはまだあなたの戻る場所があります。

来て、あなたの才能や賜物、力を貸して
ください。それによってわたしたち全体
が良くなるのです。

「わたしの抱えている疑問はどうなるの
ですか」と尋ねるかもしれません。

疑問を持つのは自然なことです。率直
な疑問という種は発芽して、理解という大
木に育つことがしばしばあります。重大
な疑問や慎重に扱うべき疑問について真
剣に考えたことのない教会員がまれにい
ます。教会の目的の一つは、時にはそれ
が猜疑心や疑念という荒地にまかれた
種であるとしても、信仰の種を養い育て
ることです。信仰とはまだ見ていない真
実のことを待ち望むことです。⁷

ですから、愛する兄弟姉妹、愛する友人
の皆さん、自分の信仰について疑いを持
つ前に、その疑いを疑ってみよう心から
お願いします。⁸ 疑念のとりこになって、神
の愛や平安、主イエス・キリストの信仰の
もたらず賜物を遠ざけてしまうことのない
ようにしなければなりません。



グアテマラ、グアテマラシティ

このように言う人がいるかもしれませ
ん。「わたしはどうしても教会の人たちに
溶け込めません。」

もしあなたがわたしたちの心をのぞき
込むことができるとすれば、恐らく、意外
に溶け込みやすいことが分かると思いま
す。あなたと同じようにわたしたちもあ
がれを持ち、もがき苦しみ、希望を抱い
ていることを知って驚くことでしょう。あ
なたの生い立ちや受けた教育は多くの末
日聖徒のそれと異なるかもしれません。し
かしそれが祝福となることがあります。
兄弟姉妹、そして愛する友人の皆さん、
わたしたちはあなたにしかない才能と物
の見方を必要としています。世界中に様
々な個人とグループを持っていることが
この教会の強さなのです。

「わたしはあなたがたの標準を守れる
とは思えない」と言う人がいるかもしれ
ません。

だからこそ来ていただきたいのです。
教会は不完全な人、悩み苦しんでいる人、
疲れ果てている人を強めるためにありま
す。戒めをすべて守ることがまだできな
くても、守りたいと心から望んでいる人
が大勢います。

「わたしは言行の一致しない教会員を
知っていますよ。あのような人のいる教
会に入りたいとは思いません」と言う人

がいるかもしれません。

もしあなたが言行不一致を自分の信じ
ていることに完全に従っていないという
意味でおっしゃっているなら、わたした
ちは皆言行が一致していません。わたした
ちが本来あるべき姿と考えているキリス
トのような人物になり得ている人はいま
せん。けれども、わたしたちは欠点や罪を
犯してしまう性癖を克服し、イエス・キ
リストの贖いの助けによってより善い人物
になることを心から願っています。

もしあなたがこれらのことを望んでい
るなら、どのような環境に置かれている
か、どのような人生を送ってきたか、また
証が強いかわ弱いかにかかわらず、教会
にはあなたの居場所があります。ともに集
みましょう。

ともに集みましょう

わたしたちは人間として不完全ですが、
それでもあなたはこの教会の会員の中に
世界中でもえり抜きの人物をたくさん見
つけられるはずですよ。イエス・キリス
トの教会は親切な人や思いやりのある人、正直な
人や勤勉な人を引き寄せるようです。

教会で完全な人を見つけようとする
と、失望を味わうことでしょう。けれど
も、キリストの純粋な福音、「傷ついた心
を癒す」⁹ 神の御言葉、聖霊の聖めの力を

求めるのであれば、それらを見いだすこと
でしょう。信仰心が薄れていくこの時代に、
非常に多くの人が神の愛との隔たりを
感じているこの時代に、神とあなたのような
隣人に仕えることによって、救い主を知り
救い主に近づこうとしている人々を教会
の中に見いだすことでしょう。ともに集い
ましょう。

あなたがたも去ろうとするのか

救い主の生涯の中で多くの人が主を見
捨てたときのことを思い出します。¹⁰ イエ
スは十二弟子に尋ねました。

「『あなたがたも去ろうとするのか。』

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたした
ちは、だれのところに行きましょう。永遠の
命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。』¹¹

わたしたちは同じ質問を問いかねな
ければならないときがあります。わたしたち
も去ろうとするのですか。それとも、ペテ
ロのように永遠の命の言葉にしっかりと
つかまっていますか。

もしあなたが真理や意義深いこと、信
仰を行いに表す方法を探しているのであ
れば、もし身を寄せる場所を見つけようと
しているのであれば、ともに集いましょう。

かつては受け入れていた信仰から離れ
ているならば、また戻って来てください。
ともに集いましょう。

あきらめようとする誘惑に駆られている
のであれば、もう少しだけとどまってくだ
さい。ここにはあなたの居場所があります。

この話に耳を傾けている、あるいは読
んでいるすべての人をお願いします。とも
に集いましょう。柔和なキリストの呼びか
けに聞き従いましょう。自分の十字架を
負って、主に従いましょう。¹²

ともに集いましょう。金銭に代えられな
い貴いものがここにあるからです。

永遠の命の言葉と平安の道、祝福され
た贖いの約束、平安と幸福への道がこの
教会にあることを証します。

真理を探し求めることによって、とも
に集う望みを持つことができるように心から
願っています。イエス・キリストの聖なる
御名により、アーメン。■

注

1. マタイ 16：18 - 19；ヒラマン 10：7 参照
2. 教義と聖約 84：20 参照
3. 2ニーファイ 33：10 参照
4. 「今日われ善きことせしむ」『賛美歌』137 番
参照
5. 信仰簡条 1：11 参照
6. 『モルモン書』のタイトルページ；モルモン 8：
17 参照
7. ヘブル 11：1；アルマ 32：21 参照
8. F・F・ボズワース, *Christ the Healer*
(1924年), 23 参照
9. モルモン書ヤコブ 2：8
10. ヨハネ 6：66 参照
11. ヨハネ 6：67 - 68
12. マタイ 16：24 参照





大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長による提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちはジョン・B・デイクソン長老、ポール・E・コーリカー長老、F・マイケル・ワトソン長老を七十人第一定員会会員から解任するよう提議します。

わたしたちはケント・D・ワトソン長老を七十人第二定員会会員から解任するよう提議します。

同様にわたしたちは、地域七十人としての奉仕から解任となったセザール・H・フッカー長老とクレグ・T・ライト長老

の働きに対して感謝の意をお伝えします。これらの兄弟たちの卓越した働きに対して、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちは次の方々を新しい地域七十人として支持するよう提議します。フリオ・A・アングロ、ピーター・F・エバンズ、ジェナデー・N・ポドポドプ。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、中央若い男性会長会第二顧問としてランドール・L・リッドを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と変わらぬ信仰と献身、そしてわたしたちのための祈りに感謝します。■





十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

霊的な守りを 受けるための鍵

聖文を読み、その中で教えられている守りと贖いの約束の扉を開ける人は皆、心に平安を得ることでしょう。

先日、わたしは神殿で若い夫婦の結び固めを執り行いました。この夫婦はふさわしさを保ってこのすばらしい日を迎えました。この日、息子あるいは娘として子供時代を過ごした家を離れ、夫婦になったのです。二人は清く汚れない状態でこの神聖な機会に臨みました。時がたてば、天の御父がお定めになった規範に従って、自分たちの子供を育てることになるでしょう。この夫婦と子孫が幸福になれるかどうかは、救い主がお定めになって主の聖文に説明されている標準に従って生活するかどうかにかかっているのです。

今日の親たちは子供を育てるうえで安全な場所などあるだろうかといぶかしく思っています。安全な場所はあります。それは福音を中心とした家庭です。この教会では家族に重点を置いており、義にかなって子供を育てるよう親である皆さんに勧めています。

使徒パウロはこのように預言し、警告しました。「終りの時には、苦難の時代が来る。

その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、

神聖を汚す者、

無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、

裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快樂を愛する者、

信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。」¹

また、パウロはこのように預言しました。「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。」²

これらの聖句は、どのような行動様式を避けるべきかを示す警告です。わたしたちは常に用心し、熱心に努力しなければなりません。以上の預言を一つ一つ読み直し、今日の世の中に当てはまる重大な問題として注意を向けるようにしましょう。

苦難の時代——これは現代を指します。わたしたちは非常に危険な時代に生きています。

金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者——そのような人は、周囲にも、わたしたちの中にもいます。

神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者——このような人もよく見受けま

融和しない者、そしめる者など——すべて

周囲に大勢いると言える確証があります。モロナイもまた、現代の悪について語り、こう警告しました。

「これらのものがあなたがたの中にかかるのを見るときに、自分たちがひどい状態にいるという意識に目覚める……。

そこでわたしモロナイは、これらのことを書き記すように命じられている。このことによって、悪がなくなるようにするためであり、またサタンが人の子らの心を支配する力を持つことなく、彼らが絶えず善を行うように促されてあらゆる義の源に来て、救われる時が来るようにするためである。」³

現代について述べたパウロとモロナイの言葉はあまりにも正確なので、無視することはできません。多くの人は非常に心配し、落胆させます。それにもかかわらず、わたしは将来について考えるとき、前向きで楽観的な気持ちに満たされます。

パウロの啓示の中には、困難な問題が並べ立てられています。同時にわたしたちが自分を守るためにできることも述べられています。

「あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、

また幼い時から、聖書（訳注——「聖文」の意）に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。」⁴

聖文は霊的な守りを受けるための鍵を教えています。すなわち、神の子供一人一人に救い主、贖い主であるイエス・キリストへの証をもたらす教義や律法、儀式が書かれています。

長年にわたる準備を経て、脚注や参照聖句の付いた聖典をあらゆる言語で出版するために多大な努力が払われてきました。聖文を学びたいと思うすべての人が入手できるように願っています。聖文はわたしたちに、どこへ行き、何をすべきかを教えてくれます。また、希望と知識を与



えてくれます。

何年も前、七十人のS・ディルワース・ヤング長老から、聖文を読むことについて教訓を学びました。あるステークが、会員たちの間に広がった不安と問題の解消に悪戦苦闘しており、助言を与える必要がありました。

わたしはヤング会長に尋ねました。「何と言えばよいでしょうか。」

会長はただこう答えました。「聖文を読むように言ってください。」

わたしは聞きました。「どの聖文ですか。」

会長は言いました。「どれでもかまいません。例えば、モルモン書を開いて、読み始めるように言ってください。間もなく平安な気持ちと靈感が訪れ、おのずと事態は解決へと向かうでしょう。」

聖文を読むことを日常生活の一部にしてください。そうすれば、祝福が与えられるでしょう。聖文の中には警告の声もありますが、力強い励ましもあります。

最初のうち、聖文の言葉遣いがなじみの薄いものに思われるとしても、読み続けてください。そのうち聖文は美しく力強いものであると感じるようになるでしょう。

パウロはこう述べています。「聖書（訳注——「聖文」の意）は、すべて神の靈感

を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」⁵

この約束を自分で試してみるとよいでしょう。

わたしたちは危険な時代に生きています。しかしながら、自分と家族のために希望と平安を見いだすことができます。悲しみに暮れ、この世の力により子供を奪われ、そこから救い出す可能性に絶望している人がいたら、決してあきらめてはなりません。「恐れることはない。ただ信じなさい。」⁶ 義は悪よりも強いのです。

幼いうちから聖文を理解するように教えられた子供は、歩むべき道を知るようになり、その道から外れない傾向がますます強いです。たとえ道を外れても、戻る力を与えられ、助けを受けて、帰る道を見いだすことができます。

モーサヤの息子たちは一時期、教会に背きましたが、後に悔い改めて、劇的な変化を遂げました。アルマ書にはこうあります。「モーサヤのこの息子たちは……正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。」⁷

ジョセフ・F・スミス大管長は父親のハイラムがカーセージの監獄で殺されたとき、6歳でした。後に、ジョセフは残された母親と一緒に大平原を渡りました。

15歳のとき、ハワイへ伝道に召されました。自信をなくし、孤独感に襲われた彼はこう言っています。「重荷に押しつぶされそうでした。……貧しく、知性も知識もない、ただの少年にすぎない自分を惨めに感じました。〔だれの〕顔もまともに見られない状態でした。」

ある晩、自分が置かれた困難な状況について思い巡らしていると、若いジョセフは夢を見ました。夢の中で彼は旅をしていて、できるだけ速く歩いていました。小さな包みを抱えていました。やがて目的地の立派な邸宅に着きました。近づくと、「浴室」と書かれた表示があります。急いで中へ入り、体を洗いました。持っていた小さな包みを開けると、清潔な白い服が入っていました。「長いこと見たことなかったものだ」と言ってその服を着ると、邸宅の扉へ急いで向かいました。

ジョセフはこう述べています。「ノックすると、扉が開きました。そこに立っていたのは預言者ジョセフ・スミスでした。彼は少し非難するようにわたしを見ると、



パナマ、パナマシティー

開口一番こう言いました。『ジョセフ、遅かったね。』でもわたしは自信をもって言いました。

『はい、でもわたしは清く、汚れがありません。』⁸

このことはわたしたち一人一人にも当てはまります。

もしあなたが信仰の道を歩み、教会に活発なら、その道をそれずに歩み、聖約を守ってください。そして、主の祝福があなたのものとなり、聖霊の力が生活に大きな影響を与えるようになるまで、前進を続けてください。

もしあなたが現在、聖文に示されている道から外れているなら、必ず戻る道があります。

イエス・キリストは、わたしたちが悔い改めて生活の中に癒しを見いだすために、非常に分かりやすい方法を示してくださいました。個人の祈りを通して救しを求めることにより、たいていの過ちを正すことができるのです。しかし、特定の霊の病、特に道徳的な律法を犯した場合には、霊の病を癒す資格のある医者への助けと治療がどうしても必要です。

数年前、ある若い女性と高齢の父親がわたしの執務室にやって来ました。父親が感じてきた罪悪感からの救いを求めて、数百キロも遠くから一緒に来たのです。父親は若いころに重大な過ちを犯し、年を取るにつれてその記憶がよみがえってき

ました。罪悪感をぬぐい去ることができませんでした。昔に戻って若いころの問題を自分だけで取り消すことはできなかったのです。しかし、今いる場所から出発し、助けを受けて、長年にわたり抱えてきた罪悪感を消し去ることができました。

とても喜ばしいことに、わたしがモルモン書から原則を教えると、彼はあたかも大きな重荷を肩から下ろしたようでした。娘さんと一緒に遠距離の帰路に就くとき、その高齢の男性は過去の罪に対する罪悪感から解き放たれていました。

もし皆さんが「自分たちがひどい状態ににいるという意識に目覚める」⁹ならば、そして霊的な健全さを取り戻したいと望むなら、ビショップと面接してください。彼は鍵を持っており、悔い改めの道に沿って助けることができます。

悔い改めは個人的に取り組むものであり、救しも個人に与えられます。主がお求めになるのは、ただ罪から離れることです。そうすれば、「[主は]彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」のです。¹⁰

悔い改めの過程を終えると、贖罪に関するイザヤの約束の意味が分かるようになります。「さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」¹¹

黒板にチョークで書いた文字を消すこ

とができるように、真心から悔い改めるならば、イエス・キリストの贖罪を通して、背きの結果を消し去ることができるのです。この約束はどのような状況にも当てはまります。

福音はわたしたちに、幸せになり、恐れではなく信仰を抱き、希望を見いだして絶望を乗り越え、闇を離れて永遠の福音の光に向かって進むように教えています。

パウロやほかの預言者は、現代および将来の試練について警告しています。しかし、聖文を読み、その中で教えられている守りと贖いの約束の扉を開ける人は皆、心に平安を得ることでしょう。救い主イエス・キリストに心を向け、旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠に記された主の教えを学ぼう、すべての人に勧めます。

わたしたちが霊的な守りを受けようとして、聖文が重要な鍵であることをはっきりと証します。また、イエス・キリストの贖罪が持つ癒しの力について証するとともに、「すべての者が、彼によって救われる」¹²こと、確かに救われることを証します。主の教会が再び地上に設立されました。福音が真実であることを証します。わたしは主の証人です。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 2テモテ 3:1-5
2. 2テモテ 3:13
3. エテル 8:24, 26
4. 2テモテ 3:14-15
5. 2テモテ 3:16
6. マルコ 5:36
7. アルマ 17:2
8. ジョセフ・F・スミス, Gospel Doctrine, 第5版 (1939年), 542
9. エテル 8:24
10. エレミヤ 31:34
11. イザヤ 1:18
12. 教義と聖約 76:42



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

道徳に及ぼす 女性の力

皆さんは直観的に善いことを行い、良い人になろうとしています。
皆さんが聖なる御霊に従うとき、道徳の力と影響力は増します。

有史のはるか以前から、社会は道徳のあり方を女性の力に依存してきました。女性が支える道徳の基盤は、社会において前向きな影響を及ぼしてきただけではありません。広く社会全体にとって何より有益であることを立証してきました。恐らく、それがあまりにも浸透しているために、女性が貢献してきたことが十分に評価されてはいません。わたしは善良な女性の影響力に感謝をお伝えしたいと思いますし、女性の強さや立場を脅かす考え方や傾向を幾つか指摘して、女性の心の中に存在する、生まれながらの道徳の力をさらに養うようにお願いしたいと思います。

女性はある美德を持ってこの世に生まれて来ます。その神聖な賜物によって、女性は信仰、勇気、共感、優雅さといった特質を、人間関係にも文化にも少しずつ注ぎ込むことに熟達しています。テモテを「偽りのない信仰」を持っていると褒めたパウロは、その信仰が「まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケに宿ったものであ[る]」と記しています。¹

何年前か前、メキシコに住んでいたころ、わたしはパウロが言ったことの意味を実感する機会がありました。ある若い母親

のことを思い出します。メキシコに住む教会の姉妹たちの多くは、本人も気づいていないのではないかと思うほどとても自然に、神を信じる信仰によって生活に恵みをもたらしています。その若い母親もそんな女性の一人でした。この美しい女性は、善良さから醸し出される道徳の力を輝かせていて、そのため周りは皆感化され、善いことをしようとしました。夫とともに、より大切なもののために、数多くの楽しみや持ち物を、見たところためらうことなく犠牲にしてみました。人を高めたり、柔軟に対応したり、子育てとバランスを取ったりするという偉業を成し遂げる彼女の能力は、まさに超人的でした。求められることは無数にあり、繰り返し単純な作業を行わなければならないことがしばしばでしたが、心にはいつもすばらしい平安がありました。神の業に携わっているという思いがありました。救い主と同様、奉仕と犠牲によって人に祝福をもたらすことが、彼女を気高い存在にしていたのです。その女性にはまさに愛の化身でした。

わたしは女性の及ぼす道徳上の影響力によって大いに祝福を受けてきています。特に母と妻からはそれが言えます。ほかにも感謝の思いをもって振り返る女性はた

くさんいますが、中でもアンナ・デインズという人がそうです。アンナは夫のヘンリーと4人の子供とともに、アメリカ合衆国ニュージャージー州の教会の開拓者に数えられています。1930年代の初めにヘンリーがラトガーズ大学の博士課程の学生であったころ、彼はアンナと一緒に、自分たちの住むメタツチェンの学校や市民の組織のために精力的に働いていました。モルモンに対する根強い反感を克服し、子育てに励むあらゆる親のために地域社会をより良い場所にしようとしたのです。

例えばアンナはメタツチェンのYMCAでボランティアをしていて、組織にとっては欠かせない存在となっていました。1年もしないうちに母親の組織から会長に指名され、「さらにYMCAの理事会で女性が就任する3つの役職のうちの1つに立候補するよう要請を受けました。彼女は反対もなく当選しました。こうして、ほんの数年前まで末日聖徒がその建物に集まることも拒否していた、まさにその理事会の一員となったのです。」²

わたしの家族は、わたしがまだ10代のころ、ニューブランズウィックワードの地域へ引越しました。デインズ姉妹はわたしに関心を寄せてくれ、わたしの能力や可能性を信じている、と度々言ってくれました。そのためにわたしは、彼女の励ましがなければ決してできなかったような高い目標に到達することができたのです。かつて彼女から思慮深い、時宜にかなった警告を受けたために、後々後悔するような事態を避けられたということもあります。彼女はもうこの世にはいませんが、アンナ・デインズの影響力は今なお、彼女の子孫の生活の中で感じられ、影響を及ぼし続けています。それはそのほか無数の人の生活でも、わたし自身の生活でもまったく同じです。

わたしの祖母のアデナ・ウォーニック・スウェンセンも、わたしに誠実に神権の奉仕をするようにと教えてくれた人です。聖餐のパンと水の祝福の言葉を暗記するよ



うわたしを励まし、また、どのように言ったら理解も思いも込められるか、説明してくれました。ステーキの祝福師だった祖父を祖母がどう支えるか見てきたわたしの心には、神聖なものに対する敬意が育まれました。スウェンセンおばあちゃんは最後まで車の運転の仕方は知りませんでした。男の子たちが神権者らしくなれるように助ける方法を知っていたのです。

道徳に及ぼす女性の影響力がどこよりも力強く感じられ、有益に使われるところは、家庭をおいてほかにありません。伝統的な家族以上に次世代を育てる環境としてふさわしいところはありません。ここでは父親と母親が心を一つにして子供を養い、教え、育てています。この理想的な環境が存在しないところでは、人々はそれぞれ状況に合わせて最善を尽くし、その恩恵に浴することができるよう努めています。

どのような状況にあろうとも、母親ならほかのだれにもできない、ほかの人間関係ではできない影響力を発揮することができます。母親の模範や教えの力によって、息子は女性を尊敬するようになり、自分自身の生活にも規律と高い道徳の標準

を取り入れるようになります。娘は美德を養うことを覚え、たとえ賛同者がいなくとも、繰り返し繰り返し、正しいことを貫こうとします。母親が愛を抱き、高い期待を抱いていると、子供も言い訳なしで責任をもって行動し、教育や個人の資質を伸ばすことにまじめに取り組み、周りの皆の福利のために絶え間なく貢献するようになります。かつてニール・A・マックスウェル長老がこう言ったことがあります。「人類の真実の歴史がすべて明らかにされるとき、脚光を浴びるのは砲火の響きでしょうか、それとも子守歌の調べでしょうか。軍人の停戦条約でしょうか、それとも家庭や地域社会で女性たちが作り出す平和でしょうか。議会の出来事よりも、ゆりかごや台所の出来事にいっそうの抑止力があることを知ることでしょう。」³

最も神聖なものは、命の創造に果たす女性の役割です。わたしたちは自分の肉体が神聖な起源を有しており、⁴ 神の日の栄えの王国で最も高い領域に入るためには、肉体の誕生とともに霊の再生も経験しなければならぬことを知っています。⁵ そのため女性は、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」⁶ 神の業と栄光に（時には

自身の命を危険にさらしながらも）欠かすことのできない役割を果たします。祖母として、母として、模範を示す者として、女性は命の源泉の守り手であり続けています。それぞれの世代に性的に清くあることの重要性を教え、結婚前は純潔を守り、結婚したら貞潔を守るようにと教えます。このようにして、女性は社会を啓発する影響力となっています。女性は男性の最も優れた点を引き出してきましたし、しっかりした元気な子供を育てるための健全な環境をずっと絶やさずにいます。

姉妹の皆さん、わたしは皆さんを過度に称賛するつもりはありません。時々、母の日の話では、そういう言葉で姉妹たちの居心地を悪くしているようです。皆さんは完全な人である必要はありませんし、⁷ わたしも皆さんが完全であると言うつもりもありません。（ただちょうど今近くに座っている妻だけは例外かもしれませんが。）つまり、わたしが言いたいことは、皆さんが独身であろうと既婚であろうと、あるいは子供を産んでいてもいなくても、さらに年を取っていようが若かろうがその間であろうが、道徳に及ぼす皆さんの力はきわめて大きなものであり、そして、恐らくわた

したちは皆さんと皆さんの影響力を当然のこのように思い始めているということです。皆さんの影響力を弱めよう、それどころかなくしてしまおうと考える傾向あるいは勢力があることは間違いありません。それによって個人や家族、社会全体が大きな損失を被ろうとしています。注意点として、また警告として、3つ挙げてみましょう。

道徳に及ぼす女性の影響力を揺るがす危険な考え方とは、結婚に重きを置かず、母親の務めや家事に立派なキャリアとしての価値を認めようとしない考え方です。家事はまったくの屈辱であると見なし、母親の務めや家事は女性の名誉を傷つけ、子育ての際限のない負担は搾取の一形態であると主張する人がいます。⁸ そのような人たちは、キャリアとしてのいわゆる「母親コース」をあざ笑います。これは公平なことでも、正しいことでもありません。わたしたちは、いかなる立派な努力やキャリアの中であれ女性や男性が達成することについて、その価値を過小評価するつもりはありません。わたしたちもそうした功績の恩恵を受けています。それでもわたしたちは、結婚した男女の母親の務め、父親の務めに勝るものはないと理解しています。それ以上のキャリアはありませんし、どれだけお金を積み、権威や名声を得ようとも、家族として受ける究極の報い以上のものはないのです。一人の女性がほかにどのようなことを成し遂げようとも、道徳に及ぼす女性の影響力が家庭以上に適切に働く場はありません。

人間の性に対する考え方が、様々な場面で、女性の持つ道徳の力を脅かしています。個人や社会の都合に合わせて墮胎が行えるという考え方は、女性の最も神聖な力の核心部分に大きな衝撃を与え、女性の持つ道徳の力をも破壊します。性的な不道徳という点でも、露出の多い服装という点でも同じことが言えます。そうしたものは女性の品性を落とすだけでなく、性的な魅力にこそ女性の価値がある

とするうそを上塗りしているのです。

長い間文化的な「二重の基準」というものが存在してきました。それによれば、女性には性的に控えめであることを期待しながら、男性の不道徳は大目に見られます。そのような「二重の基準」が不公平であることは明らかですので、批判され、拒否されてきたのは当然のことです。そのように拒否する以上、男性に立ち上がってもっと気高く揺るぎない基準を確立するよう願うのも当然のことでした。しかし、まったく逆のことが起きました。「二重の基準」によって男性に不品行が助長されたように、女性も少女も、同じように不品行が奨励されているのです。かつては女性の高い基準を維持するために、男性の側が決意し責任を引き受けることがどうしても必要でした。しかし今では、道義心もない性的な関係や父親のいない家族が存在し、貧困は深刻さを増しています。女性にも等しく不品行を認めることは、女性の道徳的影響力を奪い、社会全体の品位を引き下げることにはほかなりません。⁹ このむなしい取り決めの中で、「性的に解放された」のは男性であり、最も苦しんでいるのは女性と子供です。

わたしが心配する3番目の分野は、男女平等という名の下に、男性と女性の違いをことごとく消してしまおうとする人々のことです。こうした人々は多くの場合、女性に圧力をかけて、もっと男性的な特徴を身に付けるように求めます。もっと攻撃的で、屈強で、譲らない姿勢を要求します。現在では、映画でもコンピューターゲームでも、女性がひどく暴力的な役を演じることが珍しくありません。女性の振る舞いが人の死や破壊行為を引き起こすのです。そのような役柄の男性を見るのも心痛むことですが、女性が暴力を働き、それに苦しむのを見るのも、同様に心が痛みます。

かつて中央若い女性会長を務めたマーガレット・D・ナドールはこう教えました。「世には強情な女性は十分います。必要

なのは心の優しい女性です。粗暴な女性は十分います。必要なのは思いやりのある女性です。無礼な女性は十分います。必要なのは品のある女性です。名声と財産を手にかけている女性は十分います。必要なのは信仰の篤い女性です。貧欲はもう十分です。もっと慈しみが必要です。うぬぼれももう十分です。もっと徳が必要です。流行ももう十分です。もっと清さが必要です。」¹⁰ 男女の境界があいまいになると、わたしたちは男性と女性が授かる、まったく異なった、互いを補い合う賜物を失うことになります。男女の賜物は一緒になって、より偉大な統一体を作り出すものなのです。

今日、女性や少女の皆さんにわたしが訴えたいことは、皆さんの内にある道徳の力を守り、養ってほしいということです。皆さんがこの世に来るときに一緒に持って来た、徳やかけがえのない賜物を守り通してください。皆さんは直観的に善いことを行い、良い人になろうとしています。皆さんが聖なる御霊に従うと





き、道徳の力と影響力は増します。若い女性に申し上げます。その道徳の力を、まだ今は完全に身に付けていないとしても、決して失わないでください。言葉遣いが清いものであるよう、粗暴な言葉を使わないよう、特に注意してください。着る物が慎み深さを映すものであって、決して虚栄心を映すものでありませんように。行いが汚れのないものであって、決して不品行なものではありませんように。一方の手で悪と戯れていながら、もう一方の手で人を徳高い状態にまで高めることはできないのです。

姉妹の皆さん、皆さんがどのような人たちの中にいようと、皆さんの生活で常に一番に置かなければならないのは、皆さんの道徳の力の源である神、すなわち天の御父との関係です。イエスの力は御父の御心にひたすら思いを向けたことからもたらされたものだということを忘れないでください。イエスは、御父を喜ばせたいという望みから決して外れることはありませんでした。¹¹ 御父と御子にとってそのような弟子となれるよう努めましょう。そうすれば、皆さんの影響力が衰えることは決してないのです。

そして、その影響力を行使することをためらわないでください。恐れる必要も弁解する必要もありません。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人〔男も女も子供も〕には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」¹² 「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」¹³ 「あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるように……。」¹⁴ 「その子供たちに祈ること、主の前をまっすぐに歩むことも教

えなければならぬ。」¹⁵

これまで女性に勧めをしてきましたが、決して故意に間違った意味に取る人がいないよう願っています。わたしは、女性の中にある道徳の力を称賛し、励ましてきました。でもそれは、男性や少年が、真理と義を守るという彼ら自身の義務を何とか免れると言っているわけではありません。また、奉仕をし、犠牲を払い、教え導くという男性の責任は、女性に託された責任よりも何らかの形で劣っているとか、あるいは女性にゆだねることができると言っているわけでもありません。兄弟の皆さん、女性とともに立ち上がって、彼女たちの重荷をともに担い、わたしたち自身の持つもう一方の道徳の力を養っていきましょう。

愛する姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんが、この世界と、結婚生活、家族、教会にもたらしてくれる道徳の力に信頼を寄せています。皆さんが祈りと信仰によって天から引き出してくれる祝福を信頼しています。皆さんに安心と平安と幸福がありますように、そして皆さんがこれからも影響を与え続けることができますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

- 2テモテ1:5
- オースン・スコット・カード, "Neighborhood: Daines Style" *Ensign* 1977年4月号, 19
- ニール・A・マックスウェル「神に従う女性」『聖徒の道』1978年10月号, 14
- モーセ2:27 参照
- モーセ6:57-60 参照
- モーセ1:39
- 「1世紀前、精神的な結びつきを研究するジョン・ポールビーという学者はある発見をした。愛情に満ちた無数の相互作用によって母と子の間に作り出されるきずなは、社会的情緒的な発達にとって決定的な基盤となるということである。……さらに男女同権主義に立つ学者サラ・ルーディックは、『母親の深い愛』は

効果的な子育ての核になるものであることを指摘した。『忍耐強い愛のまなざし』によって母親は子供について一つの特別な知識を獲得していく。つまりその知識によって、一人一人の子供にとってほんとうに「最も優れた方法」は何か、という独特の見方を培うのである。」(ジェネット・ジェイコブ・エリックソン, "Love, Not Perfection, Root of Good Mothering," *Deseret News*, 2013年5月12日付, G3)

8. 幾世代にもわたって多くの女性が、家庭でも雇用でも、不公平な重荷を負わされて搾取と重労働的になってきたことは事実であるが、無私および犠牲が、虐待あるいは搾取につながる必要はないし、つながるべきでもない。ブルース・C・ハーフェン長老は次のように言っている。「もし『無私』であるということが、女性が内に持つその人らしさや人間的な成長を捨てなければならぬという意味でしたら、無私に関するその理解の仕方は誤っている。……しかし、今日の自由化の波ははるかに逆の方向に行ってしまう。女性がその家族から過度に自立している姿がその典型である。もっと賢明な考え方とは、夫婦が相互に依存し合っていることである。……母親を依存から自立へと扇動してきた批評家たちは、相互依存という豊かな中間地点を飛ばしてしまった。母親を無私から自分本位へと扇動してきた人たちは、自ら選ぶ奉仕という、女性の人間的な成長に貢献するはずの豊かな中間地点を飛ばしてしまった。こうした行きすぎが進んだために、母親の価値というもに相互に関する論議は、皮肉なことに、広く社会において母親の価値を低下させる原因となっただけでなく、女性全体の価値を低下させる原因ともなっている。」("Motherhood and the Moral Influence of Women" [World Congress of Families II での言葉, ジュネーブ, 全体会議 IV, 1999年11月16日] http://worldcongress.org/wcf2_spkrs/wcf2_hafen.htm)
9. ある母親が『ウォールストリートジャーナル』(Wall Street Journal)の社説で次のように言っている。「モルモン、福音派、正統派ユダヤ教徒のわずかの例外を除き、わたしたちの大半は自分の息子娘に自分の肉体を安売りしないよう、どう教えたらよいのか分からずにいる。……それでも、わたし自身の女友達の中では、貞節への回帰願望は強い。自分自身の性に関する過去にわだかまりの残っていない人は一人もいない。事実、その問題について質問してきた女性に、『もう少し体験を積んでおけばよかった』と言った人はただの一人もいなかったのである。」(ジェニファー・モーゼス, "Why Do We Let Them Dress Like That?" *Wall Street Journal*, 2011年3月19日号, C3)
10. マーガレット・D・ナドル「女性であることの喜び」『リアホナ』2001年1月号, 18
11. ヨハネ8:29 参照
12. 1ペテロ3:15
13. 2テモテ4:2
14. 教義と聖約93:40
15. 教義と聖約68:28



七十人
S・ギフォード・ニールセン長老

主の行動計画を速める!

わたしたちは一人一人熱意をもってそれぞれ個人の奉仕の行動計画を練って実行し、専任宣教師と肩を並べて働かねばなりません。

何年前か前、わたしたちのステーキの一人のビショップの奥さんと話す必要があり、家に電話をかけました。若い息子が電話に出たので、わたしは「こんにちは。お母さんはいますか」と尋ねました。

すると、その子はこう答えました。「います。お母さんをお呼びに来ます。どちら様ですか。」

わたしは「ニールセン会長だとお母さんに伝えてください」と答えました。

一瞬の沈黙の後、とても大きな声でこう叫ぶのが聞こえました。「お母さん！ ヒンクレー大管長から電話だよ！」

その姉妹がどのように思ったか、まったく分かりません。電話機までがかつてないほど遠かったことでしょうか。実は、わたしも一瞬大管長になりすまそうかという考えがよぎりました。結局何もありませんでしたが、二人で笑いました。今になって思いますが、きっとわたしの声が聞こえて、彼女はかなりがっかりしたに違いありません。

ほんとうに主の預言者が電話をかけてきたら、皆さんはどうしますか。預言者は実際に呼びかけています。今朝、再び呼びかけたように、トーマス・S・モンソン

大管長はわたしたち一人一人に大切な業を行うよう呼びかけています。「今こそ、会員と宣教師が一致協力して、主のぶどう園で働き、人々を主のみもとに導く時です。」（「救いの業に対する信仰」[世界指導者訓練放送]、2013年6月。lds.org/broadcasts）

わたしたちは耳を傾けてきたでしょうか。

世界各地のステーキ、地方部、伝道部では新たな活気が生じていて、1832年に主がジョセフ・スミスに語られたことが成就しています。「見よ、わたしは、時が来ればわたしの業を速やかに行う。」（教義と聖約 88：73）

兄弟姉妹の皆さん、今がその時です。わたしはそれを感じます。皆さんもきっと感じていると思います。

わたしも胸の高鳴りとイエス・キリストを信じる信仰を行動で表したいと思いました。フットボールをしていたとき、わたしは作戦について考えました。正しいプレーを準備して臨めば、わたしたちのチームは試合に勝てるということに疑いはありませんでした。しかし最近、BYUの伝説のコーチ、ラベル・エドワーズ氏と作戦について話したところ、彼は「タッチダウンにつながれば、どんなプレーだっていいと

思った」と言いました。彼のクォーターバックの一人だったわたしは、そんな単純な話ではないと思いましたが、そのような単純な哲学のおかげで、彼の名前の付いたスタジアムがあるのかもしれない。

わたしたちは皆、主のチームの一員ですが、勝つための作戦を各自が持っているでしょうか。プレーする準備はできているでしょうか。わたしたち会員が、家族や友人、同僚をほんとうに愛しているなら、回復された福音についての自分たちの証を分かち合いたいと思うのではないのでしょうか。

6月に開催された新しい伝道部会長のセミナーでは、新記録となる173名の新任伝道部会長がそれぞれの夫人とともに、任務を始める前の最後の指導を受けました。大管長会と十二使徒定員会の15人全員がこの人々に向けて話しました。

L・トム・ベリー長老はセミナーの最後に次のように話しました。「今の時代は教会の歴史上、最も驚くべき時代です。すなわち、最初の示現やモルモン書が与えられたこと、福音の回復、わたしたちが出て行って天の御父の王国で教えるための基を築くあらゆる事柄のような、過去の偉大な出来事と肩を並べる重要な時代です。」（「最後の話」[新伝道部会長セミナーでの説教、2013年6月26日]、1、教会歴史図書館、ソルトレーク・シティー）

わたしたちは、指導者の熱意と専任宣教師の決意にこたえて、今まで以上に伝道活動に携わる必要があります。わたしたちの働きがなければ、この業は主が意図されるようには進まないのです。ヘンリー・B・アイリング管長が語ったように「年齢や能力、教会での召し、または住んでいる場所に関係なく、わたしたちは主の再臨前の人の刈り入れの業に、皆等しく召されているのです。」（『リアホナ』2013年5月号、62）

わたしが祈り、「わたしの福音を宣べ伝えなさい」の第13章を読み、そして、過去の経験について思い巡らせた後に、実行



したいと強く感じた行動計画を話したい
と思います。皆さんが自分自身の行動計
画を考える際に、次の3つの点を考えるよ
うに勧めます。

第1に、毎日だれかを救い主と救い主
の福音に近づけられるよう、具体的に祈り
ます。これは、周りの人を皆天の家に戻れ
るよう助け合っている神の息子と娘である
と見なせば実行できます。これからできる
新しい友達のことを考えてみてください。

第2に、皆さんの地域で奉仕している
宣教師とその求道者のために、名前を挙
げて祈ります。これを実行する唯一の方
法は、宣教師とあいさつを交わし、名札を
見て、名前と呼び、どのような人々を教
えているか尋ねることです。ラッセル・
M・ネルソン長老は次のように洞察のある
言葉を述べました。「名前と顔を覚えるま
では、主は、皆さんが人の心を知ることが
できるように助けてくださいませぬ。」

わたしは、証を分かち合ってくれたある
すてきな姉妹のバプテスマ会に出席しま
した。彼女の言葉をいつまでも忘れませ
ぬ。「これほどたくさんの人がわたしのた
めに祈ってくれ、こんなにたくさんの愛を
感じたのは初めてです。わたしはこの業
が真実であると分かります。」

3番目に、皆さんの家庭の内外の活動
に友人を誘いましょう。どこに行こうと、
あるいは何をしようと、そのことを楽しみ

そうな人はだれか考え、^{みたま}御霊の導きに耳
を傾けてください。

救い主はわたし個人の福音学習の中
で、「業を速める」ことによく当てはまると
思える鋭い教訓を教えてくださいました。
これは、何かについて気持ちが盛り上がっ
ているときは、わたしは、書く文字にその
気持ちが表れ、感嘆符を最後に付けてい
ます。感嘆符は、定義としては、「強い思い
〔または〕重要な事柄」を伝えるものです
(*Merriam-Webster's Collegiate
Dictionary*, 第11版〔2003年〕, “excla-
mation point”)。

感嘆符が付いているかのように、「集
合」に関する聖句がはっきりと目に飛び込
んできて、わたしは興味を引かれました。
ちょうどアルマの心打つ嘆願の聖句のよ
うにです。「おお、わたしが天使であって、
わたしの心の願いを遂げることができれ
ばよいものを。わたしの心の願いとは、出
て行って、神のラッパのように地を震わせ
る声で語り、すべての民に悔い改めを叫
ぶことである。」(アルマ 29:1)

調べてみたところ、次の聖句を含めて、
このような宣教師の強い思いが表れてい
る聖句が65ありました。

「人が悔い改めるとき、主の喜びはいか
に大きいことか。……

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶ
ことに生涯力を尽くし、一人でもわたしの

もとに導くならば、わたしの父の王国で彼
とともに受けるあなたがたの喜びはいか
に大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導い
てわたしの父の王国に入れるようにした、
一人の人とともに受けるあなたがたの喜び
が大きいならば、もし多くの人をわたしの
もとに導くとすればその喜びはいかに大
きいことか。」(教義と聖約 18:13, 15-16)

これらの特別な聖句に気づいたことは、
地域七十人としての最初の割り当てにお
いて重要な役割を果たしました。使徒の
クエンティン・L・クック長老に同行した
わたしは少々緊張していました。その週
末の最初の集会のためステーキ会長室に
入ったとき、机の後ろのサイドボードに、
青銅メッキを施した、ぼろぼろになった靴
が飾ってあるのに気がつきました。靴に
は文末に感嘆符の付いた聖句が添えられ
ていました。その聖句を読んだとき、主は
わたしが学んできたことを御存じであり、
祈りにこたえてくださり、そして、不安に満
ちた心を落ち着かせるためにわたしに何
が必要かをはっきりと御存じであることを
感じました。

わたしはステーキ会長にその靴にまつ
わる話を聞かせてほしいと頼みました。

彼はこのように述べました。

「この靴は、教会に改宗した青年のもの
です。家族は貧しかったのですが、彼は



七十人
アルナルフォ・バレンスエラ長老

伝道を立派に果たそうと決意し、グアテマラで奉仕しました。彼が帰還した際、わたしは名誉の解任をするために彼と会いました。そのときに、彼の靴がぼろぼろになっていることに気づきました。青年は、家族の支援がほとんどない中で、すべてを主にささげたのです。

彼はわたしが靴を見ていることに気づき、『会長、何か問題ですか』と聞きました。

わたしはこう答えました。『いいえ。長老、何も問題ないですよ！ その靴を頂けませんか。』』

ステーキ会長は続けてこう言いました。「この帰還する宣教師に対してあふれんばかりの尊敬と愛を感じました。その経験をいつまでも記憶にとどめたいと思ったので、彼の靴を青銅で塗装しました。この部屋に入るときに、わたしにとって、この靴は、置かれた状況にかかわらずわたしたち全員が行わなければならない努力を思い起こさせるものです。添えてある聖句はイザヤの聖句です。『よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって「あなたの神は王となられた」と言う者の足は山の上であって、なんと麗しいことだろう。』』（イザヤ 52:7）

兄弟姉妹の皆さん、あのビショップの奥さんは、預言者がなぜ電話をしてきたか不思議に思ったかもしれません。彼女も、わたしたちも、もはや不思議に思う必要はないと、感嘆符を付けて申し上げます。

わたしたちが熱意をもってそれぞれ個人の試合戦略を練って実行し、専任宣教師と肩を並べて働かねばならないことをわたしは知っています！

わたしの証を預言者ジョセフ・スミスの証に付け加えます。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』」（教義と聖約 76:22）イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

小さな、簡単なこと

信仰と愛をもって人々に手を差し伸べましょう。

愛する兄弟姉妹、ほんの2、3週間前、わたしは宣教師にメッセージを伝えるためメキシコシティの宣教師訓練センターにいました。妻とわたしは、ある目的のために数時間早く到着しました。訓練センターの美しい庭やよく手入れされた通りを見て回っていると、数百人いる長老と姉妹たちの顔が幸せに輝いていることにすぐ気づきました。それぞれが新しい言葉を習得し、宣教師としての目的をさらに理解することに集中していました。

わたしはこのすばらしい光景をもっとよく見ようと足を止めながら、アルマが息子ヒラマンに命じた言葉に思いをはせました。アルマは、自分に託されていた記録の一部となる民の歴史を記録し、神聖に保つようとヒラマンに命じたのです。いつの日か、あらゆる国民、部族、国語の民、民族にこれらの記録がもたらされるようにするためです。

アルマは言いました。

「記録を保存するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。そして、小さな手段が度々知者を辱める。

主なる神は偉大な永遠の目的を達するために、様々な手段によって事を行われる。また、ごく小さな手段によって、主は

知者を辱め、また多くの人を救われる。」（アルマ 37:6-7）

純真で若い宣教師を見ると、主の方法がよく分かります。つまり、それは、謙遜な者が「人々にキリストの〔み〕もとへ来るように勧める〔という方法〕です。そのために……イエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』1）

教会員としてわたしたちは、自身の小さな、簡単なことを通して、「多くの人に彼らの行いが誤っていることを納得させ、神について知らせて彼らが救われるように」助けることができます（アルマ 37:8）。

ステーキ会長とビショップとともに、一人の教会に来ていない会員を訪問したときのことで。わたしたちは彼に、非常に簡単な方法で安息日の祝福について教え、わたしたちの心からの愛を伝えました。彼は答えました。「わたしに必要だったのはただ、だれかに来て、『アブラーソウ』、つまり抱き締めてもらったのです。」わたしはすぐに立ち上がり、彼を抱き締めました。次の日は日曜日でした。その兄弟は家族全員で聖餐会に来てくれました。

わたしたちのワードの会員、マーサは、



家庭訪問中にわたしの妻と同僚にもう来ないように言いました。教会に来るのをやめる決心をしていたのです。訪問教師の一人がマーサに、これが最後となるので賛美歌を一緒に歌ってもよいかと聞き、彼女は同意しました。3人で歌っているときに特別なことが起きました。少しずつ、御霊が部屋を満たし始めたのです。全員がそれを感じました。マーサの心は和らぎ始めました。涙を目にいっぱいため、彼女は訪問教師に心の奥底の思いを伝えました。そのとき、自分が、福音が真実であることを知っていると感じたのです。すると今度は、訪問教師に感謝し、また来てほしいと言いました。その日以来、彼女は訪問教師を喜んで迎えています。

やがてマーサは、下の娘と教会に集うようになりました。それ以降長年にわたって毎週出席し、いつかは夫が教会員にな

る選択をするという希望を決して失いませんでした。そして、とうとうその日が来たのです。主が彼の心に触れ、彼は二人とともに出席し始めました。その後間もなく、もう一人の娘も来るようになりました。この家族は、家庭に福音の祝福があることでもたらされる真の喜びを感じるようになったのです。その後マーサは、わたしたちのワードの扶助協会会長として忠実に奉仕し、夫もステーキの幾つかの召しでよく奉仕しました。これはすべて、賛美歌を歌ったことがきっかけでした。マーサの心の琴線に触れたのは、賛美歌を歌うという小さな、簡単なことだったのです。

スリヤ王の軍勢の長ナアマンは、有力で、武勇に秀でた人でしたが、重い皮膚病を患っていました。(列王下5:1参照)イスラエル王から治療を受けようとしてもうまくいかなかったため、ナアマンは預言者

エリシャの家に行きました。エリシャは使者を遣わして言いました。

『『ヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとかえって清くなるでしょう。』

しかしナアマンは怒って去り、そして言った、『わたしは、彼がきくとわたしのもたに出てきて立ち、その神、主の名を呼んで、その箇所の上に手を動かして、重い皮膚病をいやすのだろうと思った。』

その時、しもべたちは彼に近よって言った、『わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに「身を洗って清くなれ」と言うだけではありませんか。』

そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとかえって幼な子の肉の

ようになり、清くなった。」(列王下 5:10 - 11, 13 - 14)

わたしたちの預言者トーマス・S・モンソン大管長は、わたしたちに、出て行って、兄弟姉妹を救い出すよう勧めました。「この世は皆さんの助けを必要としています。足もとを支え、手をしっかり握り、精神を励まし、心に靈感を与え、人を救わなければなりません。永遠の祝福が待っています。」(「救助に向かう」『リアホナ』2001年7月号, 57)

助けを必要としている大勢の人たちがわたしたちを待っていることを証します。彼らは、信仰深い兄弟姉妹が手を差し伸べ、小さな、簡単な方法で救い出してくれるのを待っているのです。わたしは多くの時間をかけて、教会に来ていない会員たちを訪問してきましたが、彼らの心はすでに主によって和らげられ、わたしたちの証と心からの愛を受け入れる用意ができていました。わたしたちが手を差し伸べて招くならば、彼らはためらうことなく教会に戻って来ることでしよう。

信仰と愛をもって人々に手を差し伸べましょう。主の約束を忘れないようにしましょう。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約 18:15 - 16)

主がすべての神の子供たちを愛しておられることを証します。主が生きておられ、わたしたちの贖い主であられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
ティモシー・J・ダイクス長老

なおりたいのか

悔い改め、主に改心するとき、わたしたちは癒され、罪がぬぐい去られます。

救い主はエルサレムでの喜ばしい祭りのとき、集まった大勢の人を後にして、最も助けを必要としている人々を探し出されました。主が行かれた羊市場の隣にあるベテスダと呼ばれる池には5つの廊があり、病気で悩んでいる人が集まるので有名でした。

ヨハネの福音書にはこうあります。池の近くには「病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。〔彼らは水の動くのを待っていたのである。

それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。〕」(ヨハネ 5:3 - 4)

カール・ブロッホ作の美しい絵画「ベテスダの池」には救い主がそこを訪れた様子が描かれています。ブロッホは、イエスがにわか作りの天蓋を優しく持ち上げられ、池の近くに横たわって水が動くのを待っている「病人」が見えた場面をとらえています(ヨハネ 5:7)。この病人に当たる言葉は、無力な人という意味で、救い主の憐れみと恵みを強調しています。なぜなら主は、自分ではどうすることもできない人々を助けるために、ひそかにおいでになったからです。

絵には38年間に病に苦しみ、疲れ果て、意気消沈し、暗い床にうずくまる病人が描

かれています。

救い主は片手で布の端を揚げ、もう一方の手で手招きをして、鋭い質問をされます。「なおりたいのか。」

病人は答えて言います。「主よ、水が動く時に、わたしを池の中に入れてくれる人がいません。わたしがはいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです。」(ヨハネ 5:6 - 7)

この人の不可能と思えるチャレンジに対して、イエスは意味深く、思いも寄らない答えをお与えになります。

「『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい。』

すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。」(ヨハネ 5:8 - 9)

別の心打たれる場面で、ルカは、救い主がエルサレムに向かう途中、皮膚病にかかった10人の人に出会われたことを記しています。病気のため、彼らは遠くの方で「立ちとどま[って]」いました(ルカ 17:12)。汚れた者、好ましくない者として見捨てられた人々でした。

彼らは「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と呼びました(ルカ 17:13)。つまり、「わたしたちのために何かしていただけることはありませんか」と懇願したのです。

憐れみに満ちた偉大な医者であっても、奇跡の前には信仰が必要なことを御存じだった主は、彼らに「祭司たちのとこ



ろに行って、からだを見せなさい」と言われました(ルカ 17:14)。

彼らが信仰をもって進むと奇跡が起きました。一歩進むごとに即時に体が清められ、癒され、回復していくのを目にした彼らの計り知れない喜びを想像できるでしょうか。

「そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。……

それから、[イエスは]その人に言われた、『立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。』(ルカ 17:15 - 16, 19)

医者であり外科医であった間、わたしは肉体の回復と治療を中心として働きました。イエス・キリストは肉体と心、そして霊を癒されます。主の癒しは信仰から始まるのです。

皆さんは自分が喜びと信仰に満ちあふれていたときのことを覚えていますか。証^{あかし}を得た瞬間や、あなたが神の息子あるいは娘であって、御父があなたをととも愛しておられるという確信を御父が与えてくださったときのことを覚えていますか。そして癒されたと感じたときのことを覚えていますか。そのときのことを忘れてしまったと思っても、もう一度思い出すことができます。

救い主は、癒される、完全になる、または治る方法についてこう教えておられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28 - 30)

「わたしに従ってきなさい」という主の言葉は、古い生活と現世の欲を捨てて、新たな者となるように呼びかけています(ルカ 18:22)。そうすれば「古いものは過ぎ去[り]……すべてが新しくな[り]」、忠実な新しい心さえも与えられます。そしてわたしたちは癒されるのです(2コリント 5:17)。

「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約 88:63)

主に近づくとき、この世は初めから困難なものであって、「すべての事物には反対のものが[ある]」のは救いの計画の欠陥ではないと気づくようになります(2ニーファイ 2:11)。敵対するものはむしろ、死すべき状態に不可欠な要素であり、わたしたちの意志を強いものとし、より善い選択を促します。人生の浮き沈みでさえ、わたしたちが神との永遠の関係を作り上

げるうえで助けとなります。また、自分の思いを神にゆだねるとき、顔に神の面影を刻まれるようになるのです(アルマ 5:19 参照)。

救い主は聖餐^{せいさん}を執り行うときに、「わたしを記念するため、このように行いなさい」と命じられました(ルカ 22:19)。パンと水によるこの儀式は、わたしたちが神と交わした神聖な聖約を新たにし、生活の中に贖罪^{しゅくざい}の力をもたらしめます。わたしたちは、心をかたくなにさせる習慣や生活習慣を捨て去るときに癒されます。「謀反に使う武器」を捨てるとき(アルマ 23:7)、わたしたちが「自ら選択し行動する者」となり(教義と聖約 58:28)、二度とサタン^{きん}の詭弁^{べん}に踊らされることも、この世の不協和音に惑わされることもなくなります。

悔い改め、主に改心するとき、わたしたちは癒され、罪がぬぐい去られます。わたしたちはエノスと同じように「主よ、それはどうしてですか」と問うかもしれません。主は答えて言われます。「あなたが……キリストを信じているからである。……それゆえ、行きなさい。あなたの信仰があなたを罪のない者としたのである。」(エノス 1:7, 8)

オランダ人で敬虔^{けいけん}なクリスチャンのコーリー・テンブームは、第二次世界大戦中、強制収容所に収監された経験があったにもかかわらず、そのような癒しを見いだしました。大きな苦しみを経験し、愛する姉のベッツィーは収容所の一つで亡くなりましたが、コーリーは生き延びました。

戦後彼女は、自分の体験と癒しと救しについて頻繁に講演を行いました。あるとき、ドイツのラーフェンスブルク収容所におけるコリー自身の耐え難い幽閉生活にかかわったナチスの元看守がやって来ました。キリストの救しと愛について語った彼女のメッセージを聞き、喜んだ彼は彼女のところに来ました。

『「メッセージにとっても感謝しています」と彼は言いました。『あなたが言われたように、主がわたしの罪を洗い清めてくださったとは!』

彼は握手しようとわたしに手を伸ばしました」と、コリーは思い出します。「でも、あれほど何度も……救しの必要性を説き勧めてきたわたしなのに、その手は下がったままでした。

体の中に怒りと復讐心が煮えたぎっていたそのときですら、わたしはそれが罪だと知っていました。主イエスよ、とわたしは祈りました。どうぞわたしをお救しください。そして、この人を救せるようにお助けください。

わたしはほほえもうとし、必死で手を上げようとしたが、無理でした。わたしは何も、ほんの少しの温かさも慈愛も感じませんでした。そこでもう一度、心の中で祈りました。イエスよ、わたしには彼を救すことができません。わたしにあなた様の救しをお与えください。

彼の手を取ったとき、ほんとうに信じられないことが起こりました。わたしの肩から腕、そして手まで電流が走り、わたしから彼に伝わっていったように感じました。一方、心の中にはこの見知らぬ人への愛がわき上がり、圧倒されそうになりました。

こうしてわたしは、この世の癒しを可能にするのはわたしたちの救しでも善良さでもなく、主の救しと善良さであることを知りました。主がわたしたちに敵を愛せよとおっしゃるとき、主はその戒めだけでなく、愛そのものも与えてくださるのです。』¹

コリー・テンブームは癒されたのです。

トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「苦難と悲しみに満ちた人々を支えている一つの模範があります。主イエス・キリストです。』²

もし自分は汚れている、愛されていない、不幸だ、ふさわしくない、癒されていないと感じるなら、「人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖いによって正される」³ことを思い出してください。救い主の時間と、あなたのために用意された目的に信仰と忍耐を持ってください。「恐れることはない。ただ信じなさい。」(マルコ 5:36)

救い主がわたしたちの魂を回復し、心を癒そうとしてみてください。主は扉のそばで待ち、たたいておられます。再び祈り、悔い改め、救し、そして忘れることで主にこたえましょう。神を愛し、隣人に仕え、清められて、聖なる場所に立ちましょう。ベテスダの池にいた病人やエルサレムへの旅で会った皮膚病の男、そしてコリー・テンブームは

癒されました。「なおりたいの〔です〕か。」起きて、歩きましょう。主の「恵みはあなたに対して十分」であり(2コリント 12:9)、独りで歩むことはないのです。

わたしは神が生きておられることを知っています。わたしたちは神の子であり、神は今のわたしたちと、将来なり得るわたしたちを愛しておられると知っています。神は全人類の贖いの犠牲として御子を世に送り、福音を受け入れ主に従う人々が癒され、欠けるところがないようにしてくださいました。——それは「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従〔い〕」、神の深い憐れみにより起こります(教義と聖約 88:68)。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. コリー・テンブーム, *The Hiding Place* (1971年), 215, 強調付加
2. トーマス・S・モンソン「人生のチャレンジに立ち向かう」『聖徒の道』1994年1月号, 79
3. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』52





十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

破れた器のように

皆さんや皆さんの愛する人が精神的または情緒的問題に直面したとき、どのように対応するのが最も良いのでしょうか。

使徒ペテロは、イエス・キリストの弟子は「同情し合」わなければなりませんと書いています。¹ 今日と同じ思いで、何らかの精神疾患あるいは情緒障がいを抱えている方々に向かって話したいと思います。軽症か重症か、短期か、あるいは長期で一生闘い続けるものかは関係ありません。専門家の口から、神経症や精神病、遺伝性素因や染色体の欠損、双極性障がい、偏執症、統合失調症などという言葉が聞くと、問題の複雑さが分かってきます。しかし、戸惑いを覚えずとも、このような病気は死すべき世の現実の一つであり、高血圧や突然見つかった悪性腫瘍で苦しんでいても恥ではないように、恥じる必要はないのです。

始めに申し上げますが、このような難しい事柄について多少の平安と理解を得ようと努力するときに絶対忘れてはならないのは、わたしたちが現在墮落した世に生きていること、しかもそれを自ら選択したということです。この世は(かつてのような)エデンの園でも、(いつの日かなる)日の栄えの王国でもありません。ここは、神の目的の下に、神のようになることを目指すわたしたちの忠実さと忍耐強さが、神聖な目的のために繰り返し試され、試練を受ける場なのです。何よりも、神の計画が救い主を約束していることを忘れてはなりません。すなわち、主を信じるわたしたちの信仰を通してそのような試しと試練に勝利さ

せ、栄光のうちに高く上げてくださる贖い主です。御父と御子がそのために払われた犠牲は計り知れないものでした。この神聖な愛を正しく認識することで、わたしたちはそれに比べて小さな自分の苦しみにまず耐えられるようになり、次いでそれを理解できるようになって、最終的に贖いを受けられるようになるのです。

今日は、先ほど挙げた比較的まれな病気ではなく、「大うつ病性障がい」、あるいは一般的に「うつ病」と呼ばれるものに焦点を当てましょう。わたしが言うのは、だれもが経験する何をやってもうまくいかない日や、納税締め切り日や、ほかの落胆するときを指しているものではありません。人はだれしも、時には心配したり、がっかりしたりするものです。モルモン書にはアンモンと兄弟たちがその伝道活動の困難な時期に意気消沈したと記されています。² わたしたちにもそんなときがあり得ます。しかし、今日わたしが話しているのは、もっと深刻な病気や障がいによって、その人本来の能力が著しく制限されて日常生活ができなくなる場合など、胸を張ってもっと前向きに考えたら必ず良くなるなどとだれも言えないような、情緒的に深い傷を負っている場合のことです。もちろん、個人的には、胸を張って前向きに考えることを大いに勧めます!

このような心と霊の暗闇は単なる弱気ではありません。天使そのもののような

男性が50年間連れ添った最愛の伴侶を亡くしたとき、その病に襲われたのを見たことがあります。出産後の母親が、英語では婉曲的にアフターベビーブルーと呼ばれる産後うつで苦しむのを見ました。不安を抱えた学生や退役軍人、成人した子供の幸福を案じる年配の女性がこの病に襲われるのも目にしました。

また、家族を養おうと頑張る若い父親がこの病に襲われるのも目にしました。同じように、わたし自身もかつてそのような恐ろしい経験をしたことがあります。結婚後のある時期、経済的不安とどうしようもないほどの疲労が重なったとき、思いがけなく、しかし紛れもない心理的打撃を受けたのです。神の恵みと家族の愛により、何とか日常生活を維持し、働き続けることができましたが、それから何年もたった今でも、同じような病気で、より慢性的な、あるいは深刻な重荷に苦しむ人々に深い共感を覚えます。それはともかく、わたしたちは皆、預言者ジョセフの言葉で言えば、「最も暗く深い淵……を細かく調べ、つくづくと考え」、³ それを乗り越えた人々から勇気をもたらしてきたはずです。その中には、エイブラハム・リンカーン、ウィンストン・チャーチル、そしてこの神権時代の最も心優しくキリストのような人物の一人、ジョージ・アルバート・スミス長老がいます。長老は繰り返すうつ症状と何年も闘いましたが、後に末日聖徒イエス・キリスト教会の第8代預言者そして大管長となり、万人に愛されました。

それでは、皆さんや皆さんの愛する人が精神的または情緒的問題に直面したとき、どのように対応するのが最も良いのでしょうか。何よりも、天の御父を信じる信仰を決して失わないでください。御父は皆さんが理解できる以上に皆さんを愛しておられます。先週の土曜日にモンソン大管長が感動的な言葉で扶助協会の姉妹たちに語ったように、「その愛は不変です。……皆さんが悲しんでいるとき、喜んでいるとき、落胆しているとき、希望に満



ちているとき、皆さんのために存在しています。神の愛は、皆さんがその愛にふさわしいと感じているかどうかにかかわらず、皆さんのために存在しています。いつもそこに存在しているのです。』⁴決してそれを疑わないでください。決して心をかたくなにはいけません。生活に主の御霊を招くために、これまで多くの人を試してきたことを行いましょう。皆さんの霊的な福利について鍵を持つ人々に助言を求めてください。神権の祝福をお願いし、それを大切にしてください。毎週聖餐にあずかり、完全にしてくださいというイエスキリストの贖罪の約束にしっかりとつかまってください。奇跡を信じてください。わたしは、あらゆる点で希望がないと思われたときに多くの奇跡が起きるのを目にしてきました。希望がなくなることは決してありません。奇跡がすぐに、十分に、あるいはまったく起こらないように思えるときは、救い主御自身も苦しまれたことを思い出してください。たとえ苦い杯が過ぎ

去らなかったとしても、前途の幸福な日々を信じて、それを飲みほして、強くなってください。⁵

病気をできるだけ予防するために、自分だけでなく、人のストレスの兆候にも気を配り、助けられるようにしてください。自動車と同じように、温度の上昇、スピードの出しすぎ、あるいは燃料不足に注意しましょう。「消耗性うつ病」の場合は、調整が必要です。ペースを落として、心を静め、栄養と燃料の補給をしなければなりません。医師たちは、健康のために時間を取らない人は、後で必ず病気のために時間が取られることになるかと断言しています。

もし消耗状態が続くようであれば、資格があり、専門技術と健全な価値観を合わせ持った評判の良い人々に助言を求めてください。そして、これまでのいきさつや苦しみについて正直に話してください。よく祈り、責任をもって彼らの助言と治療法を検討してください。皆さんが虫垂炎になれば、神は当然、神権の祝福だけで

なく、利用可能な最高の医療を受けることを皆さんに期待されます。情緒障がいについても同じです。天の御父はこの栄えある神権時代に与えておられるあらゆる賜物を使うよう望んでおられるのです。

皆さん自身がそのような病気にかかっているか、そのような人を世話している場合、問題の大きさに圧倒されないようにしてください。すべてをできると思わないことです。しかし、できることを行いましょう。ほんの少しでも成功したら、それに感謝し、耐えてください。聖文の中で主は何十回も言っておられます。「そのままいなさい」「静まれ」そして待ちなさいと。⁶ 忍耐強く耐えることも、現世における教育の一部なのです。

お世話をしている方は、人の介助に熱心なあまり、自分自身の健康を損なうことのないようにしてください。これらすべてのことに賢明であってください。自分の力以上に速く走らないでください。⁷ できることとできないことがあっても、祈りと



「偽りのない愛」⁸をささげることができます。「愛は寛容であり、愛は情深い。……いらだたない、……そして、すべてを忍び、……すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない」のです。⁹

また、どのような病気や困難な試練を経験しても、人生にはまだたくさんの希望があり、感謝すべきことがあることを覚えておきましょう。わたしたちはだれでも、自分が抱えている困難や試練をはるかに超えた存在なのです。ステファニー・クラーク・ニールソンとその家族は、わたしたちの30年来の友人です。2008年8月16日、ステファニーと夫のクリスチャンは飛行機事故に遭い、炎に包まれてひどいやけどを負いました。それは、被害者の身元確認に来た家族が、唯一ペディキュアでしか彼女と確認できなかったほどひどいものでした。ステファニーの生存確率は限りなくゼロに近いものでした。彼女は5か月間の薬によるこん睡状態から目覚め、自分の姿を見ました。それから、心理的な傷を負った彼女に、すさまじいうつが襲いました。7歳以下の子供が4人

いたステファニーは、子供たちには絶対自分の姿を見せたくないと思い、死んだ方がましだと感じました。彼女はかつてわたしの執務室でこう言いました。「子供たちがわたしのことを忘れてくれたら楽なものと思いました。彼らの生活から静かに消え去ろうと思ったのです。」

しかし、永遠の誉れを受けるにふさわしく、ステファニーは、夫や家族や友人、そして4人の子供たちと1年半前に生まれた5番目の子の祈りのおかげで、破滅の淵から這い上がりました。今では、アメリカで最も人気のある母親ブロガーの一人となり、定期的にブログを読む400万人のフォロワーに向けて、自分の人生の「神聖な使命」は母親であることと、この美しい地上にいられる一日一日を大切に生きることだと公言しています。

兄弟姉妹の皆さん、精神的、情緒的、身体的など、どのような苦しみを抱えていても、貴い命を絶つことを選んでではありません！ 神を信頼してください。その愛にすがって堪え忍んでください。いつか日は輝かしく明け、死すべき世の影が消えるこ

とを知っていてください。詩篇の作者が言うように、¹⁰わたしたちが「破れた器のように」なったとしても、その器は天の陶工の御手にあることを忘れてはなりません。折れた骨や傷ついた心臓が癒されるように、傷ついた心も癒されます。神がその修復に携わっておられる間、残りのわたしたちは慈悲深く、裁かず、いたわりをもつことによって助けることができます。

わたしは神聖な復活について証します。復活は主イエス・キリストの贖いの中で言い尽くせないほど重要な賜物です！ 使徒パウロとともに、朽ちるものでまかれたものがいつか朽ちないものによみがえり、弱いものでまかれたものが強いものによみがえることを証します。¹¹死すべき世で障がいを抱えていた愛する人々が、栄光に満ちた、すばらしい、息をのむほど完全な体と精神でわたしたちの前に立つ日が来ると証します。何とすばらしい瞬間でしょう！ そのとき、そのような奇跡を目にした自分のための喜びと、「ついに自由になれた」¹²彼らのための喜びのどちらが大きいのか、わたしには分かりません。キリストの完全な賜物が万人に明らかになるそのときまで、信仰と希望をもち、「同情し合」って¹³生きることができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 1ペテロ3:8
2. アルマ26:27 参照；アルマ56:16も参照
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』267
4. トーマス・S・モンソン「決して独りで歩いていくのではない」『リアホナ』2013年11月号、123、124
5. マタイ26:39 参照
6. 例えば、詩篇4:4；教義と聖約101:16 参照
7. モーサヤ4:27 参照
8. 教義と聖約121:41
9. 1コリント13:4、7-8、強調付加。モロナイ7:45-46も参照
10. 詩篇31:12
11. 1コリント15:42-43 参照
12. “Free at Last”, J・W・ワーク, *American Negro Songs: 230 Folk Songs and Spirituals, Religious and Secular* (1998年), 197より抜粋
13. 1ペテロ3:8



十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

主に信頼を寄せる

イエス・キリストの福音の回復というすばらしいメッセージを伝えるために、自分ができるところをしてみてください。

最近、バラード姉妹とわたしはヨーロッパ5か国を訪問するという割り当てを果たし戻って来ました。旅行中、多くの宣教師と会う特権を頂きました。皆さんの息子さんや娘さんにも会ったかもしれません。モンソン大管長が若い男性と女性の伝道に出ることができる年齢を引き下げると発表して以来、それに応じた宣教師のうち3,000人以上に会う機会がありました。彼らはキリストの光で顔を輝かせ、意欲的にこの業を進めようとしています。求道者を見つけ、教え、バプテスマを施し、活発化に取り組み、神の王国を強め、築こうとしているのです。しかし、彼らに会うとすぐ、宣教師だけでこの業はできないということに気づきます。今日、わたしはすべての教会員に向けてお話をしたいと思います。なぜなら、わたしたち一人一人が福音を伝える活動に携わることが急務となっているからです。

幾度も引用されている通り、預言者ジョセフ・スミスは「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を宣べ伝えることです」と断言しています（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』330）。

1974年、スペンサー・W・キンボール大管長は次のように言いました。「伝道を行う最大の理由は、世の人々に福音を受け入れる機会を提供することだと思います。聖典には、福音を教えよとの戒めや

それに伴う約束、その召しや報いについてたくさん書かれています。ここで戒めという言葉を用意しましたが、それは、このことがわたしたち個人としても全体としても逃れることのできない重要な指示だと思われるからです。」「この世が改宗するとき『聖徒の道』1984年9月号、1)

同じ年の7月、バラード姉妹とわたしは子供たちを連れてカナダ・トロント伝道部を管理するために出発しました。キンボール大管長の言葉、特に次の言葉が、まだ耳に強く残っていました。「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは自分にできるすべてのことをしようとしていますでしょうか。福音を人々に教える取り組みに自己満足していないでしょうか。教会はこれまで144年にわたり伝道活動を行ってきました。歩みを速める用意はできたでしょうか。わたしたちの視野を広げる用意はどのようでしょうか。」「『聖徒の道』1984年9月号、3)

キンボール大管長はまた、歩みを速め、教会と神の王国の建設のために一致して働くように勧告しました。

今年の6月、トーマス・S・モンソン大管長は教会員に向けて、次のような言葉で同じ呼びかけをしました。「人々を主のもとへ導くために、会員と宣教師が団結し、力を合わせて、主のぶどう園で働く時が今来ています。様々な方法で福音を分か

ち合うための手段を主は用意しておられます。わたしたちが主の業を成し遂げるために信仰をもって行動するならば、主はわたしたちの働きに力を貸してくださいませ。」「〔救いの業に寄せる信仰〕〔2013年6月23日の特別放送における説教〕、lds.org/broadcasts)

兄弟姉妹の皆さん、ジョセフ・スミスの時代から現在までの預言者の教えを思い起こしてみるとよいでしょう。彼らは、天の御父の世界中の子供たちすべてに回復された福音のメッセージを伝える業に熱心に携わるよう教会の指導者と会員に勧め、呼びかけてきました。

今日のわたしのメッセージは、主が確かに御業を速めておられるということです。この時代においてそれは、教会員一人一人が愛をもって手を差し伸べ、イエス・キリストの回復された福音の真理を伝えるときのみ達成できるのです。わたしたちは現在奉仕している8万人の宣教師とともに力を合わせて働かなければなりません。この大いなる業についての詳細、とりわけステーキおよびワード評議会構成員の割り当てについては、LDS.orgの「救いの業を速める」というウェブサイトで分かりやすく説明されています。

わたしたちの調査では、教会の活発会員のほとんどが、愛する人々はもちろん、まったく見ず知らずの人々の生活にも福音の祝福があるよう望んでいることが明らかになっています。同時に、多くの会員が伝道活動に携わって福音を伝えるのをためらうのには二つの基本的な理由があることも分かりました。

- 第1の理由は恐れです。教会員の多くは福音を伝える機会が与えられるよう祈ることすらしません。それは、自分にはできないと思っていることをするよう天から促しが与えられるかもしれないと恐れているからです。
- 第2の理由は、伝道活動に対する誤解です。



だれかが^{せいさん}聖餐会のお話で、「今日は伝道活動について話します」と言ったり、バード長老が総大会で同じことを言ったりすると、聴いている皆さんの中には「またか。もう聞き飽きた」と思う人がいることを、わたしたちは知っています。

さて、後ろめたさを感じたい人はいないでしょう。もしかしたら皆さんは、とうていできそうもないことを友人や隣人にしよう求められるのではないかと考えているのかもしれない。主の助けをお借りして、皆さんや専任宣教師が福音を伝えることに対して抱えている恐れを取り除いて差し上げましょう。

イエス・キリストがわたしたちに求めておられることを行う決意をしてください。救い主はこう言われました。

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。

すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。

あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。

魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。

このように、あなたがたは、……自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあるか。」(マタイ7:7-11)

兄弟姉妹の皆さん、会員と専任宣教師がひざまずいて祈り、伝道の機会に恵ま

れるよう主に願い求めるとき、信仰と自信が恐れに取って代わります。そうしたら、その信仰を表し、イエス・キリストの福音を天の御父の子供たちに紹介する機会が来るのに注意を払っていなければなりません。機会は必ず訪れます。そのような機会に、わざとらしい不自然な対応が必要になることは決してありません。わたしたちの胸にある兄弟姉妹への愛がごく自然に現れ、会話が進んでいくはずですが、ただ前向きでいてください。そうすれば相手は皆さんの愛を感じることができず。たとえ、その人にとって福音を受け入れる時期でなかったとしても、そのとき感じた気持ちを決して忘れることはないでしょう。将来その人の状況が変わるとき、受け入れる気持ちになるかもしれません。

主の用向きを受けて最善を尽くしているときに失敗はあり得ません。結果は相手の選択の自由にかかっていますが、分かち合う責任はわたしたちにあるのです。

主を信頼してください。主は良い羊飼いです。主は御自身の羊を御存じで、主の羊はその声を知っています。^{こんにち}今日、良い羊飼いの声は、皆さんの声であり、わたしの声です。そして、わたしたちがこの業に携わらなければ、回復のメッセージを聞くはずだった多くの人々がその機会を失ってしまいます。端的に言うと、わたしたちにとって、これは信仰と実践の問題なのです。原則はとても簡単です。伝道の機会が与えられるよう、個人と家族で祈ってください。教義と聖約の中で主が言っておられるように、「見いだす場所を知ら

ないということだけで」真理を得られずにいる人が大勢いるからです(教義と聖約123:12)。

外交的な性格も、雄弁さも必要ありません。また説得力のある教師である必要もありません。自分の中に揺るぎない愛と希望があれば、主がこう約束しておられるからです。「この民に向かって声を上げなさい。わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。そうすれば、あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。

あなたがたの言うべきことは……その瞬間にあなたがたに授けられるからである。」(教義と聖約100:5-6)

『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』ではこう教えられています。「伝道活動というものは、教える人を見つけるまでは何も起こりません。毎日できるだけ多くの人々に話しかけてください。人々に話しかけることに多少の不安を覚えることは自然です。けれども回復された福音を宣言するため、もっと大胆にあなたの口を開く信仰と力を祈り求めることができます。」(157ページ) 専任宣教師の皆さん、もっと多くの人を教えたいと思うなら、毎日もっと多くの人に話しかけなければなりません。これまでずっと、主はそうするために宣教師を送り出してこられたのです。

主はわたしたちを御存じです。様々な問題を抱えていることも御存じです。わたしも、皆さんの中に重荷を負っていると感じている人がいることを知っています。しかし、普通に、感じよく福音を伝えることを重荷と感じる人が一人もいないように祈ります。むしろ、これは特権なのです！人生において、主の奉仕の業に熱心に携わること以上に大きな喜びはありません。

最も大切なのは、皆さんが神の靈感を受けることであり、主の指示を仰ぎ、それから御霊に^{みなま}促されるままに行って行くことです。会員が救いの業を責任であるとしか見ることができなければ、おじげになってしまうかもしれません。しかしそれを、主

に従うように招かれていることととらえ、専任の長老や姉妹宣教師の教えを受けられるように人々を主のみもとに導くのだと考えると、感動的で、楽しい、心高まるものとなります。

皆さん一人一人に何もかもしてくださいとお願いしているわけではありません。ただすべての会員に祈るようお願いしているのです。それは、若い人も年配の人も、会員一人一人が、今からクリスマスまでの間にたった「一人」の人に手を差し伸べるなら、何百万もの人々が主イエス・キリストの愛を感じることができると知っているからです。救い主へのすばらしい贈り物になることでしょう。

6週間前、会員伝道で大きな成功を経験しているフロリダのマンズ家族から手紙を受け取りました。こう書いてありました。

「親愛なるバラード長老、救いの業を速めることについての放送が終わって30分後、家族で伝道評議会を開きました。10代の孫たちも参加を希望していると知り、感激しました。ここに報告できることをうれしく思います。この評議会以来、家族が宣教師に紹介しようと思う人のリストは3倍に増えました。

孫たちが友人を連れて教会に出席しました。あまり教会に来ていない友人数人と聖餐会を楽しむことができたほか、新しく知り合った何人かが宣教師から福音のレッスンを受ける決意をしてくれました。あまり教会に来ていなかった姉妹の一人は、活発に教会に集うようになっただけでなく、新しい求道者を数人、連れて来てくれました。

これまで、宣教師のレッスンを断った人

は一人もいません。この時期に教会員であることは、なんとすばらしいことでしょうか。」(2013年8月15日付の個人書簡)

御霊のささやきに従ってください。熱烈な祈りをもって主に嘆願してください。イエス・キリストの福音の回復というすばらしいメッセージを伝えるために、自分ができることをしてください。

もう一人、会員伝道に成功しているクレントン・クリステンセンの言葉を引用します。「比喩的にですが、だれかの手を取ってイエス・キリストに紹介する度に、わたしとわたしが手を取っているその人に対する救い主の深い愛を感じることができます。」(*The Power of Everyday Missionaries: The What and How of Sharing the Gospel* [2013年], 裏表紙)

兄弟姉妹の皆さん、皆さんに神の祝福があり、信仰によって奇跡を体験することで得られる大いなる喜びを見いだすことができますように。モロナイ書第7章にはこうあります。

「キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心になうことを何事でも行う力を持つであろう』と。……

……奇跡が行われるのは信仰によるからである。天使が人に現れて教え導くのも、信仰による。したがって、もしこれらのことがなくなっているとするれば、それは不信仰のためであり、すべてはむなしので、人の子らは災いである。」(モロナイ7:33, 37)

わたしは自分の経験から、主が皆さんの祈りを聞いてくださり、皆さんが今後何年にもわたって天の御父の大切な子供たちにイエス・キリストの福音を紹介する機会に恵まれると証できます。モンソン大管長、わたしたちは聞きました。わたしたち全員がこれからその一人を探します。わたしたちが皆、伝道の奉仕によって得られる大きな喜びを体験することができますように。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■





十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

信仰箇条に含まれている 教義と原則

それぞれの信仰箇条がイエス・キリストの福音を理解するのに固有の価値ある情報を加えているのです。

わたしは総大会の神権部会で話す割り当てを与えられたとき、すばらしい初等協会教師のことをすぐに考えました。彼女の大きな望みは、神権を受けるにふさわしくなるようにわたしたちを備えることでした。彼女は初等協会の卒業要件に関連してわたしたちを厳しく試験しました。その卒業要件とは、十二使徒定員会会員の名前と信仰箇条を覚えることでした。また、全員が13の信仰箇条を暗唱できたら、最後のレッスンとして、わたしたちの選んだ場所に出向いて活動をすると約束してくれました。

わたしたちは特別な場所を選びました。ユタ北部のローガン峡谷の入口で、最初のダムのすぐ上にある岩の斜面までハイキングに行きたかったのです。この岩のがけには狭い平坦な場所があり、そこに天然の野外炉があって、ホットドッグを調理したり、焼きマッシュマロを作ったりできるのです。しかし、その場所を選ぶとき、教師のことは考えませんでした。彼女は年を取り、まったく運動のできるタイプではなかったのです。わたしたちがもっと慎重に考えていたら、彼女にとってそのハイ

キングは大変だと気づいたかもしれませんが。それでも彼女は約束を守ろうとして、意を決してついて来てくれました。

まず、わたしたちは小高い丘を登りました。当時は、登る妨げになる送電線はありませんでした。教師は多少の手助けを得ながら丘を登りました。頂上を越えると、わたしたちは岩の尾根に下り、「亀の甲羅」と呼んでいた場所に向かいました。

そこに到着した後、教師は呼吸を整えるためにしばらく休息しました。わたしたちが座る場所を見つけて食事の準備をしたときには、彼女は十分に回復して、最後のレッスンを教える備えができていました。彼女は、過去2年間初等協会で教えたことがどれほど楽しかったか語ってくれました。また、あなたたちは信仰箇条をほんとうによく覚えた、と褒めてくれました。彼女が信仰箇条のどれか一つの番号を言うと、わたしたちはそれを暗唱できました。それから彼女は、信仰箇条を暗記することは、それに含まれている教義と原則を理解しないかぎりただ単にたくさんの言葉にすぎないと告げました。信仰箇条の一つ一つで教えられている福音の

教義を研究するようにわたしたちを励ましました。そして、信仰箇条の中に見られる教義は幾つかの項目に分けられると説明しました。

I. 神会とキリストの基本的教義

わたしたちは信仰箇条第1条から、神会が御三方により構成されていることを学びます。父なる神と、キリストなるイエスと、聖霊です。

第2条は、わたしたちは地上での自分の行動に対して責任を負うと教えています。

第3条は、天の御父の子供たちの救いに対する救い主の使命について述べています。

第4条は、基本的な原則と儀式が重要であることを教えています。

その教師が語った言葉の力は、わたしにとって靈感の源となっています。なぜなら、彼女は福音研究について強調したからです。聖文によって真理の基準を知るようになり、それによってわたしたちは、自分が得る知識は真実か、それとも偽りかを判断することができるのです。真実の教義は、すべての真理の源であり基である神から来ます。真実の教義の教えと概念は、主なる救い主の福音の中に見いだされます。偽りの教義は、あらゆる偽りの父であるサタンから来ます。サタンの望みは、啓示された真理を曲解し、また全体的にあるいは部分的にそれを変えることです。天の家に戻る旅路で道を見失う者が出るように、サタンはわたしたちを欺きたいと思っているのです。

聖文は偽りの教えを避ける方法を教えています。例えば、テモテにあてたパウロの手紙にはこう述べられています。

「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。

それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。」



(2 テモテ 3 : 16 - 17)

携帯電話に電池が必要であるように、教会にはこの教義が必要です。携帯電話は電池を取り外すと役立たなくなります。同様に、真実の教義が教えられない教会は役立ちません。天の御父のみもとと永遠の家庭に帰るようにならなうことを導くことができないのです。

II. 神権の組織と秩序

わたしたちは、キリストの基本的な教義を理解し始めた後、信仰箇条の第5条と第6条から神権の組織と秩序について学びます。主の指示の下で、ジョセフ・スミスは神権の権能、すなわち神の力を用いて救い主の教会を組織しました。末日聖徒イエス・キリスト教会は、キリストが地上におられた間に設けて指導された組織と同じものです。

1829年5月、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、実に輝かしい日を迎えました。その日、彼らは、モルモン書の翻訳中に読んだ罪の赦しのためのバプテスマの教義について祈るために、森に入りました。1800年代の初めには、バプテスマについて多くの教えがいろいろな教会に

よって教えられており、ジョセフとオリバーはそれらの異なった教えがすべて真実であるはずがない、と確信していました。二人はバプテスマの正しい方法と、まただれがバプテスマを施す権能を持っているかについて知りたと思いました。

彼らの主への嘆願に応じて、天からの使者、バプテスマのヨハネが姿を現しました。そして、彼らの頭の上に手を置き、次の言葉を述べて二人にバプテスマを施す権能を授けました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。」(教義と聖約 13 : 1)

世界の歴史における何とすばらしい日でしょう。神権が地上に回復されたのです。

わたしたちは神権を受けるとき、神の御名によって行動し、真理と義の道に導く権能を受けます。この権能は、地上にいる神の子供たちにとって義の力と影響力の極めて重要な源であり、幕の彼方まで続くのです。イエス・キリストのまことの教会が組織される前に、神権が回復されることが必要でした。これが、信仰箇条の第5条と第6条から学ぶ基本的な教えです。

III. 死すべき世の旅路における永遠の抛り所

続く3つの信仰箇条、第7,8,9条は、死すべき世の旅路で教えを受けるために利用できるよりどころについて述べています。わたしたちには、主の教えに従うときにわたしたちを導く、また悪からわたしたちを守る、霊的な賜物が与えられます。もう一つのガイドは聖文です。わたしたちが神の言葉を注意深く読むならば、神は永遠の命に至る道を明らかにしてくださいます。

信仰箇条の第9条は、神は過去、現在、未来にわたって神の預言者、聖見者、啓示者に多くの偉大で重要な真理を啓示される、と教えています。御霊の静かな細い声に耳を傾けることと聖文を読むことに加えて、導きを受けるもう一つの源は、教会の指導者たち、すなわち、教えを述べることによってわたしたちの生活に祝福をもたらすように選ばれ、召され、任命された人々であることが分かります。

IV. 会員宣教師

信仰箇条の第10,11,12条は、多くの国と様々な法律がある世界で伝道活動を



行い、福音を分かち合う方法に関して教えています。わたしたちは救い主の再臨に備えるイスラエルの集合について学びます。人は男女を問わず自ら選択し行動する者であること、また自分の良心に従って神の言葉を受け入れることも拒むこともできるということを教えられます。最後に、地の四方にイエス・キリストの福音を広めるときに、わたしたちが入るそれぞれの国の政府を尊ばなければならないことを学びます。実にわたしたちは、それぞれの国の法律を守り、尊び、支えるべきことを信じているのです。

V. 身に付けるように努める特質

信仰簡条第13条は、わたしたちはどのように生活し、ほかの人々にどう接するべきかについて特別な洞察を与えてくれます。こう述べられています。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたち

はすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」

わたしたちは皆、これらの特質を身に付け、その模範となる生活をするように努めなければなりません。携帯電話の部品が互いに作用し合っているように、信仰簡条で教えられている真理は互いに関連し合っています。携帯電話に部品を組み込む精巧な製造工程のように、信仰簡条は回復の鍵となる教義をわたしたちに提供します。それぞれの信仰簡条がイエス・キリストの福音を理解するのに固有の価値ある情報を加えているのです。

わたしの初等協会の教師は、王国の教義を研究する決意をわたしに抱かせてくれました。これらの簡潔な信仰簡条に含まれている、深い意味を追い求めるように

教えてくれました。そして、これらの神聖な真理を学ぶことに時間をかければ、自分が得た知識で人生はより良く変わると約束してくれました。そして実際にそうなったことをわたしは証します。

ローガン峡谷のあの山で教師のすばらしい教えを受けた後、わたしたちは、予定よりも少し長い時間そこにいたことに気づきました。日暮れが近づき、わたしたちは一つの問題があることを理解しました。

教師はわたしたちの特別な場所に来るのに苦勞しましたが、帰りには大変な困難が待ち受けていました。これは、遠出した場所の選択に当たってわたしたちが思慮に欠けていたことを重ねて示すものでした。丘をよじ登って帰るのはわたしたちにとって大変でしたが、彼女の年齢の人にはもっと大変でした。

彼女が丘を登るのをわたしたちが懸命に助けていたとき、二人の警察官がやって来ました。わたしたちが道に迷ったのではないかと心配して、初等協会会長が捜索を依頼したのです。その劇的な出来事と教えられたレッスンによって、それはわたしの生涯における忘れられない経験となりました。

若い男性の皆さん、わたしは皆さんに、明晰な頭脳を用いて信仰簡条とそれが教えている教義を研究し学ぶようにお勧めします。それらは教会における最も重要で、確かに最も簡明な教義の声明の一つです。イエス・キリストの福音の研究に方向づけを与えるガイドとしてこれらを用いるならば、回復された真理についての証を世に述べる備えができることでしょう。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として大切にしている基本的な信条を易しく、率直に、心を込めて宣言できるようになるでしょう。

13の信仰簡条が真実であることに、わたしの証を付け加えます。わたしたちの主であり救い主であられるイエス・キリストの御名により、アーメン。■



管理ビショップリック第一顧問
ジェラルド・コセービショップ

あなたがたはもはや 異国人ではない

この教会には、異国人も部外者もいません。兄弟姉妹がいるだけです。

わたしたちの多くは一度ならず、新しい状況に置かれたために、不慣れや不安を感じたことがあるでしょう。約5年前にトーマス・S・モンソン大管長がわたしを教会幹部として奉仕するように召したとき、そのような状況がわたしの家族に起こりました。この召しを果たすためには、20年以上家族が慣れ親しんだ美しい場所から引っ越すことが必要でした。妻とわたしは、この変化を知った直後の子供たちの反応を今でも覚えています。16歳の息子は声高に言いました。「まったく問題ないよ。みんなは行きな。ぼくは残るから!」

その後息子は、程なくしてわたしたちと一緒に行く決心をし、人生の新しい機会を忠実に受け入れました。新しい環境で過去数年間過ごしたことは、わたしの家族にとって楽しい学びの機会となりました。それは特に、末日聖徒の温かい歓迎と善意があったからです。わたしたちは様々な国で生活してきたので、この地上の神の民の一致が現実的で確実なものであることを理解するようになりました。

わたしはこの召しを通して、多くの国々を訪れ、多くの集会を管理する特権に恵まれてきました。数々の集会に出席する

ことにより、多くの国や言語、または文化を代表する会員の皆さんに会うことがよくあります。この福音の神権時代ですばらしいのは、地理的な区域や国境に制限を受けないことです。教会は世界中に広がっています。教会は「地の四方からその子らを」集めることにより、神の御子の栄えある再臨に備えています。¹

教会の会員は多様性を増していますが、わたしたちの神聖な受け継ぎは、その違いを越えて浸透しています。教会の会員として、わたしたちはイスラエルの家に迎えられています。兄弟姉妹となり、同じ霊的な血統の同等の相続人となります。神はアブラハムに「この福音を受け入れるすべての者は〔彼〕の名によって呼ばれ、〔彼〕の子孫と見なされ、立ち上がって〔彼〕を〔彼らの〕父としてたたえるであろう」²と約束しておられます。

教会の会員となるすべての人に対する約束があります。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」³

この「異国人」を表す *stranger* という言葉は、ラテン語の *extraneus* から来ていて、「外側」または「外部から」を意味

します。この言葉は通常、出身、文化、見解、宗教などの様々な理由で「部外者」である人を指します。この世にあってこの世の者にならないように努力しているイエス・キリストの弟子として、わたしたちは自分が部外者であるかのように感じるときがあります。異なっていると思われる人に、ある種の機会が与えられないことが数多くあるのを知っています。

時代を通じて神の民は、異国人や異なっているように見えるすべての人の世話をするように戒めを受けてきました。旧約の時代では、異国人は寡婦や孤児と同様の親切なもてなしから恩恵を受けました。寡婦や孤児と同じように、異国人は非常に弱い立場にあり、その生存は地元の住人から受ける保護にかかっていました。イスラエルの民はこの問題に関して次のような明確な指示を受けました。「あなたがたと共にいる寄留の他国人を、あなたがたと同じ国に生れた者のようにし、あなた自身のようにこれを愛さなければならぬ。あなたがたもかつてエジプトの国で他国人であったからである。」⁴

パナマ、パナマシティ





チリ, サンティアゴ

イエスは地上で教え導かれた間、親切と寛容の基本的な義務をはるかに越えた模範を示されました。主は、社会から疎外された人々や、自分は義人であると信じる人から拒まれ、汚れていると見なされていた人々を、哀れみ尊重されました。これらの人々も同じように主から教えと導きを受けたのです。

例えば、救い主は、その時代に確立していた習慣を気に留めず、サマリヤの女に話しかけて水をお求めになりました。主は取税人とともに席に着いて食事をされました。重い皮膚病を患う人に近づき、その人に触れて癒すことをためらわれませんでした。ローマの百卒長の信仰をたたえ、主は群衆に向かってこのように言われました。「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。」⁵

イエスは、普遍的で無条件の賜物である完全な愛の律法を守るようにわたしたちに求め、次のように言われました。

「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるろうか。そのようなことは取税人でもするではないか。

兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。そのようなことは異邦人でもしているではないか。

それだから、あなたがたの天の父が完

全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」⁶

この教会には、異国人も部外者もいません。兄弟姉妹がいるだけです。永遠の御父についてわたしたちが持っている知識は、兄弟姉妹の間の愛に対してもっと敏感になるように助けてくれます。この兄弟姉妹の間の愛は、地上のすべての男性と女性の間に存在するべきなのです。

小説『レ・ミゼラブル』の一節が、外来者と目される人に神権者はどう接したらよいかを説明しています。ジャン・ヴァルジャンは、ちょうど囚人の状態から放免されたところでした。長い旅と死ぬほどの飢えと渇きでくたくたになって、小さな町にたどり着き、食事ができる所と一晚の宿を探していました。彼が町に来たというわさが広まると、すべての住人は一人また一人と、皆彼に対して扉を閉ざしました。ホテルも、小さな宿屋も、監獄さえも中に入れてはくれませんでした。拒絶され、追い出され、追放されたのです。最後に力尽きて、その町の司教の家の玄関で崩れるように倒れました。

この善良な聖職者は、ヴァルジャンの過去にすっかり気づいていました。しかし、彼はこの浮浪者を家に招き入れて、次のような憐れみ深い言葉をかけました。

「『ここは私の家ではなくて、イエス・キリストのお家です。この家の戸ははいっ

て来る人に向かって、その名前を尋ねはしません。ただ心に悲しみのあるなしを尋ねます。あなたが苦しんでいられ、飢えと渇きを感じていられるならば、あなたは歓待せられます。……何であなたの名前を知る必要がありますか。それにまた、あなたが(名前)を言われぬ前から私はあなたの一つの名前を知っています。』

〔ヴァルジャンは〕驚いた目を見開いた。

『本当ですか。あなたは私が何という名前か知っていたらのですか。』

『そうです。』と司教は答えた。『あなたの名前は私の兄弟というのです。』⁷

この教会では、ワードや定員会はわたしたちに所属しているものではありません。イエス・キリストに所属しているのです。教会の集会所に入る人はだれでもくつろぎを感じるべきです。あらゆる人を歓迎する責任はかつてないほど大切です。わたしたちが住むこの世界は、大きな変動の時期を経験しています。交通手段や通信速度の向上と経済のグローバル化により、地球は一つの大きな村になりつつあります。そこで人々や国々がかつてないほどの頻度で会い、つながり、交わっています。

これらの広大で全世界に及ぶ変化は、全能の神の計画によるものです。地の四方から主の選民を集めることは、遠くの国々に宣教師を派遣するだけで起こるのではなく、わたしたちの住む都市や近所に人々がほかの地域から移って来ることによっても起こるのです。多くの人が、知らないうちに、主に導かれて福音に耳を傾け、主の群れに入ることができるよう導かれているのです。

これから皆さんのワードで福音に改宗する人は、皆さんの友達や知人ではないというのは非常によくあることです。そのことは、その人の外見、言語、服装、肌の色で分かるでしょう。その人は、異なった背景や生活様式を持った別の宗教の中で育った人かもしれません。

フェローシップは大切な神権の責



任です。アロン神権定員会とメルキゼデク神権定員会は、ビショップの指示の下で姉妹たちと一致して働き、確実に各人が愛と親切をもって歓迎されるようにします。ホームティーチャーと訪問教師は、忘れ去られたり、無視されたりする人がだれもいないように見守るでしょう。

わたしたちは皆、ワードや支部の中で霊的な一致を築くためにともに働く必要があります。完全な一致の模範は、キリストがアメリカ大陸を訪れられた後に神の民の間にありました。モルモン書にはこのように記されています。「レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者であった。」⁸

異なっている、あるいは弱く見える会員を無視したり、孤立させたり、わたしたちに似た人とだけ関係を持ったりしては、一致を達成することはできません。そうではなく、一致は新しい人や特別なニーズを持った人々を歓迎し、彼らに仕えることによって得られるのです。こうした会員は、教会にとって祝福となり、隣人に仕える機会をわたしたちに提供し、その結果として、わたしたちの心が清められるのです。

そのようなわけで兄弟の皆さん、教会の建物の入口に来る人がだれであっても手を差し伸べることが皆さんの責任なのです。感謝の心で偏見を捨てて、歓迎してください。もし、知らない人が集会に入ってきたら、温かくあいさつをして、一緒に座るように招き入れてください。彼らが皆さんのところに来るのを待つのではなく、むしろ歓迎され愛されていると感じられるように皆さんから先に行動を起こしてください。

初めに歓迎した後、その人に仕え続けることができる方法を考えてください。あるワードで二人の聴覚障がいのある姉妹のパプテスマの後に、二人のすばらしい扶助協会の姉妹が、この新しい改宗者と上手に話ができるように、手話を学ぶ決意をしたと以前に聞いたことがあります。福音における同胞^{ほらから}の兄弟姉妹に対する何とすばらしい愛の模範でしょうか。

天父にとって、異国人は一人もいないことを証します。天父にとって、大切でない人は一人もいないのです。ペテロとともに次のように証します。「神は人^{あかし}をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれてくださる……。」⁹

主が御自分の羊を終わりの日に集めら

れるとき、わたしたち一人一人に「わたしが……旅人であったときに〔あなたは〕宿を貸し〔てくれた〕」と声をかけてくださるように祈ります。

そうすると、わたしたちは主にこのように言うでしょう。「いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸しましたか。」

すると、主は答えられるでしょう。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」¹⁰

イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 1ニーファイ 22:25
2. アブラハム 2:10, 強調付加
3. エペソ 2:19
4. レビ 19:34
5. マタイ 8:10。マタイ 8:2-3; マルコ 1:40-42; 2:15; ヨハネ 4:7-9も参照
6. マタイ 5:46-48
7. ヴィクトル・ユーゴー『レ・ミゼラブル』第1部、第2編、第3章、豊島与志雄訳、岩波文庫
8. 4ニーファイ 1:17
9. 使徒 10:34-35
10. マタイ 25:35, 38, 40



七十人
ランディー・D・ファンク長老

御言葉を告げ知らせる よう主に召される

謙遜かつ従順で御霊の声に耳を傾けるならば、皆さんは宣教師としての奉仕に大きな幸福を見いだすでしょう。

この4月に中央幹部として支持されたとき、わたしはインドで伝道部会長として奉仕していました。わたしは別の伝道部会長から聞いたことを直接体験しました。それは、「この教会の宣教師はほんとうに素晴らしい¹」ということです。

ファンク姉妹とわたしは多くの優れた宣教師とともに奉仕しましたが、その一人がネパール出身のポクフレル長老です。教会の会員となってわずか2年後、彼は英語を話す伝道部であるインド・バンガロール伝道部に召されました。十分に備えができていなかったと彼は言うでしょう。それは理解できます。自分が宣教師になるまで、彼は宣教師に会ったことがありませんでした。ネパールで奉仕する若い宣教師はいないからです。英語もよく読めなかったので、伝道の召しの手紙にある指示をよく理解できませんでした。宣教師訓練センターに入所したときスーツケースに詰められていたのは、よそいきのストラックスと白いワイシャツとネクタイではなく、彼の言葉によると「デニムのジーンズ5本にTシャツが2枚、そしてたくさんの整髪用ジェル」だったのです。²

適切な衣服を手に入れた後も、最初の

数週間は毎日無力感を感じたと言います。伝道のその時期について彼はこう表現しています。「英語を学ぶのが難しかっただけではなく、伝道も同じくらい困難でした。……そのうえ、空腹で、疲れ、ホームシックでした。……状況が厳しくても、わたしの決意は揺るぎませんでした。弱さと無力感を感じたときは天父に助けを求めて祈りました。必ず、祈る度に慰められました。」³

ポクフレル長老にとって伝道活動は初めてで困難な経験でしたが、大いなる信仰と忠実さをもって奉仕しました。聖文と『わたしの福音を宣べ伝えなさい』、そして伝道部の指導者から学んだことを理解し、それに従おうと努力しました。彼は福音を力強く、しかも英語で教えらるる教師となり、素晴らしい指導者となりました。伝道後、ネパールでしばらく暮らしてから、学業を続けるためにインドに戻りました。この1月からは、ニューデリーで支部会長を務めています。宣教師として真の成長を経験した彼は、今もインドにおける教会の真の成長に貢献し続けています。

宣教師を見たこともなかった青年が、どうしてそのような霊的な強さを持った宣教

師になれたのでしょうか。宣教師として、伝道地の人々に扉と電子メールの受信箱と心を開いてもらう霊的な力を得るにはどうすればよいのでしょうか。いつもどおり、答えは聖文と、生ける預言者や使徒の言葉の中にあります。

1837年7月に英国で初めて福音が説かれたとき、主は次のように啓示されました。「あなたがたによって正式に推薦されて権能を与えられた者で、兄弟たちすなわち十二使徒会の声により、わたしの名によって遣わされる者は、あなたがたから遣わされるどの国に対してでも、わたしの王国の門を開く力を持つ。」⁴

皆さんがどこに遣わされ、どの伝道部に割り当てられようと、十二使徒の一人がその割り当てを正式に推薦しており、主の預言者によって召されることを理解してください。皆さんは「預言によって、また……⁵ 按手によって」⁵ 召されるのです。

主はそれから、この約束が成就するために必要な条件をお授けになりました。「彼ら（すなわち遣わされる宣教師）が（1）わたしの前にへりくだり、（2）わたしの言葉のうちにとどまり、（3）わたしの御霊の声を聴くかぎり、そうである（すなわち約束が成就する）。」⁶

主の約束は明白です。伝道地において神の王国の門戸を開くのに必要な霊的な力を得るには、謙遜で、従順で、御霊の声を聴き、それに従わなければならないのです。

この3つの特質には密接な相関関係があります。謙遜であれば、従順でありたいと思うはずですが、従順であれば、御霊を感じます。御霊は絶対不可欠です。なぜなら、エズラ・タフト・ベンソン大管長が教えたように、「御霊の助けがなければ、あなたにどれほど多くの才能や能力があったとしても、決して成功することはでき[ない]」からです。⁷

伝道部会長として、完全にふさわしくなっていないために苦しんでいる宣教師を面接することが時々ありました。彼らは



自分の霊的な潜在能力より下のレベルで生活していました。どれほど熱心に働いても、どれほど善いことを行っても、へりくだり、完全に悔い改めて救い主の憐れみと恵みを受けるまでは平安を感じることができず、聖霊を常に伴侶とすることができませんでした。

主はその僕たちにへりくだるよう教えられました。なぜなら、霊的な癒しの過程は、打ち砕かれた心から始まるからです。砕かれることで良いものが生じる例を考えてみましょう。麦を植えるにはまず土を砕きます。麦を砕いてパンを作り、パンはちぎられて聖餐の象徴となります。悔い改めた人が打ち砕かれた心と悔いる霊をもって聖餐を受けるとき、その人は癒しを受けます。⁸ 悔い改めてイエス・キリストの贖いによって癒されるとき、救い主によりよく仕えることができるようになります。「キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ……なさい。」⁹

もし罪の重荷を負っていて悔い改める必要があるならば、今すぐそうしてください。救い主は病人を癒されたとき、彼らに起きるように招かれました。彼らは即座にそうしたと聖文に記されています。¹⁰ 霊的な病が癒されるように、起きよと言われる主の招きを受け入れてください。先延

ばしせずにビショップ、支部会長、あるいは伝道部会長に話し、悔い改めの過程を今すぐ始めてください。

贖いの持つ癒しの力はあなたの霊に安息をもたらし、聖霊を感じるができるようにしてくれます。救い主の犠牲は計り知れませんが、どんなに多く深刻な罪であっても、わたしたちの罪には限りがあり、告白してそれを捨て、赦しを受けることが可能です。「人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」¹¹

教義と聖約にある次の約束は力強いものです。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。」¹² 徳高い生活を送るとき、神の御前みまへにある自らのふさわしさについて安らかな自信を感じるとともに、御霊の力を身に付けることができます。¹³

教会員になって日の浅い人や最近活発になった人の中には、「今はふさわしく生活しているし、伝道に出たいと思うけれども、自分の知識に自信がない」と言う人がいるかもしれません。4月の大会でトーマス・S・モンソン大管長はこう教えました。「神の戒めに従順になることによって、真理を知り、人が抱く最大の疑問への答えを得ることができます。」¹⁴ 従順

になることを通して知識が得られるとは、何と心強いことでしょう。

才能や能力や経験が足りないと感じる人もいるかもしれません。そのように心配している人はボクフレル長老の経験を思い出してください。できるだけ備えをしてください。そうすれば、天の御父が皆さんの謙遜で従順な努力を尊び、大いなるものに変えてくださいます。リチャード・G・スコット長老はこのように励ましの勧告を与えています。「主の戒めに従い主の子供たちに無私むしの奉仕をするとき、当然の結果としてわたしたちは神から力を頂きます。それは自分の力以上のことを行う力です。主から強さと力を受けるので、わたしたちの知力や才能、能力が広がるのです。」¹⁵

主とその善意を信頼するとき、全能の神はあなたを通して御自身の子供たちを祝福してください。¹⁶ ネバダ出身のホリングズ長老は伝道に出て間もなくそのことを学びました。インドに到着した翌日、彼はファンク姉妹とわたしと一緒に最初の赴任地であるラジャマンドリに行きました。その午後、ホリングズ長老とガナパラム長老はある教会員とその母親に会いに出かけました。母親は教会について知りたいて思っていました。福音によって娘の生活が祝福されているのを目にしたか

からです。ファンク姉妹がフェローシップのために長老たちに同行しました。レッスンが英語で行われるのに母親がテルグ語しか話せなかったため、支部の兄弟が通訳をするために来ていました。

初めてのレッスンでホリングズ長老が受けた割り当ては、預言者ジョセフの言葉を使って最初の示現を教えることでした。その場面に差しかかると、長老はファンク姉妹を見て尋ねました。「一言一句そのまま言った方がいいでしょうか。」通訳されることを知っていたからです。

「あなたの言うことについて御霊が証できるように、一言一句違わずに言いなさい」と彼女は答えました。

この新任の宣教師が最初の示現を心を込めて預言者の言葉のままに教えたとき、この姉妹の表情が変わり、目に涙があふれました。ホリングズ長老がその栄光に満ちたメッセージを語り終えたとき、彼女

は通訳も待たずに泣きながら母国語で尋ねました。「バプテスマを受けさせていただけませんか。そして、息子に教えてくださいませんか。」

ともに主に仕える若人の皆さん、福音のメッセージに対し、扉も心も毎日開かれています。そのメッセージは世界中の神の子供たちに希望と平安をもたらします。謙遜で、従順で、御霊の声に聞き従うならば、皆さんは宣教師としての奉仕に幸福を見いだすでしょう。¹⁷ 宣教師にとって何とすばらしい時代でしょうか。今は主がその業を速めておられる時代なのです。

わたしは救い主と、主の「神聖な戒め」¹⁸、すなわち、「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として……教えよ」¹⁹ について証します。これは主の教会です。主は生ける預言者や使徒を通して教会を導いておられます。この後、大管長から教えを受けます。わたしたちが

モルモンのように「観察が鋭〔く〕」²⁰、召されるときにふさわしくあり、御霊の力によってこう宣言することができますように。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。」²¹ イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ケンタッキー・ルイビル伝道部長 (2005 - 2008 年) デニス・C・プリムホールとの個人的会話より
2. アシシュ・ボクフレル「わたしの名はアシシュ・ボクフレル。これはわたしの物語です」(未出版の自伝、2011 年 9 月)
3. ボクフレル「わたしの名はアシシュ・ボクフレル。」
4. 教義と聖約 112:21
5. 信仰簡条 1:5
6. 教義と聖約 112:22
7. エズラ・タフト・ベンソン、新任伝道部長セミナー、1988 年 6 月 25 日；「わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動のガイド」176 で引用
8. ジェフリー・R・ホランド長老の説教からアイデアを借用、ユタ州バウンティフル北ステーキ大会、2013 年 6 月 8 日 - 9 日
9. オムナイ 1:26
10. マルコ 5:41 - 42；ヨハネ 5:8 - 9 参照
11. 教義と聖約 18:13
12. 教義と聖約 121:45
13. 教義と聖約 121:46 参照
14. トーマス・S・モンソン「従順は祝福をもたらす」『リアホナ』2013 年 5 月号、89
15. リチャード・G・スコット「平安に満ちた家庭を築くために」『リアホナ』2013 年 5 月号、29
16. 多くの新しい宣教師が行うことを説明するに当たり、ラッセル・M・ネルソン長老は次のように語りました。「宣教師がいつも行ってきたことをこれから先も行います。福音を宣べ伝え、全能の神の子供たちに祝福をもたらすのです。」(「波に乗る」『リアホナ』2013 年 5 月号、45)
17. 「わたしの福音を宣べ伝えなさい」v 参照
18. トーマス・S・モンソン「神権持つ子らよ」『リアホナ』2013 年 5 月号、66
19. マタイ 28:19 - 20
20. モルモン 1:2
- 21.3 ニーフアイ 5:13





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

あなたなら、今できます

再び起き上がって……道を歩み続けようとするかぎり、失敗から何かを学び、……より良く、またより幸せになれます。

幼いころは、転ぶと同時に起き上がったものでした。しかし、年を取ると物理の法則が変わってしまったようで、わたしに不利な結果をもたらすようになりました。

先日、わたしは12歳の孫と一緒にスキーをしました。一緒に楽しい時間を過ごしていたとき、わたしは凍った雪にスキーをとられ、急斜面を派手に転びながら胴体着陸しました。

何とかして立ち上がろうとしましたが、できません。転んだまま、起き上がれなかったのです。

体は大丈夫でしたが、自尊心はいささか傷つきました。それで、ほかのスキーヤーに気づかれなくて、ヘルメットとゴーグルがちゃんと付いているか確かめました。わたしは、自分がどうすることもできずに座り込んでいて、そのそばを彼らが優雅に滑りながら、楽しげに「こんにち、ワークトドルフ兄弟」と叫んでいる有様を想像しました。

わたしは助けをもらうために何が必要かと思い始めました。そのときに孫がわたしのところに来ました。わたしは何が起こったかを告げましたが、彼はわたしが起き上がれない理由の説明にはまったく興味がないようでした。わたしを見て手を伸ばした孫は、わたしの手を取って、きっぱりした口調で「おじいちゃんなら、

今できるよ」と言いました。

即座に、わたしは立ち上がりました。

わたしは今もって信じられません。不可能に思えたことが次の瞬間には可能になったのです。12歳の少年が手を差し伸べて、「今できるよ」と言ってくれたからです。それによって、わたしは確信とやる気と力を増したのです。

兄弟の皆さん、立ち上がって歩み続けるのに自分の力が足りないと思われることが、人生には時折あります。わたしはあの日、雪の斜面で大切なことを学びました。起き上がれないと思うときでさえ、まだ希望があります。目を見て、手を取り、「今できるよ」と言ってくれる人を必要とすることが、時折あります。

強さに関する誤解

女性は男性よりも至らなさや落胆を感じやすい、つまりそのような感情は男性よりも女性に影響しやすいと考えている人がいるかもしれませんが、わたしはそうは思いません。男性は罪悪感や抑うつ、挫折を味わいます。このようなことを思い悩んでいないふりをするかもしれませんが、実際は悩んでいるのです。失敗や弱さによる重荷をひどく感じると、二度とうまくいかないと思うようになります。前に転んだので、転ぶのが自分の定めだと思い込むことさえあります。ある作家はこう述べ

ています。「我々は、前へ前へと進み続けるのだ。流れに立ち向かうボートのように、絶え間なく過去へと押し戻されながらも。」¹

わたしは、潜在的な能力と優しさを十分に備えている人々が、1度や2度の失敗のために神の王国を築くというやりがいのある業から身を引くのを見てきました。ひととき優れた神権者となり神の僕となれたはずの有望な人々です。しかし、つまずき、落胆したことで、神権の務めから身を引き、ほかのそれほど価値のないものを追い求めるようになりました。

こうして彼らは、指導的役割を果たせなかったはずの人生をひっそりと過ごし、生得権である潜在的な能力をまったく発揮せずにいます。ある詩人が嘆いているように、これらの人々は、「自分が奏でられる音楽を心に秘めながら死んでいく」不幸な人です。²

失敗するのが好きな人はいません。特に、愛する人々には自分の失敗する姿を見られたくないものです。人は皆、尊敬され、重んじられたいと思っています。チャンピオンになりたいと思っています。しかし、わたしたち人間は、努力と鍛錬なしに、あるいは間違いをせずに、チャンピオンにはなれません。

兄弟の皆さん、わたしたちの行く末は、つまずく回数ではなく、立ち上がり、ちりを払い、歩みを進める回数によって決まるのです。

神の御心に添った悲しみ

わたしたちが知っているように、この死すべき生涯は試しの時です。しかし、天の御父は完全な愛をもってわたしたちを愛してくださっているのです。答えを見つけることのできる場所を明らかにしておられます。よく知らない地域やそれぞれが遭遇する予期せぬ試練を通り抜けるための地図を与えてくださっています。預言者の言葉はその地図の一部なのです。

わたしたちが道からそれるとき、つまり



転んだり天の御父の道から外れたりするとき、預言者の言葉は、起き上がって道に戻る方法を告げてくれます。

何世紀にもわたって預言者たちが教えてきたすべての原則の中で、何度も繰り返し強調されてきたことがあります。それは、人は悔い改め、進路を変え、弟子として正しい道に立ち戻ることができるという、希望に満ちた、心を鼓舞するメッセージです。

自分の弱さや間違いや罪に甘んじてよいという意味ではありません。悔い改めに至る罪に対する悲しみと、絶望に至る悲しみとの間には、重要な違いがあります。

使徒パウロはこう教えています。「**神のみごころに添うた悲しみ**は、悔いのない救を得させる悔改めに導き、**この世の悲しみ**は死をきたらせる。」³ **神のみごころに添うた悲しみ**は、イエス・キリストの贖罪による変化と希望を促します。**この世の悲しみ**は、わたしたちを弱らせ、希望を失わせ、さらなる誘惑に屈するように説き付けます。

神のみごころに添うた悲しみは、改心⁴と心の変化⁵を招きます。それはわたしたちに罪を憎ませ、善を愛させます。⁶ 立ち上がって、キリストの愛の光の中を歩むように促します。真の悔い改めにとって肝要なのは、苦悩と苦痛ではなく、変わることです。そうです。不従順を心から悔い、真に後悔することは、多くの場合、苦痛を伴いますが、神聖な悔い改めの過程におけるとても重要な段階なのです。しかし、罪悪感が自己嫌悪をもたらし、あるいは

再び起き上がるのを妨げる場合、それは悔い改めを促すどころか、むしろ妨げとなります。

兄弟の皆さん、良い方法があります。立ち上がり、神の人となりましょう。わたしたちにはチャンピオン、わたしたちに代わって死の陰の谷を歩まれた救い主^{あがな}がおられます。救い主はわたしたちの罪の贖いの代価として御自身をささげられました。これよりも大きな愛はありません。傷のない小羊イエス・キリストは、自発的に犠牲の祭壇に身を横たえ、わたしたちの罪のために「最後のコードラント」まで払ってくださいました。⁷ 救い主はわたしたちの苦しみをその身に引き受けられました。わたしたちの重荷、罪の責任をその肩に負われました。愛する友である皆さん、救い主のもとに来る決意をするとき、救い主の御名を受け、弟子としての道を勇気をもって歩むとき、贖罪を通じてわたしたちは、「この世に」おける幸福と「平和」だけでなく、「来るべき世に〔おける〕永遠の命」も約束されるのです。⁸

間違いを犯すとき、また罪を犯して転ぶとき、心から悔い改めるとはどういう意味かを考えましょう。それは自分の心と思いを神に向けること、そして罪を捨てるという意味です。真実の心からの悔い改めはそれに伴って「今できる」という天与の確信をもたらします。

あなたは何者か

わたしたちの進歩を妨げるサタンの方法の一つは、自分は実際に何者であり、実際に何を望んでいるかについて、わたし

たちを混乱させることです。

わたしたちは子供たちと一緒に時間を過ごしたいと思いますが、人として自分の好きな趣味の時間を持ちたいとも思いません。体重を減らしたいと思いますが、食べたい物を食べたいとも思いません。キリストのようになりたいと思いますが、自分の車の前に割り込んできた車のドライバーを非難したいとも思いません。

サタンの目的は、わたしたちを誘って、真実の幸せと永遠の価値がある非常に高価な真珠を、プラスチック製の偽の小さな装身具と交換させることです。それは、幸せと喜びに見せかけた幻影であり、まがいものにすぎません。

わたしたちに立ち上がるのをやめさせるためサタンが用いるもう一つの方法は、戒めを、わたしたちに強要されているものと思わせることです。そもそも自分の考えではないように見えるものに反対するのが人間の習性であるように思われます。

健康に良い食べ物と運動を、単に医師から期待されていることと見なす場合、わたしたちは失敗するでしょう。しかし、自分は何者であり、どのような人物になりたいかということによってこれらの選びに目を向けるならば、道にとどまって成功を得るすばらしい機会があります。

ホームティーチングをステーキ会長の目標にすぎないと見なす場合、それを行うのをあまり価値あることと思わないかもしれません。それを自分の目標、すなわち、もっとキリストのようになり、ほかの人々に仕えるために行いたいことと見なすならば、自分の責務を果たすだけでなく、訪

問先の家族と自分の家族に祝福をもたらす方法でそれを成し遂げることもなるでしょう。

わたしたちはしばしば、友人や家族から助けを受けます。しかし、注意力を働かせて、ほかの人々の役に立ちたいという思いをもって周囲を見回せば、ほかの人々が起き上がって自分のほんとうの潜在的な能力を発揮するのを助ける機会が、主からわたしたちに与えられていることに気づくでしょう。聖典にはこう述べられています。「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。」⁹

高潔で義にかなった生活を送り、永遠に住みたいと願う場所に目を向け続けることは、霊的な力を得る偉大な源です。たとえ信仰の目をもってその神聖な目的の場所を見るだけだとしても、その道にとどまるようにするのに役立つことでしょう。

日々の成功や失敗にあまりにも心を奪われていたら、道を見失い、さまよい、転んでしまうかもしれません。より高い目標に目を向け続けるなら、もっと良い息子、兄弟、もっと優しい父親、もっと愛情深い夫になれることでしょう。

神聖な目標を心に留める人々でさえ、時にはつまずくかもしれませんが、彼らは負けません。彼らは神の約束を信頼し、約束に頼ります。義の神に明るい希望を抱き、大いなる将来について靈感あふれるビジョンをもって、再び立ち上がります。自分は今できるということを知っているのです。

あなたなら、今できます

すべての人が、老若を問わず、個人的に転んだ経験があることでしょう。転ぶことは死すべき人のだれもが経験することです。しかし、再び起き上がって、神から与えられた霊的な目標に向かって道を歩み続けようとするかぎり、失敗から何かを学び、その結果としてより良く、またより幸せになれます。



愛する兄弟であり、友である皆さん、立てない、あるいは歩み続けられないと思うことが、時折あるでしょう。どうか救い主と救い主の愛に頼ってください。主イエス・キリストを信じる信仰と、回復された福音のもたらす力と希望によって、皆さんは胸を張って歩み続けることができるでしょう。

兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんを愛しており、皆さんのために祈っています。モンソン大管長が皆さんのために祈っている言葉を皆さんにも聞いていただけたらと思っています。若い父親か、高齢の神権者か、聖任されて間もない執事かを問わず、わたしたちは皆さんを心にかけています。主は皆さんを心にかけておられます。

わたしたちは、皆さんの道が時々困難であることを承知していますが、主の御名によって次のことをお約束します。立ち上がって、贖い主、救い主の足跡に従ってください。そうすれば、いつの日か皆さんは振り返って、贖罪と、自分を引き上げて力を与えてくれた贖罪の力に頼る選

びをしたことへの永遠の感謝の念に満たされることでしょう。

愛する友人と兄弟の皆さん、何度滑り、転んでも、立ち上がってください。あなたの行く末は輝かしいものです。まっすぐに立って、イエス・キリストの回復された福音の光の中を歩んでください。あなたは自分が気づいている以上に強く、想像する以上に有能です。あなたなら、今できます。このことを、わたしたちの主であり贖い主であるイエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■

注

1. F・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』村上春樹訳、中央公論新社、325 - 326
2. オリバー・ウェンデル・ホームズ "The Voiceless," *The Complete Poetical Works of Oliver Wendell Holmes* (1908年), 99
3. 2コリント7:10, 強調付加
4. 使徒3:19 参照
5. エゼキエル36:26; 2コリント5:17; モーサヤ3:19 参照
6. モーサヤ5:2 参照
7. マタイ5:26
8. 教義と聖約59:23
9. コロサイ3:23



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

人々の傷を癒す

この世の旅路を歩むわたしたちに主がお与えになる神権の務めがどのようなものであれ、それを行うために自らを備えられるようお祈りします。

わたしたちは皆、ほかの人を世話する責任という祝福を受けています。神の神権を持つとは、神の子供たちの永遠の命に対して神から責任を受けているということです。それは現実にあるすばらしいものですが、時には重荷に感じられることもあります。

今晚、皆さんの中には、わたしの言わんとすることが分かる長老定員会会長がいるでしょう。会長の一人に起きたことをお話ししましょう。恐らく、多くの会長が一度ならず経験したことがあるでしょう。細かい点は異なるかもしれませんが、状況は同じです。

ある会長があまりよく知らない長老から助けを求められました。本日中に、これまで住んでいたアパートから近くの別のアパートへ妻と幼い息子を連れて引っ越さなくてはならなくなったのです。

その夫婦はすでに、家財道具や身の回りの品を運ぶために、友人にトラックを貸してくれるように頼んでありました。友人はトラックを使わせてくれました。若い父親は家財道具をすべてトラックに積み込み始めましたが、数分もたたないうちに、腰を痛めてしまいました。トラックを貸してくれた友人は、忙しくて助けに来ることができませんでした。若い父親は絶望的な気持ちになりました。すると、皆さんのような長老定員会会長のことが頭に思い

浮かびました。

助けの要請があったときは、もう昼を過ぎていました。夕方には教会の集会がある日でした。会長はその日、家の用事を手伝うと妻に約束していました。子供たちから一緒にやろうと頼まれていたこともあり、今までなかなか時間が取れなかったのです。

定員会の会員たち、特にいつも助けを頼む最も忠実な会員たちは、同じときに難しい状況にあるかもしれないことも、会長は知っていました。

主はこの職に皆さんを召したとき、そのような困難な問題に出遭うことを御存じでした。そこで、皆さんを励ますために、ある話をしてくださったのです。それはあまりにも忙しい神権者のためのたとえです。良いサマリヤ人の話と呼ばれることもあります。しかし、それはまさに、この末日の忙しい困難な時代に生きる立派な神権者のための話です。

その話は重すぎる荷を背負う神権者にぴったりの話です。皆さんはサマリヤ人であり、傷ついた人のそばを通り過ぎた祭司やレビ人ではないことを忘れないでください。

皆さんがそうした困難な問題に直面したときには、その話について考えなかったかもしれませんが、しかし、そのような日が再び来るときには考えるように願っています。そのような日は必ずまたやって来ます。

聖文には、サマリヤ人がエルサレムからエリコへ向かっていた理由について書かれていません。独りで歩いていたとは思えません。無用心な旅人を強盗がねらっているのを知っていたはずだからです。大事な用があったのでしょうか。慣例に漏れず、家畜にオリブ油やぶどう酒などが入った荷を積ませていたことでしょうか。

主の言葉によると、サマリヤ人は傷ついた人を見ると足を止めました。「気の毒に思〔った〕」からです。

ただ気の毒に思うだけでなく、行動しました。この話の詳細をいつも心に留めてください。

「近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。」¹

皆さん、そして皆さんが導くよう召されている神権者たちは、少なくとも3つの確約を受けることができます。第1に、もし皆さんが求めるなら、困っている人に対して主が感じておられる哀れみの気持ちを、主は皆さんにもお与えになります。第2に、皆さんが奉仕するときに、宿屋の主人のような助け手を主は与えてくださいます。第3に、主は、良いサマリヤ人のように、困っている人を助けるすべての人に、あふれんばかりの報いを与えてくださいます。

定員会会長の皆さんは一度ならず、このような確約に基づいて行動したことがあるでしょう。主の神権を持つ人たちに助けを要請したとき、哀れみの気持ちで応じてくれると確信していたでしょう。これまで最も頻繁に応じてくれた人たちに、ためらわず依頼したでしょう。なぜなら、彼らが哀れみの気持ちを感じやすい人たちであり、主の寛容さを感じて、これまで人助けをしてきた人たちだと知っていたからです。また、すでに多くの重荷を背負ってい

る人にも頼んだことでしょう。犠牲が大きければ大きいほど、主から受ける報いも大きくなることを知っていたからです。これまで助け手となった人々は、救い主のあふれんばかりの感謝の気持ちを感じたことがあるでしょう。

あのトラックの荷の上げ下ろしの手伝いについて、ある人には頼むのを控えた方がよいという気持ちになったとしたら、それはそれでもっともなことです。あなたは指導者として定員会の会員やその家族をよく知っています。また、主は、すべて御存じです。

次のような人がだれか、主は御存じです。夫が妻の必要を満たすために必要なことを行う時間を見つけられないために、妻ががまんの限界に達しつつある夫婦。父親がもう一度、人助けに行く姿を見ることによって祝福される子供。あるいは、その日、一緒に過ごして、父親にとって自分が大切な存在だということを実感する必要がある子供。しかし、人を助けられそうにない、あるいは進んで助けようとしなない人だと思われても、奉仕を促す必要のある人はだれかも主は御存じなのです。

皆さんは定員会の全員についてすべてを知ることはできません。しかし、神は御存じです。ですから、皆さんはこれまで何度もしてきたように、奉仕を助けてくれるようだれに頼めばよいか分かるよう祈ったことでしょう。助けを依頼されることによって祝福される人、または依頼されないことによって祝福される家族を主は御存じです。それは皆さんが神権者を導く際に受けると期待してもよい啓示です。

わたしは若いときに、そのような経験があります。わたしは祭司定員会の第一補佐でした。ある日、ビショップから家に電話がありました。夫に先立たれた女性が非常に困っているので、訪問するために同行してほしい、わたしに来てほしいと言うのです。

家へ迎えに来るビショップを待っていると、複雑な気持ちになりました。ビショップ



プには堅固で賢い顧問がいました。一人は有名な判事でした。もう一人は大きな会社を経営しており、後に中央幹部になる人でした。ビショップ自身もいつか幹部を務めるような人でした。なぜ未熟な祭司に「あなたの助けが必要です」と言ったのでしょうか。

今となってみると分かりますが、ビショップはこう言ってもよかったです。「主にはあなたを祝福する必要がおりになるのです。」訪問先の女性の家で、意外にもビショップがこう言うのを聞きました。「以前に差し上げた予算の用紙に書き込まなければ、教会から援助を受けることはできませんよ。」家へ帰る途中、ビショップは意外な表情をしているわたしを見ると、笑って言いました。「彼女は家計の出費を抑えることができるようになると、ほかの人を助けられるようになりますよ。」

別の折にビショップは、両親ともにアルコール依存症の会員の家にわたしを連れて行きました。おびえた表情の二人の幼い少女が両親から言われて、戸口で出迎えてくれました。二人の少女と少し話した後、わたしたちはその家を後にしました。ビショップはわたしにこう言いました。「わたしたちはまだあの家族の生活の悲劇を変えることはできないが、家族の人たちは主から愛されていることを感じる事ができるよ。」

また別の日の夕方、ビショップに同行し

て、長年教会に来ていない男性の家へ行きました。ビショップは自分がいかにその人を愛しているか、またワードの人々がいかにその人を必要としているかを語りました。その人にはあまり大きな影響がなかったようでしたが、わたしはビショップに同行するときはいつでも、大きな影響を受けました。

以上のような訪問に同行することによって、どの祭司が祝福を受けるかを知るために、ビショップが祈ったかどうか、わたしにはとうてい分かりません。ほかの祭司を同行させてもよかったと思われる場合も幾度となくあったことでしょう。しかし、主は御存じでした。いつかわたしがビショップになり、信仰が弱くなった人々に福音の温かさを再び味わうよう勧めることになる。また、物質的にひどく困っている、何百人、あるいは何千人もの天の御父の子供たちに対する神権の責任を与えられるようになると。

若い男性の皆さんは、主が皆さんのためにどのような神権の務めを備えておられるかを知ることはできません。しかし、どの神権者にとってもいっそう大きな課題は、霊的な助けを与えることです。わたしたちには皆、その責任があります。それは定員会会員に課せられた責任です。家族の一員が持っている責任です。もし皆さんの定員会または家族の中のだれかが、サタンから信仰を攻撃されたら、皆さ

んは哀れみを感じるでしょう。サマリア人が奉仕と慈悲の行いをしたように、必要ときに傷を癒すために香油を塗ってあげることでしょう。

皆さんは専任宣教師として奉仕するときに、霊的に大きな必要性を抱えた何千人もの人たちのもとへ行くでしょう。多くの人は、皆さんから教えられるまでは、自分が霊的な傷を持ち、手当てを受けなければ際限のない苦悩にさいなまれることさえ分からないのです。皆さんはそのような人々を救うために、主の用向きを受けるのです。永遠の命へ通じる儀式を受け入れる人々に対して、主だけが霊的な傷を癒す力を持っておられるのです。

皆さんは定員会会員、ホームティーチャー、宣教師として、強い信仰を持たないかぎり、人々が霊的な傷を治すのを助けることはできません。つまり、定期的に聖文を読み、聖文について祈る以上のことを行わなければなりません。困ったときに祈ったり、ちらっと聖文を読んだりするだけでは、十分な準備はできません。皆さんが必要とするものは、次の勧告で再確認することができます。教義と聖約第

84章にこう書かれています。「また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」²

その約束が果たされるのは、命の言葉を「大切に蓄え」、それを続けて行うときに限ります。その聖句の大事な部分には、わたしにとって、命の言葉について何らかの特別な気持ちを感じるという意味があります。例えば、預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しについて信仰が揺らいでいる人を助けようとするとき、自分が抱えてきた特別な気持ちが再びわき上がってくるのです。

わき上がってくるのは、モルモン書の言葉だけではありません。モルモン書の中の数行でさえ、読むときはいつでも、確かに真実であるという気持ちがわいてくるのです。預言者ジョセフ・スミスやモルモン書について疑念を抱いている人には、このような気持ちがわいてくると必ずしも約束することはできません。しかし、わた

しはジョセフ・スミスが回復の預言者であると知っています。また、モルモン書が神の御言葉であると知っています。なぜなら、それを大切にしてきたからです。

わたしは経験から知っています。皆さんは御霊の力によって真理に対する確信を得られます。なぜなら、わたしもその確信を得てきたからです。わたしたちの愛する旅人が真理に敵対する人々によって傷つけられてうずくまる道に、主がわたしたちを置かれる前に、皆さんもわたしもその確信を得なければなりません。

わたしたちがしなければならぬ準備がもう一つあります。ほかの人の苦痛に冷淡になるのは人間の特性です。そのような理由もあって、主の贖罪について、また天の御父のすべての子供を助けるために、彼らの苦痛と悲しみを御自身に引き受けたことについて、主が労を惜しまずに語られたのです。

この世で最も素晴らしい、天の御父の神権者でさえも、そのような深い哀れみの域に容易に達することはできません。わたしたち人間には、自分には非常に明瞭な真理が分からない人に対していろいろ





トーマス・S・モンソン大管長

する傾向があります。わたしたちの性急さが非難や拒絶と解釈されないように注意しなくてはなりません。

主の神権を持つ僕として主に代わって人を助ける備えをするとき、指針となる聖句があります。主がわたしたちをどこへお遣わしになっても、わたしたちの旅路に必要となる賜物について述べている聖句です。良いサマリヤ人はその賜物を持っていました。わたしたちにはそれが必要です。それを見いだす方法を主は教えておられます。

「したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大なるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」³

この世の旅路を歩むわたしたちに主がお与えになる神権の務めがどのようなものであれ、それを行うために自らを備えられるようお祈りします。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. ルカ 10:33 - 35
2. 教義と聖約 84:85
3. モロナイ 7:46 - 48

まことの羊飼い

ホームティーチングは多くの祈りの答えとなり、人の生活に起こる変化を目にする機会となります。

今 晩、ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターと様々な場所に、神の神権を持つ者たちが集っています。皆さんは、使徒ペテロが言うとおり、まことに忠実なる神権者「選ばれた種族」¹です。皆さんにお話する特権を光榮に思っています。

子供のころ、わたしの家族は毎年夏に、ソルトレーク・シティーから車で70キロ(45マイル)南下して、少し東に入った所にあるプロボキャニオンに行き、家族用の山小屋で数週間過ごしました。わたしたち男兄弟は、川で魚を釣ったり、泳いだりするのを待ち遠しくて、何とか車を急がせようとしたものです。当時、父の車は1928年型のオールズモデルでした。車の速度が時速60キロ(35マイル)を超えると、母はよく「ブレーキ、ブレーキ」と言ったものです。わたしの方は「パパ、アクセルだよ、アクセル!」と言いました。

父はプロボキャニオンに到着するまで、カーブを曲がる時以外はずっと時速60キロで走り続けるのでした。羊の群れに遭遇すると車は完全に停止しました。何百匹もの羊が通り過ぎますが、羊飼いの姿は見えず、2、3頭の犬だけがほえながら羊をせき立てています。ようやくはるか後方から羊飼いが馬に乗って登場します。馬には、くつわをかませず、端綱だけで引いています。羊飼いは、くらの上で前かがみになり、居眠りをしています。馬

が道を覚えていて、犬が羊を追ってくれるのです。

その様子は、何年も前にドイツ・ミュンヘンで見た光景とは対照的でした。それは日曜の朝で、わたしたちは宣教師大会に向かっていました。伝道部会長の車の窓から外を眺めると、一人の羊飼いが杖を握り、羊たちを導いていました。羊たちは羊飼いが行く方向へついて行きました。羊飼いが左へ動けば、羊たちも左へ、右へ動けば、同じ方向へついて行きます。羊を導くまことの羊飼いと、羊の後ろから気楽に馬で行く羊飼いととはこうも違うものかと思いました。

イエスは、「わたしはよい羊飼ひであって、わたしの羊を知……る」²と言われ、まことの羊飼ひの完全な模範を示されました。

兄弟の皆さん、神権者であるわたしたちには、羊飼ひの責任があります。主の知恵によって、教会の家族を導く羊飼ひとなるために、彼らに仕え、彼らを教え、彼らに証を述べるための指針が示されました。それはホームティーチングと呼ばれており、それが今晚のわたしのお話のテーマです。

教会の各ワードのビショップは、毎月会員の家庭を訪問するホームティーチャーの責任が神権者に割り当てられる過程を見守ります。彼らは二人一組で行動します。可能な所では、アロン神権の祭司か



教師の若い男性が、メルキゼデク神権を持つ成人に同行します。自分たちが担当する人々の家に招き入れられると、アロン神権者もレッスンの中で割り当てられた役割を果たします。こうした割り当ては、若い男性にとって伝道の準備になり、また生涯にわたって神権者として奉仕をする備えになります。

ホームティーチングは「教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、……また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧め……常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強め……教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らう」³ という、神権者に託された近代の啓示にこたえるプログラムです。

デビッド・O・マッケイ大管長は勧告しています。「ホームティーチングは、御父の子供たちを養い、鼓舞し、助言し、指導するために、最も差し迫った報いの大きいプログラムの一つである。……それは神聖な奉仕の機会であり、天よりの召しである。ホームティーチャーとして、天からの靈感をあらゆる家庭に、人々の心の中にもたらす務めは、わたしたちの義務である。この務めを愛し、全力を尽くすなら、神の子供を教える〔高貴で〕献身的な〔教師〕に、計り知れない平安と喜びと満足をもたらされる。」⁴

モルモン書にはこうあります。アルマは「民のすべての祭司とすべての教師を任命した。また、正しい人でなければだれも任命されなかった。

そして、彼らは民を見守り、義にかかわることをもって彼らを養った。」⁵

ホームティーチングの責任を果たすに当たって、家族一人一人の問題について知り、理解することが賢明です。教えたり、必要な助けを与えたりするときに効果的に働くことができるからです。

訪問の際には、事前に約束をしておいた方がずっとうまくいくものです。この点について説明するために、何年か前に経験したことを紹介しましょう。当時の宣教師管理役員会は、スベンサー・W・キンボール、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソンの3人で構成されていました。ある晩、ヒンクレイ夫妻が役員会の夫婦を夕食に招いてくれました。わたしたちがちょうど食事を終えたその時、だれかが玄関のドアをノックしました。ヒンクレイ大管長がドアを開けると、一人のホームティーチャーが立っていて、こう言ったのです。「訪問の約束もしていませんでしたし、同僚も一緒ではないのですが、今晚訪問するべきだと感じたので参りました。お客様がいらっしゃっていると存じませんでした。」

ヒンクレイ大管長は彼に、中に入って、いすに座って、3人の使徒とその妻たちに

教会員の義務について教えてくださいと優しく勧めました。若干不安の色はありましたが、ホームティーチャーは最善を尽くしました。ヒンクレイ大管長が「訪問してくれてありがとう」と伝えると、彼は急いで出て行ってしまいました。

好ましくないホームティーチングの例について、もう一つ紹介しましょう。何年か前に大管長会の顧問を務めたマリオン・G・ロムニー管長は、自分のホームティーチャーについてよく話してくれました。ある寒い冬の夜にロムニー家を訪れたホームティーチャーは、いすに座ってメッセージを伝えてくださいと勧められても、帽子を手にしたまま、そわそわしています。そして立ったまま、こう言ったのです。「ロムニー兄弟、外は寒いので、車のエンジンをかけたままにしてくださいね。実はビショップに報告できるよ、ちょっと寄らせてもらっただけなんです。」⁶

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、神権者の集会でロムニー管長の経験を紹介して、こう言いました。「兄弟の皆さん、わたしたちにはこれ以上のことができるはずですよ。もっとよくできるはずですよ。」⁷ わたしもそう思います。

ホームティーチングは月に1度の機械的な訪問以上のものです。わたしたちの責任は、教え、靈感を与え、動機づけること、そして活発でない人には、活発になって、やがて神の息子娘として昇栄するように助けることなのです。

ホームティーチャーに確実に当てはまる思慮深い勧告を紹介しましょう。これはエイブラハム・リンカーンの言葉です。「人の信頼を勝ち得たければ、まず自分が真の友であることを相手に確信させなさい。」⁸ エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう勧めています。「とりわけ、担当の家族や個人と真の友情を築いてください。……友なら、毎月義務的な訪問以上のことをします。友なら、自分の成績よりも人助けに関心を持ちます。友は親切で、愛を示し、耳を傾けます。また、友なら



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウーグクトドルフ

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファアソン



ロナルド・A・ラスバンド



L・ハイット・ミラー



ドナルド・L・ホールストロム



タッド・R・クリストファー



リチャード・J・メイソン



クレイグ・C・クリステンセン



ウォリセス・ソアレス

七十人会長会

七十人第一定員会 (アルファベット順)



マルコス・A・
アイドンディス



ホセ・L・アロンソン



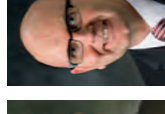
カロス・H・
アマード



イアン・S・
アルテルン



マービン・B・
アーノルド



デビッド・S・
バックスター



スティーヴン・M・
ボーン



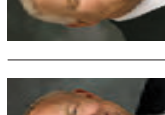
クレイグ・A・
カードン



ドン・R・クラーク



デビッド・F・
エバンス



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・G・
スターズ



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



カール・B・クラーク



ロランド・E・
コーブリット



ロバート・C・グレイ



カルロス・A・
ホイ



クリストフエル・
コーブリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



ロバート・J・
ピテン



スティーヴン・M・
ボーン



ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



デビッド・F・
エバンス



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



イアン・R・
ファラベラ



ブライアン・K・
エリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・J・C・
スコット



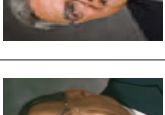
ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



デビッド・F・
エバンス



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



ポール・V・
ジョンソン



ブライアン・K・
エリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



デビッド・F・
エバンス



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



ポール・E・
エノ



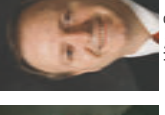
ブライアン・K・
エリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



デビッド・F・
エバンス



ロバート・J・C・
スコット



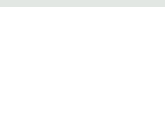
ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



ポール・E・
エノ



ブライアン・K・
エリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



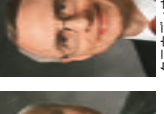
ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・J・C・
スコット



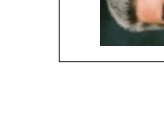
ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



デビッド・F・
エバンス



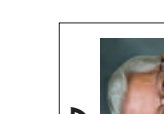
ロバート・J・C・
スコット



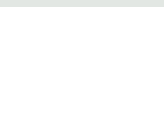
ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



ポール・E・
エノ



ブライアン・K・
エリット



ウィリアム・W・
エリット



アラン・R・
ダンカン



ロバート・G・
スターズ



ダニエル・L・
ジョンソン



ロバート・J・C・
スコット



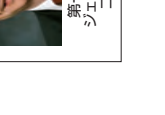
ケビン・W・
ピテン



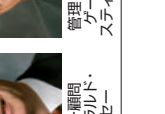
アラン・W・
アンダーソン



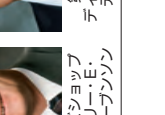
デビッド・F・
エバンス



ロバート・J・C・
スコット



ケビン・W・
ピテン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン



アラン・W・
アンダーソン

七十人第二定員会 (アルファベット順)



ウィルフョード・W・
アンダーソン



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



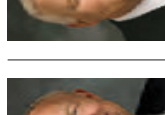
ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット



ロバート・J・C・
スコット





トーマス・S・モンソン大管長の言葉にあるように、総大会の様子は、「大陸を越えて、世界各地に」届けられた。写真の会員と宣教師は、左上から時計回りに、イタリアのローマ、フィリピンのカビテ、ペルーのリマ、テキサス州のコリービル、ブラジルのフォズ・イグアス、イングランドのロンドン、パナマのアライジャン、フランスのリヨンで撮影された。



ら、助けの手を差し伸べます。」⁹

ホームティーチングは多くの祈りの答えとなり、人の生活に起こる変化を目にする機会となります。

ディック・ハマーがその良い例です。彼は大恐慌時代に資源保全市民部隊の一員としてユタ州にやって来て、末日聖徒の女性と知り合い、結婚しました。彼はユタ州セントジョージでディックス・カフェという飲食店を始め、店は繁盛しました。

ハマー家族のホームティーチャーは、わたしの友人ウィラード・ミルンでした。ディックの店のメニューを印刷した関係で、わたしも彼をよく知っていたので、セントジョージを訪れる度に、ミルン兄弟にこう尋ねました。「ディックは改宗しそうかい。」

返事はたいていこうでした。「すると思うよ。いつかはね。」

ウィラード・ミルンは同僚とともに毎月ハマー家族を訪問し、いつも何とかしてディックと家族に福音のメッセージと証を伝えていました。

時は流れ、ある日ウィラードが電話で良い知らせを伝えてくれました。「モンソン兄弟、ディック・ハマーが改宗してバプテスマを受けることになったよ。今年で彼も90歳、わたしたちはずっと友達だったね。彼の決心を聞いて、胸がいっぱいだよ。長年、彼のホームティーチャーだったから。」このうれしい知らせを伝えるウィラードの声は震えていました。

ハマー兄弟はバプテスマを受け、1年後には美しいセントジョージ神殿に入り、エンダウメントと結び固めの祝福を受けました。

ウィラードにこう聞いてみました。「長年彼のホームティーチャーをしてきて、失望したことはなかったかい。」

彼の答えはこうでした。「なかったよ、全力を尽くす価値があったからね。ハマー家族の喜びを見て、感謝で満たされているよ。福音が彼らの生活にもたらした祝福と、わたしが少しでも助けになる特



権を頂いたことに感謝している。わたしは幸せ者だ。」

兄弟の皆さん、教会にあまり前向きでない人、十分に決意をしている人、そのような多くの人々を長年にわたって訪問し、教えることはわたしたちの特権となるでしょう。自分の召しに誠実であるなら、人生を祝福する多くの機会に巡り合うでしょう。教会から少し距離をおいている人々を訪問することは、やがて彼らが戻

て来るための扉を開けるきっかけになるのです。

そのことを心に留めて、自分が担当する人々に手を差し伸べて主の食卓に招き、主の御言葉を味わってもらい、主の御霊を伴侶とすることに喜びを感じてもらい、「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族」¹⁰となってもらおうではありませんか。

自分のホームティーチングについて自己



満足に陥っている人がいるなら、ホームティーチャーとしての義務を遂行するために、自分を再奉獻する時は今であると申し上げます。皆さんが担当する人々に手を差し伸べるために、どんな努力も惜しまずにしよう、今決意してください。時には、一緒に行くための時間を確保するように、同僚を少し励ます必要があるかもしれませんが、根気強く続けていれば、必ず道は開けます。

兄弟の皆さん、ホームティーチングは継続します。この業は、主が「もう十分である」と言われるまで終わりません。光を必要とする人生があり、慰めを必要とする心があり、救いを必要とする魂があります。わたしたちの神聖な特権は、託されたかけがえのない人々に光と、慰めと、救いを与えることなのです。わたしたちは忠実に、喜びに満ちて、そうするべきです。

最後に、理想のホームティーチャー像を示す特別な模範に心向けたいと思います。他のすべてを凌駕する生涯を送った教師がいます。その教師は、命と死、義務

と行く末を教えました。彼は、仕えられるのではなく仕えるため、受けるのではなく与えるため、自分の命を救うのではなく人のために自分の命を犠牲にするために、生きました。欲望よりも美しい愛を、富よりも豊かな貧しさを、彼は教えました。律法学者のようにではなく、権威ある者のように教えたのはこの教師でした。¹¹ 彼の律法は石の上ではなく、人の心に刻まれました。

わたしが話しているのは、主なる教師、イエス・キリスト、神の御子、全人類の救い主、贖い主のことです。聖書の記録では、この御方は「よい働きをしながら……巡回され」¹²たとあります。その御方を確かな導き手、模範者として、ホームティーチングを行う際に、その御方の聖なる助けを受けるにふさわしい者となりましょう。人生は祝福され、心は慰められ、魂は救われるでしょう。わたしたちはまことの羊飼いになるのです。そうなりますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。■

注

1. 1ペテロ2:9
2. ヨハネ10:14
3. 教義と聖約20:42, 47, 53-54
4. デビッド・O・マッケイ, *Priesthood Home Teaching Handbook*, 改訂版(1967年), ii-iii
5. モーサヤ23:17-18
6. マリオン・G・ロムニー, 神権ホームティーチングセミナーにおける説教で引用, 1963年8月9日
7. エズラ・タフト・ベンソン「教会のホームティーチャーへ」『聖徒の道』1987年7月号, 54
8. エイブラハム・リンカーンの言葉, デビッド・デキャンブ・トンプソン, *Abraham Lincoln, the First American* (1895年), 226で引用
9. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1987年7月号, 54 参照
10. エペソ2:19
11. マタイ7:28-29 参照
12. 使徒10:38



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

わたしの孫たちへ

困難に立ち向かいながらも幸福な家族を作るための最も重要な戒めがあります。

今年、わたしの最初の二人の孫が結婚します。数年以内には、ほかの10人の孫も、「家族を作る」という、人生のすばらしい時期を迎えることになるでしょう。

この喜ばしい時期に、孫たちから助言を求められるおかげで、わたしは深く考える機会を得ました。孫たちの質問は基本的にはこういうことです。「どのような選択をすれば、幸福になれるの?」そして「どのような選択をすると、不幸になるの?」

御父は一人一人の人を個性的な者とされました。二人としてまったく同じ経験をする人はおらず、二つとして同じ家族はありません。ですから当然、幸福な家族生活を選ぶ方法に関する助言は簡単ではありません。しかし、御父はすべての子供たちに、幸福へ通じる一つの道を備えられました。個性や経験がどうあれ、幸福の計画は一つしかありません。その計画とは神のすべての戒めを守ることです。

結婚について考えているわたしの孫にとって、そしてすべての人にとって、困難に立ち向かいながらも幸福な家族を作るための最も重要な戒めがあります。それは状況にかかわらず、すべての人間関係に当てはまるものです。それは聖文や現代の預言者の教えの中で繰り返されてきたものです。愛と幸福の中で永遠とともに生活

したいと望むすべての人に向けられた主の助言が、聖書の中にこう記されています。

「そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、

『先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。』

イエスは言われた、「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者が、かかっている。』¹

この言葉から始めるならば、家族を幸福へ導く選択についてのわたしの経験を要約するのは難しくありません。まず、こう自問します。「どのような選択が、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして主を愛するようにわたしを導いたのだろうか。」わたしにとってそれは、主の贖いによる救いの喜びを感じられるような選択をしたときでした。

何年前か、ニューメキシコ州アルバカーキで伝道中、同僚と一緒に教えた若い男性にバプテスマを施しました。彼を水に沈め、起き上がらせました。わたしと同じくらいの背丈があったのでしょうか。彼の

声がわたしの耳に直接入ってきました。「清くなった。清くなった」とうれしそうな声でささやく彼の顔からは、フォントの水と、涙が流れ落ちていました。

同じ喜びの涙を流した女性がいます。彼女は神の使徒から、綿密で情け深い面接の後、こう告げられました。「主の御名により、わたしはあなたを赦します。主は御自身の時に御自身の方法でああなたをお赦しになるでしょう。」そして、主はそうなさいました。

罪が赦されたときにはもうそれを思い起こさないと、主が言われた理由が分かるようになりました。贖いの力により、身近な愛する人々が新たにされ、罪の影響がぬぐい去られました。わたしの心は、救い主と、救い主を遣わされた優しい御父に対する愛で満たされています。

わたしにその祝福が与えられたのは、主だけがお与えになれる「苦痛からの癒し」を求めるよう、人々を励ましてきたからです。ですからわたしは、どんな召しでも受け入れ、尊んで大いなるものとするようお勧めします。その選択は幸福な家族を作る一つの大切な鍵だからです。

絶え間ない人生の圧力によって、主への奉仕の召しを後回しにするよう誘惑されます。それは、自分自身と配偶者と家族を霊的な危機に陥れます。重要ではないと思える召しもあるかもしれません。しかし、執事定員会の教師の召しを受けたとき、わたしの生活とわたしの家族はともに祝福されました。わたしは執事たちの主への愛と、彼らに対する主の愛を感じました。

ステーク会長と伝道部会長を歴任した後で教師定員会アドバイザーの召しを受けた兄弟もそうでした。また、ビショップと地域七十人を歴任した後で、主の御手に使われ、事故でけがをした教師定員会の少年を助けた兄弟もいます。そのような奉仕がもたらした奇跡により、わたしを含め、多くの人が影響を受け、主への愛を深めたのです。

人に仕えるとき、聖霊を伴侶^{はんりょう}とすることができるよう願ひ求めることが多くなります。正しく主に仕えようと、自分の力を超えた奇跡が必ず起こります。子供の深刻な罪に直面する親も、離婚を言い渡された女性から慰めを求められる訪問教師も、それが真実であることを知っています。どちらの僕もその朝、聖霊を伴侶^{しもべ}として遣わしてくださいと主に祈っておいたことに感謝するのです。

聖霊を伴侶として初めて、結婚生活の中で、争うことなく、ともにくびきを負うことができます。聖霊を伴侶とすることが、幸福な結婚生活に欠かせないことをよく知っています。夫婦が一つになるという奇跡には、天の助けと時間が必要です。わたしたちの目標は、天の御父と救い主の

みもとで永遠とともに暮らすことです。

わたしの両親は非常に異なっていました。母は歌を歌い、芸術をたしなみました。父は化学を愛していました。二人がオーケストラのコンサートに行ったとき、拍手が始まる前に父が立ち上がって会場を出ようとするのを見て、母は驚きました。「どこへ行くの」と母が尋ねると、父は無邪気に言いました。「もう終わったんだろう？」聖霊の優しい導きがなかったら、父はそもそも母と一緒にコンサートへ行くことも、その後行き続けることもなかったでしょう。

母が16年ニュージャージーに住んだのは、父が化学の研究と教育によって家族を養えるようにするためでした。母方の祖父はすでに亡くなっており、未婚のおば

が祖母の世話をしながら、実家の古い農家に住んでいました。おばも祖母も、母がニュージャージーにいる間に亡くなりました。母が泣くのを見たのは、二人が亡くなったときだけです。

数年後、父はユタ州で働くよう誘われました。父は母に、今度もまったく無邪気に、「ミルドレッド、どうしたらいいと思う」と尋ねました。

母は、「ヘンリー、あなたがいちばんいいと思うようにしてちょうだい」と答えました。

父はその誘いを断りました。翌朝、母は父に手紙を書きました。(その手紙をわたしがまだ持っていたらよかったのと思います。)母がこう言ったのを覚えています。「ここで読まないで。職場へ行ってから読んで。」冒頭には父を責める言葉がありました。何年も前、父は母に、機会があれば、母を実家の近くに連れて帰ると約束していたのです。父は母が怒りを表したことに驚きました。母の望みを覚えていなかったのです。即座に父は仕事の誘いを受けるといふ返事を送りました。

父は母に言いました。「ミルドレッド、どうして言ってくれなかったんだい？」

母は答えました。「あなたが覚えておくべきでしょ。」

父はいつも、ユタへ移る選択は、キャリアを犠牲にしたのではなく、自分が選択したことだと言っていました。父と母は一つになるという奇跡を経験しました。父は聖霊によって昔の約束を思い出せたらよかったかもしれません。しかし、父は聖霊の助けを受けて心を和らげ、母の選択が自分の選択になるようにしたのです。

天の御父は将来を完全に見通し、わたしたち一人一人の将来を御存じです。人が経験する困難を御存じです。御父は御子を遣わし、御子は人を救う方法を知るために、苦痛をお受けになったのです。

天の御父の霊の子供たちの中には、時折、罪や不幸を選ぶ人もいます。そのために御父は、御自分の長子を遣わし、最大





の愛の行為である贖いを成し遂げられたのです。ですからわたしたちは、永遠の命を得て御父とともに暮らすために、神の助けを受け、時間をかけて、自分を磨く必要があるのです。

家族生活はわたしたちを試します。それは、現世という賜物に伴う神の目的の一つです。つまり、試しは人を強めるのです。それは特に、家族生活に当てはまります。なぜなら家族は、大きな喜びや悲しみを味わい、時には、とても忍耐できないほどの困難に遭遇する場所だからです。

そのような試しに神が皆さんやわたしをどう備えておられるかについて、ジョージ・Q・キャノン管長はこう述べています。「神の愛が注がれなかった人、神が心にかけて、優しい手を伸べてくださらなかった人、神が救いたいと思われなかった人、救う方法が用意されていない人は、一人もいません。神が天使たちに見守る務めを与えられなかった人は一人もいません。わたしたちは自分自身や他人の目から見ると、価値のない、つまらない者かもしれませんが、わたしたちは神の子供であり、神は実際に、目には見えなくとも力強い天使たちに、わたしたちを助ける務めをお与えになり、わ

たしたちはその天使たちに見守られているのです。」²

キャノン管長の教えは真実です。それが確かであるという確信が皆さんにも必要となるでしょう。わたしもその確信を必要とし、それに頼ってきたのです。

わたしは、愛する人が贖いの力を求め、感じるように、信仰を込めて祈ってきました。また、天使のような人たちの助けを祈り求め、彼らの助けを受けてきました。

神は御自分の子供たちを救う方法を用意しておられます。多くの人にとってそれは、どんな時でも愛してくれるきょうだいや祖父母がいるということです。

何年も前、ある友人が彼の祖母の話をしました。彼女は充実した人生を送り、常に主と主の教会に忠実でした。ところが、孫の一人が犯罪に手を染め、ついには刑務所に送られたのです。友人は、彼女が刑務所の孫に会うために車を運転し、目に涙をためながら苦悶の表情でこう祈ったと話してくれました。「正しい生活を送ってきたのに、どうして、『自分で自分の人生を台なしにするような孫』という悲劇が与えられなければならないのでしょうか。」

その答えはこのような思いとなって返って来ました。「彼が何をしようとも、あなたには彼を愛する力と意思があることを知っていたから、わたしはあなたに彼を与えたのです。」

皆にとって有益な教訓があります。墮落するこの世にあって、親や祖父母、神の僕たちが歩む道はたやすいものではなくなるでしょう。神の子供たちに幸福への道を強制することはできません。神でさえも選択の自由を侵すことはできないのです。

天の御父と御父の愛される御子は、選択のいかんにかかわらず、神のすべての子供たちを愛しておられます。救い主は、その忌まわしさの程度を問わず、あらゆる罪の代価を支払われました。正義は必要ですが、正義を決して侵すことのない憐れみの機会が差し伸べられています。

アルマは息子コリアントンに、その希望を教えました。「したがって、正義によれば、贖いの計画はこの試しの状態、すなわちこの準備の状態では人々が悔い改めるといふ条件がなければ成し遂げられない。これらの条件がなければ、正義の働きを損なうことなしに憐れみが効力を発するこ

とは不可能だからである。正義の働きが損なわれることはあり得ない。もしそのようなことがあれば、神は神でなくなる。」³

わたしの孫、そして永遠の家族を目標とするすべての人へのメッセージは、忠実な者には喜びが訪れるということです。創世の前から、優しい御父と御子は、いつか道に迷うことを御存じだった者たちを愛し、助けてくれました。神は彼らを永遠に愛されることでしょう。

幸いにも、皆さんは彼らが霊界で救いの計画を学んでいたことを知っています。不忠実のためにこの世に来るのを許されなかった人が大勢いる中で、彼らも皆さんも、この世に来るのを許されるほど忠実だったのです。

聖霊の助けにより、すべての真理が思い出される日が来るでしょう。人に強制することはできませんが、自分の生活を通して示すことはできます。すべての人がかつて御父の家族として生活する喜びを味わったという確信から、わたしたちは常に勇気を得ることができます。神の助けにより、皆、その希望と喜びを感じることができます。すべての人がそうなりますよう、主イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。■

注

1. マタイ 22:35 - 40
2. ジョージ・Q・キャノン, "Our Pre-existence and Present Probation", *Contributor*, 1890年10月号, 476
3. アルマ 42:13



十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

ほかに何ものをも 神としてはならない

わたしたちが礼拝していると公言している神よりも上に、ほかの優先事項やほかの神々を置いて、仕えてはいないでしょうか。

十戒は、キリスト教徒にとってもユダヤ教徒にとっても信仰の基盤となるものです。神からイスラエルの子らに預言者モーセを通して与えられたこの十戒のうち、最初の二つの戒めは、わたしたちの礼拝とわたしたちの優先順位について説いています。最初に主はこう命じられました。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」(出エジプト 20:3) それから何世紀もたって、「律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」と尋ねられたイエスは、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」とお答えになりました(マタイ 22:36 - 37)。

十戒の2番目の戒めは、ほかに何ものをも神としてはならないという指示をさらに詳細に述べたもので、神の子であるわたしたちの生活の中で究極の優先順位はどうあるべきかを明らかにしています。「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。」そして、天にあるものも地にあるものも「どんな形をも造ってはならない。」(出エジプト 20:4) この戒めにはさらにこう加えられています。「それにひれ伏してはならない。それに仕えては

ならない。」(出エジプト 20:5) この戒めによって、単に目に見える偶像が禁じられただけでなく、あらゆる時代に共通する基本的な優先順位が教えられています。エホバはさらにこう説明しておられます。「あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神である[。]……わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施[す]であろう。」(出エジプト 20:5 - 6) このねたむという語には深い意味があります。この語のヘブライ語の原文の意味は、「傷つきやすく深い感情を有する」ということです(出エジプト 20:5)。このように、わたしたちが、ほかの神に「仕える」とき、つまり、第1の優先順位をほかのものにするとき、神の感情を傷つけるのです。¹

1.

では今日、人が、場合によっては信仰心の篤い人でも、神を差し置いて「仕える」、ほかの優先順位にはどのようなものがあるでしょうか。次のようなものの可能性について考えてみましょう。どれもわたしたちの世界には普通のもので

- 文化的な伝統や家族の伝統
- 政治的公正

- 出世願望
- 物の所有
- 娯楽の迫及
- 権力, 名声, 地位

こうした例がわたしたちの中のだれ一人にも当てはまらないようなら、当てはまりそうな例をほかにも挙げられるでしょう。原則は、個々の例よりもはるかに大切です。原則は、わたしたちにはほかに優先するものがあるかどうかではありません。第2の戒めが提示している問いかけは、「わたしたちの究極の優先順位は何か」ということなのです。わたしたちが礼拝していると公言している神よりも上に、ほかの優先事項やほかの神々を置いて、仕えてはいないだろうか、もしわたしを愛するなら、戒めを守るべきであると教えられた救い主に従うことを忘れてはいないだろうか、ということなのです(ヨハネ14:15)。もしそうなら、わたしたちの優先順位は、霊的な無関心やわたしたちの時代にはびこっている無節操な欲望によって、まったく逆転していることになるのです。

II.

末日聖徒にとって、神の戒めは、神がその子供たちのために立てられた計画、つまり偉大な救いの計画を基盤としており、またその計画と不可分の関係にあります。この計画は、時に「偉大な幸福の計画」(アルマ42:8)と呼ばれていて、神の子であるわたしたちの出自や行く末について、つまり、わたしたちがどこから来て、なぜここにいるのか、そしてどこに行こうとしているのか、ということについて説明しています。また救いの計画は、天地創造の目的、死すべき世にいる状態について説明し、その中で、神の戒め、救い主の必要性、そして、この世と永遠の世にわたる家族の重大な役割についても触れています。わたしたち末日聖徒が、こうした知識を与えられているにもかかわらず、この計画と調和した優先順位を付けられなければ、わたしたちはほかの神々に仕えるという危険を冒していることになるのです。

ば、わたしたちはほかの神々に仕えるという危険を冒していることになるのです。

神がその子供たちのために立てられた計画を知っている末日聖徒には、結婚や家族に対する独特な見方が生まれます。わたしたちが家族中心の教会として知られていることは、実に適切なことです。わたしたちの神学はまず天の両親から始まりますし、わたしたちの最大の望みは完全なる永遠の昇栄に到達することであって、それが家族という関係の中でのみ可能になることも、わたしたちは知っています。わたしたちはまた、男女間での結婚が神の計画を完成させるためにはどうしても必要であることも知っています。こうした結婚関係だけが、地上における誕生の場となり、家族を永遠の命へと備えさせるために承認された機会となります。わたしたちは、結婚をし、子供をもうけることは神の計画の一部であると考え、そうしたことを行う機会が与えられている人々にとっては神聖な義務であると考えています。わたしたちは、地上や天における究極の宝とはわたしたちの子供たちであり、わたしたちの子孫であると信じています。

III.

わたしたちは、家族には本来永遠の役割があると理解していますが、それゆえに、西欧社会の多くで出生率や結婚の数が著しく減少している実態に心を痛めています。しかし、これらの西欧諸国の歴史的な文化は、キリスト教やユダヤ教に基づくものであるはずで、信頼できる筋から以下のような報告が上がっています。

- アメリカ合衆国の現在の出生率は、史上最低です。²また、数多くのEU(欧州連合)諸国やその他の先進国では、その出生率がそれぞれの国の人口を維持するのに必要なレベルにまで達していません。³この現象は、文化の存続にとって、ひいては国家の存続にとって脅威となっています。



- アメリカ合衆国では、18歳から29歳までの若い成人のうち、既婚者の割合が、1960年には59パーセントでしたが、2010年には20パーセントに低下しました。⁴初婚の平均年齢が、現在は史上最も高いレベルにまで上がっています。女性が26歳、男性がほぼ29歳です。⁵
- 数多くの国や文化では、(1)結婚した父母と子供たちという伝統的な家族の形態が、一般的というよりもむしろ例外的になりつつあります。また、(2)結婚して子供をもうけることよりも、仕事上のキャリアを積むことを選ぶ若い女性が増えています。さらに(3)父親の役割や実感としての必要性が弱まってきています。

わたしたちはこうした傾向を憂慮しながらも、同時に、神の計画はすべての神の子供たちのために立てられたものであること、そして神がその子供たちをすべて、どこにしようとも愛しておられることを承知しています。⁶モルモン書は、その最初の章で、神の「力と慈しみと憐れみは地に住むすべての者に及んでいます」と宣言しています(1ニーファイ1:14)。また後の章では、神が「すべての人に救いを無料で授けてこられ」、さらに「すべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない」と宣言しています(2ニーファイ26:27-28)。その結果として、聖典では、わたしたちにはあらゆる人に対して思いやり

と愛とを持つ責任があると教えているのです(1テサロニケ3:12:1ヨハネ3:17:教義と聖約121:45参照)。

IV.

わたしたちはまた、あらゆる人々の信仰に敬意を払っています。神を信じないと公言している人の数が増加していますが、そのような人々に対しても敬意を払います。また、神から賜った選択の力によって、多くの人々がわたしたちの信仰とは異なる信仰を持っていることも承知しています。しかし、わたしたちは、ほかの人々もわたしたちの信仰に対して同じように敬意を払い、わたしたちがその信仰のゆえにほかの人々とは異なる選択をし、振る舞いをするということも理解していただきたいと願っています。例えば、わたしたちは、救いの計画の最も根幹となる部分として、性的な関係は結婚している男女の間でのみ営まれるものであるとする永遠の標準を神が確立された、と信じています。

この世の生命を生み出す力は、神がその子供たちに賜った力の中でも最も気高い力です。その力の活用については、アダムとエバに与えられた神の最初の戒めの中で定められました(創世1:28参照)。しかし、その力の誤用を禁じるため、ほか

にも重要な戒めが与えられました(出エジプト20:14:1テサロニケ4:3参照)。わたしたちが純潔の律法を強調する理由を説明するなら、それは神の計画を達成するうえで生殖の力が果たす目的をわたしたちが理解しているからです。男女の結婚のきずなの外で、いかなる形であれ、生殖の力を用いることは、確かに罪深いことであり、子供たちの昇栄のために立てられた神の計画に反することでもあります。

わたしたちが純潔の律法の重要性を強調するのは、アダムとエバから始まり、あらゆる時代を通じて続いてきているこの結婚の形態に強いこだわりを持っているからです。つまり、神の息子と娘の間で成立する生殖の関係と神の子供たちに養いを与えることは、神の定められた形態だからなのです。幸いなことに、ほかの教会や組織にかかわりを持つ多くの人々が結婚の性質や重要性に関して、わたしたちの主張に共鳴してくださっています。中には宗教上の教義を根拠に支持してくださる方々や、社会にとって最善なものとは何かを考えて支持してくださる方々もいます。

わたしたちは神がその子供たちのために立てられた計画をよく知っています。⁷ そのために、結婚を経ずに生まれてくる子供たちの数が増加していることに心を痛

めています。現在では、アメリカ合衆国における子供の総数の41パーセントがそうです。⁸ また、結婚せずに同棲している男女の数は、ここ半世紀の間に著しく増えています。50年前、最初の結婚をした人々のうち、同棲を経験していた人々の割合はほんのわずかでした。現在では、結婚した人々のうち60パーセントが同棲を経験しています。⁹ しかも、この傾向は急速に許容されつつあります。特に10代の若者の間ではそうです。最近の調査のデータによれば、10代の若者のうち約50パーセントが未婚のまま子供を産むことは「価値ある生活スタイル」だと答えています。¹⁰

V.

性的な道徳、また結婚と出産の永遠性やその目的についての神の定めが存在するにもかかわらず、その定めに対する行動を認めさせようと、法的、政策的な変化を求めるための、政治的、社会的な圧力も数多く存在します。こうした圧力のゆえにすでに様々な州や国家が同性婚を認めてきました。また、性の違いの問題に混乱を生じさせたり、神の偉大な幸福の計画の成就には男女のそうした違いが不可欠であるにもかかわらず、その違いを均質化しようという圧力も存在します。





神の計画やその教義について理解しているわたしたちは、永遠の見地から物事を見ることができずから、そのような行動を黙認したり、それを認める法律に正当性を見いだすことはできません。さらに、自分たちの方針だけでなく教義さえ変更できるほかの組織とは異なり、わたしたちの方針は、神が不変であると明言された真理によって決定されるのです。

わたしたちの**信仰簡条第12条**は、国家の権威に従い、「法律を守り、尊び、支えるべき」であるというわたしたちの信条を述べたものです。しかし、神が不道德だと宣言された事柄を、人の作った法律によって道徳的に正しいものとするにはできないのです。神を愛し神に仕えるというわたしたちの優先順位の先頭に来る事柄を遵守しようと決意するには、神の定めた律法をわたしたちの行動規範^{かんいん}と考えることが必要です。例えば、不義や姦淫がわたしたちの住む州や国ではもはや犯罪の対象にならないとしても、わたしたちはなお、そうしたことを行ってはならないとする神聖な命令の下にいます。同様に、いわゆる「同性婚」を合法化する法律があったとしても、結婚に関する神の律法、あるいはそれに関する神の戒めやわたしたちの標準が変わるわけではありません。わたしたちは、神を愛し、その戒めを守り、ほかの神々や優先順位に仕えることはしないという聖約の下にいます。ある特定の時代、ある特定の場所でそれらが広く認められるようになったとしてもです。

そう決意すると、わたしたちは人から誤解されるかもしれません。偏見に満ちた非難を浴びたり、差別に甘んじたり、信教の自由を行使する権利がおびやかされることに耐えなければならなかったりするかもしれません。そのような場合でも、わたしたちは最初の優先順位が神に仕えることにあることを忘れず、開拓者であるわたしたちの先祖たちのように、彼らが示したのと同じ不屈の精神をもって自分の手押し車を押して前進させるべきだと、わたし

は考えています。

トーマス・S・モンソン大管長の教えはそうした状況にも当てはまるものです。27年前の総大会で、大管長はこうのように明言しました。「多数意見に対抗する勇氣、原則を守る勇氣を持つてはありませんか。勇氣は神の承認の笑みをもたらしますが、妥協にはそれがありません。勇氣を、男らしく死をいとわぬ態度としてではなく、ふさわしく生きる決意として理解するとき、それは生き生きとした魅力ある徳になります。道徳的な意味での臆病者とは、周囲の人から受け入れられなかったり、ばかにされたりすることを恐れて、自分が正しいと考えていることを実行しない人のことを指します。恐れを抱いていない人はだれもいません。しかし、毅然としてその恐れに立ち向かう人こそが勇氣ある人と言えるのです。このことを忘れてはなりません。」¹¹

わたしたちが、この死すべき世の一時的な試練のために、わたしたちの創造主、わたしたちの救い主から授かっている偉大な戒めや優先順位を忘れるようなことがないように、祈っています。わたしたちは、この世のものに過度に心を奪われたり、人の誉れを得ることを望んだりすることがあってはなりません（教義と聖約121:35参照）。わたしたちの永遠の行く末に到達するための努力をやめてしまうことになるからです。神がその子供たちのために立てられた計画を知っているわたしたち、そしてその計画に参加することを聖約によ

て誓ったわたしたちには、はっきりとした責任があります。それは、わたしたちの究極の望みから決して逸脱してはならないということです。それは永遠の命に到達することであり、¹²わたしたちの第一の優先順位を決して見失わない、すなわちほかの神をさがめず、父なる神とその御子であるわたしたちの救い主イエス・キリストを後回しにしてほかの優先順位のために仕えないということです。

神の助けがあって、この優先順位を理解することができますように、そして、賢明で愛に満ちた方法でそれを求めるわたしたちをほかの人々が理解してくださるよう、イエス・キリストの御名^{みな}によって祈ります、アーメン。■

注

1. 例として、教義と聖約124:84参照
2. ジョイス・A・マーチンほか、「Births: Final Data for 2011.」*National Vital Statistics Reports*, 第62巻, 1号(2013年6月28日), 4. ローリア・グーデル、「Behind a Looming Baby Bust.」*Christian Science Monitor Weekly*. 2013年2月4日, 21, 23
3. 人口調査局, 「2012 World Population Data Sheet.」 www.prb.org/Publications/Data-sheets/2012/world-population-data-sheet/data-sheet.aspx 参照
4. デュベラ・コーンほか、「Barely Half of U.S. Adults Are Married — a Record Low」ピュー研究センター, 社会的および人口動態的な傾向, 2011年12月14日, 参照 www.pewsocialtrends.org/2011/12/14/barely-half-of-u-s-adults-are-married-a-record-low で閲覧可能。「Rash Retreat from Marriage.」*Christian Science Monitor*, 2012年1月2日および9日号, 34
5. 合衆国国勢調査局, 「Estimated Median Age at First Marriage, by Sex: 1890 to the Present.」 www.census.gov/population/socdemo/hh-fam/ms2.xls で閲覧可能
6. ダリン・H・オークス「どこにいる人でもすべての人に」『リアホナ』2006年5月号, 77-80参照
7. ダリン・H・オークス「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号, 80-84参照
8. マーチン, 「Births: Final Data for 2011」, 4参照
9. *The State of Our Unions: Marriage in America*, 2012 (2012年), 76参照
10. *The State of Our Unions*, 101, 102参照
11. トーマス・S・モンソン「勇氣が必要である」『聖徒の道』1987年1月号, 47
12. ダリン・H・オークス「望み」『リアホナ』2011年5月号, 42-45参照



中央若い女性会長
ボニー・L・オスカーソン

あなたがたは 改心しなさい

真の改心は、来る日も来る日も、毎月毎月、皆さんが真実だと知っている教義に従って行動し続け、戒めを守るときに起こるのです。

兄 弟姉妹の皆さん、わたしのヒーローの多くが立ってきたこの説教壇けんそんに立つときに、とても謙遜な気持ちになります。わたしの心に思うことを、特に青少年の皆さんに向けて話したいと思います。

旧約聖書の偉大なヒーローの一人は預言者であり戦士でもあったヨシュアです。自らが率いたイスラエルの子らに対し、彼は次のように勧告しました。「……あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」¹ヨシュアの宣言は、彼が心から福音に改心していたことを示しています。ヨシュアやわたしたち全員にとって、福音の原則への改心は福音の原則に添って義にかなった生活をし、主と交わした聖約に忠実であることを通して得られるものです。

わたしの家族歴史の中から、一人のヒーローの改宗談を紹介しましょう。彼女の名はアグネス・ホーガンといい、1861年に、夫とともにスコットランドで教会に入りました。母国でひどい迫害に苦しんだ二人は、子供を連れてアメリカに移住しました。数年後、アグネスは夫を亡くし、8人の子の衣食を賄うために懸命に働きました。長女で

12歳のイザベルは、末日聖徒ではない裕福な家族の召し使いとしての職を運よく得ることができました。

彼女はその家族の大きな屋敷に住み込み、幼い子供たちの世話をしました。その報酬として、毎週わずかな給金が母親に支払われました。すぐにイザベルは家族の一員として受け入れられ、ダンスのレッスンを受けたり、美しい衣服を着たり、演劇鑑賞に行ったりなど、家族同様の恩恵を受けるようになりました。そのようにして4年が過ぎたとき、イザベルの雇い主の家族が別の州に転勤することになりました。イザベルのことが気に入っていたその家族は母親のアグネスに会い、正式にイザベルを養女にしたいと願いました。立派に教育を施し、良い人と結婚できるよう計らい、実子と同じように遺産相続もさせると約束しました。また、アグネスへの支払いも続けると言ったのです。

夫に先立たれたこの貧しい母親は難しい決断を迫られました。一瞬のためらいもありませんでした。何年も後に書かれた、彼女の孫娘の言葉に耳を傾けてください。「祖母はその申し出を断りました。愛だけでは断りきれなかったとしても、祖母にはもっと強い理由があったのです。アグ

ネスは遠く離れたスコットランドから移住し、福音のために様々な試練と苦難を経験しました。それほどの犠牲を払って得たものが自分の子から失われていくのを、何としても防ぎたかったのです。」²裕福な家族は言葉を尽くして説得しようとし、イザベル自身も行かせてほしいと涙ながらに訴えました。しかし、アグネスは断固として考えを変えませんでした。ご想像のように、16歳のイザベルは人生が台無しになったと感じました。

イザベル・ホーガンはわたしの曾祖母そうぼです。彼女の母親の胸に赤々と燃えていた強い証あかしと信念に心から感謝しています。母親はこの世的な約束と引き換えに娘の教会員としての祝福を失わせることを良しとしませんでした。そして今では、何百人というイザベルの子孫が教会員として祝福にあずかり、アグネスの深い信仰と福音への改心から恩恵を受けているのです。

青少年の皆さん、わたしたちは苦難の時代に生きています。わたしたちが毎日、あるいは毎時間のように迫られる決断は永遠にかかわる結果を招きます。日常生活でする決断が皆さんの将来を決めるのです。末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における神の王国であるという強い証と確信がまだないなら、今こそ、その確信を得るために必要な行動を起こすときです。そのような確信を得るために必要な努力を先送りすることは、皆さんの魂にとって危険なこととなり得ます。

真の改心とは単に福音の原則を知っていることではありません。また、その原則について証があるだけでもありません。福音の証がありながら、それに従った生活をしていないことはあり得ます。真に改心しているとは、信じることを実践し、それによって自分に、あるいは「心の中に大きな変化を生じさせ[る]」ことを言います。³小冊子『真理を守る』にはこうあります。「改心は過程であり、瞬間的な出来事ではありません。救い主に従おうとする義にかなった努力の結果として改心

するのです。』⁴それには時間と努力と行いが必要です。わたしの高祖母には、世が提供する富や快適さよりも、子供たちには福音が大切だという強い確信がありました。それは彼女が福音のために犠牲を払い、堪え忍び、福音に従って生活したからです。彼女の改心は福音の原則を実践し、そのために犠牲を払うことを通して得られたのです。

このような強い決意を得たいのなら、わたしたちも同じ過程を経なければなりません。救い主はこう教えておられます。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』⁵時にわたしたちは、逆のやり方をしてしまします。例えば、このような姿勢です。什分の一の律法を喜んで守るつもりはあるけれど、まず先にそれが真実だと知る必要がある、という考え方です。什分の一の用紙に記入したこともないのに、什分の一の律法について証を得たいと祈り、主が自分を祝福して証を与えてくださると期待することがあるかもしれません。そういうふうにはいかないのです。主はわたしたちが信仰を働かせることを期待しておられます。什分の一の証を得るためには、什分の一を一貫して完全に、そして正直に納めなければなりません。純潔の律法、慎み深さの原則、知恵の言葉、断食の律法など、福音のすべての原則にはこの同じ規範が当てはまります。

原則に従うことが、どのようにその原則について改心する助けになるかの例を挙げましょう。わたしが若い女性だったのは1960年代で、高校で末日聖徒の女子はわたしだけでした。当時は、伝統的な道徳観の否定、薬物の使用など、何でもありの考え方に代表される変革の時代でした。わたしの同年代の多くは良い人でしたが、この新しい道徳、実際は単に以前の不道徳にすぎないのですが、彼らはその刺激に簡単にとらわれてしまいました。



わたしの両親と教会の教師たちは、敬意をもって自分の体を扱うことの大切さ、頭脳を明晰めいせきに保つことの大切さ、そして何よりも、主の戒めを信頼することの大切さを刻み込んでくれていました。わたしは、アルコール類が出されると知っている状況を避け、たばこや薬物には近づかないと決心しました。そのために、ほとんどのパーティーには行けず、めったにデートもしませんでした。若者の間で薬物の使用がますます広がっていましたが、その危険性は今ほど知られていませんでした。後に同級生の多くが、精神に作用する薬物の後遺症や、深刻な依存症に苦しんだりしました。わたしは、家庭で知恵の言葉に従うように教えられていたことに感謝しました。また、信仰を働かせて従うことにより、その福音の原則について強い証を得ることができました。真の福音の原則に従うことで得た良い気持ちは、その原則が真実であると確認して下さる聖霊の働きによるものでした。こういったときに真の改心が始まるのです。

預言者モロナイはモルモン書の中でこう教えています。「信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものであることを、世の人々に示したい。あなたがたは、自分が見ていないからということ疑って

はならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。』⁶すぐに満足感が得られることが当たり前の今の世の中では、努力もせずに報いを期待することがよくあります。モロナイはわたしたちに、まず努力し、福音に従うことで信仰を働かせる必要があります、その後それが真実であるという証を受けると教えていると思います。真の改心は、来る日も来る日も、毎月毎月、皆さんが真実だと知っている教義に従って行動し続け、戒めを守るときに起こるのです。

今は教会の青少年にとってすばらしい時代です。皆さんは青少年の教科課程「わたしに従ってきなさい」から学ぶ最初の人々です。新しい教科課程のおもな目的の一つは皆さんをイエス・キリストの福音への改心に導くことです。よく覚えておいてください。皆さんの両親や青少年の指導者がどれほど靈感あふれる人たちであっても、「自分自身の改心に対しておもな責任を負うのはあなたです。だれもあなたに代わって改心することはできません。またあなたに改心するよう強いることもできません。』⁷改心は、熱心に祈り聖文研究をし、教会に出席し、神殿の儀式に携わるふさわしさを保とうと努力するとき起こります。改心は、家庭やクラスで学



必ずしも心地よく楽なことばかりではありませんが、する価値があると証します。主はエマ・スミスに、「この世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求めなければならない」¹⁰と勧告されました。わたしたちには「この世に優る世のもの」がどれほど素晴らしいものか見当もつかないだろうと思います。

わたしたちには天に愛情あふれる御父がおられ、その最大の願いは、福音に従い改心しようと努力するわたしたちを助けて祝福することであると証します。御父のおもな関心と業は、わたしたちに「不死不滅と永遠の命」¹¹をもたすことであると御自身が明言しておられます。わたしたちが御自身のみもとに戻ることが御父の願いなのです。福音の教義に従い日常的に実践するとき、わたしたちは改心し、家庭においても世の中においても大いに善を行う仲立ちとなることができると証します。わたしたちがその目標に向かって日々努力するときに祝福がありますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ヨシュア 24:15
2. フューシャ・ストリンガム, "Sketch of the Life of Isabelle Hunter Hoggan Stringham" (未刊の生涯の記録, 1934年), 4
3. モーサヤ 5:2
4. 『真理を守る』35
5. ヨハネ 7:17
6. エテル 12:6
7. 『真理を守る』37
8. ルカ 22:32
9. ヨシュア 24:31
10. 教義と聖約 25:10
11. モーセ 1:39

ぶ義にかなった原則に従うときに得られます。清く徳高い生活を送り、聖霊を伴侶とするとときに得られます。また、イエス・キリストの贖罪を理解し、主がわたしたちの救い主、贖い主であることを認め、贖いの影響が生活に及ぶようにするとき起こるのです。

個人的な改心は、神殿で聖約を交わり、伝道に出て、将来自分の家族を持つ備えをするうえで助けとなります。改心すると、自分が学んだことを人と分かち合いたいと願うようになり、確信と力をもって人に証する自信と能力が増し加えられます。福音を分かち合いたいと思うその願いと、大胆に証する自信は、真の改心の当然の結果なのです。救い主はペテロに「あな

たが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」⁸と教えられました。(訳注——「立ち直った」は、英語では converted——「改心した」の意)

預言者であり戦士でもあったヨシュアを覚えていますか。彼は自分が改心しただけでなく、イスラエルの子らを神のみもとに導くためにその命の尽きるまで休みなく働きました。旧約聖書にはこうあります。「イスラエルはヨシュアの世にある日の間……つねに主に仕えた。」⁹ 真に改心した人は、贖罪の力に頼り、自らの魂に救いを得、その後、その人を知るすべての人々に手を差し伸べて強い影響を及ぼすのです。

福音に従い、聖なる場所に立つことは、



七十人会長会
リチャード・J・メインズ長老

堪え忍ぶための力

最後まで義のうちに堪え忍ぶ能力は、^{あかし}証の強さと改心の度合いに直接関係しています。

毎朝目覚めると、わたしたちは人生の課題に満ちた新たな日を迎えます。このような課題は様々な形を取ります。肉体的な問題や経済的な損失、人間関係での苦勞、情緒的な試し、さらには信仰上の葛藤を抱えることもあります。

人生で直面する問題の多くは、解決し克服することができます。しかし、難解で、克服することが不可能であり、次の世に行くまで解決しないものもあります。解決できる問題に一時的に堪え、解決できない問題に堪え続ける際、次のことを覚えておくことが大切です。すなわち、わたしたちが育む霊的な強さは、人生で直面するあらゆる問題を首尾よく堪える助けとなるということです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちには愛に満ちた天の御父がおられます。御父はわたしたちを地球に送り、御父のみもとで永遠の命を受けるにふさわしい者となるために学ぶ必要のある教訓をそれぞれが学べるようにしてくださいました。

預言者ジョセフ・スミスの生涯のある出来事がこの原則を物語っています。預言者は幾人かの人たちとともにミズーリ州リパティエの監獄で何か月もの間囚われていました。監獄の中で苦しみを味わっていた預言者ジョセフは、へりくだり祈りをささげ、聖徒たちが当時の苦しみから解放されるようにと主に懇願しました。

主はその答えとして、預言者ジョセフとすべての人に次のことをお教えになりました。わたしたちが直面する問題に首尾よく堪えるならば、その問題は最終的にはわたしたちの益となる、と教えられたのです。主はジョセフの嘆願にこたえてこのように言われました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであらう。」¹

天の御父は、わたしたちの人格を試すために人生の旅路を定められました。わたしたちは善と悪双方の影響にさらされ、与えられた選択の自由を使ってどの道を行くかを自分で決めます。古代のモルモン書の預言者サムエルが教えたように、「あなたがたは自由であり、あなたがたは随意に行動することを許されている……。見よ、神はあなたがたに知識を与えて、あなたがたを自由にしてくださったからである。」²

天の御父は、死すべき状態にあるわたしたちが常に、正しく義にかなった選択をするわけではないことも御存じでした。わたしたちは完全ではなく過ちを犯すため、御父のみもとに戻るためには助けが必要です。必要な助けは、イエス・キリストの教えや模範、^{あがな}贖いの犠牲を通して与え

られます。救い主の贖いの犠牲は将来、悔い改めの原則を通して救いと昇栄をわたしたちにもたらしめます。正直に、心から悔い改めるならば、贖いを通してわたしたちは聖くなり、本質を変え、首尾よく問題を堪え忍ぶことができるのです。

堪え忍ぶことは、イエス・キリストの教義に含まれる大切な原則です。堪え忍ぶことが大切なのは、義にかなった状態で堪え忍ぶ能力に永遠の行く末が左右されるからです。

ニーファイ第二書第31章で預言者ニーファイは、イエス・キリストがお受けになったのと同じバプテスマの救いの儀式を受け、聖霊の賜物^{たまもの}を受けた後、わたしたちが「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受けろ』³と教えています。

したがって、御父の祝福の中で最も大いなるものである永遠の命を受けるには、適切な儀式をすべて受け、さらに関連する聖約を守り続けなければなりません。言い換えれば、首尾よく堪え忍ぶなければならぬのです。

最後まで義のうちに堪え忍ぶ能力は、証の強さと改心の度合いに直接関係しています。わたしたちの選択は、イエス・キリストの福音に真に改心していて証が強いとき、聖霊に靈感されたもの、キリストを中心としたものとなり、義のうちに堪え忍びたいという望みを支えてくれるでしょう。改心が表面的で証が弱い場合、世の誤った慣習に釣られて、よくない選択をしてしまう危険がますます増します。

肉体的に堪え忍ぶために必要な努力の例となる経験を紹介し、霊的に堪え忍ぶために求められる努力と比較したいと思います。わたしは伝道を終えると、カリフォルニア州のある大学にて、コーチであり作家でもある評判の高い人物のもとでバスケットボールをする機会を得ました。このコーチは、選手たちがバスケットボールのシーズンの開始前に体を鍛えておくこ



とをとても重視していました。選手はコートでボールに触る前に、まず学校の近くの丘のクロスカントリーコースを、非常に厳しい制限時間内で走ることを求められました。伝道地から帰ってきたばかりのわたしがこのクロスカントリーコースを初めて走ったときに、死ぬかと思ったのを覚えています。

コーチが目標として設定した制限時間内で走れるようになるまでには、厳しい訓練を何週間も積まなければなりません。コースを走れるだけでなく、ゴールライン間近でスピードを上げて走れたときの気持ちは最高でした。

バスケットボールをうまくプレーするには体を鍛えておく必要があります。肉体的に良いコンディションになるには、献身、忍耐、自己鍛錬などの代価が求められます。霊的に堪え忍ぶ力を得るにも代価が伴います。同じ代価、すなわち献身と忍耐、自己鍛錬を必要とするのです。

証を長く堪え得るものにするには、肉体と同様、鍛えておく必要があります。では、証を鍛えるにはどうすればよいのでしょうか。肉体をバスケットボール向きに鍛えるには、単にテレビでバスケットボールを観戦しているだけでは不十分です。同様に、証を鍛えるには、総大会をテレビで見ているだけでは不十分です。イエス・キリストの福音の基本原則を研究し、学び、それからその原則に従って生活するよう最善を尽くさなければなりません。これこそがイエス・キリストの弟子となる方

法であり、長く堪え得る証を築く方法なのです。

人生の中で逆境に遭ったときにイエス・キリストの属性に倣^{なら}いたいと望むならば、霊的に準備ができていないことが不可欠です。霊的に準備ができていないとは、霊的なスタミナや霊的な強さを培い、霊的に鍛えられた状態であるということです。霊的に鍛えられているため、常に正しいことを選ぶことができるでしょう。福音に従った生活をする望みと能力が揺るぎないものとなるでしょう。作者不詳の詩にあるように、「あなたは川に押し流されない岩にならなければならない」のです。

わたしたちは毎日問題に直面するため、霊的なスタミナを毎日養う努力をすることが重要です。霊的なスタミナを培うならば、世の誤った慣習も日々の個人的な問題も、義のうちに堪え忍ぶ能力に悪影響

を与えることはほとんどないでしょう。

霊的なスタミナの良い模範は、わたしたちの家族歴史の中に見てとることができます。先祖の様々な話の中に、堪え忍ぶという良い特質を示す模範を見出すことができるでしょう。

わたし自身の家族歴史がこの原則を実証しています。わたしの曾祖父であるジョセフ・ワトソン・メインズは1856年にイングランド、ヨークシャーのハルで生まれました。彼の家族はイングランドで教会に加わり、ソルトレーク・シティーに移りました。1883年にエミリー・キープと結婚し、8人の子供の親となりました。1910年の6月、曾祖父は53歳のときに専任宣教師に召されました。妻と8人の子供の助けを得て、母国であるイングランドに戻り伝道しました。

約2年間忠実に奉仕した彼は、ある日同僚と自転車に乗って、イングランドのグロスターにある日曜学校に向かっていたが、途中でタイヤが破裂しました。彼は、損傷の度合いを確かめようと自転車を降りました。損傷がひどく修理に時間がかかることが分ると、自分は後から行くので先に行って日曜学校を始めておいてほしいと同僚に伝えました。そう言い終えるや否や、彼は地面に倒れました。心臓発作による即死でした。

ジョセフ・ワトソン・メインズは、この世



ジョセフ・ワトソン・メインズ(右)。同僚のギルピン・S・ウーリーとともに

で妻と8人の子供に会うことは二度とありませんでした。遺体をソルトレーク・シティーに返してもらい、古いウォータールー・アッセンブリーホールで葬儀を行いました。十二使徒のアンソニー・W・アイビング長老が葬儀で語ったことは、人生と死、堪え忍ぶことについて重要な教訓を教えてください。「福音がわたしたちに与えてくれるものはこれです。すなわち、死を免れることなく、栄えある復活に対する望みにより死に打ち勝つことです。……このことは〔ジョセフ・メインズ〕に当てはまります。……人が義のうちに、信仰を持ったまま、真理を守りながら命を捨てたと知り、喜びと満足を感じます。』⁴

この先祖の話は、曾祖父が示してくれた、堪え忍ぶことと霊的なスタミナの模範に従うために全力を尽くすよう促してくれます。また、曾祖父の妻エミリーの信仰にも同じくらい感化されます。曾祖父の死後、曾祖母の生活は彼女にとって非常な重荷となったに違いありません。しかし、彼女の証は強く、完全に改心していたため、真理を守りながら女手一つで8人の子供を支えて、残りの生涯を過ごしたのです。

使徒パウロはこのように述べています。「いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。」⁵この地上でわたしたちが参加すべき競争は、障害物だらけの耐久レースです。このレースの障害物は、毎朝目覚めて直面する数々の問題です。わたしたちは、レースを走り、道徳的な選択の自由を行使し、正しいことか誤ったことかを選ぶためにこの地上にいます。立派に首尾よくレースを走り終えて天の御父のみもとに帰るには、献身と忍耐、自己鍛錬という代価を支払わなければなりません。わたしたちは霊的に自分自身を鍛え、霊的なスタミナを培う必要があります。真の改心へと導く強い証が必要です。そうするならば、直面するあらゆる問題に堪え忍ぶ



ために必要な平安と力を自分自身の中に見いだすことができるでしょう。

ですから、朝目覚めてどのような問題が待ち受けていようと、このことを覚えておいてください。あなたが培った霊的な強さと主の助けが合わされば、レースの最後にあなたは使徒パウロが述べたような自信を得ているでしょう――

「わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。

今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。」⁶

愛に満ちた天の御父と、御父の偉大な永遠の幸福の計画が実在し、そのためにわたしたちはこの時代に地上にいることを証します。堪え忍ぶための力を自分自身の中に育むよう、主の御霊がすべての人を促してくださいますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 121:7-8
2. ヒラマン 14:30
3. 2ニーファイ 31:20
4. アンソニー・W・アイビング、ジョセフ・ワトソン・メインズ兄弟の葬儀で語った言葉（メインズ家族の個人的な記録より）
5. ヘブル 12:1
6. 2テモテ 4:6-8



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

イエス・キリストの 贖罪から得られる 個人の強さ

イエス・キリストの贖罪により、わたしたちは皆清くなることができ、背きの重荷は軽くされます。

最 近、アイダホ州から来た実に印象的な青少年のグループと会う機会に恵まれました。その中の一人の高潔な若い女性から、「わたしたちが生活の中で、今この時期に実践しなければならない最も大切なことは何だと思われますか」と尋ねられました。わたしは、生活の中でイエス・キリストの贖罪の力を認識するようになることを提案しました。今日、わたしはその力の持つ一つの側面、すなわち、イエス・キリストの贖罪を通して受けられる個人の強さについて説明します。

モルモン書の中には、アンモンとその同僚たちが「野蛮でかたくで残忍な民」¹のもとへ行ってイエス・キリストの福音を教えた、という記録があります。民の多くが改宗し、自分たちの罪深い行いを捨て去ることを選びます。その改心が完璧だったために、彼らは武器を地中に埋め、二度と使わないという聖約を主と交わします。²

その後、改宗しなかった同胞の多くが攻撃を仕掛け、彼らを殺し始めます。ところが、今や忠実な民となっていた彼らは、武器を取って自分の霊の命を危険にさら

すよりも剣の前に屈することを選びます。彼らの義にかなった模範のおかげで、彼らよりも多くの人々が改宗し、背きを使う武器を投げ捨てたのです。³

アンモンを通じて、主はこの民を導き、ニーファイ人の中に避難させられます。そして、この民はアンモンの民という名前で見られるようになります。⁴長年にわたりニーファイ人は彼らを守ってきましたが、やがてニーファイ人の軍隊が弱くなり始めたために、援兵がどうしても必要になります。⁵

アンモンの民は、自分たちの霊の命にとって重大な岐路に立たされます。彼らはそれまでずっと聖約に忠実であり、決して武器を取ることはありませんでした。しかし、父親には家族を守る責任があるということも理解していました。⁶その責務は、彼らの交わした聖約を破ることを考えるに値するほど、大きなもののように思われました。⁷

思慮深い神権指導者であったヒラマンは、主と交わした聖約を破ることは決して正当化されないと知っていました。そこで、ヒラマンは靈感に満ちた選択肢を提

案します。アンモンの民の息子たちは父親と同じ罪を犯しておらず罪ありとされたことがないので、同じ誓いを立てる必要がないことを思い起こさせました。⁸息子たちは非常に若かったのですが、肉体的には屈強であり、さらに大切なことは、徳が高く、汚れないという点でした。また、母親の信仰によって強められてもいました。⁹こうして彼らの預言者であり指導者であるヒラマンの指揮下に入ったこの青年たちは、父親に代わって自分たちの家族と家庭を守ったのです。¹⁰

この重要な決断にかかわる一連の出来事は、イエス・キリストの贖罪が神の子供たちの生活にどのように個人の強さをもたらすかを示しています。父親たちの気持ちを考えてみましょう。自分たちの過去の背きのために、危急の時に妻や子供を守れないと知って、どのような思いになったのでしょうか。今や息子たちが直面しなければならなくなった過酷な状況をじかに知っていたため、きっとひそかに涙を流したでしょう。本来、子供ではなく父親が家族を守るはずだからです。¹¹父親たちの悲しみの深さがうかがえます。

靈感を受けた神権指導者が、再び武器を取ることを考え始めた父親たちに対して「彼らが……滅びることになりはしないかと」懸念したのはなぜだったのでしょうか。¹²主はこう宣言されています。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」¹³この忠実な父親たちは、罪を悔い改めてから長い時間が経過して、イエス・キリストの贖罪によりすでに清められていました。それなのに、なぜ自分の家族を守らないように勧告されたのでしょうか。

イエス・キリストの贖罪によって人が清められるというのは、根本的な真理です。わたしたちは清く汚れない者となることができます。しかしながら、愚かな選択をしたときには、長期間にわたってその結果を受けなければならないこともあります。悔い改めを完遂するうえで不可欠な段階

の一つは、過去の罪がもたらすそうした短期および長期の結果に耐えることにあります。自分たちが行った選択のために、アンモンの民の父親たちは過去に肉欲にさらされた経験があります。そしてその肉欲は再び彼らの弱点となる恐れがあり、サタンはそこに付け入ろうとします。

サタンは、かつて罪を犯したというわたしたちの記憶を利用して、自らの影響下に引き戻そうとします。その誘惑を避けるために、わたしたちは絶えず警戒していなければなりません。忠実なアンモンの民の父親たちも似た状況にありました。忠実な生活を何年も続けていたとしても、過去の罪の記憶に引き込まうとする力から自分を霊的に何としても守る必要があったのです。

数多くの戦いの合間に、司令官モロナ

イは最も弱い町を幾つか選んで防備を固めるよう指示を出しました。「またテアナムは、彼らに堀の内土手の上に木材で胸壁を築かせ、さらにその胸壁に堀から上げた土を盛らせた。このように……町を木材と土から成る非常に高い丈夫な防壁で囲んだ。」¹⁴ 司令官モロナイは、強さを生み出すためには弱い部分の防備を固めなければならないことを理解していたのです。¹⁵

アンモンの民の父親たちの状況もおおむね同じでした。自分たちの忠実な生活と過去の不義な行動との間に、より高く、より幅の広いとりでを築く必要があったのです。その息子たちは、義にかなった習慣に伴う祝福を受けていて、同じ誘惑に対してもろくはありませんでした。こうして、自分たちの霊的な幸福を危険にさら

すことなく、忠実に家族を守ることができたのです。

過去の愚かな選択の結果から解放されたいと願う人にとって、喜ばしい知らせとは、主が弱さと背きをまったく異なった見方で見ておられるということです。主は悔い改めていない背きに対しては罰を与えると警告される一方で、¹⁶ 弱さについては、常に憐れみをもって語っておられます。¹⁷

アンモンの民の父親たちについては、自分の親から誤った伝統を教えられていたことをある程度考慮に入れるべきでしょう。しかし、天の御父の子供は皆、キリストの光とともにこの死すべき世にやって来ます。動機が何であれ罪深い行為は人を霊的に弱めることになり、そこにサタンが付け入ろうとするのです。

幸いにも、彼らは福音を教えられて悔い改め、イエス・キリストの贖罪によって、サタンの誘惑に屈しない、霊的にはるかに強い存在になりました。彼らは過去の残忍な性質に戻りたいという誘惑は感じていなかったようですが、それでも、預言者に従うことで、「人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とす」¹⁸ 機会をサタンに与えませんでした。救い主は贖罪によって彼らを罪から清めただけでなく、彼らが神権指導者の勧告に従順であったので、彼らを弱さから守り、強めることができました。罪を捨てるといふ謙遜で、生涯変わることのなかった彼らの決意は、家族を守るために戦場で成し得るどのようなことよりもはるかに大きな影響をもたらしました。彼らの服従はいかなる祝福も彼らから奪い去りませんでした。服従は彼らを強め、祝福し、数多くの将来の世代をも祝福したのです。

この物語の結末は、主の憐れみによっていかに「弱さを強さに変え」¹⁹ ていただけのかを示しています。この忠実な父親たちは息子たちをヒラマンに託して戦場に送り出しました。息子たちは激しい戦場で戦い、皆何らかの傷を負いますが、





か、心を配ってください。時間と関心を惜しみなくさげてください。

これら一つ一つの提案には、共通するテーマがあります。人生を人に対する奉仕で満たす、ということです。天の御父の子供たちへの奉仕のために自分の命を失うことで、²³サタンの誘惑は皆さんの人生の中でその力を失うことでしょう。

天の御父が皆さんを深く愛しておられるので、イエス・キリストの贖罪はその効力を及ぼせるのです。これはすばらしいことではないでしょうか。皆さんの中には、愚かな選択の重荷を感じたことのある人が大勢いることでしょう。しかし、皆さん一人一人が、主の救しと憐れみと強さからもたらされる、高める力を感じることが出来ます。わたしが実感してきたように、皆さん一人一人もそう実感できることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. アルマ 17:14。アルマ 17-27 章も参照
2. アルマ 23:4-7; 24:5-19 参照
3. アルマ 24:20-27 参照
4. アルマ 27 章参照
5. アルマ 53:8-9; 56:10-17 参照
6. 「家族-世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
7. アルマ 53:10-13 参照
8. アルマ 53:14-16 参照
9. アルマ 56:48 参照
10. アルマ 53:17-22; 56:3-10, 30-57 参照
11. 『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
12. アルマ 53:15
13. 教義と聖約 58:42
14. アルマ 53:4
15. エテル 12:27 参照
16. サムエル上 12:15; イザヤ 1:20; 1 ニーファイ 2:23; モーサヤ 15:26; アルマ 9:24; 教義と聖約 76:25; モーセ 4:3 参照
17. 箴言 28:13; 1 コリント 2:3; 15:43; 2 コリント 13:4; ヤコブの手紙 3:17; 2 ニーファイ 3:13; モルモン書ヤコブ 4:7; アルマ 34:17; 3 ニーファイ 22:8; エテル 12:26-28; 教義と聖約 24:11; 35:17; 38:14; 62:1 参照
18. 2 ニーファイ 28:21
19. エテル 12:27
20. アルマ 57:25; 58:39 参照
21. アルマ 58:40 参照
22. 教義と聖約 1:31
23. マタイ 16:25; 教義と聖約 88:125 参照

一人として命を失った者はいませんでした。²⁰この若者たちは、疲れ切ったニーファイ軍にとって、またない援軍となりました。戦地から帰還した彼らは、忠実で、霊的に強くなっていました。家族は祝福され、守られ、強められたのです。²¹現在でも、モルモン書を研究する無数の人が、この汚れない、義にかなった息子たちの模範によって教化されています。

だれもが、人生のどこかで愚かな選択をしたことがあります。だれであろうと、イエス・キリストの贖罪による贖いの力がどうしても必要なのです。わたしたちは皆、いかなる背きをも悔い改める必要があります。「主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはしないからである。」²²見過ごしにされないのは、主のような者となるためには何が必要かというのを、主が御存じだからです。

わたしたちの多くが、自分の人格の中で改善しなければならない弱さを見過ごしにしています。わたしたちはアンモンの民のように、サタンが付け入ろうとしている過去の過ちとわたしたち自身との間に、イエス・キリストの贖罪によって霊的なとりでを築くことができます。アンモンの民の父親たちは、自分の周囲に霊的な守りとなるとりでを築いたがゆえに、自身にも、家族にも、祖国にも、将来の世代にも、祝福と強さをもたらすことができました。わたしたちも同じです。

それでは、こうした永遠のとりでを築くにはどうしたよいのでしょうか。第1の段階は、真心から、徹底的に、完全な悔

い改めをすることです。イエス・キリストの贖罪により、わたしたちは皆清くなることで、背きの重荷は軽くされます。忘れないでください。悔い改めは罰ではないのです。より栄光に満ちた将来に向かって進む、希望に満ちた道なのです。

天の御父は、わたしたちが自分の弱さと忠実さとの間にとりでを築けるよう、道具を備えてくださいました。次の提案について考えてみてください。

- 自分自身のために聖約を交わし、儀式を受けてください。次に、自分の先祖の身代わりとして神殿で儀式を施せるよう、確実に一貫して取り組んでください。
- 教会員でない人やあまり活発ではない家族や友人と福音を分かち合ってください。真理を分かち合うことによって、自分の生活に新たな熱意が生じます。
- どんな教会の召しであっても忠実に奉仕をしてください。特にホームティーチングや家庭訪問の責任ではそうです。毎月15分だけのホームティーチャーや訪問教師にならないでください。そうではなく、家族の一人一人に助けの手を差し伸べてください。相手を個人的に知るよう努めてください。ほんとうの意味で友人となってください。愛ある行いにより、彼ら一人一人にどれほど深い関心を寄せているかを示してください。
- 最も大切なことは、自分自身の家族に仕えることです。伴侶や子供の霊的な成長を最優先してください。家族一人一人を助けるためにどんなことができる



トーマス・S・モンソン大管長

「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。」

天の御父は、……わたしたちが経験しなければならない試しに立ち向かい、それを乗り越えるときに、学び、成長し、強くなることを御存じです。

今 晩わたしは日記にこう書くつもりです。「今回の総大会はこれまでに出席した大会の中で最も靈感にあふれたものの一つだった。」

兄弟姉妹の皆さん、6か月前、総大会とともに集ったとき、愛する妻フランシスは入院していました。その数日前に倒れて大けがをしたのです。数週間、傷を治そうと勇敢に闘いましたが、5月に永遠の来世へ静かに旅立ちました。妻を失った悲しみは深いものでした。わたしたちは1948年10月7日にソルトレーク神殿で結婚しました。生きていれば明日、65回目の結婚記念日を祝うことができたでしょう。わたしは妻を生涯こよなく愛してきました。妻は信頼するパートナーであり、親友でした。妻がいなくて寂しいという言葉では、わたしの深い思いをお伝えすることはとうていできません。

この大会で、わたしがデビッド・O・マッケイ大管長から十二使徒定員会に召されてから50年の月日がたちます。その間ずっと、愛する伴侶がこれ以上ないほどよく支えてくれました。わたしが召しを果たせるように、計り知れない犠牲を払ってくれま

した。わたしは何日も、時には何週間も、妻と子供たちのそばにいられないことがよくありましたが、妻の口から不平の言葉は一言も聞いたことはありませんでした。まさに天使のような人でした。

妻が亡くなってから、皆さんがあふれるばかりの愛を示してくださったことに、家族ともども感謝を申し上げます。世界中から何百枚ものカードや手紙を頂きました。妻を称賛する言葉や家族への哀悼の言葉が書かれていました。また、美しい花をたくさん頂きました。妻の名前で教会中央宣教師基金に多額の献金をしていただいたことにも感謝しております。後に残された者を代表して、皆さんの真心からの温かい思いやりに深く感謝いたします。

このつらい別れの時を過ごす間、最も慰めをもたらしてくれたものは、イエス・キリストの福音に対する証、そして愛するフランシスは今なお生きているという知識です。この別れは一時的なものであることをわたしは知っています。わたしたちは地上でも天でもつなぐ権能を持つ者により、神の宮で結び固められました。いつか再び結び合わされ、もう二度と別れることは

なくなることを知っています。これこそがわたしの支えとなっている知識です。

兄弟姉妹の皆さん、こう言っても差し支えないでしょう。苦しみや悲しみをまったく経験しない人は一人もいません。同様に、人類の歴史上でかつて、動乱や苦難がまったくなかった時期は一度もないのです。

わたしたちは人生の苦境に陥ると、「どうしてわたしがこんな目に？」という問いを發する誘惑に駆られます。時には、トンネルの先に光が見えないときも、夜明けが来ないかのように思えるときもあります。わたしたちの周りには、夢が破れて失望する人、希望が打ち砕かれて落胆する人があふれているように思われます。「ギレアデに乳香〔はないのだろうか〕』という、聖文に記された嘆願を口にします¹。もう見捨てられた、希望がない、孤独だと感じます。わたしたちは、自分の不幸を、悲観主義というゆがんだレンズを通して見る傾向があります。忍耐という天の徳がしばしば必要とされることを忘れ、問題を解決しようと焦ってしまうのです。

わたしたちが経験する困難は、まさしく忍耐力が試される機会です。わたしたち各人は、次の根本的な問いに答えなくてはなりません。諦めるのか、それともやり通すのか。困難を乗り越えることは自分にはできないと思って、諦めてしまう人もいます。やり通すには、人生のまさに最後まで堪え忍ぶことが必要です。

だれにでも起こり得る人生の出来事について考えると、昔ヨブが言ったように、「人〔は〕生れて悩みを受ける」のだと言うことができます²。ヨブは「全く、かつ正し〔い〕」人で、「神を恐れ、悪に遠ざか」っていました³。信心深く、裕福であったヨブは、どのような人にも耐えられないような試練に遭います。財産を奪われ、友からあざげられ、苦痛を味わい、家族を失って心が粉々になったヨブは、「神をのろって死になさい」と言われます⁴。しかしこの誘惑を退け、ヨブは気高い心



の奥底からこう宣言します。

「見よ、今でもわたしの証人は天にある。わたしのために保証してくれる者は高い所にある。」⁵

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。」⁶

ヨブは忠実であり続けました。わたしたちも困難に遭遇したとき、そのようにするのでしょうか。

人生の苦難に押しつぶされそうなおときには、ほかの人も同様の経験をし、それに耐え、乗り越えてきたことを思い起こしてください。

この時満ちる神権時代における教会歴史は、苦闘しながらも、揺らぐことなく、元気を出した人々の経験で満ちています。どうしてそのようなことができたのでしょうか。イエス・キリストの福音を生活の中心としていたからです。この姿勢は人生でどんなことに遭っても堪え忍ぶ力となります。厳しい試練がなくなるということはありませんが、わたしたちはそのような試練と向き合い、勇敢に取り組み、打ち勝つことができるのです。

「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」⁷という主の約束と保証によって、わたしたちは、苦しみの床から起き上がり、涙でぬらした枕から顔を上げ、天へと心を向けるのです。そのような慰めは、かけがえのないものです。

自らの召しに伴う責任を果たすべく、全世界を旅する中で、わたしは多くのことを理解できるようになりました。だれもが悲しみや苦しみを経験するという事実もそ

の一つです。わたしは、深い悲しみに見舞われたり、病気にかかったり、離婚を経験したり、道をそれた子供のことで悩んだり、罪の結果に苦しんだりしている人々と会って話をすることがあります。そのとき目にしたすべての苦しみや悲しみがどれほどのものか、わたしにはとうてい推し量ることができません。苦しみや悲しみのリストは際限なく続きます。なぜなら、数え切れないほどの問題が降りかかりかねないからです。一つの例だけを挙げるのは難しいことですが、それでも試練について考える度に、ブレムス兄弟のことが思い浮かびます。わたしが少年だったころの日曜学校の教師です。忠実な教会員で、思いやりの深い人でした。彼とその妻のサディーには、8人の子供がいました。その多くが我が家の子供と同じ年ごろでした。

妻のフランシスとわたしは結婚して別のワードに移りましたが、その後、わたしたちはブレムス兄弟姉妹と彼らの家族に、結婚式や葬式、さらにはワードの同窓会で会いました。

1968年にブレムス兄弟は妻のサディーを亡くしました。また、長い年月を経るにつれ、8人の子供のうち2人が亡くなりました。

13年ほど前のある日のこと、ブレムス兄弟の上の孫娘から電話がありました。彼女は自分の祖父が105歳になったと説明し、こう言いました。「祖父は小さな介護センターで暮らしていますが、日曜日には毎週家族全員と会って、そこで福音のレッスンをしています。」彼女はこう続けま

した。「先週の日曜日、祖父はこう言いました。『みんな、わたしは今週死ぬ。トミー・モンソンに電話をしてくれないか。彼には何をすべきかが分かるだろう。』」

わたしはその翌日の晩にブレムス兄弟を訪問しました。しばらくぶりの再会でした。彼は耳が聞こえなくなっていましたから、話しかけることはできません。目が見えなくなっていましたから、メッセージを書いて読んでもらうこともできません。ご家族は彼の右手の指を取って、左の手のひらに訪問者の名前をつづることで知らせている、とのことでした。何か伝えたいことがあれば同様の方法でコミュニケーションを取っていました。わたしはその方法に倣って彼の右手の指を取って左の手のひらに、「T-O-M-M-Y M-O-N-S-O-N (トミー・モンソン)」とつづりました。それは彼がかつて呼び慣れた名前でした。ブレムス兄弟は生気を取り戻し、わたしの両手を取ると、自分の頭に置きました。わたしは彼が神権の祝福を受けたいと望んでいることを知りました。介護センターまで車で送ってくれた兄弟と一緒に、わたしはブレムス兄弟の頭に手を置いて、希望どおりに祝福を受けました。祝福の後、視力のない彼の目から涙があふれました。彼は感謝を込めてわたしたちの手をしっかりと握りました。たとえわたしたちが口にした祝福の言葉は聞こえなくても、強い御霊が注がれていたのです。きっと靈感によって、彼は必要な祝福が与えられたことを理解したと思います。このすばらしい男性は、もう見ることも、聞くこともできませんでした。昼も夜も、介護センターの一室から外へ出ることができませんでした。それでも、彼の顔に浮かんだほほえみと唇の動きが伝えた言葉はわたしの心を揺り動かしました。彼はこう言ったのです。「ありがとう。天の御父は何とお優しい方なのだろう。」

その週のうちに、ブレムス兄弟は自ら予告したとおりに世を去りました。自分に欠けているものについてくよくよ悩むのでは

なく、自分が受けている多くの祝福にいつも心の底から感謝する人でした。

天の御父は、わたしたちに喜びをもたらす多くのものをお与えになります。と同時に、わたしたちが経験しなければならぬ試しに立ち向かい、それを乗り越えるときに、学び、成長し、強くなることも御存じです。わたしたちは、つらい悲しみを経験したり、胸を痛めたり、極限まで試されることがあるのを知っています。しかし、そのような困難を通じて、より良い方向に変化し、天の御父が教えておられる方法で人生を立て直し、過去の自分とは違う人物、すなわち過去の自分よりも善良で、理解力があり、同情心にあふれ、強い証を持った人物となることができます。

我慢し堪え忍ぶことだけでなく、喜びと悲しみをくぐり抜け、霊的に磨かれることもわたしたちの人生の目的であるべきです。克服すべき試練、解決すべき問題がなければ、いつまでたっても現在の自分と変わらないでしょう。永遠の命という目標を目指して進歩することも、ほとんど、あるいはまったくないでしょう。一人の詩人が、まさしく同じような考えを次のような言葉で表現しています。

良い木材は穏やかな環境で育つものではなく、
風が強ければ強いほど、木は丈夫になる。
空が遠ければ遠いほど、木は高くなり、
嵐あらしが激しければ激しいほど、木の強度は増す。
日光と寒さ、雨そして雪
木の中にも、人の中にも、良い木材は育つ。⁸

わたしたちの経験する試し、痛み、苦しみの深さを理解することがおできになるのは主だけです。逆境のとき、わたしたちに平安を与えることがおできになるのは主だけです。次のような慰めの言葉で、わたしたちの苦しむ心に触れることがおできになるのは主だけなのです。



「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。⁹

最良の時であっても、最悪の時であっても、主はわたしたちとともにおられます。このことが変わることは決してないと主は約束されました。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが時の流れや人生の危機に左右されることなく、天の御父に献身できますように。わたしたちは主を覚えるために困難を経験する必要はありません。強いられて謙遜けんそんになり主を信じ頼るようなことがあってはなりません。

わたしたちがいつも天の御父に近くあろうと努力できますように。そうするためには、御父に祈り、御父の御言葉みことばに耳を傾けなければなりません。わたしたちは

良いときも悪いときも、文字どおり主を絶えず必要としています。主の次の約束をいつも忘れませんように。「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。」¹⁰

全身全霊をもって、わたしは証します。神は生きて、わたしたちを愛しておられます。神の独り子はわたしたちのために生きて、わたしたちのために亡くなされました。イエス・キリストの福音は、わたしたちが経験する人生の暗闇を貫いて輝く光です。いつでもそうでありますように、イエス・キリストの聖なる御名みなによって祈りませ、アーメン。■

注

1. エレミヤ 8 : 22
2. ヨブ 5 : 7
3. ヨブ 1 : 1
4. ヨブ 2 : 9
5. ヨブ 16 : 19
6. ヨブ 19 : 25
7. ヨシヤ 1 : 5
8. ダグラス・マロック, "Good Timber". スターリング・W・シル, *Making the Most of Yourself* (1971年), 23で引用
9. マタイ 11 : 28 - 30
10. ヨシヤ 1 : 5



十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

エレミヤの哀歌 ——束縛に注意する

わたしたちに求められているのは、あらゆる種類の束縛を避け、主の選民を集める助けをなし、次世代を担う子供たちのために犠牲をささげることです。

結 婚して間もないころ、妻のメアリーとわたしは、一緒に参加できる活動をできるだけ多く選ぶようにしていました。また、予算管理についても賢明でありたいと思っていました。メアリーは音楽を愛していて、わたしがスポーツ観戦を過度に強調しすぎることを懸念していました。そこで、彼女はお金を払うすべての活動について、スポーツを1回観戦したら、ミュージカルかオペラ、またはそのほかの芸術的な公演を2回鑑賞するように取り決めたのです。

当初、オペラ鑑賞に抵抗を覚えました。時間がたつにつれて、わたしの考えは変わりました。特に、ジュゼッペ・ヴェルディ¹のオペラを楽しむようになったのです。今週はヴェルディの生誕200周年記念に当たります。

ヴェルディは青年のころ、預言者エレミヤに興味を抱いていました。そして1842年、28歳のとき、バビロンの王ネブカデネザルの名前をイタリア式に短くした「ナブッコ」のオペラで名声を博しました。このオペラは、旧約聖書のエレミヤ書、哀歌、詩篇から引用した概念を取り入れて、

エルサレムの征服とユダヤ人の捕囚と束縛を表現しています。ヴェルディの感動的で心にしみる「ヘブライ人奴隷の合唱」は、詩篇137篇の影響を受けて書かれた作品です。欽定聖書の詩篇の序文は、非常に劇的です。「囚われの状態の間、ユダヤ人はバビロンの川のほとりで涙を流した。悲しみのために、シオンの歌を歌うことさえできなかった。」

わたしの話の目的は、様々な形の束縛や隷属の状態について考えることです。今日の幾つかの状況をエルサレムが陥落する前のエレミヤの時代と比較してみます。この警告の声を上げるに当たり、教会員のほとんどが、エレミヤの時代のような、主にとって非常に不快な行いを、義にかなって避けていることに感謝しています。

エレミヤの預言と哀歌は、末日聖徒にとって大切な聖文です。エレミヤと彼の時代のエルサレムは、モルモン書の最初の数章に書かれているエルサレムの時代と重なっています。エレミヤは預言者リーハイと同じ時代の人でした。²主はエレミヤの予任について非常に劇的にこのよう

に語られました。「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生れないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした。」³

リーハイはこれとは別の召し、使命、責任を主から受けました。リーハイが召されたのは、青年のときではなく熟年のときでした。当初、リーハイは警告の声を発しましたが、エレミヤと同じメッセージを忠実に宣言した後に、家族を連れて荒野へ出て行くよう主から命じられました。⁴そうすることにより、リーハイは自分の家族だけでなく、すべての民を祝福することになったのです。

エルサレムが滅亡する前の数年の間に、⁵主がエレミヤに告げられたメッセージを、わたしは忘れることができません。主はこのように言われました。

「わたしの民はその栄光を益なきものと取り替えた。

……生ける水の源であるわたしを捨てて、……水ためを掘った。……こわれた水ため、水を入れておくことのできないものだ。」⁶

エルサレムに住む人々に降りかかる災いに関して、主は次のように悲しみを表現されました。「(彼らにとって)刈入れの時は過ぎ、夏はや終わった、しかし(彼らは)まだ救われない。」⁷

神は、男性も女性も善悪を自由に選択することができるように計画されました。悪を選択することが国や文化の風潮の大半を占めるとき、この死すべき世の人生と来るべき世の人生の両方において、重大な結果を招くこととなります。人は、有害で常習性のある物質だけではなく、義にかなった生活から引き離す有害で依存性のある様々な思想で自らを束縛したり、隷属させたりすることがあります。

真実の生ける神を礼拝することをやめて、富や名声、あるいは不道徳で不義な行いをするなどの偽りの神々を崇拜するようになると、全く知らない間に顕在化す



る束縛を受ける結果となります。それには、霊的、肉体的、知的な束縛が含まれ、時には人に崩壊をもたらします。エレミヤとリーハイはまた、義にかなった人々が主の教会と王国を確立し、散乱したイスラエルの民を集める主の助けをしなければならぬと教えました。⁸

これらのメッセージは繰り返され、強められて、何世紀にもわたってすべての神権時代に伝えられました。それは、この最後の神権時代におけるイエス・キリストの福音の回復の中心的なメッセージでもあるのです。

十部族を含むユダヤ人の捕囚とイスラエルの部族の散乱は、福音の回復において考慮すべき非常に重要な教義的要素です。イスラエルの失われた十部族は、イスラエルの北の王国の一部を形成し、紀元前 721 年に囚われの身となってアッシリアに連れ去られました。彼らは北の国々に行ったのです。⁹ 信仰箇条の第 10 条には

このように書かれています。「わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを信じる。」¹⁰ わたしたちはさらに、主がアブラハムと交わされた聖約の一部として、アブラハムの血統を受け継ぐ者だけが祝福されるのではなく、地上のすべての民が祝福されることを信じています。ラッセル・M・ネルソン長老が話したように、集合は「物理的な場所の問題ではありません。個人の献身の問題なのです。人々は郷里を離れることなく『神を知るようになります』(3 ニーフアイ 20:13)。」¹¹

わたしたちの教義は以下のとおりはっきりとしています。「主はイスラエルの十二部族を、その不義と背反のゆえに散らし、苦しめられた。しかし、主は選ばれた民をこのように国々の中に散乱させ、それによってその国々に祝福をもたらす機会とされた。」¹²

この悲劇的な時代から価値ある教訓を

学ぶことができます。束縛につながる罪や反抗心を避けるために、自分の能力の範囲でできる限りのことを行うべきです。¹³ わたしたちは、義にかなった生活をするのが、主の選民を呼び集め、文字どおりイスラエルの集合のために主とともに働く前提条件であることも理解しています。

束縛、従属、依存、隷属には様々な形があります。それらは文字どおり肉体的な奴隷状態である場合もあれば、わたしたちの成長を妨げる可能性のある、道徳的な選択の自由の喪失や欠如である場合もあります。エレミヤは、不義な行いや反抗心がエルサレムの破壊をもたらし、バビロンに捕囚されたおもな原因であることを明らかにしています。¹⁴

そのほかの種類の束縛も、人の霊にとって同様に破壊的なものです。道徳的な選択の自由は、様々な方法で濫用することが可能です。¹⁵ 現代社会において特に有害な4つの事柄について話します。

第1に、選択の自由を損ない、道徳的な信念を否定し、健康を壊す依存症は、束縛をもたらします。薬物とアルコール、不道徳、ポルノグラフィ、ギャンブル、借金苦、そのほかの苦しみの強い影響力は、束縛状態にある人や社会に、ほとんど推し量ることができないほどの大きな重荷を負わせます。

第2に、本質的に悪ではないにしても、熱中や愛好により大切な時間を浪費してしまう場合があります。それがなければ、徳高い目的を達成するために時間を使うことができるのです。これには、ソーシャルメディア、ビデオ、デジタルゲーム、スポーツ、レクリエーション、そのほかたくさん物の過剰な使用が含まれます。¹⁶

ほとんどの文化圏でわたしたちが直面している最も大きな課題の一つは、どのようにして家族のための時間を確保するかということです。勤務先の法律事務所で教会の会員がわたし一人であったとき、ある女性弁護士が、3個のボールを同時に空中に上げている曲芸師のようにいつも

感じると打ち明けてくれました。一つ目のボールは法律の仕事、二つ目のボールは結婚生活、三つ目のボールは子供たちでした。彼女自身のための時間はほとんどあきらめていました。彼女が最も心配していたのは、ボールの一つがいつも地面に落ちていることでした。そこで、仕事の仲間と集まって優先順位について話し合うことを提案しました。まず、わたしたちが仕事をする基本的な理由は、家族を支えるためであるという結論に達しました。そして、もっと多くのお金を稼ぐのは、わたしたちの家族ほど大切ではないということで見解が一致しましたが、わたしたちの能力を尽くして顧客のために働くことは不可欠であることも確認しました。それから、仕事にしている不必要なことや、家族のために時間を取るための妨げになっていることに話題が移りました。職場で時間を過ごすプレッシャーの中で、必ずしも必要でないことはないだろうかということです。¹⁷ 職場の男性と女性の両方が家族にとって好ましい環境を作ることが、わたしたちの目標であると確認されました。わたしたちが家族の時間を守る最前線に立ちましょう。

第3に、わたしたちの時代で自由を失うもっとも一般的な原因は、過去の歴史に見られるように、イエス・キリストの福音と相容れない思想や政治的な信念です。福音の真理を人の哲学に置き換えると、救い主のメッセージの平易さからわたしたちを引き離してしまうことになります。使徒パウロがアテネを訪れたとき、彼はイエス・キリストの復活について教えようと思いました。パウロの働きについて使徒行伝から読んでみます。「いったい、アテネ人もそこに滞在している外国人もみな、何か耳新しいことを話したり聞いたりすることのみに、時を過ごしていたのである。」¹⁸ パウロのメッセージが新しいものではなく、単純な宗教的内容であることを民衆が理解したとき、彼らはそれを拒否しました。

このことは、福音の真理がしばしば拒絶されたり、歪曲^{わいきよく}されたりして、もっと知的な魅力があるように変えたり、現代の文化的傾向や知的な考え方に合わせるようにしたりする現代の風潮に類似しています。わたしたちは、注意しなければこれらの傾向のとりこになり、自分を知的な束縛の中に置くことになります。現在、女性の生き方について多くの意見があります。¹⁹ それらはいちいち互いに食い違っています。特に懸念されるのは、子供たちの母親、教師、養育者、友となるために必要な犠牲を払うことを選択した女性を批判したり、軽視したりする考え方です。

数か月前、いちばん年下の二人の孫娘が訪ねて来ました。別々の週末に一人ずつです。わたしは家にいたので玄関で出迎えました。妻のメアリーは別の部屋にいました。2回とも、互いに抱き合った後に、二人の孫娘はほとんど同じことを言いました。辺りを見回してから、「わたし、おばあちゃんの家が大好きなの。おばあちゃんはどこ?」と言いました。孫娘には言いませんでしたが、心の中で思いました。「ここはおじいちゃんの家ではないの?」しかし、子供のころ、家族でおばあちゃんの家に行ったときのことを思い出しました。聞き慣れた歌の歌詞が心に浮か

んできました。「川を渡り、森を抜けて、おばあちゃんの家に行くんだ。」

さて、わたしが女性に開かれた教育やそのほかの機会を、非常に喜ばしく思っていることを明白にお伝えしたいと思います。文明の利器により、女性に求められた骨の折れる仕事や家事が世界のいたる所で減っているという事実や、女性あらゆる職業や学問にすばらしい貢献をしている事実を尊重しています。しかし、子供たちが、母親、祖母、または子供たちを養い育てる人々と持つ特別な関係の弱体化を社会が容認するなら、わたしたちは後悔するようになるでしょう。

第4に、誠実に守っている宗教的な原則から引き離そうとする力が束縛を招く結果になります。人に最も不快な感情を起こさせることは、自分の行動に関して神に報告する責任があると感じている義にならなかった人々が、その良心を踏みにじるような行動を強いられるときです。例えば、良心に反して墮胎を手伝うか、仕事を失うかの選択を迫られる医療従事者の場合などです。

わたしたちの教会は、同じような考えを持っている人々でつながっているとはいえ、比較的少人数の集まりです。社会全体を変えることは難しいですが、わた





したちを取り巻く道徳的な文化を改善するように働かなければなりません。あらゆる国の末日聖徒は良い市民となって、市民の行事に参加し、政治や法律の問題を研究し、投票する必要があります。

しかしながら、わたしたちの基本的な強調点は常に、わたしたちの家族と次世代を担う子供たちを守るために必要な犠牲を払うことでなければなりません。²⁰ その多くはまだ重い依存症や間違った思想の束縛を受けていません。リーハイとエレミヤが経験したエルサレムに非常によく似た世の中から、彼らを守る助けをしなければなりません。さらに、わたしたちは彼らが神聖な聖約を交わして守り、主を助けて主の教会を確立する中心的な働き手となり、散乱したイスラエルとあらゆる地に存在する主の選民を集めるために備えさせる必要があるのです。²¹ 教義と聖約の美しい聖文にはこう書いてあります。「義人はすべての国の中から集められ、永遠の喜びの歌を歌いながらシオンに来るであろう。」²²

わたしたちに求められているのは、あらゆる種類の束縛を避け、主の選民を集める助けをなし、次世代を担う子供たちのために犠牲をささげることです。わたしたちが自分を救うのではないことをいつも思い起こさなければなりません。わたしたちは、救い主の愛と恵みと贖いの犠牲により自由になるのです。リーハイの家族が荒れ野に逃れたとき、主の光によって導かれました。もしわたしたちが主の光に対して忠実で、主の戒めに従い、主の功德に頼るなら、主は人を救う力を備えておられるので、わたしたちは、霊的、肉体的、知的な束縛を避けると同様に、自らの荒れ野をさまよう哀歌を避けることができるでしょう。

わたしたちが、束縛の状態やシオンの歌を歌うことさえできない状態から来る絶望と悲しみを避けることができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. *Aida, La traviata, II trovatore* などのヴェルディのオペラは、今日世界中で上演されている最も有名なオペラの中に数えられている。
2. 1ニーファイ 5:13; 7:14 参照
3. エレミヤ 1:5
4. 1ニーファイ 2:2-3 参照
5. ソロモンの神殿の破壊、エルサレムの陥落、ユダの部族の捕囚は、紀元前 586 年に起こった。
6. エレミヤ 2:11, 13
7. エレミヤ 8:20。エレミヤはこの前に悔い改めを叫ぶ主について書いている。「わたしは苦しみにもだえる。」(エレミヤ 4:19) そして主は次のように弁護している。「真実を求める者が……捜してみよ。あれば、わたしはエルサレムをゆるす。」(エレミヤ 5:1)
8. エレミヤ 31:1 ニーファイ 10:14 参照
9. 列王紀下 17:6; 教義と聖約 110:11 参照
10. 信仰箇条 1:10; 2ニーファイ 10:22 も参照
11. ラッセル・M・ネルソン "The Book of Mormon and the Gathering of Israel," (2013 年 6 月 26 日に開かれた新伝道部会長セミナーでの話。)
12. 「聖旨ガイド」 「イスラエル」の項。 scriptures.lds.org
13. 主はこの神権時代にこのように語っている。「全世界は罪の状態にあり、暗闇の下で、また罪の束縛の下でうめいている。……すなわち、彼らはわたしのもとに来ないからである。」(教義と聖約 84:49-50)
14. もちろん、無知な人々も囚われることがある。
15. 教義的な原則は変わらないが、束縛、隷属、崩壊の手段は、今までにない方法で加速している。
16. 昨年の *New York Times Magazine* (2012 年 8 月 8 日号) の表紙には、デジタルゲームの常習性について以下のように適切にかつ少しユーモラスに書かれている。「ばかげたデジタルゲームの、極度に依存的で、時間を浪費し、人間関係を破壊し、心を壊滅させる力と魅力」そして、小さな文字で「(だからといって、ゲームが嫌いな訳でもないのです。)」と書いている。これは、陽気な方法で、わたしたちの

時代の素晴らしい技術発明品の使い方について知恵を用いる必要性を強調している。

17. 多くの職場環境の共通の考えは、「一所懸命に働き、一所懸命に遊ぶ」である。従業員との関係を大切に、「働き、遊ぶ」が家族の時間を奪うとき、自分に不都合な結果を招く。
18. 使徒行伝 17:21 強調付加
19. ケリ・ゴフ, "Female Ivy League Graduates Have a Duty to Stay in the Workforce," *Guardian*, 2013 年 4 月 21 日, www.theguardian.com/commentisfree/2013/apr/21/female-ivy-league-graduates-stay-home-moms; シェリル・サンドバーグ *Lean In: Women, Work, and the Will to Lead* (2013 年) 参照; アン・マリエ・スラター "Why Women Still Can't Have It All," *The Atlantic*, 2012 年 6 月 13 日; ロイス・M・コリンズ "Can Women 'Have It All' When It Comes to Work and Family Life?" *Deseret News*, 2012 年 6 月 28 日, A3; ジュディス・ワーナー "The Midcareer Timeout (Is Over)," *New York Times Magazine*, 2013 年 8 月 11 日, 24-29, 38; スコット・シーマン, マーカス・シェイファー, ミッチェル・マカイバー共著 "When Leaning In Doesn't Pay Off," *New York Times*, 2013 年 8 月 11 日, 12
20. 教会は、もっと多くの時間を若い男性、若い女性、ヤング・シングル・アダルトとともに過ごすことによって家族を助けるようにと、ビショップリックに勧められています。ビショップリックは、ワード評議会、メルケゼデク神権定員会、補助組織、人々を適切に支援できる特別な能力のある会員に、もっと多くの責任を委任するように奨励されています。
21. 教義と聖約 29:7 参照
22. 教義と聖約 45:71



十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

神権に宿る力

人は暖かい太陽の光を部屋に入れるためにカーテンを開けることができます。しかし、その人が太陽や、その光、あるいは太陽がもたらす温かさを所有しているわけではありません。

神権の祝福はすべての人に与えられる

聖 餐会で子供たちが「愛の言葉」という初等協会の歌を楽しそうに歌っていると、だれもがその通りだと言わんばかりにほほえんでいます。5人の子供を育てている勇氣ある母親が、2番の歌詞を注意深く聞いていました。「あふれる神権の祝福と喜び 信仰と従順の教えは心に深く響くよ 優しい愛の言葉」。¹ その母親は悲しそうにこう思いました。「うちの子供たちはそんな家庭があるなんて知らないでいるわ」。²

この信仰あふれる女性とあらゆる人にお伝えしたいわたしのメッセージは、わたしたちは状況がどうであれ「あふれる神権の祝福と喜び」のうちにいつも生活することができるということです。

わたしたちは時に、神権の力と教会の男性とを過度に結びつけてしまうことがあります。神権とは、老若男女を問わず、あらゆる人の救いと祝福のために賜った神の力であり権能です。

人は暖かい太陽の光を部屋に入れるためにカーテンを開けることができます。しかし、その人が太陽や、その光、あるいは太陽がもたらす温かさを所有しているわけではありません。神権の祝福はその賜物たまものを行使するよう求められている人よりも無限大に大きなものです。

この世および次の世において、神権の祝福と力、約束を受けることは、死すべき人にとって偉大な機会と責任の一つです。わたしたちがふさわしくあれば、神権の儀式はこの地上におけるわたしたちの生活は豊かなものとし、次の世で受ける壮大な約束の備えとなってくれます。主は、「……儀式によって神性の力が現れる」と言われました。³

バプテスマを受け、聖霊を受け、定期的に聖餐を頂く人には、皆ふさわしければ、神からの特別な祝福が用意されています。神殿は、永遠の命の約束とともに、新たな光と強さをもたらしてくれます。⁴

すべての儀式は、わたしたちが神と聖約を交わし、聖約を守るためにイエス・キリストを信じる信仰を増すように促すものです。こうした神聖な聖約を守るとき、わたしたちは神権の力と祝福を頂くのです。

わたしたちは、自分自身の生活の中でこの神権の力を感じたり、聖約を守っている教会員の中にその力を目にしたりすることはないでしょうか。わたしたちは、新しい改宗者が、赦され、清められたと感じながらバプテスマの水から上がって来るときにその力を目にします。わたしたちは、教会の子供たちや青少年が聖霊の促しや導きに対して感性が鋭くなってきている様子を目にしています。神殿の儀式が世界中の義にかかった男女にとって強さと光の灯台

となっている様子も目にしています。

この1か月、わたしはある若い夫婦が、かけがえのない男の子が誕生し1週間しか生きることができなかったのですが、神殿の結び固めの約束から実に大きな強さを頂いている様子を目にしました。神権の儀式を通じて、わたしたちは慰め、強さ、守り、平安、そして永遠の約束を受けます。⁵

神権について知っていること

正直に次のような質問をする人がいるかもしれません。「神権の力と祝福がすべての人にもたらされるのなら、どうして神権の儀式は男性により執り行われるのでしょうか。」

一人の天使がニーファイに「神が御自身を低くされることがあなたに分かるか」と尋ねたとき、ニーファイは正直にこう答えました。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません」。⁶

わたしたちが神権について語る時、分かっていることはたくさんあります。

すべての人は等しい存在である

わたしたちは、神がその子供たちをすべて愛しておられ、人を偏り見る方でないことを知っています。「主は、……男も女も主のもとに来る者を決して拒まれない。……すべての人が神にとって等しい存在なのである」。⁷

わたしたちは確かに、神の愛が、神の息子にも娘にも「等し」く及ぶことを知っていますが、同時に、神が男と女をまったく同じように創造されたわけでもないことも知っています。わたしたちは、性というものが、この地上でも永遠の世でも、その役割や目的において、不可欠な特徴であることを承知しています。男女双方に神聖な責任が与えられているのです。⁸

初めから

わたしたちは、主が初めから神権の儀

式がどのように執り行われるか、お定めになったことを知っています。「神権は最初アダムに与えられました。」⁹ ノア、アブラハム、モーセは皆、神権の儀式を執り行いました。イエス・キリストは、昔も今も、偉大なる大祭司です。主は使徒たちを召されて、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んで聖任したのである。」¹⁰ と言われました。わたしたちの時代になって、御使いたちが神のもとから送られてきました。バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが預言者ジョセフ・スミスを通じて神権を地上に回復しました。¹¹ これが、わたしたちの天父は神権の業を執り行ってこられた方法です。¹²

神から与えられている多くの賜物

わたしたちは、聖なる神権の力が信仰や聖霊、霊的な賜物と無関係に働くものではないことを知っています。聖文には次のような警告があります。「神の賜物が多いので、これらの賜物を否定しないように勧める。……これらの賜物の与えられ方は様々であるが、すべての人の中ですべ



ての働きをされるのは同じ神である。」¹³

ふさわしさ

わたしたちは、ふさわしさが神権の儀式を執り行い、受けるときの中心であることを知っています。中央扶助協会の会長のリンダ・S・パートン姉妹がこう言っています。「義にかなっているかどうか、……わたしたちの生活に神権の力を招き入れるための要件です。」¹⁴

たとえば、世界中にはびこっているポルノグラフィという疫病について考えてみましょう。ふさわしさに関する主の標準では、神権の儀式を施す役職にある人々にポルノグラフィの入る余地はありません。救い主はこう言われました。

「あなたがたの……秘密の忌まわしい行い……を悔い改め……なさい。」¹⁵

「目はからだのあかりである。……あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。」¹⁶

「だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」¹⁷

ふさわしくない状態のまま聖餐の祝福やパスをしたり、病人に祝福を与えたり、あるいは神権のほかの儀式に参加することは、デビッド・A・ベドナー長老が言ったとおり、神の御名をみだりに唱えることと同じです。¹⁸ もしふさわしくない場合は、神権の儀式を執行するようなことはせずに、第1の段階として祈りの気持ちでビショップのもとへ行き、悔い改めて、戒めの道に戻る必要があります。

謙遜さ

もう一つわたしたちが知っていることは、義にかなった母親と父親が協力して子供たちを導いている家庭には、神権の祝福が豊かに注がれるということです。しかし、同時に、神が同じ祝福をほかの様々な環境にある人々にも届けたいと心から願っておられることも知っています。¹⁹

霊的にも物質的にも子供たちを養わなければならない重荷を背負っている一人

の母親が、子供の一人に祝福を施してもらうためにホームティーチャーに電話をするには謙遜になる必要があります、と慎重に話してくれました。しかし、それに必要な謙遜さと言っても、ホームティーチャーたちがわたしの子供に祝福を施す準備のために必要な謙遜さに比べたら、比較にもなりません、と彼女は洞察深い言葉を足しました。²⁰

神権の鍵

大管長会と十二使徒定員会の会員の持つ神権の鍵によって、地上における主の御業が導かれていることを、わたしたちは知っています。特定の神権の鍵は、その地理的な責任範囲において、ステーク会長やビショップに授けられています。そして、彼らは男性や女性を啓示によって召し、その人々は委任された権能を行使して、教えたり、業を執り行ったりできるよう、支持を受け、任命されます。²¹

神権についてわたしたちが知っている事柄はたくさんありますが、死すべき世のレンズを通して見ているので、神の御業について完全に理解しているわけではないのです。しかし、「わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」²² というやさしい神の御言葉はわたしたちに、時間をかけて永遠の見地から見れば、「現在のことをありのままに」²³ 見て、神の完全な愛についてさらに完璧に理解できることを確信させてくれます。

わたしたちは皆、率先して奉仕をします。時折、自分の召しに物足りなさを感じ、もっと多くのことを任せたいと願うことがあります。また別の折には、解任されるのを心から喜びます。しかし、わたしたちには受ける召しを決めることはできないのです。²⁴ わたしたちはこの教訓を新婚のときに学びました。若い夫婦として、妻のキャシーとわたしはフロリダ州に住んでいました。ある日曜日のこと、ステーク会長会の顧問の一人がやって来



て、キャシーを早朝セミナーの教師として召すよう強い気持ちを感じていると、わたしに説明しました。

わたしは尋ねました。「わたしたちはそれにどう対応したらいいのですか。まだ子供たちも幼いですし、セミナーは午前5時に始まります、それにわたしはワードの若い男性の会長です。」

その顧問はにこっと笑って、こう言いました。「大丈夫ですよ、アンダーセン兄弟。わたしたちは彼女を召して、あなたを解任しますから。」

そしてそのとおりにになりました。

女性の貢献

女性が口にする思いや関心事を知りたいと真心から求め、それに耳を傾けることは、人生においても、結婚生活においても、神の王国を建てるためにも、きわめて重大なことです。

20年前の総大会で、M・ラッセル・バラード長老は、中央扶助協会の会長と交わした会話について話をしました。その時、伝道に出ようとする青少年のふさわしさを高めるためにどうしたらよいかという質問が出されたのです。イレイン・ジャック姉妹はほほえみながら、こう言いました。「バラード長老、御存じのように、教会の姉妹たちは意見を求められさえすれば、……良い提案をすることができます。何といっても、わたしたちは彼らの母親なのですから。」²⁵

トーマス・S・モンソン大管長の生涯は、女性が何に関心を持っているかを尋ね、それにこたえるという歴史です。大管長に最も影響を与えた女性はフランシス・モンソン姉妹です。わたしたちは、モンソン姉妹がいないのをとても寂しく思っています。また、ちょうど先日の木曜日、モンソン大管長は、ビショップとして自分のワードの84人の未亡人からどれほど多くのことを学んだか、お話しされました。この未亡人たちは、大管長の奉仕と生涯に大きな影響を与えたのです。

宣教師として奉仕をする年齢の変更について、モンソン大管長が祈りを込めた決断をする前に、中央扶助協会、若い女性、初等協会の会長の皆さんと数多くの話し合いが持たれたことは、驚くには当たりません。

ビショップの皆さん、皆さんがモンソン大管長の模範に従うとき、主の導きの御手が働いて、皆さんのかかわる神聖な業にはるかに豊かに祝福がもたらされるのを感じるでしょう。



バーニー・パレーラ

わたしたちは何年かブラジルに住んだことがあります。ブラジルに到着直後、わたしはアデルソン・パレーラという当時七十人として奉仕をしている人物に会いました。彼の弟はアディルソンといて、ステーキ会長の一員として奉仕をしていました。その後、彼らの弟のアドルトンという人物に会いましたが、彼はフロリアノポリスのステーキ会長でした。そしてもう一人の弟のアデルモという人はビショップとして奉仕をしていました。わたしはこの兄弟たちの信仰に心を打たれ、彼らの両親について尋ねてみました。

この家族は、42年前にブラジルのサントスでバプテスマを受けました。アディルソン・パレーラはこう言いました。「最初、父は教会に加入できたことをほんとうに喜んでいる様子でした。でも、[すぐに]父はあまり活発でなくなり、母にも教会へ出席しないように言うようになったのです。」

アディルソンの話は続きます。「母は、子供たちが教会へ行くためのバス代を稼ぐために、近所の人たちのために裁縫をしました。4人の幼い子供たちは、一緒に1マイル以上歩いて、隣り町まで行き、そこから45分間バスに乗って、それからもう20分歩いて礼拝堂まで通ったんです。」

子供たちと一緒に教会へ行けなくなったパレーラ姉妹は、それでも、息子や娘たちと一緒に聖文を読み、子供たちに福音を教え、一緒に祈りました。彼らの質素な家は、神権の権能が豊かに注がれて、

祝福に満たされました。幼い少年たちは成長し、伝道に出て、教育を受け、神殿で結婚しました。神権の祝福が彼らの家庭に満ちたのです。

何年か経ち、パニー・パレーラは、独身の姉妹として、神殿に参入し、自分自身のエンダウメントを受け、その後、ブラジルで3回伝道活動のために奉仕しました。84歳となった今、彼女の信仰は彼女に続く世代の人々に祝福をもたらし続けています。

あかし 証と約束

神の聖なる神権の権能は、末日聖徒イエス・キリスト教会の中に存在します。皆さんがふさわしい状態で神権の儀式に参加するとき、主は皆さんの力、平安、永遠の見方をさらに強めてくださることを証します。どのような状況にしようと、皆さんの家庭は「あふれる神権の祝福と喜び」に満たされ、皆さんの周囲にいる人々は、自らそうした祝福にあずかりたいと切に願うようになるでしょう。

男性として女性として、姉妹として兄弟として、神の息子娘として、わたしたちは一緒に前進します。これはわたしたちに与えられた機会であり、責任であり、祝福

です。これは、わたしたちの究極の使命、すなわち救い主の再臨に神の王国を備えることなのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 「愛の言葉」『子供の歌集』102 - 103
2. 2013年8月5日付けの個人あて電子メール
3. 教義と聖約 84:20
4. 教義と聖約 138:37, 51 参照
5. 教義と聖約 84:35; 109:22 参照
6. 1 ニーファイ 11:16 - 17
7. 2 ニーファイ 26:33
8. 「家族：世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
9. 「歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス」(2007年), 103; また教義と聖約 84:16; 107:40 - 53; 128:18, 21 参照; ラッセル・M・ネルソン「エバからの教訓」『聖徒の道』1988年1月号, 93 - 97
10. ヨハネ 15:16 (欽定訳)
11. ジョセフ・スミス—歴史 1:72 参照; また教義と聖約 13章:27 章も参照
12. M・ラッセル・バラード, "Let Us Think Straight," BYU Education Week, 2013年8月20日を参照。バラード長老はこう言っている。「なぜ男性は神権の職に聖任され、女性は召されないのでしょうか。ゴードン・B・ピンクレー大管長はこう説明しています。『教会の男性が神権を受けるように定められたのは、人ではなく、主御自身です。また、女性に『この偉大な驚くべき組織、すなわち、神の教会であり、王国を完成させるための力』を……与えられたのも主御自身です。』(『教会の女性』『聖徒の道』1997年1月号, 79) いろいろと説明はしてきたものの、主はなぜ現在のように御自分の教会を組織されたのか、その理由を啓示されていないのです。」

13. モロナイ 10:8
14. リンダ・K・バートン, "Priesthood: A Sacred Trust to Be Used for the Benefit of Men, Women, and Children" (ブリガム・ヤング大学女性大会の講話, 2013年5月3日), <http://ce.byu.edu/cw/womensconference/pdf/archive/2013/lindaBurtonTalk.pdf>
15. 3 ニーファイ 30:2
16. マタイ 6:22 - 23
17. マタイ 5:28; またアルマ 39:9 も参照; トーマス・S・モンソン大管長はこう言っている。「ボルノグラフィーは特に危険です。習慣性があります。好奇心に引かれて手を出しただけでも、やがてそれが習慣となり、もっと下品な物に手を染め、性的な罪悪に陥ることがあります。どんな犠牲を払ってでもボルノグラフィーを避けてください。」「備えは祝福をもたらす」『リアホナ』2010年5月号, 65)
「人々を堕落させる悪い目的でインターネットを使っている人の数が報告されており、きわめて憂慮すべき状況にあることが分かります。このような目的の中で最も多いのは、ボルノグラフィーを見ることです。兄弟姉妹の皆さん、そのようなものにかかわると、文字どおり霊が破壊されます。強くあってください。清くあってください。そのような品位を落とす破壊的な内容は、どこで目にしようとも、あらゆる手段を使って避けてください。この警告を世界中のすべての人に伝えます。」「(また逢う日まで)『リアホナ』2009年5月号, 113)
「ボルノグラフィーに類するものをすべて避けてください。それは御霊を感じにくくし、良心をまひさせます。教義と聖約にはこう記されています。『人を教化しないものは、神から出ではおらず、暗闇である。』(教義と聖約 50:23)」「(『真理を守り』『リアホナ』2006年5月号, 18 - 19)
18. デビッド・A・ベドナー, *Act in Doctrine* (2012年), 53 参照
19. グリン・H・オークス「家庭と教会における神権の権能」『リアホナ』2005年11月号, 24 - 27 参照
20. 2013年8月5日付けの個人あて電子メール; ヤコブの手紙 5:14 参照
21. ヘブル 5:4 参照
22. イザヤ 55:9
23. モルモン書ヤコブ 4:13
24. 教義と聖約 81:4 - 5 参照。ゴードン・B・ピンクレー大管長は次のように述べています。「皆さんの受けている責任も、わたしの受けている責任も、その重要性に変わりはありません。この教会に、小さな召しとか、つまらない召しなどはありません。」「(『主のみ業』『リアホナ』1995年7月号, 76)
25. M・ラッセル・バラード, 「評議の力」『聖徒の道』1994年1月号, 85





中央日曜学校会長会第一顧問
デビッド・M・マッコンキー

神の力と権能によって 教える

主はすべてのふさわしい末日聖徒が主の方法で教えることができ
るように方法を与えてくださいました。

教 会のすべての教師に対し、言い
尽くせない感謝の念でいっぱい
です。皆さんを愛し、とても信
頼しています。皆さんは、回復された福音
の大きな奇跡の一つなのです。

福音を教える教師として成功するには、
すなわち神の力と権能をもって教えるに
は、確かに、秘訣ひけつがあります。わたしが**秘
訣**という言葉を使うのは、教師の成功を
左右する原則は、1820年の早春の美し
い、空が晴れ渡った朝に起きた出来事あかし
に対する証を持つ人々にしか理解できない
からです。

14歳の少年の謙遜な祈りにこたえて、
天が開かれました。永遠の父なる神とそ
の御子イエス・キリストが御姿みすがたを現され、
預言者ジョセフ・スミスに語られました。
長く待たれていた万物の更新が始まり、こ
の神権時代に啓示の原則が永続するもの
として確立されました。ジョセフのメッ
セージ、そして世に対するわたしたちの
メッセージは、次の言葉に集約できます。
すなわち、「神は語られる」のです。神は
古代においても語られ、ジョセフに語られ
ました。そして、皆さんにも語られます。
これこそ、皆さんと世のほかの教師とのち
がいです。ですから、皆さんが失敗する

ことはないのです。

皆さんは預言と啓示の霊によって召さ
れ、神権の権能によって任命されました。
これは何を意味するでしょうか。

第1に、それは皆さんが主の用向きを
行っているという意味になります。皆さん
は主の代表であり、権能を与えられ、主の
代わりに行動する責任を授けられている
ことを意味します。皆さんは主の代表とし
て主の助けを受ける権利があります。皆
さんはこのように自問するべきです。
「今日、救い主がわたしのクラスをお教え

イタリア、ローマ



になるとしたら、どんなことを、どのように
語られるだろうか。」ですから、皆さんも
同じように行く必要があるのです。

この責任から、一部の人は自分はふ
さわしくないと思ったり、あるいは恐れさ
え感じたりするかもしれません。その道は
難しいものではありません。主はすべての
ふさわしい末日聖徒が救い主の方法で教
えるための道を備えておられます。

第2に、皆さんはイエス・キリストの福
音を説くように召されました。聖文を使う
にしても、皆さんは自分の考えや哲学を教
えてはなりません。福音は「救すくいを得させ
る神の力」¹で、わたしたちは福音を通し
てのみ救われるのです。

第3に、皆さんは教会の標準聖典にあ
る福音の原則、現代の使徒と預言者の言
葉、そして聖霊が伝える事柄を教えるよう
に命じられています。

何から始めるべきでしょうか。

わたしたちの最大の責任は、聖霊を導
き手および伴侶とできる生活をするこ
とです。ハイラム・スミスが末日の業に携わ
りたいと望んだとき、主は「見よ、あなた
の勢力と思いと力を尽くしてわたしの戒め
を守ることが、あなたのなすべきことであ
る」²と言われました。これがスタート地
点です。主がハイラムにお与えになった
勧告は、あらゆる時代の聖徒にお与えに
なってきた勧告です。

今日の教師に対し、大管長会は次のよ
うに述べています。「皆さんの奉仕で最
も大切な部分は、祈り、聖文研究、戒めへ
の従順を含む皆さん自身の霊的な備えで
す。皆さんが以前よりもいっそう大きな目
的意識を持って献身的に福音を実践する
ようお勧めします」³

大管長会が、皆さんの務めで最も大切
な部分は、レッスンをよく準備すること
であるとか、様々な教授法を習得すること
であると言わなかったことに深い意味があ
ります。もちろん、生徒が選択の自由を行
使して福音を心に刻めるよう、毎回のレッ
ソンを熱心に準備し、教え方を学ぶ努力



パナマ, アライジャン

をしなければなりません。しかし、皆さんの奉仕で最も大切な部分は、あなたが個人的に、霊的に備えることです。この勧告に従うなら、大管長会は「聖霊が何をすべきかわかるように助けてくださり、皆さんの証は大きくなり、皆さんの改心は深まり、人生の試練に立ち向かう皆さんは強められる」⁴と約束しています。

教師にとって、これより偉大な祝福があるでしょうか。

次に、主は御言葉を告げようとする前に、それを得るよう努めなければならないと命じておられます。⁵ 皆さんは熱心に聖文を調べ、それを心に蓄えることにより、正しい理解力を備えた男女にならなければなりません。そうすれば、主の助けを求めるとき、主は御霊と御言葉を授けてくださいます。皆さんは人々を確信に導く神の力を受けるのです。

パウロは、福音が二つの方法、すなわち言葉と力によってもたらされると語っています。⁶ 福音の言葉は聖文に書かれていますので、聖文を熱心に調べれば御言葉を得

られます。福音の力は、聖霊を伴侶とする生活を送り、受けた促しに従う人々の生活にもたらされます。御言葉を得ることのみ集中し、情報を伝えることにおいて優れた人たちもいれば、準備を怠り、クラスの時間を何とか無事に乗り切れるよう主の御慈悲により助けを受けられるよう願う人たちもいます。自分が学んだり深く考えたりもしていない聖句や原則を思い出すのを御霊が助けてくださると期待することはできません。福音をうまく教えるためには、生活の中に御言葉と福音の力の両方がなければなりません。

アルマは、モーサヤの息子たちについて、そして彼らがどのように神の力と権威によって教えたかについて説明する際に、これらの原則を理解していました。聖典には次のように書いてあります。

「彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば

祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。」⁷

次に皆さんは、ジェフリー・R・ホランド長老が宣教師たちに教えた教えを聴いて学ばなければなりません。ホランド長老の言葉を引用しますが、勝手ながら、**宣教師と求道者**という言葉それぞれ**教師と生徒**に置き換えます。「御霊に耳を傾けることの次に教師が行うべき責任は、生徒に耳を傾けることです。……もし霊の耳で聞けなら、……**生徒たちは自分が聞く必要があるレッスンは何か教えてくれるでしょう。**」

ホランド長老はこう続けました。「実際のところ、まだ、教師は個々の生徒に焦点を当てるよりも、教えやすい、いつも繰り返し教えてきたレッスン内容を伝えることに集中しています。」⁸

皆さんが能力の限りを尽くして、自分自身を備え、レッスンを準備した後は、御霊の導きに任せなければなりません。聖霊の静かな促しを感じたら、自分が考えたレッスンの概要やメモをわきに置いて、そ



の促しが導く方向に進む勇気を持たねばなりません。そうすれば、皆さんが伝えるレッスンはもはや自分のレッスンではなく、救い主のレッスンとなるのです。

皆さんが以前よりもいっそう大きな目的意識をもって献身的に福音を実践し、聖文を調べて心に蓄えるとき、その言葉を古代の使徒や預言者に明らかにされたのと同じ聖霊が、それが真実であることを証してください。基本的に、聖霊はそれらを改めて皆さんに明らかにされます。これが起きたとき、皆さんが読んでいる言

葉は、もはやニーファイやパウロやアルマの言葉であるだけでなく、皆さんの言葉となるでしょう。そして、皆さんが教えるときに、聖霊はすべてのことを教え、ことごとく思い起こさせてくださるでしょう。ほんとうに、皆さんの「言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられる」⁹ でしょう。これが起きると、皆さんは予定していなかったことを言っていることに気づくでしょう。そして、皆さんが注意を向ければ、教えるときに皆さんの語る言葉から何かを学ぶで

しょう。マリオン・G・ロムニー管長はこう語りました。「自分が聖霊の靈感を受けて語っているときは必ずそれが分かります。自分が語ったことからいつも何かを学ぶからです。」¹⁰ 忘れないでください、教師も生徒なのです。

最後に、皆さんは自分の教える事柄について、手引きの言葉や人の考えを復唱するだけでなく、自分の証を述べなければなりません。皆さんが以前よりもいっそう大きな目的意識をもって、キリストの言葉を味わい、福音を実践する努力をするとき、聖霊は皆さんが教えていることが真理であることを明示してくださいます。これが啓示の御霊です。そして、その同じ御霊がそれを受けたいと望み、喜んで受ける人々の心に皆さんのメッセージを伝えてくださいます。

ここでわたしたちが始めた場所、すなわち、聖なる森で終わらしましょう。そんなに昔ではないあの美しい春の朝に起きたことにより、皆さんは、神の力と権能によって教える資格が与えられているのです。わたしは、このことをイエス・キリストの御名により厳粛に自分自身の証を述べます、アーメン。■

注

1. ローマ1:16
2. 教義と聖約11:20
3. 大管長会の言葉、『救い主の方法で福音を教える—青少年のための学習リソース「わたしに従ってきなさい」のためのガイド」(2012年)2より抜粋
4. 大管長会、『救い主の方法で福音を教える』2より抜粋
5. 教義と聖約11:21 参照
6. 1テサロニケ1:5 参照
7. アルマ17:2-3
8. ジェフリー・R・ホランド“*The Divine Commission*”(新しい伝道部会長のためのセミナーでの説教, 2009年6月26日, ソルトレーク・シティー, 教会歴史図書館)オリジナルに強調付加
9. 教義と聖約100:6
10. マリオン・G・ロムニーの言葉, ボイド・K・バックナー“*Teach Ye Diligently*”(1975年)304で引用



七十人
ケビン・S・ハミルトン長老

しっかりつかまる

天の御父のみもとへ通じる鉄の棒に絶えずしっかりつかまっていることができますように。

わ たしの父は、彼の父親、母親、そして4人の子供から成る自分の家族が教会を離れたときのことを、その日にちや時間まで正確に思い出すことができました。家族の多くは生涯二度と教会に戻って来ませんでした。父は13歳で執事でした。当時、家族は午前中に日曜学校に出席し、午後は聖餐会に出席していました。ある晴れた春の日のこと、父の家族は日曜日の朝の礼拝行事を終えて帰宅し、一緒に昼食を取りました。その後で、母親が父親の方を向いて、一言、こう尋ねました。「ねえ、あなた、今日の午後のことだけど、聖餐会に出た方がいいかしら。それとも田舎を家族でドライブした方がいいかしら。」

父は、聖餐会に出るか出ないかという選択肢があるなどと一度も考えたことがありませんでした。父と3人いた10代のきょうだいは皆、姿勢を正し、一心に耳を傾けました。その日の午後、田舎をドライブしたことは楽しい家族の活動だったかもしれませんが、しかし、その小さな決定は新しい方向へ踏み出すきっかけとなり、最終的に、父の家族は安全と安心感、祝福を与えてくれる教会から離れ、異なる道へと進むことになったのです。

異なった道を選ぶ誘惑に駆られる現代の人々への教訓として、モルモン書の預言者リーハイは、自分の家族に一つの示現について話しました。その示現で「〔リー

ハイは〕群れ集まる無数の人々を見たが、その中の多くは、〔彼〕の立っているそばの木の下に通じる道にたどり着こうとして、押し進んでいた。

そして、その人たちは進んで来ると、木に通じている道を歩き始めた。

そこで、暗黒の霧が起こった。……道を歩き始めていた人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。」¹

次に、リーハイは2番目のグループを見ました。「〔彼らは〕進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた。」残念ながら、「彼らは、木の実を取って食べると、恥じるかのように迎いを見回した。」なぜなら、「一つの大大きく広々とした建物」の中にいた人々が、「その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった」からです。それから、その木の所までやって来た人々は、「禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなって」しまいました。² 彼らは、最後まで堪え忍ぶ力、あるいはもしかするとその意志がなかったのです。

しかし、3番目のグループがいました。このグループは命の木にたどり着くことができただけでなく、後で道を外れることもありませんでした。このグループについて、聖典にはこう記されています。「〔彼ら

は、〕しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。」³ 鉄の棒はこのグループの人々にとって、自分たちが得られる唯一の安全と安心感を象徴していました。彼らは絶えずしっかりつかまっています。日曜日の午後に田舎へドライブに出かけるといったささいなことに対してすら気を許さず、棒を離しませんでした。

このグループの人々について、デビッド・A・ベドナー長老はこう教えています。「この節の中で大切な言葉は、鉄の棒に『しっかり……つかまりながら』という部分です。……このグループは恐らく、キリストの御言葉を一貫して読み、そして研究して、さらに調べたのでしょうか。……これこそ、皆さんやわたしが目指す生き方です。」⁴

今日、神の教会の会員であるわたしたちは、イエス・キリストに従い、神の戒め





を守るという聖約を交わしています。パプテスマのときわたしたちは、救い主の証人になり、⁵ 弱者や助けの必要な者を助け、⁶ 神の戒めを守り、必要なときには悔い改めるといふ聖約を交わしました。それは、使徒パウロが教えたように、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって [いる]」⁷ からです。

毎週、わたしたちには聖餐会に出席する機会があります。そこで、聖餐の儀式的パンと水をいただくことでこれらの聖約を新たにすることができます。この簡潔な行為を通して、わたしたちはイエス・キリストに従うことを改めて約束し、その約束を果たせなければ悔い改めることができます。それに対して、神は御自分の御霊^{たま}がわたしたちを導き守ると約束してください。

宣教師は、『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』の中から、啓示と証^{あかし}は日曜日に行われる集会に出席するときに与えられると教えています。「教会の集会に出席して、一緒に礼拝することにより、互いに強め合います。友達や家族と一緒に過ごすことにより、新しい力をもらいます。聖文を研究し、回復された福音についてもっと学ぶことにより、信仰が強くなります。」⁸

こう尋ねる人がいるかもしれません。「日曜日に、どうして3つの別々の集会が行われるのですか。どうしてそれぞれの集会に出席する必要があるのですか。」では、この3つの集会について、少し考えてみましょう。

- 聖餐会では聖餐の儀式を受ける機会があります。わたしたちは聖約を新たにし、御霊をますます豊かに受け、さらに聖霊によって教えられ教化されるという祝福を受けることができます。
- 日曜学校では、「互いに王国の教義を教え合 [い]」⁹ ます。すべての人が「教化されて、ともに喜ぶ」¹⁰ ためです。回復された福音の教義を理解することで、大きな力と個人的な平安を受けることができます。
- 神権会は、成人男性および若い男性が「自分の義務を学び」¹¹ 「完全に教えられる」¹² 機会です。また、扶助協会集会では、教会の女性に、「信仰を深め……家族と家庭を強め、困っている人に手を差し伸べる」¹³ 機会が提供されます。

同様に、若い女性や子供たちにも彼ら

のための集会やクラスがあり、福音を学び、将来受けることになる大切な責任に備えます。こうしたそれぞれ異なる、しかし関連し合う集会で、わたしたちは教義を学び、御霊を感じ、互いに仕え合うのです。距離、移動にかかる費用、あるいは健康などの理由による例外もあるでしょうが、わたしたちは努めて、日曜日のすべての集会に出席する必要があります。わたしは、日曜日の3時間の集会を通して行われる礼拝から、大きな喜びと平安という祝福がもたらされると約束します。

わたしたち家族は日曜日のすべての集会に出席すると決めています。そうすることによって、わたしたちの信仰は強くなり、福音の理解は深くなるということが分かりました。わたしたちは教会の集会に出席し、特に、帰宅してからも引き続き安息日を守ることを決意することで良い気持ちを感じるということを知りました。わたしたちは、休暇中あるいは旅行中であっても、日曜日の集会すべてに出席します。娘の一人から最近送られてきた手紙には、旅行先で教会に出席したことが書かれてあり、さらにこう付け加えられていました。「もちろん、お父さん、日曜日の集会には3つとも全部出たわよ。」そのような正し

い決心をしたことで、娘は祝福を受けたことでしょう。

安息日をどのように守るかについて、一人一人が決断すべき多くの選択肢があります。「良い」時間の過ごし方はいつでも必ずあります。しかしそれらは、教会の集會に出席するという、より良い選択肢のために犠牲にすることのできる、あるいは犠牲にすべきものです。「良い」ものは実際には、敵対者が「[わたしたち]をだまし、[わたしたちを巧みに]誘[う]」¹⁴一つの方法です。サタンは「より良い」もの、さらには「最も良い」ものの代用として「良い」ものを使うのです。¹⁵

絶えずしっかり鉄の棒につかまっているということは、可能な限りいつでも日曜日のすべての集會、すなわち聖餐會、日曜学校、神権會もしくは扶助協會に出席するということです。教会の子供や青少年は、それぞれ初等協會、若い男性および若い女性の集會に出席します。決して、どの集會に出席するかを選ぶべきではありません。わたしたちは礼拝し安息日の集會に出席して、とにかくただ神の言葉にしっかりとつかまらねばなりません。

絶えずしっかり鉄の棒につかまっているということは、神の戒めをすべて守り、個人で、そして家族で祈り、聖文を毎日研究するよう努力するということです。

絶えずしっかり鉄の棒につかまっているということは、モルモン書で教えられているように、キリストの教義の一部です。わたしたちはイエス・キリストを信じる信仰を働かせて罪を悔い改め、心を変え、キリストの模範に従ってバプテスマの水に入り、導き手としてまた慰め主として働く聖霊の確認の賜物を受けます。そしてニーファイが教えたように生涯の終わりまで「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み」¹⁶ます。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは聖約の民です。進んで聖約を交わし、それを守るわたしたちには、「[御]父が持っておられるすべて」¹⁷を受けるという祝福が



約束されています。聖約を守ることによって絶えずしっかり鉄の棒につかまっているとき、わたしたちは世の誘惑や危険に立ち向かう力を得ます。あらゆる試練が待ち構える現世をしっかりと進み、文字どおり「非常に貴く、ほかのあらゆる実よりも好ましい」¹⁸実のなる木にたどり着くことができるのです。

わたしの父は幸運にも素晴らしい女性と結婚しました。その女性は、父が若いときに集っていた教会に戻り、もう一度福音の道を歩み出すよう父を励ましました。二人が忠実に人生を歩んだおかげで、子供たち全員、次の孫世代、そして今やひ孫まで祝福を受けています。

安息日の礼拝行事の一つに出席するかしないかというささいな決断が、祖父の家族の人生に大きな変化をもたらしたように、わたしたちの日々の決断が、わたしたちの生活に大きな影響をもたらします。例えば、聖餐會に出席するかどうかという一見小さな決断でも、長く将来にわたる永遠の結果を生じる可能性があるのです。

わたしたちが勤勉であることを選び、ともに集い、聖約を守ることによってもたらされる大きな祝福と守りを受けることができますように。天の御父のみもとへ通じる鉄

の棒に絶えずしっかりつかまっていることができますように。イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. ニーファイ 8:21 - 23
2. ニーファイ 8:24 - 28
3. ニーファイ 8:30, 強調付加
4. デビッド・A・ベドナー「生ける水の源」(“A Reservoir of Living Water”) (教会教育システム・ファイヤサイドにおける説教, 2007年2月4日), lds.org/broadcasts
5. モーサヤ 18:9 参照
6. 教義と聖約 81:5 参照
7. ローマ 3:23
8. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい—伝道活動の手引き』74
9. 教義と聖約 88:77
10. 教義と聖約 50:22
11. 教義と聖約 107:99
12. 教義と聖約 88:78
13. 『手引き第2部—教会の管理運営』(2010年), 9.1.1
14. ニーファイ 28:21
15. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号, 104 - 108 参照
16. ニーファイ 31:20
17. 教義と聖約 84:38
18. ニーファイ 15:36



七十人
アドリアン・オチョア長老

見上げなさい

今こそ、真理の源に目を向けて証^{あかし}を強めるときです。

わたしが8歳のとき、二人のいとことわたしは、15日分の食糧を買うために近くの町まで使いに出されました。今思うと、祖母とおばとおじが示してくれた信頼の厚さに驚くばかりです。明るく輝く朝空の下、わたしたちは3頭の馬にまたがって小さな隊列を組んで出かけました。

草原の中で、すばらしい考えが浮かんできました。馬を降りてビー玉遊びをします。わたしたちは長い間遊び続けました。遊びに夢中になったわたしたちは、頭上に黒雲が垂れ込めてきているという「時のしるし」に気づきませんでした。何が起ころうとしているのかに気づいたときには、もう馬に乗る暇さえありませんでした。激しい雨がわたしたちを襲い、雹^{ひょう}が顔に打ちつけます。思いつくことといえば、馬の鞍から毛布を取り外して、かぶることくらいでした。

馬に逃げられ、びしょ濡れで、凍えながら、わたしたちは旅を続けました。今度はできるだけ速く進もうとしました。目的地に近づくと、町に続く大通りは水浸しで、まるで川が流れてくるようでした。残された選択肢は、かぶっていた毛布を手放して、町を囲む有刺鉄線をよじ登ることでした。町に入って最初に見た家に宿を求めたころには、すっかり夜もふけていました。疲れ切り、体は痛み、びしょ濡れでした。親切な若い夫婦が体を乾かしてく

れ、おいしい豆の料理を食べさせ、寝る場所を用意してくれました。しばらくして、部屋の床が平らな土であるのに気づき、またすばらしい考えが浮かびました。床に円を描き、倒れて寝るまで、ビー玉遊びを続けました。

幼いわたしたちは、自分のことしか考えていませんでした。家では愛する人たちがわたしたちを懸命に捜していようなど思いつきもしませんでした。もし気づいていれば、そのような遊びのために、旅を遅らせはしなかったでしょう。それに、もう少し賢明であったならば、空を見て、雲がわき起こっているのに気づき、嵐に追いつかれないよう歩みを速めたことでしょう。少し経験を積んだ今、わたしはいつも自分自身に言い聞かせています。「見上げることを忘れるな。」

いとこのこの経験は、時のしるしに注意を払うことを教えてくれました。今は、嵐が吹きすさぶ、危険な時代です。パウロは「人々は自分を愛する者、……親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、……そしる者、無節制な者、……神よりも快樂を愛する者〔となる〕」と述べています(2テモテ3:2-4)。

この時代について、ダリン・H・オークス長老は次のように言いました。「物質的および霊的な備えをする必要があります。……最も怠りがちな備えは、目に見えにくく、より難しい霊的な備えです。」

(「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号、9)つまり、見上げることを怠ってはならない、ということです。

霊的な備えが緊急に必要なこの危険な時代において、一つの非常に明白な時のしるしについて警告しておきます。わたしは仕事柄、最先端の科学技術を使ってきたので、その価値、とりわけ通信技術の価値をよく知っています。非常に多くの情報が簡単に引き出せます。しかし、インターネットには、汚れた、人を惑わす情報もあふれています。科学技術は言論の自由を促進してきましたが、一方で、ふさわしくない情報発信者が、閲覧者が多いという理由で、信頼感を高めています。だからこそ、これまでも増して次の永遠の原則を心に留める必要があるのです。「あなたがたはその実によって彼らを見かけるのである。」(マタイ7:20)

特に、汚れた画像を見たり、キリストや預言者ジョセフ・スミスをそしる人たちに関心を寄せたりしないように忠告します。どちらにも同じ結果が伴います。聖霊を失い、聖霊の守りと支えを失うのです。その結果は、常に罪悪と不幸です。

愛する兄弟姉妹の皆さん、福音に対する証を疑わせるようなものに出くわしたら、どうぞ見上げてください。あらゆる知恵と真理の源に目を向けてください。神の言葉で信仰と証を培ってください。この世には、半分だけの真理にうそを混ぜてあなたの信仰を弱めようとする人たちがいます。だからこそ、御霊^{みたま}を受けるふさわしさを常に保つことが非常に重要なことです。聖霊を伴侶^{はんりよ}とすることは、単に良い気持ちを感じさせてくれる便利なものではありません。霊的に生き残るために不可欠なものなのです。キリストの言葉を大切に蓄え、御霊の促しに注意深く耳を傾けることを怠るならば、惑わされるでしょう(ジョセフ・スミスマタイ1:37参照)。わたしたちはこれらのことを行わなければならないのです。

完全であられたイエス・キリストと、自



ブラジル、ブラジリア

分自身は完全ではないことを認めていたジョセフ・スミスはどちらも、その証を受け入れず、そしる者たちに命を奪われました。二人の証が真実であること、つまりイエス・キリストが神の御子であられ、ジョセフ・スミスがまことの預言者であることを、どのように知ることができるでしょうか。

「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。」悪い木に良い実がなるでしょうか。贖い主がわたしの罪を赦し、わたしをくびきから解放し、その存在を知らなかった幸福な状態に導いてくださったことを、わたしは知っています。わたしはジョセフ・スミスが預言者であることを自分で知っています。それは、モルモン書の簡単な約束を実践したからです。「キリストの名によって永遠の父なる神に問〔いなさい。〕」(モロナイ 10:4) 簡単に言えば、「見上げなさい」ということです。

キリストの復活や、回復された福音の真実性を信じるには物理的な証拠が必要だ、と言う人がいます。そのような人たちのために、信じないよう人々をそそのかしていたコリホルに向けて語ったアルマの言葉を引用します。「あなたはすでに数々のしるしを十分に持っている。あなたは神を試みようとするのか。あなたの

同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言うのか。」(アルマ 30:44)

皆さんもわたしも、救い主の贖いの力の生きた証です。わたしたちは、預言者ジョセフの教導の業と、強い証を持ち続けた初期の聖徒たちの忠実さの生きた証です。イエス・キリストの教会は今や全世界に広がり、かつてないほど発展しています。信じるために見る必要も、触れる必要もない謙遜な人々が、キリストの時代と同じようにこの教会を受け入れているのです。

主が来られる時がいつかはだれにも分かりません。しかし、わたしたちは危険な時代に生きています。今こそ、真理の源に目を向けて証を強めるときです。

先ほどの話に戻ります。いとことわたしが朝目覚めると、日差しは明るく空は晴れわたっていました。その3人の迷子の少年を捜して、一人の男性が戸をたたきました。彼はわたしたちを馬に乗せ、同じ草原を通して家に帰りました。家に帰る途中で見た光景を決して忘れることはないでしょう。夜を徹して捜してくれた大勢の人たち、ぬかるみにはまった彼らのトラクターやトラックが見えたのです。わたしたちの鞍と馬は先に見つかっていました。

わたしたちが家に帰って来たのを目にしたときの彼らの安堵と愛を、感じることができました。町の入り口では大勢の人たちがわたしたちを待っていてくれました。先頭には優しい祖母とおじとおばの姿がありました。行方不明の子供たちを見つけた彼らは、喜びのあまり泣きながらわたしたちを抱きしめてくれました。この出来事は、優しい天の御父がわたしたちを気にかけてくださっていることをわたしに思い起こさせてくれます。御父は、首を長くしてわたしたちの帰宅を待っておられるのです。

そうです、わたしたちの周りには至る所に嵐のしるしがあります。見上げ、備えようではありませんか。強い証は安全をもたらします。日々証を大切にはぐくみ、強めましょう。

わたしは、家族が永遠にともに暮らせることを知っています。優しい天の御父はその子供であるわたしたちに手を差し伸べながら待っておられます。救助者イエス・キリストが生きておられることを知っています。ペテロと同じように、このことをあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父です(マタイ 16:15-19 参照)。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■



七十人
テレンス・M・ビンソン長老

神に近づく

救い主はわたしたちに、自分の意思と主の御心^{みこころ}を一致させたいと思うほど、真に主を愛するように望んでおられます。

6歳の孫のオリは、親しみを込めてわたしを「ポビー」（訳注——父や祖父に対する愛称）と呼びます。オリが車に忘れ物を取りに行ったときのことで。家にいたオリの父親が内緒で、オリが車に近づいたときにリモートキーで鍵を開け、忘れ物を取った後でまた鍵をかけました。オリはにこにこしながら家に駆け込んで来ました。

家族全員から「どうやって鍵を開けたり閉めたりしたの?」と聞かれても、オリはただほほえむだけです。

わたしの娘であるオリの母親が言いました。「たぶん、ポビーと同じね。オリもポビーみたいに魔法が使えるのよ!」

少し後にまた同じことが起こったとき、新たに見つけた能力について聞かれ、オリはこう言いました。「すごいや! ポビーがほくのこと大好きで、ほくの親友で、ほくのこと助けてくれるからだと思うよ!」

わたしは恵まれて、アフリカ、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド、また太平洋の島々に住む忠実な聖徒たちが経験した奇跡を知る機会にあずかっています。わたしも孫のオリに同意します。忠実な人々は、オリがわたしに対して抱くのと同じ思いを、天の御父と救い主に対して抱いています。彼らは神を親しい友のように愛し、神は彼らを助けてくださいます。

この教会の会員たちは、霊的^{あかし}な証を受

ける特権があり、実際に多くの人が受けています。また主に従うという聖約を交わしています。それにもかかわらず、主に近づく人もいれば、そうでない人もいます。皆さんはどちらでしょうか。

神はわたしたちの生活の中心であり、文字どおり焦点となるべきです。神はそのような存在でしょうか。それとも、わたしたちの心の思いと志が、主から離れてしまうときがあるでしょうか（モーサヤ5:13参照）。心の思いだけではなく、「志」も重要であることに注意してください。わたしたちの態度や行いは、その志が誠実であるかどうかをどのように表しているでしょうか。

息子のベンが16歳のときにステーキ大会で話し、次のように尋ねました。「もしだれかが毎週あなたに約束をして、一度もそれを守らなかったら、あなたはどう感じますか。聖餐^{せいさん}を受けるときに交わす約束、主の戒めを守り、いつも主を覚えるという聖約を真剣にとらえているでしょうか」と。

主はわたしたちに、主と主の助けの力を覚える方法を与えておられます。その一つは、だれもが経験する、試練という方法です（アルマ32:6参照）。わたしが受けた試練を思い返すとき、試練によって成長と理解を得て、人の気持ちが分かるようになったのは明らかです。試練によって経験や清さが心に刻まれ、御父と御子

に近づくことができました。

主の導きと指示は欠くことができません。主は忠実なヤレドの兄弟を助け、彼が抱えていた二つの問題のうちの一つを解決してくださいました。主に従って造った船に、新鮮な空気を入れる方法を教えてくださったのです（エテル2:20参照）。しかし重要なことは、光については一時的に未解決のままにされただけでなく、それを解決することが必要となるような試練に遭わせられたということです。風や雨、多くの水を送り出されたのは、主御自身だったのです（エテル2:23-24参照）。

主はなぜそのようなことをされるのでしょうか。危険を防ぐこともおできになるのに、危険から遠ざかるようにと警告されるのはなぜなのでしょう。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこのような話をしていきます。大管長と妻と子供たちが寝ていた馬車を移動するようにという御霊^{みたま}の導きを受けたという話です。その後、竜巻で大木が根元近くで折れ、馬車があったちょうどその場所に落ちてきたそうです（『歴代大管長——ウィルフォード・ウッド



ラフ』47 参照)。

いずれの場合も、天候を変えることで危険を避けられたはずですが。しかし大切なのは、主御自身が問題を解決されるのではなく、問題を解決できるように主に頼り、信頼できるほどの信仰を培ってほしいとわたしたちに望んでおられるということです。それによって、より頻繁に、より力強く、よりはっきりと、より個人的に、主の愛を感じることができます。主と一致し、主のようになることができます。わたしたちが主のようになることは主の目標です。実際それは、主の栄光であり、主の業なのです(モーセ1:39 参照)。

ある少年がおもちゃの自動車で遊ぶために、家の裏の砂地を平らにしようとしていました。大きな岩が邪魔だったので、力いっぱい押ししたり引いたりしましたが、どうにもこうにも動きません。

その様子をしばらく眺めていた父親が、来て言いました。「こんな大きな岩を動かすには、すべての力を使う必要があるよ。」

少年は「ほく、自分の力全部を使ったよ」と答えました。

すると父親は「いいや、まだわたしの助けを借りていないよ」と論じました。

二人ははともにかがんで、簡単に岩を動かしました。

友人のパイバ・ローマの父親であり、パプアニューギニアの最初のステーキ会長であった兄弟は、助けが必要なときに天の御父に頼れることを学びました。彼と村人にとって、自分たちが育てた穀物だけが生き延びる手立てでした。ある日彼は、植え付けの前に、村の農園にある自分の農地をきれいにしようと火をつけました。しかし、それまでずっと暑い日が続き、草が非常に乾燥していたため、火は、前回の総大会でトーマス・S・モンソン大管長が話した経験のようになりました(トーマス・S・モンソン「従順は祝福をもたらす」『リアホナ』2013年5月号、89-90参照)。火は草地ややぶにも燃え広がりました。友人の言葉を借りれば、



テキサス州, コリービル

「大きな火の怪獣」のようになってしまったのです。兄弟は、村の仲間が危険にさらされるのではないかと心配しました。もしそうならば、彼は村の裁きを受けられるでしょう。火を消すことができずにいた彼は、主を思い起こしました。

友人はこう述べています。「父は丘のやぶの中にひざまずき、火を消してくださるように天の御父に祈り始めました。すると急に、祈っている場所の真上に大きな黒雲が現れ、激しい雨が降りました。ただしそれは火が燃えている場所だけで、父が見渡すと、その場所以外は青空が広がっていたのです。父は自分のような普通の人の祈りに主がこたえてくださることが信じられず、再びひざまずいて、子供のように泣きました。この上なく美しい気持ちでした。」(アルマ36:3参照)

救い主はわたしたちに、自分の意思と主の御心を一致させたいと思うほど、真に主を愛するように望んでおられます。

そのとき、主の愛を感じ、主の栄光を知ることができます。そして、主は御自分の望むままにわたしたちを祝福することがおできになります。ヒラマンの息子ニーファイは、主から絶大な信頼を受けるまでになり、それによって主は、ニーファイが願うことすべてを祝福することがおできになったのです(ヒラマン10:4-5参照)。

ヤン・マーテルのフィクション小説「パイの物語」で、主人公はキリストへの思いをこう述べています。「ほくは、キリストのことを忘れることができなかつた。いまだにできないでいる。ほくは丸3日間、キリストのことを考えた。気になって考えれば考えるほど、忘れられなくなっていった。そして、キリストについて知れば知るほど、離れ難くなっていった。」(Life of Pi, 2001年, 57)

わたしは救い主に対してまったく同じ気持ちを感じています。主はいつも近くにおられます。特に聖なる場所において、また助けが必要なときにそう感じます。時に



十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

は、思いも寄らないときに、主がわたしの肩をたたいて愛を伝えてくださっているように感じます。不完全な方法であってもわたしたちが自分の心を差し出すことによって、その愛をお返しすることができます（教義と聖約64：22，34参照）。

数か月前、宣教師を伝道地に召すジェフリー・R・ホランド長老に同席しました。部屋を出るとき、わたしを待っていたホランド長老が、肩に手を回してくれました。「以前にオーストラリアでもそうしてくださいましたね」と話すと、「あなたを愛しているからです」と答えてくれました。長老が心からそう言っていることが分かりました。

もしも実際に主と歩む特権を頂いたなら、主が御腕を肩に回してくださるのを感じるでしょう。エマオに向かっていた弟子たちのように、「心が内に燃え[る]」のを感じるでしょう（ルカ24：32）。「きてごらんなさい。」（ヨハネ1：39）これが主のメッセージです。主は、わたしたちの肩に御腕を回し、ともに歩むように一人一人を招き、迎え入れてくださっているのです。

わたしたちも皆、エノスが記した短くも深遠な書の最後の節にあるように、自信で胸を満たしましょう。「わたしは自分の死すべき体が不死のものを着て、贖い主の前に立つ日のあることに喜びを感じる。そのとき、わたしは喜んで贖い主の顔を拝するであろう。そして、贖い主はわたしに、『祝福された者よ、わたしのもとに来なさい。わたしの父の住まいには、あなたのために用意された場所がある』と言われるであろう。」（エノス1：27）

数々の経験と、御霊による証の力によって、わたしは神が生きておられることを、絶対的な確信をもって証します。主の愛を感じます。それはこの上なく麗しい気持ちです。自分の意思と主の御心を一致させるために必要なことを行い、主を真に愛することができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

永遠のための決断

決断する自由を賢明に行使することは、現世と永遠にわたる皆さんの霊的な成長にとってきわめて重要です。

愛する兄弟姉妹の皆さん、毎日が決断の日です。トーマス・S・モンソン大管長は「決断は行く末を決める」と述べています。¹ 決断する自由を賢明に行使することは、現世と永遠にわたる皆さんの霊的な成長にとってきわめて重要です。皆さんが学ぶのに若すぎることはありません。皆さんが変わるのに年を取りすぎているということもありません。学んで変わりたいという強い気持ちは、神から与えられた永遠の進歩を目指す熱意から生じます。² 永遠のための決断を下す機会は毎日あります。

わたしたちは永遠の存在であり、天の両親の霊の子供です。聖書にこう記されています。「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち……男と女に創造された。」³ 最近、わたしは人々に愛されている歌「神の子です」を歌う子供たちのコーラスを聴きました。⁴ そして考えました。「母親や信仰篤い父親がこの歌を歌うのをあまり聞いたことがないのは、なぜだろうか。」皆が神の子なのではないでしょうか。実際、だれ一人として神の子であることを決してやめられないのです。

神の子として、わたしたちは、この世の両親を愛する以上に、心と精神を尽くして神を愛さなければなりません。⁵ 兄弟や姉妹のように隣人を愛さなければなりません。これらの戒めより大事な戒めはほかにありません。⁶ わたしたちは人の命の

価値を、人生の様々な局面で常に尊ばなければなりません。

聖文では、体と霊が人を成すと教えられています。⁷ 二つのものから成る存在として、皆さんはそれぞれ、体と霊という神の貴い賜物（たまもの）について神に感謝しなければなりません。

人の体

わたしは医師として長年働いているうちに、人の体を心から尊ぶ気持ちを抱くようになりました。あなたへの賜物として神によって創造された体は、実に驚くべきものです。あなたの周囲にあるすべてのすばらしいものを見る目、聞く耳、触れる指について考えてみてください。脳があるのであなたは学び、考え、推論できます。心臓は日夜休みなく働きますが、あなたがそれを意識することはほとんどありません。⁸

あなたの体には防御する力があります。どこか悪いところがあり、注意が必要な場合、警告として痛みを生じます。感染性の病気になることが時々あります。そうすると、抗体が形成され、その後の感染に対する抵抗力が増します。

あなたの体には自然治癒力があります。切り傷や打撲傷は治り、折れた骨はもう一度強くなります。これらは、あなたの体にある、神から与えられた多くの驚くべき特性のほんのわずかな事例です。

それでも、すべての人ではないとしても、



すべての家族に、特別な世話を必要とする何らかの体の状態を抱えた人がいるようです。⁹ このような試練への対処法が主から与えられています。主はこう言われました。「わたしは人を謙遜けんそんにするために、人に弱さを与える。……もし彼らが……へりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」¹⁰

すばらしい霊たちがしばしば不完全な体に宿ります。¹¹ 特別な助けを必要とする体を持って生まれたその子供のために、親ときょうだいが進んで自分の生活を変えるとき、賜物としてそのような体を与えられていることで実際に家族が強められます。

年を取ることも神からの賜物であり、死もまた同様です。あなたの死すべき体が

やがて死を迎えることは、神の偉大な幸福の計画に不可欠です。¹² どうしてでしょうか。死によって霊は神のもとに帰ることができるからです。¹³ 永遠の観点から見ると、神にお会いする用意をしていない人々にとって、死の訪れは早すぎるように思われます。

体がこのように神の永遠の計画にとってきわめて重要であることを思うと、使徒パウロがそれを「神の宮」と述べたのも驚くには当たりません。¹⁴ 鏡で見る度に、あなたの体は宮であることを思い起こしてください。この真理を毎日感謝の気持ちで思い起こすなら、どのように体に気をつけ、どのように体を使うかについて決断するうえで良い影響がもたらされます。そして、その決断があなたの行く末を決めるのです。どうしてでしょうか。あなたの

体はあなたの霊の宮だからです。そして、体の使い方が霊に影響を及ぼします。あなたの永遠の行く末を決める決断には、次のような事柄が含まれます。

- どのように体に気をつけ、どのように体を使うか。
- どのような霊的な特質を伸ばすか。

人の霊

あなたの霊は永遠の存在です。主は預言者アブラハムにこう言われました。「あなたは生まれる前に選ばれたのである。」¹⁵ 主はエレミヤ¹⁶ についても、その他多くの者¹⁷ についても同様のことを言われました。さらに、あなた¹⁸ についてもそうです。

天の御父は非常に長い期間あなたのことを御存じでした。御父の息子あるいは娘として、あなたはまさにこの時代にこの世に来て、地上における御父の偉大な業において指導者となるように御父によって選ばれました。¹⁹ あなたは身体的特性のために選ばれたのではなく、雄々しさ、勇氣、心の誠実さ、真理に対する渴き、知恵に対する飢え、ほかの人々に仕えたいという望みなど、**霊的な特質**のために選ばれたのです。

あなたは前世でこれらの特質の一部を伸ばしました。ほかにもこの地上で伸ばせる特質があり、²⁰ 根気強くそれらを求めるときに伸ばすことができます。²¹

一つの重要な霊的特質は、自制、すなわち理性で欲求を抑える強さです。自制は強い良心を築きます。そして、あなたの良心は、困難や誘惑、試練の状況にあってあなたがどのように道徳的対応をするかを決めます。断食は、あなたの霊が肉体的な欲求を抑える力を増すのに助けとなります。また断食は天の助けを得る機会を増やします。それが祈りを強くするからです。なぜ自制が必要なのでしょう。神は人類が永続するために必須の、食物と愛を欲する強い欲求をわたしたちの内



に植え付けられました。²² わたしたちは自分の欲求を神の律法の範囲内で制御するとき、長寿と深い愛、そして無上の喜びを享受することができるのです。²³

ですから、神の幸福の計画から逸脱する誘惑のほとんどが、神から与えられたこの基本的な欲求を誤用することから生じるというのは、うなずけます。自分の欲求をコントロールするのは容易ではありません。それを完全に御せる人はだれもいません。²⁴ 間違いが起きます。過ちを犯します。罪を犯します。そのときに何ができるでしょうか。わたしたちはそのことから学ぶことができます。そして、心から悔い改めることができます。²⁵

わたしたちは自分の行動を変えられます。望みさえも変えられます。その方法は何でしょうか。方法はただ一つです。イエス・キリストの贖罪が持つ癒し、清め、また人に能力を与える力によってのみ、わたしたちはほんとうに永久に変われるのです。²⁶ イエス・キリストは皆さん一人一人を愛しておられます。²⁷ 熱心に、誠実に、厳密に戒めを守るとき、あなたはイエス・キリストの力に近づくことができます。それは簡単で、確実です。イエス・キリストの福音はまさに変化を可能にする福音なのです。²⁸

肉の欲を制する力を持つ、霊の力の強い人は、感情と熱情を治める主人であり、

それらの奴隷ではありません。体に酸素が必要であるように、霊にはその種の自由が不可欠です。自分への隷属状態からの自由こそ、ほんとうの自由なのです。²⁹

わたしたちは「自由と永遠の命を選ぶことも、……束縛と死を選ぶことも自由」です。³⁰ 自由と永遠の命に通じるより高い道を選ぶとき、その道には結婚があります。³¹ 末日聖徒は、「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものである」と宣言しています。また、わたしたちは次のことも知っています。「性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。」³²

男女の間の結婚は、主の教義の基本部分であり、神の永遠の計画にとってきわめて重要です。男女の間の結婚は、地上と天に生命を満たすための神の方式です。ほんとうの喜びを得たければ、神が定められた結婚の方式を誤用、誤解、あるいは曲解してはなりません。³³ 神が定められた結婚の方式は、生殖の神聖な力と合法的な結婚に伴う親密な交わりのもたらす喜びを保護してくれます。³⁴ 御存じのように、アダムとエバは神のもとで結婚した後、夫婦として結ばれる喜びを味わいました。³⁵

現在、政府は結婚を保護することに常

に関心を払っています。健康、教育、福祉、ならびに後の世代の繁栄をもたらす最善の方法を備えているのが強い家族だからです。³⁶ しかしながら、法律を起草したり、修正したり、執行したりするとき、政府は社会の風潮やこの世的な考え方に非常に影響されます。どのような法律が制定されようと、結婚と道徳に関する主の教義は変わることがありません。³⁷ 覚えておいてください。罪は、たとえ人によって合法化されたとしても、神の目には依然として罪なのです。

救い主の思いやりと哀れみに倣うならば、また、神のすべての子供たちの権利と気持ちを尊重するならば、神の教義を変えることはできません。わたしたちが行うのは変えることではありません。神の教義を研究し、理解し、支持することなのです。

人生に関する救い主の方法はすばらしいものです。結婚前の純潔と結婚後の完全な貞節は主の方法です。³⁸ 主の方法は、わたしたちが永続する幸せを味わう唯一の方法です。主の方法は、わたしたちの霊に持続する慰めを、またわたしたちの家庭に永続する平安をもたらします。とりわけ、主の道は、わたしたちを主と天の御父のもとに、すなわち永遠の命と昇栄に導きます。³⁹ これが神の業と栄光の本質なのです。⁴⁰

愛する兄弟姉妹の皆さん、毎日が決断の日です。そして、自分の決断が自分の行く末を決めます。いつの日か、わたしたち一人一人は主の前に立って裁きを受けます。⁴¹ 各自がイエス・キリストから個人面接を受けます。⁴² わたしたちは自分の体、霊的な特質に関して行った決断について、また結婚と家族に関する神の方式をどのように尊んだかについて報告することになります。わたしたちが永遠のために毎日の決断を賢明に選択できるよう、イエス・キリストの神聖な御名により心からお祈りします、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「決断は行く末を決める」(教会教育システムファイヤサイド、2005年11月6日)、speeches.byu.edu
2. 永遠の進歩の概念については、W・W・フェルプスが賛美歌「If You Could Hie to Kolob」(*Hymns*, 284番)の歌詞の中に適切に表現しています。第4節にこうあります。「徳に終わりはなく、力に終わりはなく、知恵に終わりはなく、光に終わりはなく、一致に終わりはなく、若さに終わりはなく、神権に終わりはなく、真理に終わりはなく。」第5節は次の言葉で結ばれています。「栄光に終わりはなく、愛に終わりはなく、存在に終わりはなく、天に死はない。」
3. 創世1:27。コロサイ3:10; アルマ18:34; エテル3:15; モーセ6:9も参照
4. 「神の子です」『賛美歌』189番
5. マタイ10:37参照
6. マルコ12:30-31参照
7. 教義と聖約88:15参照
8. あなたの体には神から与えられた機能がほかにもあります。ナトリウムやカリウム、カルシウムのような元素と、水やブドウ糖、タンパク質のような化合物は、生きていくために不可欠です。体は酸素や二酸化炭素のようなガスを処理します。インシュリンやアドレナリン、チロキシンのようなホルモンを作ります。体の中のものやその他多くの成分はそれぞれ、ある範囲内で自動的に調整されます。体の分泌腺同士の関係も自動制御されています。例えば、脳の基部にある脳下垂体の分泌腺は、副腎皮質ホルモンを生成するために、副腎の皮質を刺激するホルモンを分泌します。副腎皮質ホルモンが過剰になると、脳下垂体からのこの刺激ホルモンの分泌が抑えられ、逆に少なければ分泌が促されます。あなたの体温は、あなたが赤道地域にいても北極にいても、摂氏37度(華氏98.6度)の正常な範囲に保たれます。
9. 体の状態がよく分かることもあれば、表に出ないこともあります。遺伝によるものもあれば、そうでないものもあります。癌になりやすい人や、アレルギーのある人などがいます。わ

たしたちはそれぞれ、弱さが強さになるように、自分の弱い部分に気を配り、主が教えたいと思っておられることを謙遜に学ばなければなりません。

10. エテル12:27
11. 復活の時まで完全には正されない状態もあります。復活の時に「すべてのものが本来の完全な造りに回復される」のです(アルマ40:23)。
12. アルマ42:8参照
13. 詩篇作者はこう記しています。「主の聖徒の死はそのみ前において尊い。」(詩篇116:15) 死は貴いものです。聖徒にとってそれは主のもとに「帰る」ことだからです。
- 14.1 コリント3:16。6:19も参照
15. アブラハム3:23
16. エレミヤ1:5参照
17. アルマ13:2-3参照
18. 教義と聖約138:55-56参照
19. アルマ13:2-3; 教義と聖約138:38-57参照
20. わたしたちが伸ばし、また授かることのできる霊的な賜物として、「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉」という特質があります(教義と聖約4:6)。感謝も、伸ばすことのできるもう一つの霊的な特質です。感謝は、人の雰囲気や能力に影響を及ぼします。あなたは霊的に「神から生まれ」るとき、次第にあなたの顔に神の面影を受けるようになります(アルマ5:14参照)。
- 21.1 コリント12章; 14:1-12; モロナイ10:8-19; 教義と聖約46:10-29参照
22. 過食の誘惑を受ける人がいます。「肥満は世界規模で広まっており、太りすぎのために毎年少なくとも280万人が死亡している。」(“10 Facts on Obesity” 世界保健機関、2013年3月、www.who.int/features/factfiles/obesity/en) ほんの少ししか食べないようにという誘惑を受ける人もいます。拒食症と過食症は多くの人の生活、結婚生活、家族を脅かしています。また、わたしたちの創造主によって禁じられているような性欲の誘惑を受ける人がいます。「手引き 第2部: 教会の管理運営」では、次のように説明されています。「純潔に関する主の律法は、合法的な結婚関係によらない性的関係、ならびに夫婦の貞節を逸脱する性的関係を禁じている。……姦淫、私通、男性間または女性間の同性愛関係、その他のあらゆる汚れた不自然で不潔な行いは、罪深いものである。」さらに手引きにはこうあります。「同性愛行為は、神の戒めを破ることであり、人の持つ性的目的に反しており、家族生活の中に、また救いにかかわる福音の儀式の中に見いだすことのできる祝福を人々から奪うものである。……教会は、同性愛行為に反対する一方で、同性に魅力を感じてしまう人に理解と敬意をもって手を差し伸べている。」([2010年], 21.4.5; 21.4.6)
- 23.1 コリント6:9-20; ヤコブの手紙1:25-27; 教義と聖約130:20-21参照。わたしたちは、「人が存在するのは喜びを得るためである」という言葉を常に覚えておかなければなりません(2ニーファイ2:25)。
24. 聖文に述べられているように、死すべき生涯

- は試しの時期です。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム3:25)
25. モーサヤ4:10; アルマ39:9; ヒラマン15:7参照。『手引き 第2部』には次のような言葉があります。「同性愛行為は、心からの悔い改めによって赦しを得ることができる。」(21.4.6)
 26. イエス・キリストの贖罪によって、また福音の諸原則に従うことによって、全人類は救われます(教義と聖約138:4; 信仰箇条1:3参照)。
 27. エテル12:33-34; モロナイ8:17参照
 28. モーサヤ5:2; アルマ5:12-14参照
 29. ローマ8:13-17; ガラテヤ5:13-25; 教義と聖約88:86参照
 - 30.2 ニーファイ2:27
 31. 教義と聖約131:1-4参照
 32. 「家族—世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
 33. マタイ19:4-6; モーサヤ29:26-27; ヒラマン5:2参照
 34. 人はそれぞれ独自のアイデンティティ、染色体とDNA(デオキシリボ核酸)を持って生まれます。DNAとは、生きている細胞が成長し、機能を果たす際に用いられる遺伝的指令を持つコードを含む分子です。父親と母親からのDNAが結びついて新たな肉体のDNAが生成されます。すなわち、各人のDNAが生成されるとき、父母と子供のつながりができるのです。
 35. 創世2:24-25; 3:20-21; 4:1-2, 25参照
 36. パトリック・F・フェイガン博士は次のように述べています。「経済の繁栄に不可欠の基盤は結婚している親がいる家庭、特に毎週宗教活動に参加している子供たちがいる家庭です。……結婚すると新たな家庭、すなわち、収入と支出、貯蓄、投資を生み出す独立した経済単位が設けられます。」(“The Family GDP: How Marriage and Fertility Drive the Economy,” *The Family in America*, 第24巻, 第2号 [2010年春], 136)
 37. 出エジプト20:14; レビ18:22; 20:13; 申命5:18; マタイ5:27-28; マルコ10:19; ルカ18:20; ローマ1:26-27; 13:9; モーサヤ13:22; 3ニーファイ12:27-28; 教義と聖約42:24; 59:6参照
 38. ゴードン・B・ヒンクレイ「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 58
 39. 教義と聖約14:7参照
 40. モーセ1:39参照
 - 41.2 ニーファイ9:41, 46; モーサヤ16:10参照
 42. わたしたちは自分の行いと心の望みに応じて裁かれます(教義と聖約137:9参照。ヘブル4:12; アルマ18:32; 教義と聖約6:16; 88:109も参照)。



トーマス・S・モンソン大管長

また逢う日まで

互いに対して、いっそうの思いやりを示すことができますように。
主の業に常に携わることができますように。

兄 弟姉妹の皆さん、このすばらしい総大会を終えるに当たり、わたしの心は満たされています。わたしたちは各部会の話者の勧めと証に

耳を傾け、霊の糧を頂きました。

わたしたちは祝福されて、この立派なカンファレンスセンターで穏やかに、また無事に集うことができました。大会の様



はかつてないほど広範囲に中継され、大陸を越えて世界各地の人々に届けられました。皆さんの多くは距離的には遠く隔たっていますが、わたしたちは皆さんの霊的な力を感じています。

今大会で解任となった兄弟たちに、長年にわたる献身的な奉仕に対してわたしたち全員の心からの感謝の意を表します。数え切れないほどの人が、主の業に対する皆さんの貢献によって祝福されてきました。

この大会に参加してくれたタバナクル合唱団とそのほかの聖歌隊の皆さんに感謝します。皆さんの美しい音楽は、各部会で感じた御霊に彩りを添えてくれました。

わたしのために、また中央幹部や中央役員のために皆さんがささげてくださいる祈りに感謝します。そのおかげでわたしたちは力づけられています。

天の祝福が皆さんとともにありますように。皆さんの家庭が愛と思いやりと主の御霊に満たされますように。皆さんが福音に対する証を絶えず養い、それがサタンの攻撃に対する守りとなりますように。

今、大会は終わります。家までの道のりが安全でありますように。日々従事する事柄に取り組むときにも、ここで感じた御霊がともにとどまりますように。互いに対して、いっそうの思いやりを示すことができますように。主の業に常に携わることができますように。

兄弟姉妹の皆さん、神が皆さんを祝福されますように。神が約束された平安が皆さんとともに今も、そして常にありますように。半年後にまた逢うまでのお別れです。主なる救い主イエス・キリストの御名により、アーメン。■



中央扶助協会会長
リンダ・K・バートン

聖約を守ることから 生じる 力と喜びと愛

わたしたち各自は、自分がどれほど救い主を愛しているか、自己評価をしてみるとよいでしょう。その際に、どれほど大きな喜びをもって聖約を守っているかを評価の手がかりにしてください。

最 初に、わたしが感動した話を紹介しましょう。

ある日の夕方、夜になる前に羊を家畜小屋へ入れようとして、ある人が5匹の羊を呼びました。ただ一言「おいで」と呼ぶと、家族は興味津々で見守りました。すると、すぐに5匹とも頭を上げて、彼の方を向きました。4匹は彼の方へ走って来て、優しい愛にあふれた手で1匹ずつ頭をなでてもらいました。羊は飼い主の声を覚えており、彼が大好きでした。

ところが、5匹目の羊は走って来ませんでしたが、2、3週間前に元の飼い主が置いて行った大きな雌羊でした。元の飼い主の話では、その雌羊は粗暴で、言うことを聞かず、いつもほかの羊を迷子にさせていました。新しい飼い主は雌羊を受け取り、逃げ出さないように、2、3日の間牧場の杭につないでおきました。そして、飼い主とほかの羊を好きになるように根気強く教えたのです。雌羊は首に短いロープを結んだままでしたが、ようやく杭から解かれました。

その夕方、家族が見ていると、飼い主は牧場の端にいた雌羊に近づいて行きました。そして再び優しく言いました。「おいで。もうつながれてはいない。自由なのだよ。」優しく手を伸ばし頭をなでると、雌羊はほかの羊と一緒に小屋へ向かって歩き始めたのです。¹

この話を踏まえたくうえで、聖約を守ることに、今晚皆さんとともに学ぶために聖霊の助けがあるよう祈ります。聖約を交わして守るということは、自分を天の御父とイエス・キリストに結びつけることを選ぶという意味です。つまり、救い主に従うという決意を固めることです。主を信頼し、贖罪という無窮の賜物を通してわたしたちを罪から解放するために払ってくださった犠牲に感謝を表したいと願うことです。

ジェフリー・R・ホランド長老はこのように説明しています。「聖約とは拘束力のある霊的な契約です。わたしたちがある特定の方法、つまり、御子である主イエス・キリストの方法で生活し、考え、行動

することを御父である神に立てた厳粛な約束です。それに対し、御父と御子、そして聖霊はわたしたちに、永遠の命という完全な栄光を約束しておられます。」² その拘束力のある契約の中で、主が条件をお定めになり、わたしたちはそれを守ることに同意します。聖約を交わして守ることは、救い主のようになるという決意を表すことです。³ 理想としては、親しまれている賛美歌の歌詞に、最もよく表現されている態度を身に付ける努力をすることです。「主よ、み旨のまま行かん……主よ、み旨のまま言わん み旨に添いませぬ。」⁴
なぜ聖約を交わし、守るのでしょうか。

1. 聖約を守ることは強さと力と守りを与えます。

ニーファイは示現の中で、聖約を守る民に主がお授けになる大きな祝福を目にしました。「そしてわたしニーファイは、神の小羊の力が、……主の聖約の民のうえに下るのを見た。彼らは義と神の力とをもって、大いなる栄光のうちに武装していた。」⁵

わたしは最近、愛する新しい友人に出会いました。その姉妹は、神殿でエンゲウメントを受けた後、それまで悩まされてきた誘惑に打ち勝つ力を得て強くなったと証していました。

わたしたちは聖約を守る時、互いに重荷を負い合うための支えとなる勇気と強さも授かります。ある姉妹は、息子が生命を脅かされるような困難な状況に陥ったために悲嘆に暮れていました。扶助協会の姉妹たちは聖約を守る人々であるという信仰心から、彼女は勇気を奮い起こして、息子のために断食して祈るよう姉妹たちに頼みました。別の姉妹は、自分も同様の祈りを姉妹たちに頼めたらどんなによかったかと言いました。数年前、彼女の息子も苦しんでいたのです。家族でその重荷に耐えるために助けを求めていれば、どんなによかったことでしょう。救い主はこう言われました。「互に愛し合う



ならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。』⁶

姉妹の皆さん、わたしたちは皆、耐えるべき重荷と分かち合うべき重荷を背負っています。互いの重荷を負い合うようにという勧めは、聖約を守るようにという勧めです。初期の扶助協会の姉妹たちに向けたルーシー・マック・スミスの次の勧告は、現在、かつてないほど重要な意義を持っています。「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。』⁷これは聖約を守ることと家庭訪問の最も理想的な姿です。

モルモン書は、預言者アルマでさえ反抗的な息子を持つという重荷を背負わなければならなかったことを思い起こさせてくれます。しかしアルマは福音の中で聖約を守る兄弟姉妹に恵まれていました。主に深く帰依し、互いの重荷を負い合うことがどんな意味かを知っていた人たちが

す。モーサヤ書にあるよく知られた聖句は、息子のために祈りをささげたアルマの深い信仰を語っています。しかし、そこには次のように記されています。「主は……御自分の民の祈りと、御自分のしもべ……であるアルマの祈りを聞かれた。』⁸

わたしたちは「人が悔い改めるとき」⁹主がいつも喜ばれることを知っています。しかし、何よりも願っているのは、子供たちがヘンリー・B・アイリング管長の勧告に従うことです。聖約を交わし、守ることを「早くから始め、絶えず積み重ねる」ようにという勧告です。¹⁰先日、神権指導者と補助組織指導者の評議会で、次のような率直な質問が出て、考えさせられました。「わたしたちはほんとうに、8歳の子供に聖約を守るように期待しているのでしょうか。」話し合いの中で、このような提案がありました。神聖なバプテスマの聖約を交わして守るように子供を備える一つの方法として、簡単な約束をして、それを守れるように助けるという提案でした。

忠実な親には、子供の必要を満たすた

めに教える最善の方法を知る資格があります。個人の啓示を求め、それに基づいて行動し、ともに相談し、福音の分かりやすい原則を教えて導くとき、家族を強め、守る力を持てるようになります。家族の中に助けてくれる人もいます。わたしが敬慕する祖父は、簡単な歌を通して約束を守ることの大切さを教えてくれました。歌詞はこのようなものでした。「約束する前に、約束の大切さをよく考えよう。約束したら、心に刻み込んで、忘れないようにしましょう。」祖父はその短い歌を愛と確信と力を込めて教えてくれました。祖父自身が、約束したら心に刻み込んでいたからです。

わたしはある賢明な母親を知っています。彼女は自分が交わした聖約を守ろうと努力するときに、意図的に子供たちとともに取り組むようにしています。隣人や友人、ワードの会員たちの重荷を喜んで負い、慰めを必要としている人たちを慰めます。先日、彼女の若い娘が助けを求めて彼女のもとに来たのは意外なことではありませんでした。父親を亡くしたばかりの友人を慰める最善の方法を知りたいと思ったのです。友達を慰める願いは、バプテスマの聖約を守る一つの方法であることを教えるまたとない機会でした。子供が交わす最初の聖約、すなわちバプテスマの聖約を守ることを子供に期待しないとしたら、神殿の聖約を交わして守ることをどうして期待できるでしょうか。

リチャード・G・スコット長老はこう述べています。「わたしたちがこの世に与えることのできる最大の祝福は、福音を教え、聖約を守り、愛に満ちた家庭、すなわち、キリスト中心の家庭が持つ力です。』¹¹子供が神殿の聖約を交わして守るよう備えるためにそうした家庭を築くには、どのような方法があるのでしょうか。

- 神殿推薦状を受けるのにふさわしくなるとはどういう意味か、ともに答えを見いだす。
- 聖霊に耳を傾けるにはどうしたらよい

か、ともに答えを見いだす。神殿のエンダウメントは啓示によって受けるため、耳を傾けるという非常に大切な技能を身に付ける必要があります。

- まずバプテスマや聖餐という神聖な象徴から始めて、象徴の効用から学ぶにはどうしたらよいか、ともに考える。
- 肉体が神聖なものであるのはなぜか、肉体は宮であると言われることがあるのはなぜか、慎み深い服装や身なりは、神殿衣の神聖さにどのように関連しているか、ともに答えを見いだす。
- 聖文を読んで、幸福の計画がどのようなものかともに見いだす。聖文に書かれている天の御父の計画と贖いについて知れば知るほど、神殿での礼拝がさらに意義深いものとなります。
- 先祖に関する話をともに学び、家族歴史を探求し、索引作成をして、亡くなった家族や親類のために身代わりの儀式を行う。
- エンダウメント、儀式、結び固め、神権、鍵など、神殿での礼拝にかかわる言葉がどのような意味か、ともに答えを見いだす。
- 神殿に行くのは天の御父と聖約を交わすためであり、家に帰って来た後にも聖約を守ることを教える。¹²

教えるときに、「良いこと、より良いこと、最も良いこと」¹³という考え方を忘れないようにしましょう。神殿について子供に教えるのは良いことです。子供を備えさせ、聖約を交わして守るよう期待するのは、より良いことです。親が自分のバプテスマと神殿の聖約を喜んで固く守ることを模範によって示すことは、最も良いことです。姉妹の皆さん、わたしたちは子供を養い、教え、聖約の道に沿って成長するよう備えさせるときに、救いの業の中で自分が担う非常に重要な役割に気づいているのでしょうか。親が聖約を尊び、守るときに、そのように行う力を持てることでしょう。

2. 聖約を守ることは真の幸福を得るために不可欠です。

トーマス・S・モンソン大管長はこのように教えています。「わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、神聖な聖約を尊ばなければなりません。聖約を忠実に守ることは、幸福になるための条件です。」¹⁴ ニーフай第二書には次のように記されています。「そして、わたしたちは幸福に暮らした。」¹⁵ 同じ章に前述されていますが、ニーフайとその民は神殿を建てたばかりでした。確かに喜びに満ちあふれた聖約の民にほかなりませんでした。また、アルマ書にはこう書かれています。「しかし見よ、ニーフайの時代からこのかた、ニーフайの民にとって、モロナイの時代……以上に幸せな時はかつて一度もなかった。」¹⁶ なぜでしょうか。その前の節を読むと、彼らは「主の命令を忠実に守っていた」¹⁷ ことが分かります。聖約を守る民は戒めを守る民なのです。

わたしの大好きな聖句にはこう書かれています。「人々はこの言葉〔つまりバプテスマの聖約を述べた言葉〕を聞くと手をたたいて喜び、『それこそわたしたちが心から望んでいることです』と叫んだ。」¹⁸ わたしは彼らの心からの望みが大好きです。彼らは聖約を交わし、守りたいと喜んで望んだのです。

ある日曜日のことです。若い姉妹がうれしそうに大きな声で言いました。「今日は聖餐を取ることができるのね！」わたしたちが聖餐にあずかる特権を喜んだのは、今からどれくらい前のことでしょうか。また、特権を喜んでいることをどのように示しているのでしょうか。それを示す方法は、常に救い主を覚え、安息日を聖く保つなどの主の戒めを守ることです。また、常に個人と家族の祈りをささげ、毎日聖文を勉強し、毎週家庭の夕べを行って、常に主を覚えることです。そして、このような大切な事柄について不注意になったり、いかげんになったりしたときは、悔い改めて、もう一度やり直します。

聖約を交わし、喜んで聖約を守るなら、「[天の御父]が持っておられるすべて」¹⁹ を得るために受ける必要のある非常に神聖な救いの儀式が、効力と意味のあるものになります。ヘンリー・B・アイリング大管長は次の教えの中で、儀式と聖約は人生における「霊的に重要な節目」であると述べています。「末日聖徒は聖約の民です。バプテスマを受けた日から、人生における霊的に重要な節目を迎える度に、わたしたちは神に約束し、神もわたしたちと約束されます。神は正しい権能を持つ僕たちを通して与えられた約束を必ず守ってくださいます。しかし、神と約束を交わしてそれを守るかどうかはわたしたちの人生における試しであり、重要な意味を持っています。」²⁰

3. 聖約を守ることは、救い主と天の御父に対するわたしたちの愛を身をもって示すことです。

わたしたちはさらに励んで聖約を守らなければなりません。その理由の中で何よりも人の心を強く動かすのは愛です。





愛の原則について考えるとき、心を打たれる聖句が旧約聖書にあります。聖書に書かれたヤコブとラケルの愛の物語に感動しない人がいるでしょうか。「こうして、ヤコブは七年の間ラケルのために働いたが、彼女を愛したので、ただ数日のように思われた。」²¹ 姉妹の皆さん、わたしたちはこのような深く献身的な愛をもって聖約を守っているでしょうか。

救い主は御父と交わした聖約を進んで守り、世の罪を贖うために神聖な使命を果たされましたが、それはなぜでしょうか。それは御父への愛とわたしたちへの愛のためです。独り子である完全な御子が、世の罪と苦悩、病、弱さ、および現世のあらゆる不正を背負うために、筆舌に尽くし難い苦痛に耐えられるままにしておくのを、御父が快く良しとされたのはなぜでしょうか。その答えは次の聖句にあります。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」²²

「わたしたちのためになされた贖いによって多くの祝福がもたらされたことを十分に理解していれば、主が何をお求めになろうと、わたしたちは精魂を込め、喜んで果たそうと思うようになるに違いありません。」²³ ジョセフ・フィールディング・スミス大管長のこの言葉によると、聖約を守ることはわたしたちの救い主、贖い主の人知を超えた無窮の贖罪に対する崇敬

の念と、天の御父に対する心からの愛を表す一つの方法なのです。

ホランド長老は感情を込めて言いました。「裁きの日にわたしたちがどのような経験をするのか、わたしには分かりません。しかし、その日、神とのやり取りのどこかで『わたしを愛するか』とキリストがペテロにお尋ねになったのとまったく同じ質問を、神がお聞きにならないとすれば、わたしはとても驚くことでしょう。」²⁴ 今晚わたしたち各自は、自分がどれほど救い主を愛しているか、自己評価をしてみるとよいでしょう。その際に、どれほど大きな喜びをもって聖約を守っているかを評価の手がかりにしてください。救い主はこう言われました。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう。」²⁵ わたしたちは皆、日々の生活の中で何度も救い主に御自身を現していただく必要が大いにあると言えるでしょう。

忘れないようにしましょう。過去において道を外れた人でも、あるいは現在、悩み苦しんでいる人でも、良い羊飼いの手を頭の上に感じ、その御声がこう言うのが聞こえます。「さあおいで。あなたはもうつながれてはいない。自由なのです。」救い主は言われました。「わたしはよい羊飼である。

よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」²⁶ 主がそう言えるのは愛の心で聖約をお守りになったからです。わたしたちもそうしていこうとしているでしょうか。信仰と喜びに満ちた心で、聖約を守る者になりたいという大きな望みをもって前進できますように。これは、天の御父と救い主に対する愛を身をもって示す方法です。御二方について深い愛をもって証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. D・トッド・クリストファーソン「君は自由だ」『リアホナ』2013年3月号、16-18参照
2. ジェフリー・R・ホランド「聖約を守る 伝道に出ようとする人たちへのメッセージ」『リアホナ』2012年1月号、49
3. 「神と交わす聖約を理解する」『リアホナ』2012年7月号、23参照
4. 「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番、強調付加
5. 1ニーファイ14:14
6. ヨハネ13:35
7. ルーシー・マック・スミスの言葉、「わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業」25で引用
8. モーサヤ27:14、強調付加
9. 教義と聖約18:13
10. ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号、37-40参照
11. リチャード・G・スコット「平安に満ちた家庭を築くために」『リアホナ』2013年5月号、30
12. D・トッド・クリストファーソン「福音は人生の問題と困難に答えを与える」(世界指導者訓練集会、2012年2月) LDS.org/broadcasts参照
13. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号、104参照
14. トーマス・S・モンソン「幸福——すべての人の願い」『リアホナ』1996年3月号、4-5
15. 2ニーファイ5:27
16. アルマ50:23
17. アルマ50:22
18. モーサヤ18:11
19. 教義と聖約84:38
20. ヘンリー・B・アイリング「神の証人」『リアホナ』1997年1月号、35参照、強調付加
21. 創世29:20
22. ヨハネ3:16
23. ジョセフ・フィールディング・スミス、「Importance of the Sacrament Meeting,」*Relief Society Magazine*, 1943年10月号、592
24. ジェフリー・R・ホランド「いちばん大切な、第一のいましめ」『リアホナ』2012年11月号、84
25. ヨハネ14:21
26. ヨハネ10:11



中央扶助協会会長会第一顧問
キャロル・M・スティーブンス

わたしたちが喜ぶべき もっともな理由が あります

皆さんが小さな簡単な方法で、人々を愛し、見守り、仕えるときに、積極的に救いの業に参加しているのです。

わたしの義理の父が亡くなったとき、お悔やみに来てくれた人たちにあいさつをするために、家族が集まりました。その晩は家族や友人たちと話し合っただけでしたが、その間しばしば、10歳の孫息子のポーターがわたしの義理の母、つまりポーターのひいおばあちゃんのそばにいてくれたことに気づきました。後ろに立って、見守っていることもあ

りました。彼女の腕に自分の腕をからませていることもありました。手にやさしく触れたり、ちょっと抱きしめたり、隣に立っていることもありました。

その経験から数日間、そのときの光景が頭から離れませんでした。ポーターにEメールを送り、自分が目にしたことを伝えようという思いに駆られました。わたしが見たことや感じたことをEメールに書き



ポーター(右)。曾祖母とともに

ました。彼がバプテスマを受けたときに交わした聖約を思い起こさせ、モーサヤ書18章に書かれたアルマの言葉を引用しました。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、……永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。

あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあるか。」¹

わたしはアルマの教えをポーターに説明しました。バプテスマを受けたいと思う人は、ほかの人に仕えることによって、生涯にわたり、喜んで主に仕える必要があるのです。わたしはこう言いました。「自分では気づかなかったかもしれないけど、あなたがひいおばあちゃんに愛と関心を示したことは、聖約を守るということなのよ。人に親切にする、愛を示す、互いに思いやるなどの行いを通して、わたしたちは毎日聖約を守っているのよ。聖約を守っているあなたを誇りに思っていることを伝えなかったの。バプテスマを受けたときに交わした聖約を守るとき、神権を受ける備えができるわ。バプテスマの次に交わすこの聖約により、ほかの人々を祝福して奉仕を行う機会が増えて、神殿で交わす聖約に備える助けとなるのよ。こんなに良い模範をわたしに示してくれてありがとう。聖約を守る人がどんな人かを教えてくれてありがとう。」

ポーターから返事が来ました。「おばあちゃん、メッセージをありがとう。いつもひいおばあちゃんを抱きしめるとき、そ

れが聖約を守るようになってるなんて知らなかった。でも心の中が温かくなって、いい気持ちでしたよ。心の中に聖霊がいたんだね。」

わたしも心の中が温かくなりました。ポーターが聖約を守るということを、「いつも御子の御霊を受けられる」という約束と関連づけて理解したのが分かったのです。²それは聖霊の賜物たまものを受けることによって可能となる約束です。

姉妹の皆さん、わたしは世界各地の皆さんと会い、多くの方々がポーターに似ていると気づきました。皆さんは神の証人として静かに立ち、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めています。それが皆さんの聖約、すなわち、バプテスマの水と神殿の中で交わした聖約を守っていることだと気づいていないのです。皆さんがほかの人を愛し、見守り、ささやかで簡単な方法で奉仕するとき、救いの業、すなわち「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」という神の業に積極的に参加しているのです。³

王国における娘として⁴、わたしたちは神聖な聖約を交わしています。ニーファイが「永遠の命に至る細くて狭い道」と呼んだ道を歩んでいるのです。⁵道は同じでも、皆それぞれ異なる場所にいます。しかし、「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進」むように互いに助け合うためにともに働くことができるのです。⁶

ジーンは若い女性のアドバイザーを務めています。数か月前、ワードの青少年のための活動が近々行われることを知りました。マランズピークという所まで山登りをするのです。最近ジーンは自分でその山に登ることを目標に定めていたので、胸をわくわくさせていました。

登山口に着くと、仲良しのアシュリーが近づいてきました。ジーンの腕を取って、一緒に登ろうと誘い、こう言いました。「わたしはあなたと一緒に行くわ。」そのとき16歳だったアシュリーは身体がいくら

か不自由なので、あまり早く登れませんでした。そこで、アシュリーとジーンはゆっくりと歩きました。すると、天の御父の創造物であるそびえる山頂の岩と周囲に咲き乱れる花に気づきました。後にジーンはこう述べています。「そのうちに、山頂まで登るという自分の目標を忘れてしまいました。目標がすぐに別の種類の冒険になったからです。山道に沿って目にする美しいものを発見するという冒険です。その美しいものの多くは、目指すマランズピークに到達することだけを目標としていたら、見逃していたことでしょう。」

ジーンとアシュリーは歩き続けましたが、グループのほかの人たちからかなり遅れてしまいました。すると、エマが合流しました。彼女もワードの若い女性です。歩みを止めて、二人の姉妹と一緒に歩くことにしたのです。エマが加わったおかげで、もっと楽しくなりました。二人に歌を教え、さらに助けと励ましを与えてくれたのです。ジーンはそのときのことを思い出してこう述べています。「わたしたちは座って休憩し、歌い、おしゃべりして笑いました。わたしはほかの方法ではできなかったやり方で、アシュリーとエマと知り合うことができました。その晩、心に残ったのは登山ではありませんでした。もっとずっと大きなものでした。一步一步歩きながら互いに助け合うことでした。」

ジーンとアシュリーとエマは一緒に登り、歌い、休み、笑っていたとき、「ねえ、わたしたちは今、聖約を守っているわよ」とはおそらく思っただけではなかったでしょう。でも実は聖約を守っていたのです。愛と思いやり、そして固い決意をもって互いに仕え合っていたのです。互いに励まし、教え導き合うときに、互いの信仰を強めていたのです。

ラッセル・M・ネルソン長老はこのように教えています。「自分が聖約の子孫であることを悟るとき、自分が何者であり、神から何を期待されているかを知ります。神の律法が心に刻まれます。」⁷

マリア・クジーナは自分が何者であり、神から何を期待されているかを知っている、神の聖約の娘です。わたしがロシアのオムスクにある彼女の家を訪れて歓迎されたとき、自分は彼女に奉仕するために来たと思っていました。ところが、彼女から学ぶために来たのだということに間もなく気づいたのです。教会へ改宗したマリアはルカ22章にある次の教えに従って生活していました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」⁸彼女は生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長の言葉を信じています。大管長はこう述べています。

「今こそ会員と宣教師が力を合わせる時です。ともに働き、主のみもとへ人々を連れて行くために主のぶどう園で働く時です。……

わたしたちが主を信じる信仰をもって行動するとき、わたしたちが生活しているワードや支部で主の教会を強める方法を主は示してください。主はわたしたちとともにあり、伝道活動において力強いパートナーになってくださるのです。

信仰を働かせて、皆さんの家族、友人、隣人、知人の中でだれを家に招いて宣教師に会わせ、回復のメッセージを聞かせたらよいか、祈りの気持ちで考えてみてください。」⁹

マリアは、この勧告に従い、家庭訪問の担当の姉妹たちを見守り、教え導き、またこの責任を果たす以上のことをしています。教会にあまり活発ではない友人、イエス・キリストの回復された福音のメッセージをまだ聞いていない友人がたくさんいます。毎日信仰を働かせ、助けの必要な人がだれかを分かるように祈っています。そして、受けた導きに従って行動します。電話をかけ、愛の気持ちを表し、「あなたが必要です」と友人たちに言うのです。毎週自分のアパートで家庭の夕べを開き、隣人や会員たち、宣教師を招待し、ごちそうします。教会に来るように誘い、出迎え、来てくれた人の隣に座るのです。



マリアはジェフリー・R・ホランド長老が最近述べた次の言葉を理解しています。

「ほかの人と主イエス・キリストに対する愛の気持ちは……人を不快にさせるとか、独善的だとか思われることは決してないでしょう。」¹⁰ 彼女は、不快な思いをしたと言う人の名前を書いたリストを持っており、続けてその人たちに仕えています。彼らは彼女が自分たちのことを愛していることを知っているのだから、彼女はこう言えるのです。「気分を損ねないでちょうだい。そんなのおかしいわ。」

マリアはイエス・キリストの弟子として聖約を守っています。家庭に神権者はいませんが、神殿で交わした聖約を果たす中で、毎日神の力を感じています。最後まで堪え忍び、途中でほかの人が救いの業に加わるよう助けながら、力強く前進しているのです。

わたしがこれらの経験談を話したことで、皆さんは自分たちも主の業に携わっているということがわかりましたか。少し時間を取って考えてみてください。聖約の道に立ち返るために励ましを必要としているか、またはその道にとどまるために小さな助けを必要としている神の娘がいないでしょうか。そのような人について天の御父に尋ねてください。そのような人も御父の娘なのです。御父は彼女の名前を御存じです。あなたのことも御存じです。彼女が必要としているものが何かを教えてください。忍耐し、彼女のために信仰をもって祈り続けてください。そして受けた導きに従って行動してください。その促しに従って行動するときに、皆さんの行っていることを主が受け入れてくださるといふ確信を御霊が与えてくださるでしょう。

「エイザ・R・スノー姉妹は、……互いに強め合う姉妹たちの努力を認めて感謝しました。そして困っている人々を助けるために行われた寄付について、教会はすべてを記録してはいませんが、主は姉妹たちの救いの業をすべて記録しておられる

と述べました。

『……ジョセフ・スミス大管長は扶助協会が組織されたのは人を救うためであると述べました。道に迷った人を連れ戻すために、姉妹たちはどのようなことをしてきたでしょうか。福音に対する熱意が冷めた人の心を温めてきたのではないのでしょうか。皆さんの信仰と親切、善い行いや言葉は別の書物の一つ残らず記録されています。別の記録があるのです。忘れ去られているものは一つもありません。』¹¹

モルモン書の中でアルマは、わたしたちが喜ぶべきもっともな理由についてこう語っています。「さて、わたしは尋ねるが、神はわたしたちにどんな大きな祝福を与えてくださったのだろうか。あなたがたはそれを告げることができるだろうか。」

胸を躍らせて、アンモンは答えを待たずにこう言いました。「見よ、あなたがたに代わってわたしが答えよう。……わたしたちがこの大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者とされたことは、わたしたちに与えられた祝福である。」¹²

わたしたちは主の王国にあって聖約を守る娘です。主の御手に使われる者になるための機会が与えられています。互いに見守り、強め、教え合うなど、日々ささやかで簡単な方法で救いの業に加わるとき、アンモンとともに次のように宣言することができるでしょう。

「見よ、わたしの喜びは満ちており、胸は喜びでいっぱいである。だから、わたしは主にあって喜ぼう。」

まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によって何事でもすることができからである。¹³

わたしはこのことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. モーサヤ 18:8-10
2. 教義と聖約 20:77
3. モーセ 1:39
4. 教義と聖約 25:1
5. 2 ニーファイ 31:18
6. 2 ニーファイ 31:20
7. ラッセル・M・ネルソン「聖約」『リアホナ』2011年11月号、88
8. ルカ 22:32
9. トーマス・S・モンソン、「Faith in the Work of Salvation」(2013年6月23日、特別衛星放送での説教)、lds.org/broadcasts
10. ジェフリー・R・ホランド、「Our Responsibility to Invite」(2013年6月23日、特別衛星放送での説教)、lds.org/broadcasts
11. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』(2011)、83
12. アルマ 26:2-3
13. アルマ 26:11-12



中央扶助協会会長会第二顧問
リンダ・S・リーブズ

聖約の祝福を受けましょう

聖約を新たにし、それを尊ぶならば、重荷は軽くされ、わたしたちは絶えず清められ、強くなります。

姉 妹の皆さん、またお会いできてほんとうにうれしいです。最近、バプテスマを受ける準備をしている女性に会いました。その日曜日、この女性はひどいぬかるみの中を3キロも歩いて教会に来ました。着くとすぐに洗面所で、泥で汚れた服を脱ぎ、体を洗って清潔な安息日の服に着替えました。扶助協会の集会で、改宗のいきさつを話してくれたのですが、悔い改めと、救い主の贖いの犠牲によって洗い清められたという願いの圧倒的な強さに、わたしは感動しました。また、神聖な聖約を天の御父と交わすために「過去の生き方」を喜んで捨てたことにも心を打たれました。ボーイフレンドと別れ、知恵の言葉を守るために依存癖を克服しようとしており、日曜日の仕事も辞めたのです。そして、バプテスマを受けるつもりだと宣言したために愛する人たちとの友情も失いました。そこまでしてすべての罪を捨てたかったのは、洗い清められて、救い主の贖いの愛を感じたかったからでした。その日の朝は、肉体的にも霊的にも清くなりたいと願うこの女性の言葉を聞いて、鼓舞されました。

聖霊の証を感じ、悔い改めてバプテスマを受け、清くなることを願って、同じような犠牲を払った人が皆さんの中にたくさんいることを、わたしたちは知っています。恐らく、悔い改めて救い主の愛に包まれるのを感じ、救い主から愛され、受け入れられていると確信するときほど、救い主の神聖な愛を豊かに感じる機会はないと思います。

数週間前の日曜日、わたしは聖餐の祈りを聞いていて、祭司が一つ一つの言葉に思いを込めていたことに胸を打たれました。おかげで聖餐会がわたしにとってもほかの人たちにとっても霊的なものに



なったのです。そのことに感謝したくて、後でその祭司の自宅に電話をしました。本人は不在でしたが、母親が電話に出ました。「お電話を下さったなんて、息子は喜びますよ。息子が聖餐の祈りをささげたのは、あれが初めてだったんです。わたしたちは一緒に準備しました。聖餐の大切さと、バプテスマのときに救い主と交わした聖約を、ふさわしい状態で新たにすることの大切さについて話しました。」この母親は、バプテスマの聖約の力について、またどのようにすればワードの会員がその力を感じることができるかについて教えたのです。なんとすばらしい母親でしょう。

また、わたしの知っている別の母親は、何年もの間、教会の集會中、4人の幼い子供たちの面倒を独りで見てきました。聖餐の間に救い主に意識を集中することができたことはほとんどありませんでした。しかし、この姉妹はある計画を立てたのです。そして今は、毎週土曜日に1週間を振り返り、主と交わした聖約と、悔い改めの必要な事柄について考えるようにしています。彼女はこう言っています。「そうしたら、日曜日の子供たちの状態にかかわらず、準備ができていたので、聖餐を受けて聖約を新たにし、贖罪の清めの力を感じることができるようになりました。」

愛する姉妹の皆さん、救い主が聖餐の大切さをこれほど強調されるのはなぜでしょうか。毎週バプテスマの聖約を新たにすることは、わたしたちの人生の中でどのような重要な役割を果たすのでしょうか。毎週、ふさわしい状態で深く考えながら聖餐を受ける人を完全に清めることのできる力を救い主は持っておられます。わたしたちはこのことを認識しているでしょうか。ボイド・K・パッカー会長はこう証しています。「これこそまさにイエス・キリストの福音と贖罪の約束です。……生涯の終わりに、罪を悔い改め、キリストの血を通して洗い清められた状態ではばりを通り抜けることができるようにす



ることなのです。』¹

わたしたち会長会は、教会の姉妹とその家族が聖約を交わして守っていることに大きな喜びを感じていますが、愛する人が聖約を破ったために大きな逆境を経験している人が皆さんの中にいることには、心を痛めています。ニーファイの弟である預言者ヤコブは、当時の義になかった女性や子供たちのことを兄弟たちに話すよう主から命じられました。そのときのヤコブの言葉が保存されたのは、特に現代のわたしたちのためだったことをわたしは証します。ヤコブは、あたかも救い主御自身が語っておられるかのように語りました。夫であり父親である者たちに向かって証するヤコブは「心配が……大きいので、心が沈んでい[ました。]」

「あなたがたの妻子の前で、あなたがたのことをひどくあからさまに話さなければならぬのは、わたしにとって悲しいことである。あなたがたの妻子の多くは、……非常に感じやすく、清く、繊細である。……

……彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って……いる。また、……多くの者が心に深い傷を負って、死んだようになっている。』²

ヤコブは、聖約を守っていた当時の、そ

して今の時代の女性や子供たちに、次のように約束しています。

「確固とした思いをもって神に頼り、篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば、神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。……

……頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。』³

姉妹の皆さん、深い苦しみと心からの願いを天の御父に伝える祈りには力があり、答えは、聖文や生ける預言者の言葉を「よく味わう」ときに与えられることを証します。

3年近く前、皆に愛されてきた歴史あるユタ州プロボのタバナクルは壊滅的な火事で内部が焼け落ちてしまいました。この建物の焼失は地元の人にとっても教会員にとっても大きな痛手と思われました。多くの人が疑問を感じました。「主はなぜこんなことが起こるのを許されたのだろうか。火事を防ぐことも焼失を食い止めることもおできになったはずなのに。」

その10か月後、2011年10月の総大会で、ほとんど全焼したタバナクルが聖なる神殿、主の宮になるとモンソン大管長が発表したとき、人々がはっと息をのむのが聞こえました。そのとき突然わたしたち

は、主はそうなることをずっと御存じだったのだと分かったのです。主は火事を起こされたわけではありませんが、内部が焼け落ちるままにされました。タバナクルを壮大な神殿、神聖な永遠の聖約を交わすための永遠の家と見ておられたのです。⁴

愛する姉妹の皆さん、主はわたしたちが試練や試しに遭うのをお許しになります。時には限界まで試されることもあります。わたしたちは、愛する者たちが、たとえて言えば焼け落ちるのを目にしたことがありますし、自分自身そのような目に遭った人もいるでしょう。愛と思いやりにあふれた天の御父がなぜそのようなことが起きるのをお許しになるのだろうかと思ったこともあります。しかし、主がわたしたちを灰の中に置き去りにされることはありません。両手を広げて立ち、わたしたちをみもとに来るようにと熱心に招いてくださいます。わたしたちの人生を、主の御霊が永遠にとどまる壮大な神殿になるように造ってくださいているのです。

教義と聖約第58章3-4節で、主はわたしたちに次のように言っておられます。

「あなたがたは、この後に起こることに関するあなたがたの神の計画と、多くの艱難の後に来る栄光を、今は肉体の目で見ることができない。



多くの艱難の後に祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる栄光を冠として与えられる日が来る。その時はまだ来ていないが、もう近い。」

姉妹の皆さん、主がわたしたち一人一人の人生について計画をお持ちであることを証します。主は何が起こっても動揺したり驚いたりなさいません。すべてを知り、すべてを愛しておられるからです。贖罪の力に頼り、聖約を尊ぶわたしたちを助け、慰め、苦しみを和らげたいと切に願っておられます。わたしたちが経験する試練や逆境こそがわたしたちを主のみもとに導き、聖約に忠実であるように助けるものであるかもし、それがあつて、わたしたちは主の御前に帰って御父の持てるすべてを受けられることができるようになるのです。

この1年、主の愛をもっと深く感じることに、個人の啓示を受けること、神殿の聖約をさらによく理解すること、そして重荷を軽くしていただくことがわたしには必要でした。また、それを望みました。これらの祝福について具体的に祈っていると、神殿に行って自分に宣言される祝福の言葉を一言一言もっとよくかみしめて聞きなさいと御霊が告げるのを感じました。

もっと集中して耳を傾け、信仰を働かせようと努めていると、主はわたしを憐れみ、重荷が軽くなるようにしてくださいました。そのことを証します。主はまだこたえられていない祈りについて深い平安が感じられるようにしてくださいました。わたしたちが聖約を守り、信仰を働かせるならば、主は約束を果たす義務を負うことになります。⁵愛する姉妹の皆さん、神殿に来てください。そして、祝福を受けるのです。

自信と信仰が得られる方法を、もう一つ話したいと思います。わたしたち女性には、自分に対してひどく批判的になりがちです。そんなときには、御霊を求め、問いかける必要があります。「自分をこんなふう考えることを、天の御父はお望みだろうか。サタンがわたしを落胆させようとしているのではないだろうか。」天の御父の特質を忘れてはなりません。御父の愛は完全であり、無限です。⁶御父はわたしたちを力づけようとしておられます。落胆させようとはしておられません。

教会員としてわたしたちは時々、主に受け入れられるためには「完璧な末日聖徒の家族」の一員になる必要があると感じることがあるようです。自分はそうした図式に当てはまっていないと感じるとき、神

の王国の中であつて劣った者であるとか、不適格者であるように感じるがよくあります。愛する姉妹の皆さん、結局、天の御父にとって大切なのは、どれだけ聖約を守り、どれほど救い主イエス・キリストの模範に従うよう努力したかなのです。

イエス・キリストがわたしたちの救い主であり贖い主であられることを証します。イエスの贖罪の犠牲おかげで、毎週ふさわしい状態で主の聖餐にあずかるときにわたしたちは洗い清めていただくことができます。聖約を新たにし、それを尊ぶならば、重荷は軽くされ、わたしたちは絶えず清められ、強くなり、この世の生涯が終わるときに昇栄と永遠の命を受けるにふさわしい者と認められるようになるのです。これらのことを、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. ボイド・K・パッカー「贖罪」[リアホナ] 2012年11月号、77
2. モルモン書ヤコブ2:3、7、35
3. モルモン書ヤコブ3:1-2
4. モーサヤ23:21-22 参照
5. 教義と聖約82:10 参照
6. ラッセル・M・ネルソン「神の愛」[リアホナ] 2003年2月号、12-17 参照



トーマス・S・モンソン大管長

決して独りで歩いているのではない

つらかった日々を振り返る時がいつか来ます。そのとき皆さんは、天の御父がいつもそばにいてくださったことを知るので。

愛する姉妹の皆さん、今晚わたしたちはすばらしい気持ちを感じています。それは、皆さんの強さと、献身と、善良さからもたらされる気持ちです。主の御言葉みことばを借りれば、「あなたがたは、地の塩……あなたがたは、世の光」¹です。

皆さんにお話するこの機会について深く考えていたとき、心に浮かんだことは、愛する妻フランシスが扶助協会を愛していたということです。妻は生涯を通じて扶助協会の様々な責任で奉仕しました。妻もわたしも31歳になったばかりのころ、わたしはカナダ伝道部の会長に召されました。その責任に就いていた3年の間、フランシスは、あの広大な地域にある全ユニットの扶助協会を管理しました。その範囲はオンタリオ州からケベック州にまで及びます。彼女の最も親しい友人の何人かとはこの責任を通して知り合いました。また同じように、その後わたしたち自身のワードの扶助協会ですべての召しを通して、彼女は親しい友人を得ました。彼女は天の御父の忠実な娘であり、わたしの愛する同僚であり、最も親しい友でした。彼女がいない寂しさは言葉で表すことはできません。

わたしも扶助協会を愛しています。扶助協会が靈感によって組織されたものであり、この地上における主の教会の中で欠くことのできない部分を構成していることを証あかしします。この組織からこれまでもたらされてきた善い行いや、この組織によって祝福を受けてきた人々をすべて数え上げることは不可能なことでしょう。

扶助協会は様々な女性によって構成されています。皆さんの中には、独身の人、恐らく学生または社会人で、それでも満ち足りた豊かな生活を送っている人がいるでしょう。あるいは子育てに忙しい母親もいることでしょう。さらに、中には離婚や死別によって夫を失い、夫や父親の助けのない中で子供を育てることに奮闘している人もいます。また、子供は大きくなっても親の助けが必要なことには変わりがないと実感している人もいます。皆さんにしかできない愛に満ちた世話を必要としている年老いた親のいる人もいます。

人生のどの段階であろうと、わたしたちは皆、困難や葛藤を経験します。困難や葛藤は一人一人異なっていますが、すべての人が直面するという点では共通しています。

わたしたちが直面する問題の多くは、あ

りとあらゆる人が住む、この死すべき世で生活していることが理由で起こります。時にわたしたちは投げやりになってこう尋ねるかもしれません。「この星の栄えの世界を歩むときに、どうしたら日の栄えの世界に固く目標を定めることができるのだろう。」

いばらがまかれ、問題が山積する道を歩くこともあるでしょう。あらゆる良い贈り物を下さる御方から遠く離れてしまった、あるいは絶たれてしまったと感じるときもあるかもしれません。自分は独りで歩いているのではないかと心配になります。恐れが信仰に取って代わってしまうのです。

皆さんが、自分は今そのような境遇にあると感じたら、祈りを思い出してください。心からお願いします。わたしは祈りについて語ったエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉が大好きです。彼はこのように言いました。

「これまでの人生を通じて、祈りに頼りなさいという勧告は、わたしにとってほかのどのような助言よりも貴重なものでした。祈りはわたしにとって欠くことのできないものであり、頼みの綱であり、絶えざる力の源であり、また聖なる事柄に対する知識の基盤となるものです。……

……たとえ……災難が来ようとも、わたしたちは祈ることによって安心感を得ることができます。神がわたしたちの心に平安を下さるからです。この平安、つまり平静な心は人生における最高の祝福です。」²

使徒パウロは次のように勧告しています。

「あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。」³

何という輝かしい約束でしょうか。平安こそわたしたちが求めるもの、切望するものなのです。



わたしたちは独りで歩くようにこの地上に置かれたのではありません。実に驚くような力の源、強さの源、慰めの源が一人一人の手の届く所にあります。わたしたち自身よりもわたしたちのことを御存じの御方が、また、はるかに広い視野をお持ちで、初めから終わりまでを御存じの御方が、わたしたちが求めさえすればわたしたちのためにそばにいて助けると約束しておられるのです。わたしたちにはこのような約束があります。「常に祈り、そして信じていなさい。……万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。」⁴

わたしたちの祈りが天に向かうとき、救い主が教えられた御言葉を忘れないようにしましょう。ゲツセマネと十字架上での堪え難い苦痛に直面された救い主は御父にこう祈られました。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」⁵ 御父を信頼することが難しいときがあるかもしれません。しかしわたしたちも天の御父を信頼し、御父が、どのように、いつ、どの方法でわたしたちの求める助けを与えるのが最も良いかを御存じの御方であることを信じなくてはなりません。

わたしは次の詩人の言葉を大切にしています。

いかなる方法でこたえられるのか、わたしは知らない
ただ、分かること、それは神が祈りにこたえたもうこと
神は約束を賜わった
祈りは必ず聞き届けられると
遅かれ早かれこたえられると
だからわたしは祈り、静かに待つ
祝福が求めるままにもたらされるのか
わたしには分からない
だが祈りの答えは神にのみゆだねよう
神の思いはわたしの思いよりもはるかに優れている
神は必ずわたしの求めにこたえて
はるかに祝福された答えを賜わらう⁶

もちろん、祈りをささげるのは困ったときだけではありません。わたしたちは聖文の中で、「絶えず……祈〔る〕」⁷ように、そして心の中で祈り続けるようにと、繰り返し教えられています。⁸ わたしたちの愛唱する賛美歌が、毎日問いかけるべき質問を投げかけています。「部屋を出る前に 祈りしか」と。⁹

祈りとともに、困難の多いこの世で対処できるようわたしたちを助けるものが聖文の研究です。4冊の標準聖典に書かれている真理と靈感の言葉は、わたしにとって非常に価値あるものです。聖文を読むことに飽きることは決してありません。聖文を調べているときはいつも霊的に高められます。真理と愛のこれらの聖なる言葉は、わたしの人生を導き、永遠の完成に向かう道を指し示してくれます。

聖文を読んで深く考えるとき、^{みたま}御霊が優しくささやきかけてくださるのを経験します。疑問に対する答えを見つけることができます。神の戒めを守ることからもたらされる祝福について学びます。天の御父と救い主イエス・キリストについて、そして御二方がわたしたちに寄せられる愛について確かな証を得ることができます。さらに祈りが加われば、イエス・キリストの福音が真実であることを確かに知るこ

とができます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように言いました。「わたしたち一人一人のうえに主の祝福があって、主の聖なる御言葉を味わい、主が約束された『人知ではとうてい測り知ることのできない』(ピリピ4:7) 力と平安と知識を得ることができますように。」¹⁰

祈りを忘れず、時間を取って聖文を調べるなら、わたしたちの生活ははるかに祝福され、重荷は軽くされます。

ある一人の女性の祈りと願いを天の御父がどのようにして聞き届け、彼女が心の底から求めていた平安と確信を下されたのか紹介したいと思います。

ティファニーの問題は昨年、感謝祭と、次にクリスマスに家に客を迎えたことをきっかけに始まりました。夫は医学部を卒業し、研修医2年目でした。夫は長時間働かなければならず、最初に二人が望んでいたほどティファニーを手伝う時間が取れない状態でした。4人の幼い子供の世話に加え、休暇中にしなければならないことの大半がティファニーの肩のしかかっていた。彼女の気持ちは次第に減入ってきました。さらに、親しい友人が癌と診断されたということも分かったのです。ストレスと不安が重くのしかかり始めました。こうして彼女は意欲を失い、うつになってしまったのです。医師の助けを求めましたが改善しませんでした。食欲の減退と体重の減少で、彼女の小さな体は対応し切れなくなっていました。聖文を研究して平安を求め、襲いかかる暗闇から解放してほしいと祈りました。しかし、平安も助けも受けられそうにないと思われたとき、神に見捨てられたと感じるようになりました。家族も友人も彼女のために祈り、懸命に助けようとしていました。肉体的な健康だけは保たせようと、彼女の大好きな食べ物を届けました。しかし、彼女はほんの一口か二口食べるだけで、全部を食べることはとてもできませんでした。

特に苦しかった日のこと、一人の友人

が、何とか元気になってもらいたいとティファニーの好きな食べ物を持って来ましたが、結局は無駄でした。どんなことをしてもうまくいかなかったとき、その友人が言いました。「おいしそうだと思うものが何かあるはずよ。」

ティファニーはしばらく考え、こう言いました。「一つだけ、おいしそうだと思うのは手作りのパンなの。」

でも、手近にはありませんでした。

翌日の午後、ティファニーの家のベルが鳴りました。夫がたまたま家にいて対応しました。戻って来た夫は手作りのパンを1斤抱えていました。ティファニーは、そのパンが二人のあまりよく知らないシェリーという女性から届いたことを聞いて、ほんとうに驚きました。彼女はティファニーの妹ニコルの友人でした。ニコルはコロラド州のデンバーに住んでいます。数か月前、ニコルが感謝祭のお祝いに家族でティファニーの家に滞在していたとき、姉夫婦に簡単に紹介したのが友人シェリーでした。オマハに住んでいたシェリーは、ニコルに会いにティファニーの家まで訪ねて来たのです。

それから数か月後、こうしてティファニーはおいしそうなパンを持ったまま、妹のニコルに電話をしました。思いやりあることづくせをシェリーに頼んでくれたことを感謝するつもりでした。ところが、その訪問はニコルの依頼ではなく、ニコル自身知らなかったことが分かりました。

ニコルがシェリーに、どうしてパンを届けようと思ったのかを尋ねたことで謎が解けました。ニコルが知ったこと、それはニコルへの靈感であり、ティファニーへの灵感であり、シェリーへの灵感でした。そして、わたしにとっての灵感です。

パンが届けられたあの朝、シェリーは、予定していた1斤ではなく2斤のパンを焼くようにという促しを受けていました。そして理由は分からないまま、2斤目はその日、車に乗るときに持って行かなくてという強い気持ちが始まったと言うのです。

友人の家で昼食を終えると、1歳の娘が泣き始めました。家に帰って、昼寝をさせなければならなくなったのです。シェリーは、あのパンをニコルの姉のティファニーのところへ持って行かなければならないとはっきりと感じたとき、ためらいを覚えました。ティファニーの家は町の反対側にあって30分もかかるうえ、よく知らない人です。持って行かなくてもいい理由を考えました。疲れ切った娘を家へ連れて帰りたいと思いましたし、ほとんど初対面の人にパンを届けることが恥ずかしくもあったからです。しかし、ティファニーの家へ行かなければならないという思いは強く、それで促しに従って行くことにしたのです。

彼女が家に着くと、ティファニーの夫が出て来ました。シェリーは、自分はニコルの友人で、感謝祭のとき少し会ったことがあると言ってパンを渡し、帰りました。

こうして主は、町の反対側から初対面に近い人を送られました。欲しかった手作りのパンを届けるためだけでなく、ティ

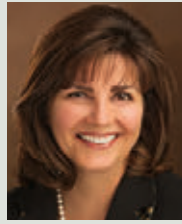
ファニーへの愛をはっきり伝えるためでした。彼女に起こったことは、ほかの方法では説明が付きません。ティファニーは、自分が独りでないことをどうしても感じる必要がありました。神が彼女の状況を御存じで、決して見捨ててはおられないと感じる必要があったのです。彼女が必要としていたまさにそのパンは、あまり知らない人から、また、彼女に何が必要なかまったく分からない人から、しかし、御霊の促しに耳を傾けその促しに従った人から、届けられました。それは、ティファニーにとって、天の御父が彼女の必要としているものを御存じであり、助けを送ってくださるほどに彼女を愛しておられることを示す明らかなしるしとなりました。助けを求める彼女の叫びに天の御父はおこたえになったのです。

愛する姉妹の皆さん、天の御父は皆さんを、皆さん一人一人を愛しておられます。その愛は不変です。その愛は、皆さんの外見や持ち物、あるいは銀行口座にある金額に左右されるようなものではありません。



中央補助組織会長会

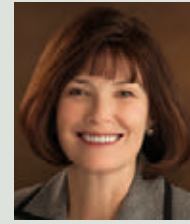
扶助協会



第一顧問
キャロル・M・ステューブンス



会長
リンダ・K・バートン



第二顧問
リンダ・S・リープス

若い女性



第一顧問
キャロル・F・マッコッキー



会長
ボニー・L・オスカーソン



第二顧問
ニール・F・マリョット

初等協会



第一顧問
ジーン・A・ステューブンス



会長
ローズマリー・M・ウィクストム



第二顧問
チェリル・A・エスプリン

若い男性



第一顧問
ラリー・M・ギブソン



会長
デビッド・L・ベック



第二顧問
ランドール・L・リッド

日曜学校



第一顧問
デビッド・M・マッコッキー



会長
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

せん。皆さんの才能や能力でも変わりません。その愛はただそこにあるのです。皆さんが悲しんでいるとき、喜んでるとき、落胆しているとき、希望に満ちているとき、皆さんのために存在しています。神の愛は、皆さんがその愛にふさわしいと感じているかどうかにかかわらず、皆さんのために存在しています。いつもそこに存在しているのです。

切実な真心からの祈りによって、そして真剣で熱心な聖文の研究によって天の御父を求めるとき、証は強められ、深く根付きます。神がわたしたちを愛してくださっていることが分かり、決して独りで歩いているのではないことを理解します。わたしは皆さんに約束します。つらかった日々を振り返る時がいつか来ます。そのとき皆さんは、天の御父がいつもそばにいてくださったことを知るのです。わたしの永遠の伴侶、フランシス・ビバリー・ジョンソン・モンソンが亡くなって、それが真実だと分かります。

わたしの祝福を皆さんに残します。皆さんの善い行いすべてに、そして皆さんの生き方に感謝します。皆さんがあらゆる良い賜物に恵まれるように祈っています。わたしたちの救い主であり贖い主であられる、主イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. マタイ 5:13-14
2. エズラ・タフト・ベンソン「常に祈りなさい」『聖徒の道』1990年6月号、4-5、6
3. ピリピ 4:6-7
4. 教義と聖約 90:24
5. ルカ 22:42
6. エライザ・M・ヒコック、「Prayer」ジェームズ・ジルクライスト・ローソン編 *The Best Loved Religious Poems* (1933年), 160 から
7. ルカ 21:36。2 ニーファイ 32:9; 3 ニーファイ 18:15; 教義と聖約 10:5; 19:38; 20:33; 31:12; 61:39; 88:126; 93:49 も参照
8. 3 ニーファイ 20:1 参照
9. 「部屋を出る前に」『賛美歌』78 番
10. ゴードン・B・ヒンクレー「聖典を味わう」『聖徒の道』1986年6月号、4

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。話者は、アルファベット順に列挙されています。数字は説教が掲載されている最初のページを示しています。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン	(92) 教会の集会に出席することを夫に禁じられたブラジルの信仰深い母親が、子供たちを教会に送り出す。
M・ラッセル・バラード	(43) ある家族が、救いの業を速めるというチャレンジを真摯に受け止めた結果、伝道に成功して喜びを味わう。
デビッド・A・ベドナー	(17) (若い女性のころの) スーザン・ベドナーの家族は、什分の一の律法を守ったことで祝福を受ける。
ジェラルド・コセー	(49) 末日聖徒の温かい歓迎のおかげで、ジェラルド・コセーと家族は新しい町での生活が容易になる。
D・トッド・クリストファーソン	(29) アンナ・デインズはボランティア団体に入り、地域の人々が末日聖徒に対する偏見をなくせるように働きかける。
クエンティン・L・クック	(88) クエンティン・L・クックをはじめ、同じ事務所の弁護士たちは、家族に優しい仕事環境を作ることを決意する。
エドワード・デュベ	(15) エドワード・デュベの母親は、エドワードが若いときに一緒に畑仕事をしながら、後ろではなく、前を向くように教える。
ティモシー・J・ダイクス	(37) コリー・テンブームは、自身が収容されていた強制収容所の守衛だった元ナチス兵を赦す。
ヘンリー・B・アイリング	(58) 若いころのヘンリー・B・アイリングが、ビショップが助けの必要な会員を訪問するときに同行し、祝福を受ける。 (69) ミルドレッド・アイリングとヘンリー・アイリングがユタ州、すなわちミルドレッドの家族の近くに引越す選択において一致する。
ランディー・D・ファンク	(52) インドのある女性がジョセフ・スミスの経験について自分の分からない言語で聞いた後、バプテスマを受けたいと申し出る。
ケビン・S・ハミルトン	(99) ある家族は、聖餐会に出席するよりも日曜日にドライブに出かけることを選び、そのことで教会を離れ始める。
ジェフリー・R・ホランド	(40) ある姉妹が飛行機事故で重傷を負った後、母親としての目的を見いだす。
リチャード・J・メインズ	(79) リチャード・J・メインズの曾祖父が伝道中に心臓発作を起こし、亡くなる。
トーマス・S・モンソン	(61) ある忠実なホームティーチャーは、何年も訪問し続けた人が教会に入ったことで感謝の念に満たされる。 (85) トーマス・S・モンソンは、目が見えず、耳も聞こえない年老いた兄弟に神権の祝福を受ける。
S・ギフォード・ニールセン	(33) あるステーキ会長は、実り多い働きをした宣教師のぼろぼろの靴に青銅メッキを施してもらう。
アドリアン・オチョア	(102) 若いときのアドリアン・オチョアと二人のいとこはひどい嵐の後、無事に帰宅し、家族が大喜びする。
ボニー・L・オスカーソン	(76) アグネス・ホーガンは、16歳の娘が末日聖徒ではない家族の養子となることを拒む。
ボイド・K・パッカー	(26) ボイド・K・パッカーは、多くの問題を抱えるステーキの会員に、聖典を読むことを勧めるように促される。
L・トム・ペリー	(46) 少年時代、L・トム・ペリーと初等協会の他の子供たちが、教師とともに溪谷のお気に入りの場所までハイキングをする。
リンダ・S・リーブズ	(118) バプテスマの準備をしていたある女性が、教会に出席するために泥道を2マイル (3km) 歩く。
ウリセス・ソアレス	(9) 南アフリカのモーゼス・マーラングと仲間たちは教会の外に座り、窓から聞こえる集会の様子に耳を傾ける。
キャロル・M・スティーンズ	(12) ホンジュラスの忠実な姉妹たちは、教会の指導者から神権の祝福を受ける。 (115) ある10歳の少年が、夫を亡くした曾祖母を慰めて、悲しむ者とともに悲しむという聖約を守る。
ディーター・F・ウークトドルフ	(21) ある男性が見た夢の中に末日聖徒の夫婦が登場し、教会での奉仕の機会について説明する。 (55) ディーター・F・ウークトドルフはスキー中に転倒し、孫息子が助けるまで立ち上がれない。
アルヌルフォ・バレンスエラ	(35) あまり活発でないある姉妹は、訪問教師と一緒に賛美歌を歌ったときに聖霊を感じ、教会に戻る。
テレンス・M・ピンソン	(104) パプアニューギニアの忠実な会員の祈りがこたえられ、村の作物をのみ込もうとする火災が雨によって消止められる。



会員と宣教師の増加が 総大会で発表される

2013年10月5日に開かれた第183回半期総大会の最初の部会で、トーマス・S・モンソン大管長は、教会員数が1,500万人に達したと発表した。また、伝道に出られる年齢条件が2012年10月に引き下げられて以来、世界中で奉仕する専任宣教師の数が劇的に増加し、5万8,500人から8万333人になったことも発表した。

「教会は着実に成長し続け、毎年ますます多くの人の生活を変え続けています」とモンソン大管長は語った。「真理を探し求めている人を宣教師が探し出す働きにより、教会は世界中に広がっています。」

大管長は、福音を宣べ伝える業にともに携わるよう会員と宣教師に勧めた。「今こそ、会員と宣教師が一致協力して、主のぶどう園で働き、人々を主のみもとに導く時です。」50年間使徒として奉仕してきたモンソン大管長は、そう語った。

土曜日の午後の部会では、七十人第一定員会の3人の会員、ジョン・B・ディクソン長老、ポール・E・コーリカー長老、F・マイケル・ワトソン長老が名誉の解任

となり、名誉幹部の称号を受けた。七十人第二定員会のケント・D・ワトソン長老も名誉の解任となった。さらに、コロンビア・ボゴタ在住の45歳のフリオ・A・アングロ兄弟、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーに住む54歳のピーター・F・エバンズ兄弟、ウクライナ・ドネツク

在住の47歳のジェナディー・N・ポドポドブ兄弟が地域七十人として支持された。また、セザール・H・フッカー長老とクレグ・T・ライト長老が地域七十人を解任されたことが発表された。

テレビやインターネット、ラジオ、衛星放送を通して、世界各地で何百万もの人が総大会を視聴した。今回、土曜午後の神権部会が初めてテレビで放送され、インターネットでリアルタイム配信された。10月5日と6日で合わせて10万人以上が、ユタ州ソルトレーク・シティーにあるカンファレンスセンターで開かれた5つの部会に出席した。総大会はさらに、様々なメディアを通して95の言語で翻訳され、197の国と属領地で放送された。

モンソン大管長は、教会員に互いにいっそうの思いやりを示し、「主の業に常に携わることができ〔る〕」よう求めて総大会を閉じた。■



モンソン大管長、使徒としての50年

2013年10月半期総大会で、トーマス・S・モンソン大管長が十二使徒定員会に召されてからちょうど50年がたった。1963年10月4日、モンソン大管長は36歳のときに使徒として支持された。

モンソン大管長の奉仕の半生に関する詳細な情報(英文)については、lds.org/go/monson50years を参照。■

1963年、テンプル・スクウェアのタバナクルでのトーマス・S・モンソン。この後間もなく中央幹部として支持された。



神殿に関するニュース

コネチカット州初の神殿の 鍬入れ式が行われる

8月17日土曜日、トーマス・S・モンソン大管長がハートフォードで鍬入れ式を執り行い、アメリカ合衆国コネチカット州初となる末日聖徒の神殿の建設が始まった。コネチカット州ハートフォード神殿は合衆国ニューイングランド地方で2番目となる神殿（もう一つはマサチューセッツ州ボストンにある）で、現在儀式が行われている、または建設中あるいは計画段階にある、世界各地の170の神殿の一つである。

コロラド州2番目の神殿

8月24日土曜日、七十人会長会のロナルド・A・ラズバンド長老は、アメリカ合衆国コロラド州で2番目の神殿となるコロラド州フォートコリンズ神殿の鍬入れ式を管理した。もう一つの神殿は、フォートコリンズから約59マイル（95キロ）南のデンバーにある。

ソーシャルメディアのページが 教会指導者のために作成される

エリック・マードック
LDS.org ニュースと出来事

教 会は、大管長会および十二使徒定員会会員のためのフェイスブックおよびグーグルプラスの公式ソーシャルメディアページを作成した。これらのページは、それぞれの幹部のソーシャルメディアでの公式な情報発信の役割を果たし、各幹部の指示の下で、教会が維持管理を代行する。

フェイスブックおよびグーグルプラスの公式記事は、facebook.com/lds および plus.google.com から検索できる。ソーシャルメディアのサイトやページが公式かどうかを見分けるには、教会のロゴを探すことよ。

これらのページをフォローすると、教会幹部一人一人の務めに関する最新情報を

定期的に受け取ることができる。「教会は説教や記事、ビデオ、その他の関連するコンテンツへのリンクを教会幹部に代わって投稿します」と教会広報担当のデール・ジョーンズは述べている。

これらのページは、人々が生ける預言者の言葉をより簡単に見つけるのに役立つ。ページの「いいね! (Like)」ボタンを押すことにより、それらのコンテンツを、その人のフェイスブックの「ホーム」画面 (Facebook feed) に表示して、ほかの人に気軽にてもらい、共有することができる。

公式ページを作成することにより、教会が維持管理するページがどれであるか教会員に分かりやすくなり、偽造ページから個人を守ることができる。■



ローマとパリでステーキが組織される

2013年9月、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老とM・ラッセル・バラード長老はヨーロッパを訪問し、イタリアのローマで2つ目となるステーキを組織し、フランスのパリで3つ目となるステーキを組織した。この訪問の途中、イングランドのリーズおよびマンチェスター、さらにはスペインのマドリッドでも集会を開いた。ローマでは一つの神殿が建設中で、パリにも間もなく神殿が建つ。

「教会はヨーロッパにおいて、活発で順調に、見事に発展しています」とオークス長老は述べた。バラード長老はヨーロッパの会員たちに、教会は「主が救いの業を速めておられ、わたしたち皆がそれに携わる必要があるということを認識」する必要があると話した。■

わたしたちの時代のための教え

2013年10月から2014年3月までの間、メルキゼデク神権および扶助協会の第4日曜日のレッスンは、2013年10月総大会の説教の中から一つ以上を使って準備してください。2014年4月は、2013年10月または2014年4月の総大会のどちらから説教を選んでもかまいません。ステーキ会長および地方部会長はそれぞれの地域でどの話を使うべきかを選んでください。あるいは、その責任をビショップや支部会長に委任することもできます。

詳しくは、『リアホナ』2013年5月号の「わたしたちの時代のための教え」の記事を参照してください。■



ランドール・L・リッド

新たに召された
中央若い男性会長会
第二顧問

建築に携わる父親を持つランドール・L・リッド兄弟は、正しく仕事を行うことの大切さを早くから学んでいました。幼いころに何かの作業を終えたランドール兄弟は、父のレオン・リッド兄弟から「まだ終わりじゃないよ」と言われることが幾度もありました。

そのような几帳面さは、現在中央若い男性会長会第二顧問として奉仕するリッド兄弟に強い印象を与えました。リッド兄弟はこれまで、仕事や家庭、教会での務めを果たすときに、父親の確固とした、それでいて愛のこもった言葉を時折耳にしました。「まだ終わりじゃないよ。きちんとやりなさい。」

リッド兄弟は、家族のこの労働倫理が生活に祝福をもたらしてきた、と言います。また、折に触れて福音の道を先へと導いてくれた相談相手や神権指導者も同様に祝福をもたらしました。高校のクラスメートの多くは19歳のときに伝道の召しを受けましたが、リッド兄弟は大学に入り、やがて軍に入隊しました。後に、ユタ大学で勉強を続けながらエックス線技師として働きました。幾人かの賢明な男性が、リッド兄弟のいるべき場所は伝道地だと勇気をもって告げました。リッド兄弟は彼らの導きに従って、伝道に出るための申請書を提出し、間もなく、メキシコ北伝道部で福音を宣べ伝え始めました。「伝道に出なければどんな人生になっていたか、想像もつきません」とリッド兄弟は言います。

伝道から帰ると学校に戻り、1975年にソルトレーク神殿でタミナ・ローク姉妹と結婚しました。リッド兄弟は不動産業や他の企業でキャリアを積みながら、妻とともに4人の子供を育てました。

リッド兄弟は今でも伝道活動を愛しています。2005年から2008年までエクアドル・グアヤキル北伝道部を管理し、若い男女が専任宣教師となることによりその人生が変わるのを再び目にしました。

2013年5月、中央若い男性管理会の会員として奉仕していたリッド兄弟は中央若い男性会長会に召されました。■



©MICHAEL T. MALM, ILLUME GALLERY OF FINE ART 古美術の画廊。制作年未詳。2014年

「平安な心」 マイケル・T・マーム画

「^{みたま}御霊は世に来るすべての人に光を与え、また御霊はその声を聴く全世界のすべての人を照らす。」(教義と聖約 84 : 46)



「わたしたちがいつも天の御父に近くあろうと努力できますように。」

トーマス・S・モンソン大管長は、

第 183 回半期総大会の日曜午前の部会でそう語った。

「そうするためには、御父に祈り、御父の御言葉に耳を傾けなければなりません。
わたしたちは良いときも悪いときも、文字どおり主を絶えず必要としています。

主の次の約束をいつも忘れませんように。

『わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。』」

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE



10791 300